

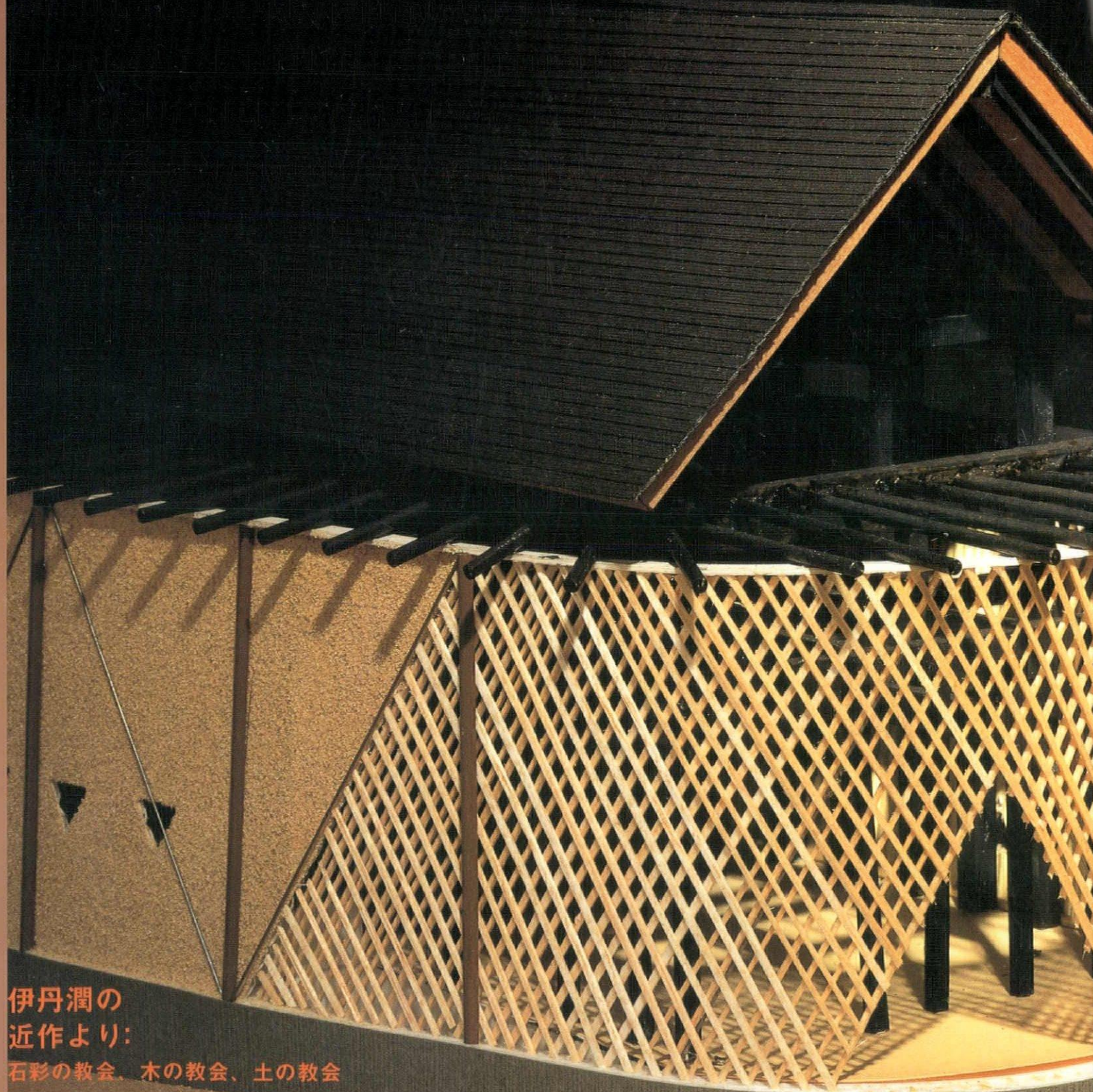
SD

9612 | space
Design

スペースデザイン ISSN 0563-0991
第397号 1996年12月1日発行
毎月1回1日発行
昭和40年2月5日 第三種郵便物許可

特集 SDレビュー 1996

SD Review 1996

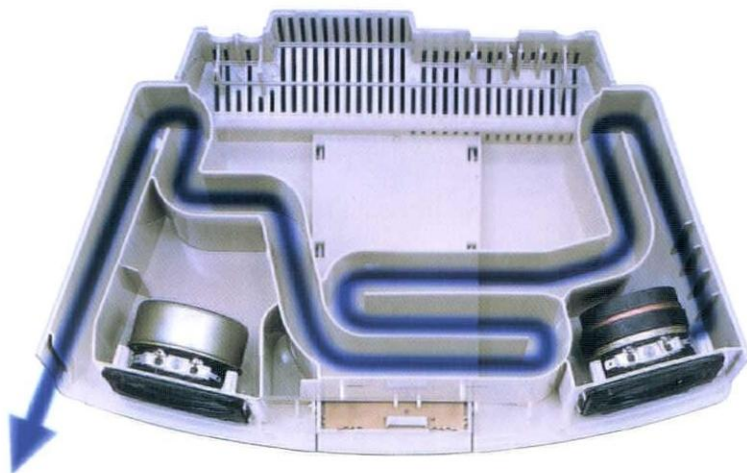


伊丹潤の
近作より:
石彩の教会、木の教会、土の教会

全米で年間25万台も売れているラジオ ボーズ・ウェーブレディオ



これがその秘密です。



「信じられない！」ウェーブレディオを聴いた方が、必ず驚いてしまう大型スピーカー並みの重低音。ラジオとは思えない美しいサウンドのFM/AM放送の秘密が左の写真の空気の流れです。パイプオルガンや管楽器と同じ原理でチューブの中の空気を「管共鳴」させて重低音を再生するこのボーズの特許技術は、94年度「全米年間発明賞」の栄誉に輝きました。CDプレーヤーやカセットデッキをつなげば、素敵なステレオコンポネントに早変わりします。お好みの放送やアラーム音で起こしてくれる目覚まし機能や、音楽を聴きながら眠れるスリープタイマーも搭載。「こんなラジオは見たこともない」とアメリカのマスコミも絶賛しています。

Wave® Radio



ウェーブレディオでCDをお楽しみになりたい方に、同時購入にかぎりオリジナルCDプレーヤーを¥5,000で特別提供中です。

カタログご希望の方は ☎ 0120-563214 へ

(五郎さんにイイヨ)にお電話ください。

●受付/月曜～金曜日 9:30～18:00

ファクシミリは24時間受け付けています。

FAXは03-5489-0592(SD係)へ/24時間受付中

BOSE
Better sound through research®

ボーズ・エクスポート・インク東京事務所
〒150 東京都渋谷区円山町28-3渋谷YTビル

必ず満足されることを保証します。ウェーブレディオはお客様にご満足いただくためのあらゆる要求基準を満たしています。もし気に入っていただけない場合は14日以内にご返送ください。代金はお返しします。

●NIFTY-Serve始めました。*GO BOSE®

「間」は、南青山にあります。



人間、時間、そして空間。

千代田線は乃木坂駅。赤坂方面の改札を抜け、エスカレーターに乗り、地上へ出ましたら、右後方を振り返って見てください。ソコには青いタイルのTOTOビルが…。建築とインテリアデザインを専門とする情報発信地[GALLERY-MA(間)]は3階にございます。お待ちしております。

GALLERY-MA

〒107 東京都港区南青山1-24-3 **TOTO**乃木坂ビル3-4F ☎03(3402)1010(開館時間)11:00~19:00

「水」は、南青山にあります。

LIBRARY
AQUA

書籍、雑誌、そしてビデオ。

古くて新しい水、歴史や文化を創り出してきた水、建築やインテリアにかかわる水、もちろんくらしと水、水にとことんこだわってみました。名前も[LIBRARY-AQUA]。水色のタイルのTOTOビル「GALLERY-MA」の上の5階にございます。みずみずしい情報があふれていますので、ぜひお越しください。

LIBRARY-AQUA

〒107 東京都港区南青山1-24-3 **TOTO**乃木坂ビル5F ☎03(3497)1010(開館時間)11:00~19:00

National/Panasonic

AV&C FT AP S

AUDIO
音響システム

VISUAL
映像システム

COMMUNICATION
通信システム

COMPUTER
コンピューターシステム

FOOD
食品流通システム

LIGHT
照明システム

AIR & AQUA
空調・水管理システム

PASSAGE
搬送システム

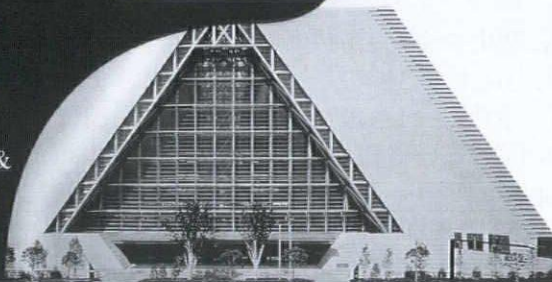
SOFTWARE &
SYSTEM
ソフトウェア・システム

ここにはあります人と自然と技術の調和が

松下電器産業の建設エレクトロニクス技術は人に優しい環境創造を目指してシステム開発に取り組んでいます。そこには人と人・情報・空間をコンセプトに、明日の夢を描くまちづくりの思いがあります。

松下電器産業株式会社

建設システム営業本部	☎03-5500-7504
北海道支店	☎011-207-7722
東北支店	☎022-711-3551
新潟支店	☎025-246-1031
関東支店	☎0286-37-2241
神奈川支店	☎045-651-5051
建設システム営業本部中部支店	☎052-951-6010
長野支店	☎0262-26-3990
北陸支店	☎0762-23-1121
静岡支店	☎054-247-5155
建設システム営業本部関西支店	☎06-949-2111
中国支店	☎082-247-5272
四国支店	☎0878-26-1711
九州支店	☎092-431-1100
沖縄支店	☎098-869-2926

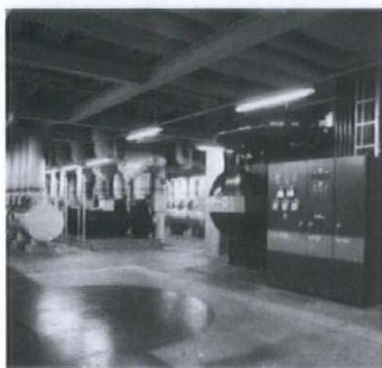


KANDENKO



快適な環境をお届けするのも ——関電工の技術です。

個別のビル・工場・住宅の空調から地域冷暖房まで



生活の場、生産の場、ビジネスの場、憩いの場…
…。人々の営みの場で、いま求められているのが、
省エネルギー、省資源を追求した快適環境です。
その施設の構築とメンテナンスで関電工の技術が
活躍しています。割安な夜間電力や都市廃熱・河
川水等を利用した「蓄熱式ヒートポンプシステム」、
発電の際に発生するエネルギーを有効利用する
「コージェネレーションシステム」、複数の建物のエ
ネルギーを集中的に取り扱う「地域冷暖房システ
ム」などの技術で、関電工はお客様に経済的で快
適な環境の場をお届けしています。

関電工

お問い合わせは/環境設備部

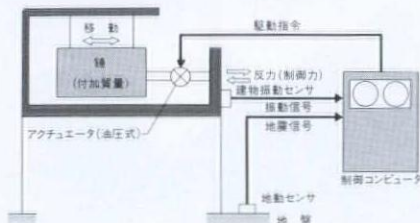
本社：〒108 東京都港区芝浦4丁目8番33号

☎：NTT 03(5476)2111 TNet (4431)2111

世界初のアクティブ制震システム。

AMD【エー・エム・ディ】

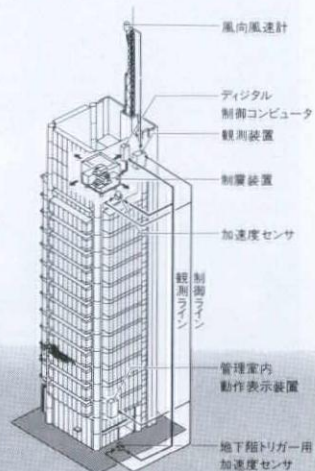
カジマが世界で初めて実用化したアクティブ制震システム。建物荷重の約1%の錘を屋上に設置。コンピュータ制御で錘を駆動して揺れを制御。地震や強風時にビル内では全く揺れを感じさせない優れた制震効果を発揮します。高層、超高層、超々高層ビルなどに。



優れた頭脳とバランス感覚をもった新しい制震システム。

DUOX【デュオックス】

AMDをさらに進化させた複合型アクティブ制震システム。高度な技術力により省エネ化、小型化を図りながら、制震効果は大型装置と同等以上の優れた性能を実現。高層、超々高層ビルはもちろん、リニューアルでの既存のビルへの設置と適用範囲を大きく広げた新しい制震システムです。

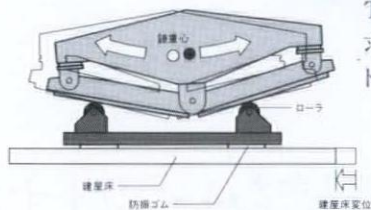


小さな装置で大きな制震効果を発揮。

TRIGON【トリゴン】

振り運動を行う錘をアクティブに駆動するハイブリッド制震システム。コンパクトな装置でイニシャルコスト、ランニングコストともにわずか。地震や強風による揺れも1/2以下に制御。

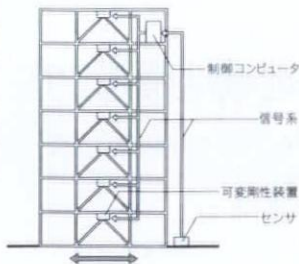
TRIGONは居住性と快適性が求められる超高層インテリジェントビルに採用されています。



建物の剛性を変えて揺れをかわす。

AVS【エー・ブイ・エス】

走る電車の中に立っている人が身体のバランスを保つように、ブレースに接続された可変剛性装置が瞬時にブレースの〈有効〉〈無効〉を切替え、揺れをかわします。中小地震から大地震まで効率よく対応し、大地震にともなう停電時にも確実に作動。シンプルで確実なアクティブ制震装置です。



地震から交通振動まで、あらゆる振動をカット。

免震防振構法

建物をまるごと積層ゴムで支え、大地震から交通振動まで、あらゆる振動をカットします。交通振動などの細かな振動から建物を守り、静かな室内環境を確保。道路や線路に隣接した建物に優れた効果を発揮します。

安全で快適な環境を創造するカジマの高度な制震技術。

快適をより確かなものに。

ビルを連結して揺れを抑える。

JDS 【ジェー・ディ・エス】

360度あらゆる方向の揺れに対応する制震システム。高さの違う建物(=振動周期の異なる建物)を特殊ダンパで連結し、双方の揺れを相殺します。シンプルな構造のダンパは素材・製造・設置コストも少なく、構造体コストの低減を実現します。

高性能オイルダンパが振動を吸収。

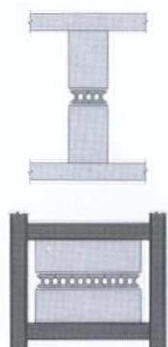
HiDAM 【ハイダム】

建物の骨組みと一体化されたオイルダンパが地震や強風による振動を吸収します。優れた振動減衰性能により建物の軽量化が可能となり、構造体コストを低減。建物耐用年数より長い耐久性が自慢です。

壁や梁が振動を吸収。

HDS 【エイチ・ディ・エス】

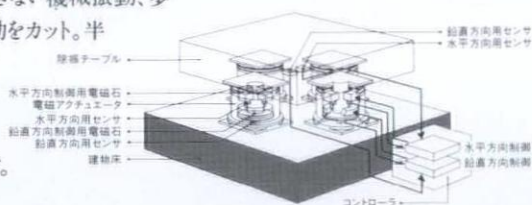
壁や梁など構造体そのものにハチの巣型のダンパ等を組み込み、振動エネルギーを吸収させます。特に震度5以上の大地震に大きな効果を発揮。中高層から超高層に至るまで幅広く対応。低コストで設置でき、柱や梁などを軽減しても快適さは変わりません。



精密機器を磁気で浮上させる
次世代の除振装置。

MLIS 【エムリス】

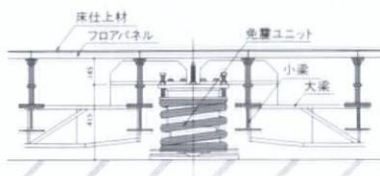
完全非接触型の理想的な除振を実現した磁気浮上式除振装置です。建物レベルの振動対策ではカバーできない機械振動、歩行振動などの微細な振動をカット。半導体をはじめ、先端テクノロジーの分野でこれから、ますます求められる次世代のシステムです。



コンピュータを地震から守る
免震床システム。

KIFS 【ケー・アイ・エフ・エス】

コンピュータなど精密機器を載せた床を建物本体から分離して振動を遮断。必要なフロアだけを免震構造にすることができ、地震の規模を問わず優れた効果を発揮します。コンピュータセンターや医療施設、精密機器生産施設、美術館など振動を嫌う設備機器のある建物に最適です。



鹿島

KAJIMA CORPORATION

本社: 千107 東京都港区元赤坂1-2-7
お問い合わせは
技術営業部 03(3404)2011

四季宴会

KARUIZAWA
MEETING
& PARTY

軽井沢
 ホテル 鹿島ノ森
ホテルオークラチェーン

ご予約・お問い合わせ：
ホテル鹿島ノ森予約係
☎ 03(3478)6220
現地 ☎ 0267(42)3535(代)
FAX: 0267(42)5335



Classical Elegance in Tokyo

19世紀初頭のヨーロッパ様式で統一された本格的都市型ホテル。

すべてのファシリティに調度品に、そしてきめ細やかなおもてなしに漂う欧州の美意識。
ドアマンに迎えられホテルに一步脚を踏み込めば、あなたの新しい物語がはじまります。

■ 特別な華やきに満ちた“わたしだけの日”。■ アニバーサリー宿泊プラン

■ 期間 1997年3月31日まで

※ただし12月21日～24日、12月31日～1月2日を除く。 ※ご予約は2日前までをお願いいたします。

バースデーや結婚記念、入学祝い…大切な記念日を、シェフ自慢の特選ディナーと
まごころ込めたおもてなしで優雅に演出いたします。

お一人様料金

1室2名様利用(ツイン).....	¥20,500
1室3名様利用(トリプル).....	¥19,000

※1泊夕食付・装花・サービス料込み、税別。
※ご夕食はハーモニーの特別ディナー、グラススパークリングワイン、
グラス白または赤ワイン付。



株式会社 鹿島ホテルエンタプライズ
KAJIMA HOTEL ENTERPRISES, LTD.

ホテル イースト21東京

〒135 東京都江東区東陽6-3-3 TEL 03(5683)5683(代) FAX 03(5683)5775
地下鉄東西線「東陽町駅」より徒歩7分、東陽町駅～ホテル間、ホテル専用シャトルバス運行。

大興物産の海外建材シリーズ

No.5 ツーバイフォー



新検見川マンション販売事務所

大興物産は、米国ツーバイフォーシステム用各種部材をパッケージ輸入しており、企画段階から調達・施工段階までトータルなコーディネーションを致します。

お問い合わせは、大興物産株式会社・海外調達部まで。

〒107 東京都港区元赤坂1-5-31(新井ビル) TEL03-5474-6054 FAX03-5474-6386

建設資機材の総合商社

鹿島グループ

大興物産株式会社

本店 〒107 東京都港区元赤坂1-6-4 安全ビル

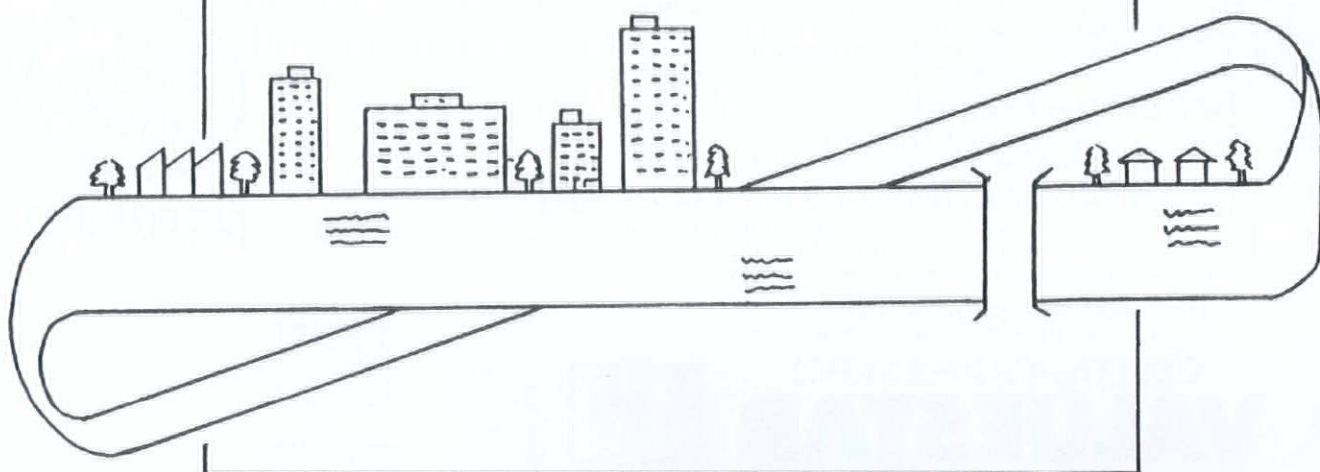
本店 ☎(03)3423-2511 FAX(03)5474-6076
 東京支店 ☎(03)3423-2511 FAX(03)3423-1915
 横浜支店 ☎(045)212-3925 FAX(045)212-3996
 名古屋支店 ☎(052)961-6171 FAX(052)961-6179
 大阪支店 ☎(06) 762-5661 FAX(06) 762-1074

札幌営業所 ☎(011)231-6841 FAX(011)222-4074
 東北営業所 ☎(022)219-6861 FAX(022)219-6867
 関東営業所 ☎(03)5632-6717 FAX(03)5632-6719
 北陸営業所 ☎(025)247-2286 FAX(025)243-5248
 広島営業所 ☎(082)249-9221 FAX(082)249-9270

四国営業所 ☎(0878)39-3191 FAX(0878)35-4722
 九州営業所 ☎(092)441-2624 FAX(092)471-7996
 シンガポール
 オフィス ☎65-3440590 FAX65-3446714

水環境を

クリエイトする



株式会社
西原
衛生工業所

東京都港区芝浦3-6-18
TEL.(03) 3452-7441 大代

支店/札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋

仕事も遊びも、
インターネットにも たけたヤツ。
バリュースター。

こいつは、メジャーだ。

[さらに上ゆくインターネット]

- 最新のパーソナル・マルチメディアサービス「BIGLOBE」へ簡単に接続できる **オンラインサインアップ機能**をサポート。
- 高速FAXモデム(33.6kbps)**搭載でインターネットに快適アクセス。
- 最新のブラウザソフトMicrosoft® Internet Explorer 3.0日本語版を標準搭載。
- 指定したホームページのダウンロードを任意の時間に設定できる **インターネットアクセスマネージャ**を標準搭載。

[ゆとりのハードウェア]

- 全機種全モデルに余裕の **大容量メモリ32メガバイト(EDO)** を標準搭載。
- モニター型、デスクトップ型それぞれに **高速Pentium®プロセッサ(200MHz)** 搭載モデルを用意。

[はじめての方にも、使いやすさをフルパッケージ]

- 一太郎7+ロータス1-2-3® R5Jモデル、Word95+Excel95モデルの設定をはじめ **多彩なアプリケーション**をインストール。
- 動画を使用したリアルな映像が魅力のRPGや迫力満点のカーレースなど **楽しいゲームソフト**も充実。
- 海老沢幸久氏(直木賞作家)**がパソコン初心者向けに書き下ろした、やさしいガイドブックを添付。*
- 見ながら簡単にセットアップができる **“VALUESTARのらくらくセットアップビデオ”**を店頭にてプレゼント。

※(1/1/16) (土)~(12/21) (火)の間にご購入された方に限らせていただきます。 (先着20万名様)

NEW [TheインターネットPC] VALUESTAR バリュースター



この機種はPC-9821V20/M7です。



この機種はPC-9821V13/S5です。



Designed for



Microsoft®
Windows 95

モニター型

PC-9821 V20/M7 model E3/F3 (15.5" D型) Pentium®プロセッサ (200MHz)、メモリ (EDO) 32MB-HDD3GB	標準価格 530,000円 (税別)
PC-9821 V20/M7 model C3/D3 (FAXモデムボード、Pentium®プロセッサ (200MHz)、メモリ (EDO) 32MB-HDD3GB)	標準価格 498,000円 (税別)
PC-9821 V16/M7 model C3/D3 (FAXモデムボード、Pentium®プロセッサ (166MHz)、メモリ (EDO) 32MB-HDD2GB)	標準価格 403,000円 (税別)

デスクトップ型

PC-9821 V20/S7 model C3/D3 (FAXモデムボード、Pentium®プロセッサ (200MHz)、メモリ (EDO) 32MB-HDD2GB)	標準価格 408,000円 (税別)
PC-9821 V20/S5 model C3/D3 (FAXモデムボード、Pentium®プロセッサ (200MHz)、メモリ (EDO) 32MB-HDD2GB)	標準価格 368,000円 (税別)
PC-9821 V13/S5 model C3/D3 (FAXモデムボード、Pentium®プロセッサ (133MHz)、メモリ (EDO) 32MB-HDD1.2GB)	標準価格 298,000円 (税別)
PC-9821 V13/S5 model G3 (FAXモデムボード、Pentium®プロセッサ (133MHz)、メモリ (EDO) 32MB-HDD1.2GB)	標準価格 298,000円 (税別)

インターネットを利用する場合には、プロバイダ契約が必要です。プロバイダ、通信機器、モデムボード等はWindows95のもと動作可能なものをご用意の上ご使用ください。Windows95の正式名称はMicrosoft Windows 95 Operating Systemです。Microsoft、Windows、およびMicrosoft Corporationの名称とロゴは米国およびその他の国で登録商標です。Intel InsideとPentiumはIntel Corporationの登録商標です。一太郎は、株式会社一太郎システムズの登録商標です。一太郎7 for Windowsは株式会社一太郎システムズの登録商標です。一太郎7 for Windowsは、すべて株式会社一太郎システムズに帰属します。Lotusは、Lotus Development Corporationの登録商標です。1-2-3は、Lotus Development Corporationの登録商標です。*10-11-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29-30-31-32-33-34-35-36-37-38-39-40-41-42-43-44-45-46-47-48-49-50-51-52-53-54-55-56-57-58-59-60-61-62-63-64-65-66-67-68-69-70-71-72-73-74-75-76-77-78-79-80-81-82-83-84-85-86-87-88-89-90-91-92-93-94-95-96-97-98-99-100-101-102-103-104-105-106-107-108-109-110-111-112-113-114-115-116-117-118-119-120-121-122-123-124-125-126-127-128-129-130-131-132-133-134-135-136-137-138-139-140-141-142-143-144-145-146-147-148-149-150-151-152-153-154-155-156-157-158-159-160-161-162-163-164-165-166-167-168-169-170-171-172-173-174-175-176-177-178-179-180-181-182-183-184-185-186-187-188-189-190-191-192-193-194-195-196-197-198-199-200-201-202-203-204-205-206-207-208-209-210-211-212-213-214-215-216-217-218-219-220-221-222-223-224-225-226-227-228-229-230-231-232-233-234-235-236-237-238-239-240-241-242-243-244-245-246-247-248-249-250-251-252-253-254-255-256-257-258-259-260-261-262-263-264-265-266-267-268-269-270-271-272-273-274-275-276-277-278-279-280-281-282-283-284-285-286-287-288-289-290-291-292-293-294-295-296-297-298-299-300-301-302-303-304-305-306-307-308-309-310-311-312-313-314-315-316-317-318-319-320-321-322-323-324-325-326-327-328-329-330-331-332-333-334-335-336-337-338-339-340-341-342-343-344-345-346-347-348-349-350-351-352-353-354-355-356-357-358-359-360-361-362-363-364-365-366-367-368-369-370-371-372-373-374-375-376-377-378-379-380-381-382-383-384-385-386-387-388-389-390-391-392-393-394-395-396-397-398-399-400-401-402-403-404-405-406-407-408-409-410-411-412-413-414-415-416-417-418-419-420-421-422-423-424-425-426-427-428-429-430-431-432-433-434-435-436-437-438-439-440-441-442-443-444-445-446-447-448-449-450-451-452-453-454-455-456-457-458-459-460-461-462-463-464-465-466-467-468-469-470-471-472-473-474-475-476-477-478-479-480-481-482-483-484-485-486-487-488-489-490-491-492-493-494-495-496-497-498-499-500-501-502-503-504-505-506-507-508-509-510-511-512-513-514-515-516-517-518-519-520-521-522-523-524-525-526-527-528-529-530-531-532-533-534-535-536-537-538-539-540-541-542-543-544-545-546-547-548-549-550-551-552-553-554-555-556-557-558-559-560-561-562-563-564-565-566-567-568-569-570-571-572-573-574-575-576-577-578-579-580-581-582-583-584-585-586-587-588-589-590-591-592-593-594-595-596-597-598-599-600-601-602-603-604-605-606-607-608-609-610-611-612-613-614-615-616-617-618-619-620-621-622-623-624-625-626-627-628-629-630-631-632-633-634-635-636-637-638-639-640-641-642-643-644-645-646-647-648-649-650-651-652-653-654-655-656-657-658-659-660-661-662-663-664-665-666-667-668-669-670-671-672-673-674-675-676-677-678-679-680-681-682-683-684-685-686-687-688-689-690-691-692-693-694-695-696-697-698-699-700-701-702-703-704-705-706-707-708-709-710-711-712-713-714-715-716-717-718-719-720-721-722-723-724-725-726-727-728-729-730-731-732-733-734-735-736-737-738-739-740-741-742-743-744-745-746-747-748-749-750-751-752-753-754-755-756-757-758-759-760-761-762-763-764-765-766-767-768-769-770-771-772-773-774-775-776-777-778-779-780-781-782-783-784-785-786-787-788-789-790-791-792-793-794-795-796-797-798-799-800-801-802-803-804-805-806-807-808-809-810-811-812-813-814-815-816-817-818-819-820-821-822-823-824-825-826-827-828-829-830-831-832-833-834-835-836-837-838-839-840-841-842-843-844-845-846-847-848-849-850-851-852-853-854-855-856-857-858-859-860-861-862-863-864-865-866-867-868-869-870-871-872-873-874-875-876-877-878-879-880-881-882-883-884-885-886-887-888-889-890-891-892-893-894-895-896-897-898-899-900-901-902-903-904-905-906-907-908-909-910-911-912-913-914-915-916-917-918-919-920-921-922-923-924-925-926-927-928-929-930-931-932-933-934-935-936-937-938-939-940-941-942-943-944-945-946-947-948-949-950-951-952-953-954-955-956-957-958-959-960-961-962-963-964-965-966-967-968-969-970-971-972-973-974-975-976-977-978-979-980-981-982-983-984-985-986-987-988-989-990-991-992-993-994-995-996-997-998-999-1000-1001-1002-1003-1004-1005-1006-1007-1008-1009-1010-1011-1012-1013-1014-1015-1016-1017-1018-1019-1020-1021-1022-1023-1024-1025-1026-1027-1028-1029-1030-1031-1032-1033-1034-1035-1036-1037-1038-1039-1040-1041-1042-1043-1044-1045-1046-1047-1048-1049-1050-1051-1052-1053-1054-1055-1056-1057-1058-1059-1060-1061-1062-1063-1064-1065-1066-1067-1068-1069-1070-1071-1072-1073-1074-1075-1076-1077-1078-1079-1080-1081-1082-1083-1084-1085-1086-1087-1088-1089-1090-1091-1092-1093-1094-1095-1096-1097-1098-1099-1100-1101-1102-1103-1104-1105-1106-1107-1108-1109-1110-1111-1112-1113-1114-1115-1116-1117-1118-1119-1120-1121-1122-1123-1124-1125-1126-1127-1128-1129-1130-1131-1132-1133-1134-1135-1136-1137-1138-1139-1140-1141-1142-1143-1144-1145-1146-1147-1148-1149-1150-1151-1152-1153-1154-1155-1156-1157-1158-1159-1160-1161-1162-1163-1164-1165-1166-1167-1168-1169-1170-1171-1172-1173-1174-1175-1176-1177-1178-1179-1180-1181-1182-1183-1184-1185-1186-1187-1188-1189-1190-1191-1192-1193-1194-1195-1196-1197-1198-1199-1200-1201-1202-1203-1204-1205-1206-1207-1208-1209-1210-1211-1212-1213-1214-1215-1216-1217-1218-1219-1220-1221-1222-1223-1224-1225-1226-1227-1228-1229-1230-1231-1232-1233-1234-1235-1236-1237-1238-1239-1240-1241-1242-1243-1244-1245-1246-1247-1248-1249-1250-1251-1252-1253-1254-1255-1256-1257-1258-1259-1260-1261-1262-1263-1264-1265-1266-1267-1268-1269-1270-1271-1272-1273-1274-1275-1276-1277-1278-1279-1280-1281-1282-1283-1284-1285-1286-1287-1288-1289-1290-1291-1292-1293-1294-1295-1296-1297-1298-1299-1300-1301-1302-1303-1304-1305-1306-1307-1308-1309-1310-1311-1312-1313-1314-1315-1316-1317-1318-1319-1320-1321-1322-1323-1324-1325-1326-1327-1328-1329-1330-1331-1332-1333-1334-1335-1336-1337-1338-1339-1340-1341-1342-1343-1344-1345-1346-1347-1348-1349-1350-1351-1352-1353-1354-1355-1356-1357-1358-1359-1360-1361-1362-1363-1364-1365-1366-1367-1368-1369-1370-1371-1372-1373-1374-1375-1376-1377-1378-1379-1380-1381-1382-1383-1384-1385-1386-1387-1388-1389-1390-1391-1392-1393-1394-1395-1396-1397-1398-1399-1400-1401-1402-1403-1404-1405-1406-1407-1408-1409-1410-1411-1412-1413-1414-1415-1416-1417-1418-1419-1420-1421-1422-1423-1424-1425-1426-1427-1428-1429-1430-1431-1432-1433-1434-1435-1436-1437-1438-1439-1440-1441-1442-1443-1444-1445-1446-1447-1448-1449-1450-1451-1452-1453-1454-1455-1456-1457-1458-1459-1460-1461-1462-1463-1464-1465-1466-1467-1468-1469-1470-1471-1472-1473-1474-1475-1476-1477-1478-1479-1480-1481-1482-1483-1484-1485-1486-1487-1488-1489-1490-1491-1492-1493-1494-1495-1496-1497-1498-1499-1500-1501-1502-1503-1504-1505-1506-1507-1508-1509-1510-1511-1512-1513-1514-1515-1516-1517-1518-1519-1520-1521-1522-1523-1524-1525-1526-1527-1528-1529-1530-1531-1532-1533-1534-1535-1536-1537-1538-1539-1540-1541-1542-1543-1544-1545-1546-1547-1548-1549-1550-1551-1552-1553-1554-1555-1556-1557-1558-1559-1560-1561-1562-1563-1564-1565-1566-1567-1568-1569-1570-1571-1572-1573-1574-1575-1576-1577-1578-1579-1580-1581-1582-1583-1584-1585-1586-1587-1588-1589-1590-1591-1592-1593-1594-1595-1596-1597-1598-1599-1600-1601-1602-1603-1604-1605-1606-1607-1608-1609-1610-1611-1612-1613-1614-1615-1616-1617-1618-1619-1620-1621-1622-1623-1624-1625-1626-1627-1628-1629-1630-1631-1632-1633-1634-1635-1636-1637-1638-1639-1640-1641-1642-1643-1644-1645-1646-1647-1648-1649-1650-1651-1652-1653-1654-1655-1656-1657-1658-1659-1660-1661-1662-1663-1664-1665-1666-1667-1668-1669-1670-1671-1672-1673-1674-1675-1676-1677-1678-1679-1680-1681-1682-1683-1684-1685-1686-1687-1688-1689-1690-1691-1692-1693-1694-1695-1696-1697-1698-1699-1700-1701-1702-1703-1704-1705-1706-1707-1708-1709-1710-1711-1712-1713-1714-1715-1716-1717-1718-1719-1720-1721-1722-1723-1724-1725-1726-1727-1728-1729-1730-1731-1732-1733-1734-1735-1736-1737-1738-1739-1740-1741-1742-1743-1744-1745-1746-1747-1748-1749-1750-1751-1752-1753-1754-1755-1756-1757-1758-1759-1760-1761-1762-1763-1764-1765-1766-1767-1768-1769-1770-1771-1772-1773-1774-1775-1776-1777-1778-1779-1780-1781-1782-1783-1784-1785-1786-1787-1788-1789-1790-1791-1792-1793-1794-1795-1796-1797-1798-1799-1800-1801-1802-1803-1804-1805-1806-1807-1808-1809-1810-1811-1812-1813-1814-1815-1816-1817-1818-1819-1820-1821-1822-1823-1824-1825-1826-1827-1828-1829-1830-1831-1832-1833-1834-1835-1836-1837-1838-1839-1840-1841-1842-1843-1844-1845-1846-1847-1848-1849-1850-1851-1852-1853-1854-1855-1856-1857-1858-1859-1860-1861-1862-1863-1864-1865-1866-1867-1868-1869-1870-1871-1872-1873-1874-1875-1876-1877-1878-1879-1880-1881-1882-1883-1884-1885-1886-1887-1888-1889-1890-1891-1892-1893-1894-1895-1896-1897-1898-1899-1900-1901-1902-1903-1904-1905-1906-1907-1908-1909-1910-1911-1912-1913-1914-1915-1916-1917-1918-1919-1920-1921-1922-1923-1924-1925-1926-1927-1928-1929-1930-1931-1932-1933-1934-1935-1936-1937-1938-1939-1940-1941-1942-1943-1944-1945-1946-1947-1948-1949-1950-1951-1952-1953-1954-1955-1956-1957-1958-1959-1960-1961-1962-1963-1964-1965-1966-1967-1968-1969-1970-1971-1972-1973-1974-1975-1976-1977-1978-1979-1980-1981-1982-1983-1984-1985-1986-1987-1988-1989-1990-1991-1992-1993-1994-1995-1996-1997-1998-1999-2000-2001-2002-2003-2004-2005-2006-2007-2008-2009-2010-2011-2012-2013-2014-2015-2016-2017-2018-2019-2020-2021-2022-2023-2024-2025-2026-2027-2028-2029-2030-2031-2032-2033-2034-2035-2036-2037-2038-2039-2040-2041-2042-2043-2044-2045-2046-2047-2048-2049-2050-2051-2052-2053-2054-2055-2056-2057-2058-2059-2060-2061-2062-2063-2064-2065-2066-2067-2068-2069-2070-2071-2072-2073-2074-2075-2076-2077-2078-2079-2080-2081-2082-2083-2084-2085-2086-2087-2088-2089-2090-2091-2092-2093-2094-2095-2096-2097-2098-2099-2100-2101-2102-2103-2104-2105-2106-2107-2108-2109-2110-2111-2112-2113-2114-2115-2116-2117-2118-2119-2120-2121-2122-2123-2124-2125-2126-2127-2128-2129-2130-2131-2132-2133-2134-2135-2136-2137-2138-2139-2140-2141-2142-2143-2144-2145-2146-2147-2148-2149-2150-2151-2152-2153-2154-2155-2156-2157-2158-2159-2160-2161-2162-2163-2164-2165-2166-2167-2168-2169-2170-2171-2172-2173-2174-2175-2176-2177-2178-2179-2180-2181-2182-2183-2184-2185-2186-2187-2188-2189-2190-2191-2192-2193-2194-2195-2196-2197-2198-2199-2200-2201-2202-2203-2204-2205-2206-2207-2208-2209-2210-2211-2212-2213-2214-2215-2216-2217-2218-2219-2220-2221-2222-2223-2224-2225-2226-2227-2228-2229-2230-2231-2232-2233-2234-2235-2236-2237-2238-2239-2240-2241

夢×技=無限大

安らぎと喜びがある。
生み出すための第一歩は
夢からもらった。
形を築くための第一歩は
技からもらった。
ふたつの可能性が出会う時
私たちのフィールドは
無限大です。

何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラ。
私達の生活環境に必要な
電気設備・エネルギー
情報通信・環境の分野で
企画、設計、施工、保守に
わたる一貫したシステムで
事業を展開しています。



創業1919 あなたの街でお会いしています

K 栗原工業株式会社

本社/〒530 大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル) TEL.06(313)1101
東京本店/〒105 東京都港区芝大門1-4-8(浜松町清和ビル) TEL.03(3432)1901

最先端のハーモニー。

さまざまな先端技術が調和して、「快適」という名のハーモニーを奏でる。トーエネックのエンジニアリングは、まさにそんなイメージです。電気設備をはじめ、情報通信・冷暖房・空調・防災設備など…。システム設計から施工・保守まで、高度で総合的な技術力を活かし、全国主要都市を拠点に幅広いネットワークでみなさまにお応えしています。オフィスビルやマンション、ホテル、工場、さらにはコミュニティ施設。あらゆるスペースを、心地よい技術のハーモニーで包み込みたい。インテリジェント&ヒューマン。私たちは、トーエネックです。

いろんな技術を結んで、トータルに考える。

トーエネック エンジニアリング

先端技術で、システムする。

TOENEC

株式会社 トーエネック

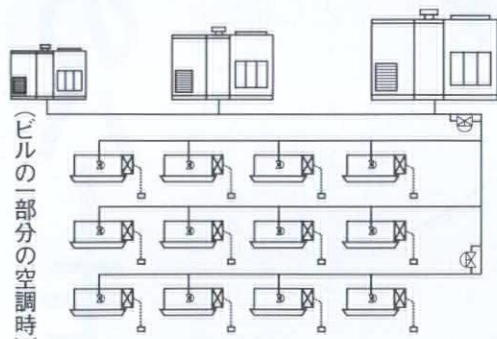
本店/名古屋市中区栄1-20-31 〒460 ☎(052)221-1111
東京本部/東京都豊島区巣鴨1-3-11 〒170 ☎(03)5395-7111
大阪本部/大阪市淀川区新北野3-8-2 〒532 ☎(06)305-2181

あつ
もつたない。



ひと部屋だけの空調に
全てのアロエースが
稼働するのは

必要な台数しか稼働しません。



矢崎のスーパーアロエース、アロエース・タフはともに高効率COP1.02。この高効率をい
かんなく発揮するのが異容量アロエースの組み合わせによる集中設置です。デジタルコン
トロールパネル[DCP]のご利用により部分空調時には小さな「アロエース」が運転。建物
全体を空調すれば自動的に全ての「アロエース」が運転、経済性の優れた空調が実現。

20%負荷運転でもCOP1.02を維持。



デジタルコントロール
パネル



スーパーアロエース



アロエース・タフ

矢崎総業株式会社

本社：〒108 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル17F TEL.03-3455-8812
空調機器事業部：〒435 静岡県浜松市子安町1370 TEL.0534-61-5112

札幌支社 TEL.011-852-2914 名古屋支社 TEL.052-833-8415 中国支社 TEL.0829-23-2115
仙台支社 TEL.022-284-9115 大阪支社 TEL.06-458-4825 四国支社 TEL.0878-33-3336
東京支社 TEL.03-3298-3140 北陸支社 TEL.0764-41-6516 九州支社 TEL.092-411-4835

SD

バックナンバー

鹿島出版会

東京都港区赤坂6-5-13
電話:03-5561-2111(代)
振替:00160-2-180883
Home Page Address:
http://www.kajima.co.jp/kajima_mall/publish/index.htm
年間定期購読料
25,000円(特別定価号+送料込み)

SDバックナンバー常備店
[東京]
八重洲ブックセンター
03-3281-8203
三省堂本店(神田)
03-3233-3314
書泉ブックマート
03-3294-0011
紀伊国屋本店 03-3354-0131
大盛堂書店 03-3463-0511
[大阪]
旭屋書店本店

柳ヶ堂 06-443-0167
[札幌]
旭屋書店 011-241-3007
[横浜]
有隣堂本店 045-261-1231
[京都]
大龍堂書店 075-231-3036
[大学生協内書店]
東北工業大学 東京工業大学
法政大学工学部 早稲田大学
理工学部 関東学院大学

9412 SDレビュー1994

1950円

第13回SDレビュー誌上発表。長木正彦、J.ピサル+P.ルーゲ、吉松秀樹、石黒由紀+田垣繁、遠藤秀平、城戸崎和佐、中村勇大、他。
[国際競作プロジェクト/オシヴィエンチム複現院]

9501 山本理顕

3000円

作品:緑園都市、岩出山町立総合中学校、鹿泉性老人デイケアセンター、保田窪第一団地、他。写真:北嶋俊治、大野繁。論文:山本理顕、宇野求、T.ヘネガン。県誌:横文彦+植田実+山本理顕

9502 南イタリアのバロック建築

1950円

地中海の島シチリアとプリア地方サレント半島のレッツェを中心に、南部イタリアのバロック建築を紹介。掲載都市:バレルモ、シクリ、他。写真:小野一郎。文:竹山博英、長谷川正光、岡田哲史

9503 集合住宅の現風景

1950円

近年、集合住宅を多く手掛けてきた建築家たちの代表作・近作を紹介する。文:作品:長木正彦、遠藤剛生、大野秀敏、富永謙、松永安光、元倉賢等。座談会:植田実+室伏次郎+松隈洋

9504 テクノスケープ

3000円

テクノロジーが作り上げた造形や景観を通して、建築・都市デザインへの新たな視線を提示する。文:宇野求、岡河貴、永崎唯、A.ロジェ、他。座談会:中村良夫+三谷徹+宇野求、東京湾岸マップ

9505 メガ・アーキテクチャ

1950円

巨大建築を多く手掛けたポール・アンドルーの新作紹介。シャルル・ド・ゴール空港、TGV-RER駅、他。対談:安藤忠雄+P.アンドルー。[神戸外国人居住地の形成とその展開] 文+構成:坂本勝比古

9506 デジタル・アーキテクチャの可能性

1950円

インタビュー:原広司、伊東豊雄、NM.ディナリ、他。CAD研究室将来の可能性:後田研究室、両角・位寄研究室、他。[自然と共存する家具] 写真:渡川敏

9507 柳澤孝彦/美術館の空間とディテール

2700円

作品:東京都現代美術館、富岡市立美術館、郡山市立美術館、他。文:鈴木博之、内藤廣、青木淳、大野秀敏。座談会:中佐美生+鈴木博之+柳澤孝彦。写真:村井雄

9508 まちのパブリックスペース

1950円

人々の日常生活と密着した公共施設である交番・公衆トイレ・駐車場・橋・公園などを、アトリエ作家の近作からみる。作品21点。文:中川理、仙田真。オンライン座談会:青木淳+中川理+花田佳明

9509 丹下健三

3800円

最新作シンガポールの超高層ビル(UOBプラザ)、新宿の新たなスカイラインを構成する「新宿パークタワー」を中心に、東南アジア、ヨーロッパ、国内のプロジェクトを通して丹下健三の現在を紹介。

9510 環境に呼応する建築:シーザー・ペリの最新作

1950円

近年、海外での活躍が目立つペリの最新作を紹介。[ランドマーク・クラフィティ——「タワーアート」在 通天閣:ワナキュラーな電脳都市展」より]

9511 長谷川逸子:1985—95

3000円

過去10年に渡る主要作品を網羅し、長谷川逸子の現在を紹介。作品:山梨県フルーツミュージアム、新潟市民文化会館他、全30作品。論文:ピーター・クック、他。対談:多木浩二×長谷川逸子



9512 SDレビュー1995

第14回SDレビュー誌上発表。由田徹+岡本美樹、季鏡男、トム・ヘネガン+アーキテクチャ・ファクトリー [Villa Romana: ローマのウィラと庭園] [水戸岡鋭治のトランスポート・デザイン]

1950円



9601 都市づくりを仕掛ける建築家たちの実践

地方自治体主体のまちづくりプロジェクトを紹介。事例:くまもとアートポリス、クリエイティブTOWN岡山、長崎アーバン・ルネッサンス、白石メディア・ポリス

2800円



9602 建築のメモリア:イタリアの合理主義の流れ

イタリア建築の基調として流れている合理主義の現在を考察。6人の建築家の作品を紹介する。アントニオ・モネステローリ、フランコ・ステラ、他。

1950円



9603 アジア同時代シリーズ2 ベトナム建築大博覧

ベトナムの都市と建築:ハノイ、フエ、ホイアン、チャンパ遺跡、ホーチミン。ベトナムの工業団地、ベトナム現代建築事情、他。文=重枝豊、中沢信一郎、村松伸、他

2500円



9604 大地と光の変様 オーストラリア建築1788-

1788年入植以来のオーストラリア建築の変遷を追う。[ネクストジェネレーション in New York: スミス+ミラー+ホーキンソンとジョエル・サンダース]

1950円



9605 多様性と調和の建築
ゲルカン+マルクの最新作
コンペの素で知られる大規模設計事務所の'90年代の新作を紹介。[海と建築——鈴木二の最新作] 物質試行:佐木島プロジェクト、佐木島の住宅

1950円



9606 建築家の椅子111脚

19世紀後半から現在に至るまでの建築家がデザインした椅子を111脚紹介。C.R.マッキントッシュ、A.ガウディ、O.ワグナー、ル・コルビュジエ、M.van D.ローエ、C.イームズ、A.ロッシ、他

3000円



9607 再考 建築家土浦龍城

戦前、戦後の作品を紹介しながら、昭和初期モダニズムにおける土浦の再評価を試みる。作品:土浦部(第1、2) [スタジオ建築計画の集住考] 最新作 FH-HOYA IIを取りあげながら彼らの設計思想を紹介

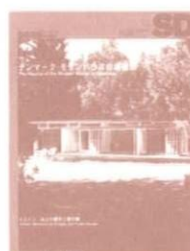
1950円



9608 マイケル・ホプキンス

「構造上の表現がクリアな」主要作品を紹介。ホプキンス自叙、イギリス国税局新庁舎、ブラック・ハウス、他 [光と空間の夢を訪ねて:トナルト・ジャッドとウォルター・デ・マリア] 文:南條史生

2400円



9609 デンマーク・モダンハウスの最盛期

デンマークの50-60年代の住宅を紹介。キンゴー・ハウス、ヨーン・ウッティン、他 [山手の都市と塔の家——イエメン:都市と住居の形態学] 文+写真:青川研究室

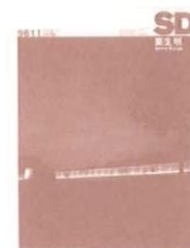
1950円



9610 中世の光と空間:フランス中南部のロマネスク建築

ル・トロネ修道院、他。写真:堀内広治。文:羽生修二、他 [ふたつの都市考「近代都市と芸術展」(未来都市の考古学展)] [97の椅子プロジェクト]

1950円



9611 栗生明

彼のみごとなディレクションに異付けられた、コラボレーションの結晶を紹介。岡崎市美術館、植村直巳美術館、カーニバル・ショーケース、他。[田窪善治のサン・ヴィゴール・ミュージアムプロジェクト3]

2500円



アルヴァ・アアルト

巨匠A.アアルトの全主要作品を掲載した総特集。A.アアルトのデザイン・ヴォキャブラリー：武蔵 章、アアルトの年表1899-1976、アアルト建築所在一覧。

3090円



菊竹清訓

メタポリスト菊竹清訓の初期から1980年までの作品集。第三世代の建築/とりかえ論1950-1960年/方法論の時代1960年-1970年/私の中の菊竹清訓の作品：内井昭蔵、他/作品データ・主要作品分布図。年表、他。

3090円



白井晟一

孤高の建築家・白井晟一の珠玉の作品集。懐賢館、ノアビル、聖アキラ館、昨宵軒、辰別山寮、虚白庵、他。論文＝磯崎新、針生一郎、浅野敏一郎、白井晃磨。座談＝大江宏＋藤井正一郎＋宮内嘉久。作品文献年表1935-1975年。

3605円



象設計集団

独自の造形理念により常に新鮮な作品を生み出し続ける象設計集団の初めての作品集。そのユニークな建築群の生々しい姿を捉える。安佐町農協市民センター、名護市庁舎、宮代町立笠原小学校、進修館、他。論文＝荒保宏、宇佐美圭司、他。

4000円



横文彦②

横文彦の80年代の活動を知る第2作品集。そこには増々精緻さと多彩さを加えた作品群が見て取れる。スパイラル、藤沢市秋葉台文化体育館、前沢ガーデンハウス、慶應義塾日吉図書館、電通大阪支社、京都国立近代美術館、他全21作品。

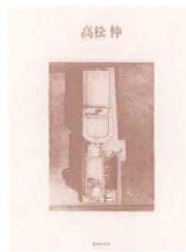
4326円



伊東豊雄

風のように、光のように変化する建築。独自の感性で買かれた作品群。その初期から1986年までの軌跡。中野本町の家、シルバー・ハット、レストラン・ノマド、馬込沢の家、風の塔、東京遊牧少女の家具、ホンダクリオショールーム他。

3914円



高松 伸

高松 伸

88年度建築学会賞受賞作のキリンプラザ大阪を中心とし、1988年までの全主要作品を一挙掲載。精緻なる細部と大胆な素材の扱い、独特な造形により、益々澄まされた独自の作品を創り続ける高松伸の世界を紹介する。機陣Ⅰ、Ⅲ、他。

3800円



Kunihiko Hayakawa

早川邦彦

プロジェクト、商業施設、都市型複合建築、集合住宅、住宅、コンベヌまで、初期の作品から1988年までの全主要作品を一挙に紹介した早川邦彦の初作品集。SKY VILAGE、ラビリンス、成城交差点の家、アトリウム、他。

4300円



ドイツ表現主義の建築

ドイツ表現主義の建築

1920年代のドイツを席捲した表現主義の嵐。そこにはレンガとガラスを素材とした自由奔放な造形と多様な表情をもった建築が生まれた。近代建築誕生の母体となり、現代にも影響を与える表現主義建築の全容を紹介。B.タウト、他。

3300円

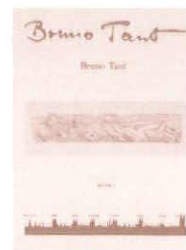


Wooden Architecture Today

続・木造建築の現在

海外61作品、国内13作品の木造建築を紹介。豊かで暖か味のある空間を生み、またあらゆる空間構造に対応できる木構造を再評価する。インタビュー：坪井善勝、杉山英男、内田祥哉。対談：今川憲美×安村基。

3708円



Bruno Taut

ブルーノ・タウト

1933-36年滞日期間の活動を中心に、没後40年を記念した特集。作品＝熱海の家、ボスボラス海峡に臨む自邸、ヴァイネルト通りの集合住宅、グレル通りの集合住宅、他。タウトの工芸品と著書、他。

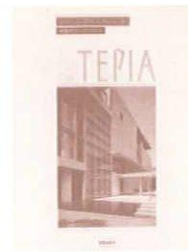
2575円



ボザール その栄光と歴史

ボザールの全貌を紹介。アカデミーの功罪：高階秀爾、ボザールその歴史と思想：三宅理一編。ボザールの成立とネオ・グレコ形成、折衷主義の世界、近代の憂鬱、戦後のボザール、バリ・オペラ座の図面と写真、他。

2575円



横事務所のディテール/TEPIA

機械産業情報会館 (TEPIA) というハイテクの殿堂にふさわしいデザインを支える、精密かつダイナミックなディテールの仕組みを写真とドローイングの構成で解剖する。横文彦のディテールとしては初の作品集。

6800円



Arita Isoraki

磯崎新③ 1985-1991 part 1

キーワードを軸に自らの作品をいくつかの流れに分けて、つくばセンタービル以来、1985-1991年の作品群を紹介。永戸芸術館、サンジヨルディパレス、お茶の水スクエア、他。

4800円

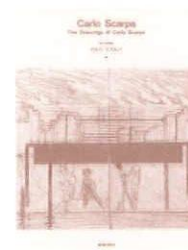


Arita Isoraki

磯崎新④ 1985-1991 part 2

part 1同様、自らの「目録」と共に作品を紹介してゆく。チーム・ディズニービルディング、北九州国際会議場、シユトゥットガルト現代美術館、パラディウム、[蝶々夫人] 舞台美術、他。

4500円



Carlo Scarpa

カルロ・スカルパ図面集

ブリオン家墓地进行と主要作品のドローイング約150点を収める。ブリオン・ヴェガ墓地、フェルトレの遺跡博物館、ヴェネツィア大学文学・哲学部校舎増改築、他。文：豊田博之、カルロ・スカルパ、他。

3500円

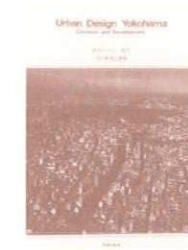


Tatsuo Ando

安藤忠雄③ アンビルト・プロジェクト

70年代からの見逃せないアンビルト作品29点を紹介。JR京都駅改築設計競技案、岡本ハウジング、I計画、伊豆プロジェクト、水の劇場、中之島プロジェクトⅡ、Iギャラリー、大淀の茶室、他。

3800円



Urban Design Yokohama

都市デザイン | 横浜

横浜市の20年にもわたる都市デザイン活動の足跡を辿り、これからのアーバンデザインの課題と展望を探る。座談会：都市づくりの新局面へ向けて、横文彦×斎藤敬×小澤恵一、他。

5000円

特集 SDレビュー 1996

編集長：相川幸二
編集スタッフ：
寺田真理子 高木伸哉
山田良 大野由美
飯塚りえ
アドバイザー：伊藤公文

発行人：河相全次郎
編集人：長谷川愛子

17	審査員総評＝香山壽夫／渡辺邦夫／内藤廣／妹島和世
19	RE[]/Responsive Environment
22	城戸崎和佐建築設計事務所
24	黒木正郎+横田千晶／日本設計
26	佐藤光彦+横溝 真
28	三分一博志+西尾通哲+塚田哲也+土井一秀
30	高橋昌巳／シティ環境建築設計
32	長田直之+浅 真司+清水裕二／I.C.U.
34	西沢大良
36	宮沢 透
38	宮脇 勝
40	安田光男+杉山陽子
42	ユストス・ビザール+ペーター・ルーゲ
44	由田 徹+岡本美樹
46	吉松秀樹／アーキプロ
48	渡辺真理+木下庸子／設計組織ADH+三谷 徹+長谷川浩己／S.E.D.O.

50	作品講評	
55	新時代は見えるか	久保清一
56	SDレビュー1996経過報告	

発行所：鹿島出版会
〒107 東京都港区
赤坂6丁目5番13号
電話：
(03) 5561-2551 営業
(03) 5561-2555 編集
FAX：
(03) 5561-2561 営業
(03) 5561-2565 編集
TELEX：
02422467 KAJIMA J
HomePage：
http://www.kajima.co.jp/
kajima_mall/publish/
index.htm
振替00160-2-180883番

印刷・製本：
凸版印刷株式会社
〒174 東京都板橋区
志村1丁目11番1号
電話：
(03) 3968-5111 案内

取次店：トーハン・日販・
大阪屋・大洋社・
栗田出版販売・誠光堂・
鈴木書店・西村書店・中央社

定価：1,950円
[本体1,893円]

年間直接購読料：25,000円
特別定価号+送料込み

表紙：土の自由皮膜
高橋昌巳／シティ環境建築設計
表紙写真：堀内広治
表紙デザイン：小泉均

伊丹潤の近作より：

石彩の教会、木の教会、土の教会

61		
62	石彩の教会	
74	木の教会	
84	土の教会と三梅園プロジェクト	
90	伊丹潤の建築思考の一断面——教会建築連作にみる	林 芳史

94	連載：apple tomology トムの時空形象学 15	CUBIC CROSS	戸村 浩
96	照明探偵団： 連続実践講座レポート 9	動く光の面白さ——花電車の夢	葛西玲子/LPA
98	ニュース： 南仏のスペクタクル——ミヨ—高架橋		
102	展覧会レポート： 移ろう水の「霊」と光の「声」——トボスの復権展2より		高島直之
103	ニュース： 検証——インターネットによるヴァーチャル・デザイン・スタジオ		
105	新刊紹介		
106	書評		
108	お知らせ		
111	海外建築情報リミックス：エンペロブ その3 「見えないこと」		
117	SD1996年総目次		

Special Feature:

SD Review 1996

Chief Editor: Koji Aikawa
Associate Editors:
Mariko Terada
Shinya Takagi
Ryo Yamada
Yumi Ohno
Rie Iizuka
Adviser: Kobun Ito

Publisher: Zenjiro Kawai
Executive Director:
Aiko Hasegawa

Published by
Kajima Institute Publishing
Co., Ltd.
6-5-13 Akasaka,
Minato-ku, Tokyo 107,
Japan
TEL:
03.5561.2551 (Management)
03.5561.2555 (Editing)
FAX:
03.5561.2561 (Management)
03.5561.2565 (Editing)
TELEX:
02422467 KAJIMA J
HimePage:
http://www.kajima.co.jp/
kajima_mall/publish/
index.htm

Printed in Japan
This Copy: ¥1,950
¥30,000 a year
¥50,000 two years

Order Form: Page 128

Cover: Masami Takahashi
Photo: Koji Horiuchi
Cover Design:
Hitoshi Koizumi/NID

17	Comments from the Screening Committee Hisao Kohyama/Kunio Watanabe/ Hiroshi Naitou/Kazuyo Sejima	
19	REI J/Responsive Environment	
22	Nagisa Kidosaki & Associates	
24	Masao Kuroki + Chiaki Yokota/Nihon sekkei	
26	Mitsuhiko Sato + Makoto Yokomizo	
28	Hiroshi Sanbuichi + Michitetsu Nishio + Tetsuya Tsukada + Kazuhide Tsuchiya	
30	Masami Takahashi	
32	Naoyuki Nagata + Shinji Ikada + Yuhji Shimizu/I.C.U.	
34	Taira Nishizawa	
36	Tohru Miyazawa	
38	Masaru Miyawaki	
40	Mitsuo Yasuda + Yoko Sugiyama	
42	Justus Pysall + Peter Ruge/Pysall, Ruge Architecten	
44	Tohru Yoshida + Miki Okamoto	
46	Hideki Yoshimatsu/Archipro	
48	Makoto Watanabe + Yoko Kinoshita/ADH Architects + Tohru Mitani + Hiroki Hasegawa/S.E.D.O.	
50	Comments on the Entries	Seiichi Kubo
55	Is the New Age in Sight?	
56	SD Review 1996 Progress Report	

From the Recent Works of Jun Itami: Chapel of Stone, Chapel of Wood and Chapel of Earth

61	62	The Chapel of Stone	
	74	The Chapel of Wood	
	84	The Chapel of Earth and Sanbaizen Project	
		An Aspect of Jun Itami's Architectural Philosophy: The Chapel Series	Yoshifumi Hayashi
90			
	94	Series: CUBIC CROSS apple tomology 15	Hiroshi Tomura
	96	Symposia on Illumination: 9. The Fascination of Moving Light: The Dream of Parade Floats	Reiko Kasai, LPA
	98	News: Spectacle in Southern France: The Millau Viaduct	
	102	From the Exhibition: The Spirit of Moving Water and the "Voice" of Light	Naoyuki Takashima
	103	News: Inspection: Internet's Virtual Design Studio	
	105	Book Information	
	106	Book Review	
	108	Announcements	
	111	Eminent Works Abroad: Envelop 3 Invisibility	
	117	SD1996 INDEX	

特集

SDレビュー1996

第15回建築・環境・インテリアのドローイングと模型の入選展

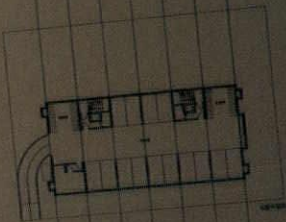
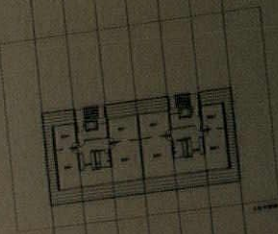
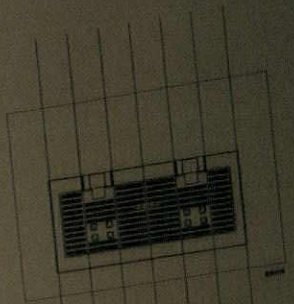
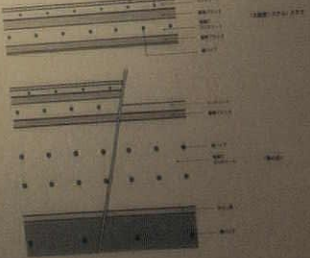
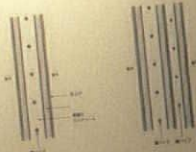
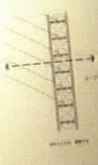
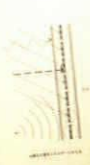
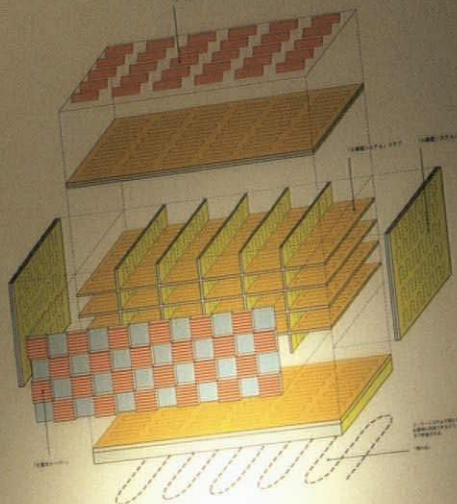


Special Feature

SD Review 1996

The 15th Exhibition of Winning Architectural Models and Drawings

1. 建築設計の目的と意義
2. 建築設計の過程
3. 建築設計の成果
4. 建築設計の評価
5. 建築設計の発展



HAUS SONNE

HAUS SONNE

HAUS SONNE

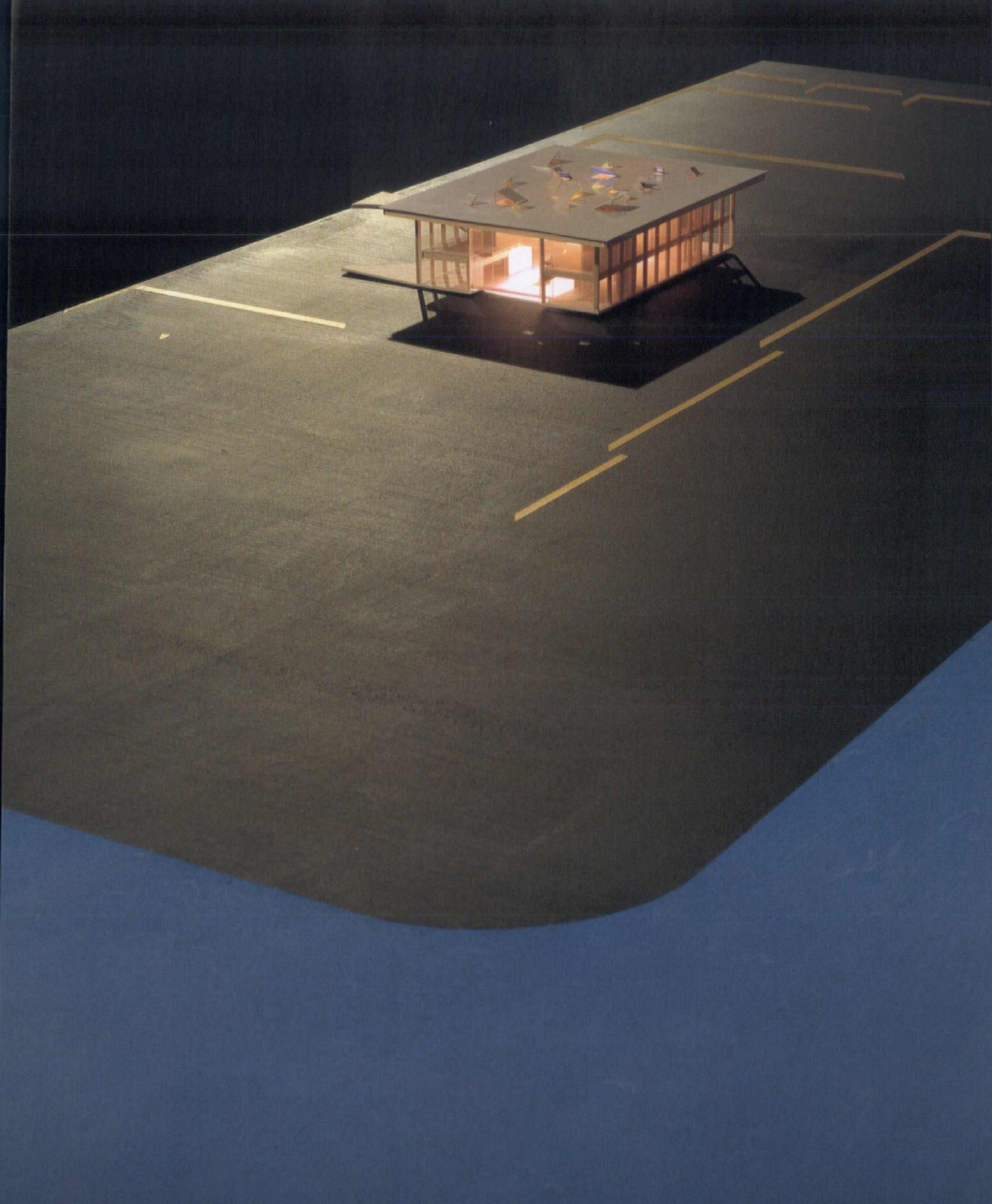


鹿島賞

■ユストス・ビザール+ペーター・ルーゲ/Haus Sonne(p.42)

SD9612

6



SD賞

■城戸崎和佐建築設計事務所／鈴木木材工業本社(p.22)



朝倉賞

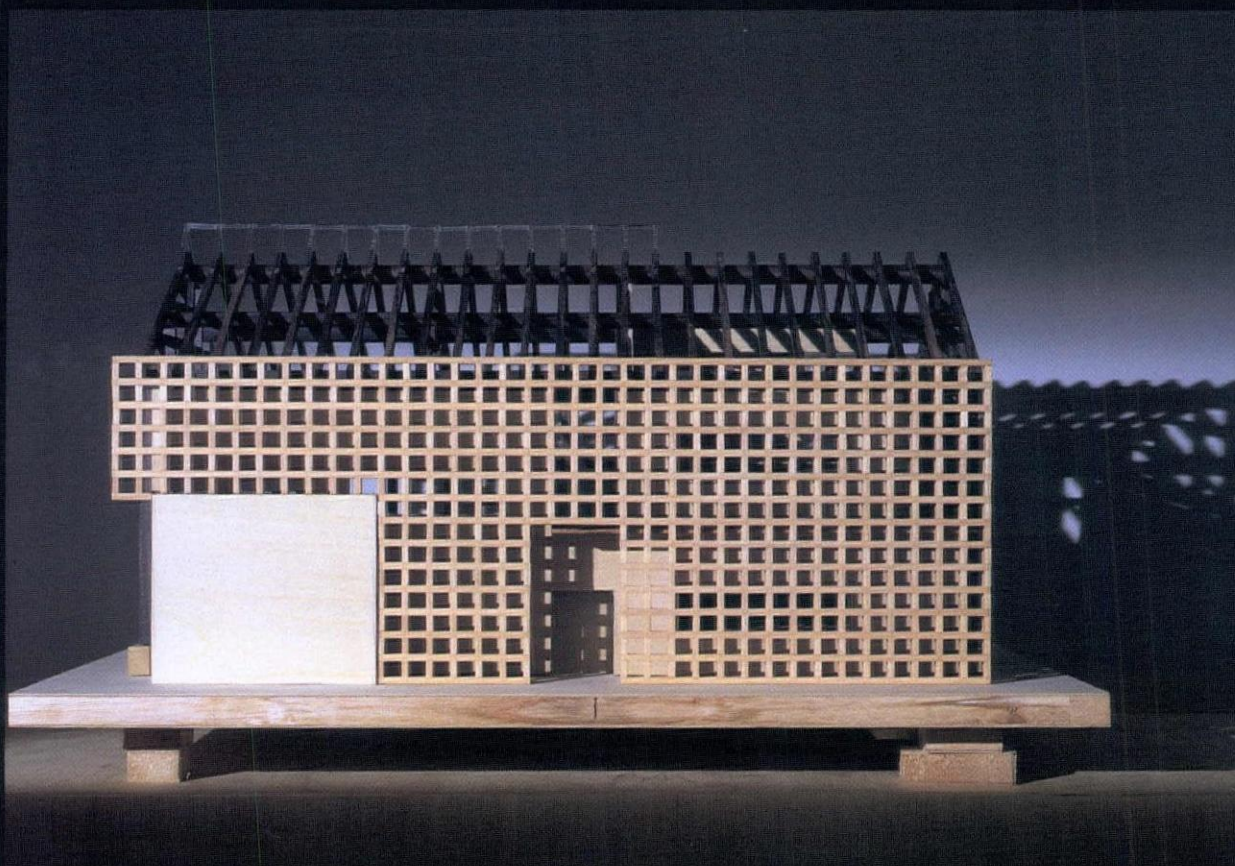
■高橋昌巳／土の自由被膜 (p. 30)

SD9612

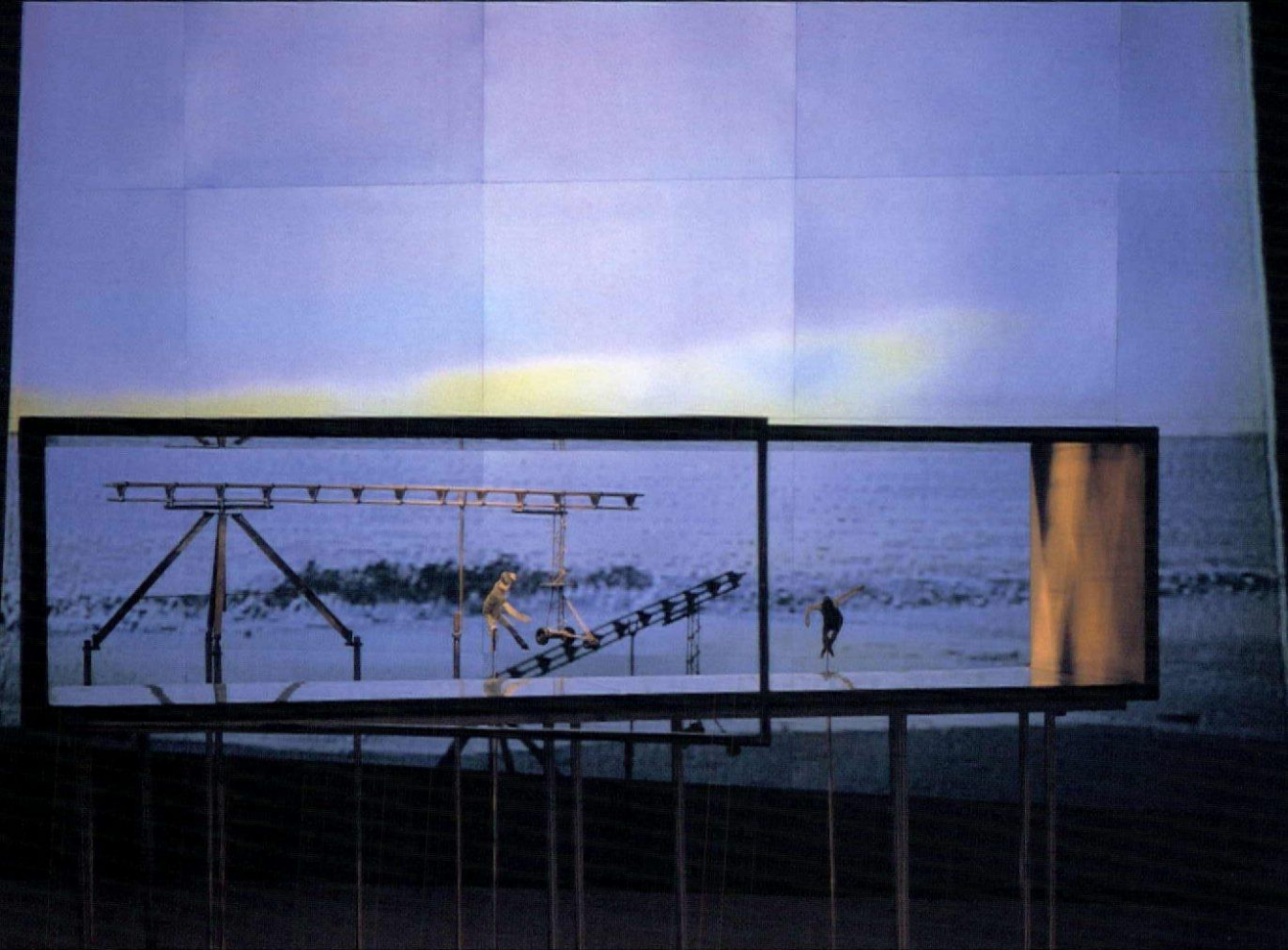
8

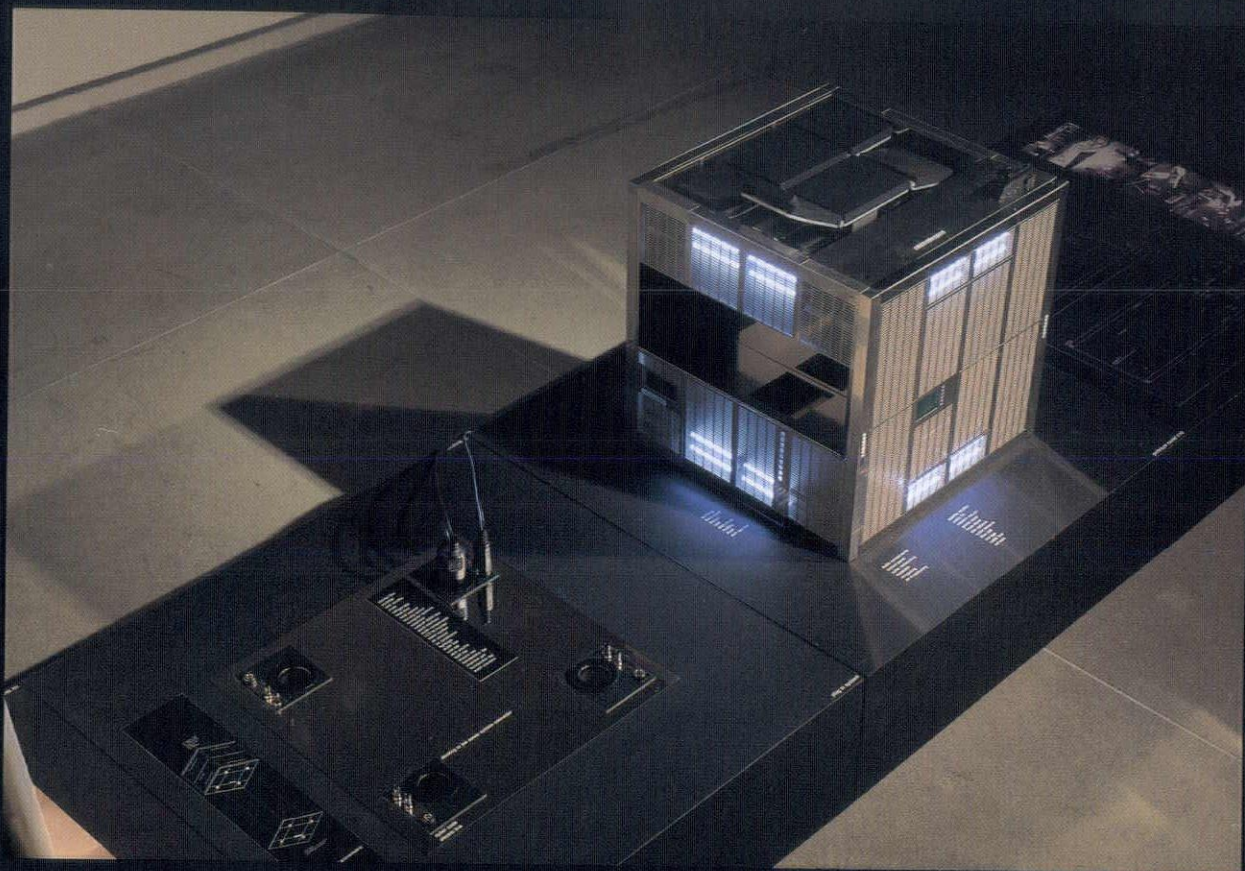


■由田徹+岡本美樹／スクリーン(p.44)

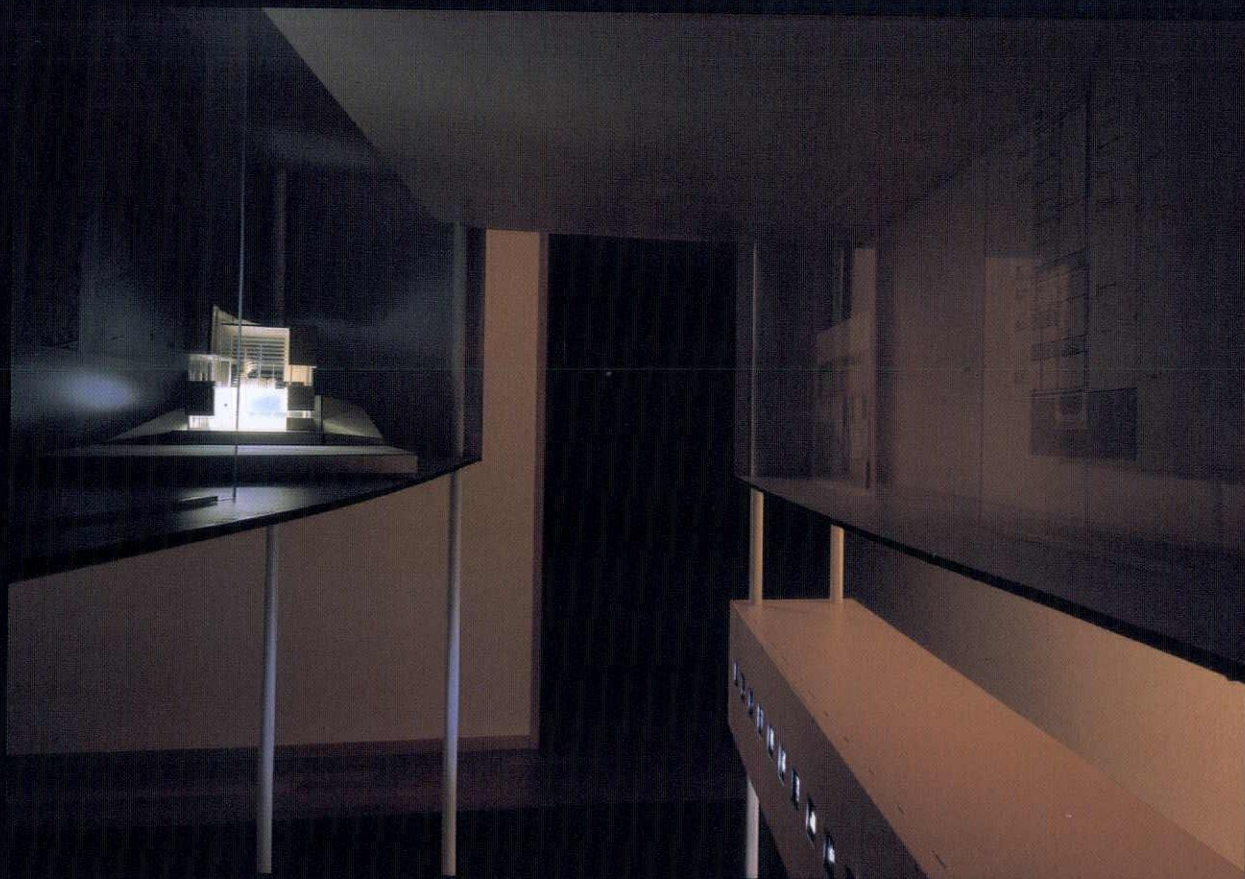


■宮沢透／S邸(p.36)

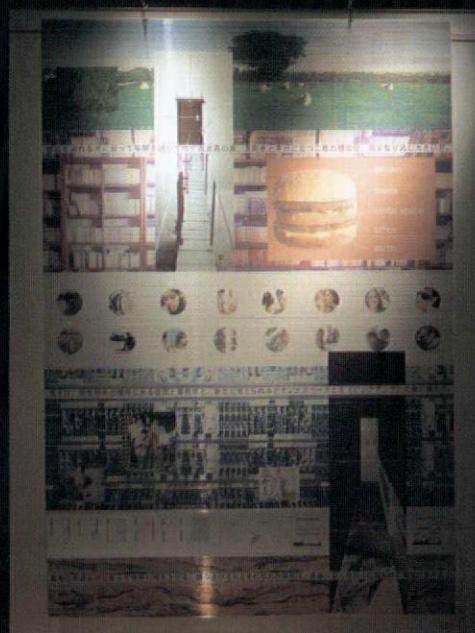


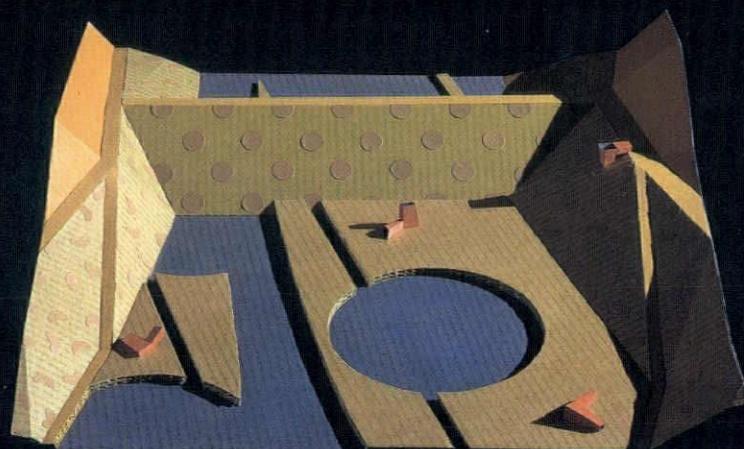


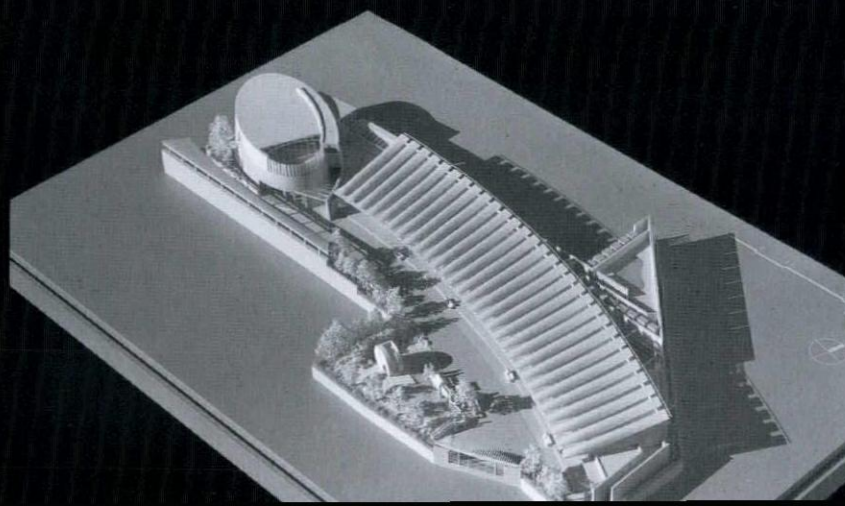
■三分一博志+西尾通哲+塚田哲也+土井一秀／PILOT HOUSE#01 (p. 28)



■長田直之+筏真司+清水裕二／I.C.U.／KANTAN HOUSE (p. 32)







香山壽夫

現実の条件の整理だけに終始している設計が面白くないことは言うまでもないが、といって観念の絵解きのようなプロジェクトも、空しいものだ。人を驚かしてやろうとするその姿勢そのものが、画一的で、ありきたりなものになっていることに、本人が気がついていないので、むしろ滑稽だと言った方がいい場合が多い。教師をしている人間にとっては、学生のそうしたプロジェクトに食傷しているから、興味が無いと言って審査員を断ろうとしたら、相川編集長にSDレビューはそうではない、現実建つことを条件にしているプロジェクトなのだ、現実性と想像力の切り結ぶところにポイントがあるのだと、説得されて引き受けることとなったが、果たして結果はどうであったか。

設計条件の設定に多様性のあることは確かで、さすが学生達の設計とは比較にならない。さすが実際に設計している人々が応募した作品は違うと納得した。しかしそう納得する一方で、設計者がその条件に立ち向かう姿勢はどうかと言えば、全体としてはこれはやはりどここのコンペでも流行しているいくつかのパターンが支配的で、期待していただけた多様性があつたとは言えない。

それは応募者に問題があるのか。それともそれが見えない審査員に問題があるのか。そもそも、現実性、リアリティ、というこの巨大な全体に取り組んでいるはずの設計内容を、1枚の紙に表現させること自体に無理があるのか。プロジェクトの表現力は、条件を可能な限り抽象化し、できれば一極にまで還元した方が強いものになる。しかし抽象化された概念は、必然的にいくつかのパターンに帰結する。では、実際に建つものをプロジェクトで提示させることに矛盾があるのか。しかしそれも必ずしもそうとは言えない。1枚のドローイング、ひとつの言葉、ひとつの仕草のうちに、全世界が示されることも確かにある。そうした、稀有の出現を期待しつつ、全ての人の業は行われるのであろう。

●こうやま・ひさお／建築家、東京大学教授

渡辺邦夫

建築が「技術工学」に立脚しないで成立することはあり得ない。さらに、現代では多種多様な技術工学が発展しており、専門的に分化しており、それらの分化した技術の集約、統合が求められる時代にあるといえる。この単純な事実に着目しない建築には虚しさが目立ってしまう。作品のよりどころとなる「技術工学」の統合の固有の論理が、個々の建築にとって重要になってきたと思う。それは個人住宅でも超高層などの大規模なものでも共通したテーマである。

応募案を全般的にみると、そのことを意識している案と、技術工学にはそれほど留意していない、あるいは既存の狭い技術で満足している作品と、大きくふたつのグループにわけることができる。前者には時代と共に変化する建築のあり方を如実に感じることができるから、新鮮さと固有の創意工夫を読みとることができる。

また、それは展覧会での模型を見ると歴然とわかるものだ。実現を前提とした模型は、極端に具体的でないと駄目だと思う。説明文や図面だけでなく、模型まで抽象化、概念化してしまうと、もはや何を狙っているのか客観的には全くわからなくなってしまう。実現を前提にしている以上、あらゆる側面から考えた構成エレメントを正しい寸法で忠実に組み立てることで、模型をつくる意味が生まれるのだ。これは一例であるが、〈タウンセンターH〉では発泡スチロールの中に建物を沈めて、見せたい角度の穴をあけてそこから覗く模型であったが、この製作者の概念上の意図はわかるが、全くナンセンスだ。視界を強制されるという不愉快な模型表現である。展覧会としては面白いかも知れないが、建築を正しく評価できないではないか。

構造部材をそのまま外部空間の主要なモチーフとして計画した模型では、曲げ材、圧縮材、引張材などの各々の部材の力学的性状に合わせた部材断面できちんと模型をつくらないと、現実とは違った空間になってしまう。その断面の寸法、形状、配置が正確であれば、そこから産まれる緊張感とかバランスを判断することができる。構造のシステムが合理的なものでも、部材寸法と規模との関係で、うまくいかないことなど日常的に起こることである。このときは構造システムそのものも変えなければならないだろう。そういう検討、検証が、一目瞭然で判断できるのは、まさに模型の威力なのである。できれば部材の接合部の形状まで模型に組み込んだ方が、より現実的な空間表現ができるだろう。

〈ハウス・ゾンネ〉はそのような意味で、秀作だと思う。幅広い技術工学の問題を見事に空間に閉じこめた上で、集合住宅の今日的課題を克服している。また、同じ意味で〈土の自由被膜〉に内在する技術的挑戦を高く評価した。〈鈴木木材工業本社〉の空間構成にも新しい技術に対して多面的なハイブリッド構造を採用することで解決しようとする姿勢が明白である。僕は、自分が技術者だからであろうか、空間構成とその意味だけでなく技術工学にも真摯に対峙した作品に深く共鳴する。

●わたなべ・くにお／構道家

SDレビューは自由なコンペです。

案自体の内容を審査する、プレゼンテーションを審査する、模型表現を審査する、などさまざまな見方が出来ます。見事なプレゼンテーションでやりたいことはよく解るが実現する過程で、その意図の肝心なところが萎んでしまうであろうことが容易に予想できるような案。プレゼンテーションは稚拙だけれど、よく見ると内容的にとっても発展性のある案。さまざまなディメンジョンが複層されたものを我々は審査するわけです。見方を変えれば、審査基準が明確でない分、審査員の側のスタンスが問われるコンペということも出来るでしょう。それを知ってか知らずか、応募者の方も、審査員に、これを評価できるのか、と挑みかかるような姿勢があり、そのところのバトルがこのコンペの面白さにもなっているようです。

この解りにくい審査基準の中で、私自身はどう考えたのかを少し書きたいと思います。

あらゆる建築の設計というのは、まず、創り手のイメージから出発します。そこにおいては、個々人の問題ですからまったく優劣はないと考えています。単なる差異があるだけです。それが現実の建築になるためには、さまざまな道筋があるのだと思います。出発点では単なるイメージに過ぎなかったものが、紆余曲折、試行錯誤、いくつもの段階を経て少しずつ現実のものになっていきます。この舵取りの仕方こそが、最終的に生まれる建築の価値を大きく左右するのです。出発点であるイメージの段階が個人のオリジナリティだとしたら、この「道筋の立て方」は建築家としてのオリジナリティといっても良いかも知れません。私は、この前者のオリジナリティは単なる「思いつき」に過ぎず、持続力の求められる後者のオリジナリティ、つまり「道筋の立て方」こそ、建築を生み出す上での不可欠の真性のオリジナリティだと考えています。

SDレビューでは、この道筋の途上にあるプロジェクトを審査するわけです。思いつきから少し前進したばかりのプロジェクトから、実現寸前の成熟したものまで、応募作はさまざまです。一次選考ではドローイングが中心で、二次選考では模型が中心です。応募者が自分のプロジェクトを審査段階に応じて、それぞれ発展させられるわけです。プロジェクトの発展段階を時系列の中のふたつのポイントで押さえられるわけです。作者がどの方向にプロジェクトを導こうとしているのか、ある程度想像することが可能になります。つまり「道筋の立て方」が見えるわけで、それがうまくいっているもの、そこに強固なオリジナリティが垣間見えるものを評価することを心がけました。

●ないとう・ひろし／建築家

今年のSDレビューのプレゼンテーションは、これまでと比べて比較的、実際に建つであろう姿をよく伝えたものとなっていて、私としては好感を持った。ただ、あくまでも模型のプレゼンテーションは実際に建つ建築とは別のレベルのプレゼンテーションであろうから、その時どのような示し方をするかというのは難しいと思う。

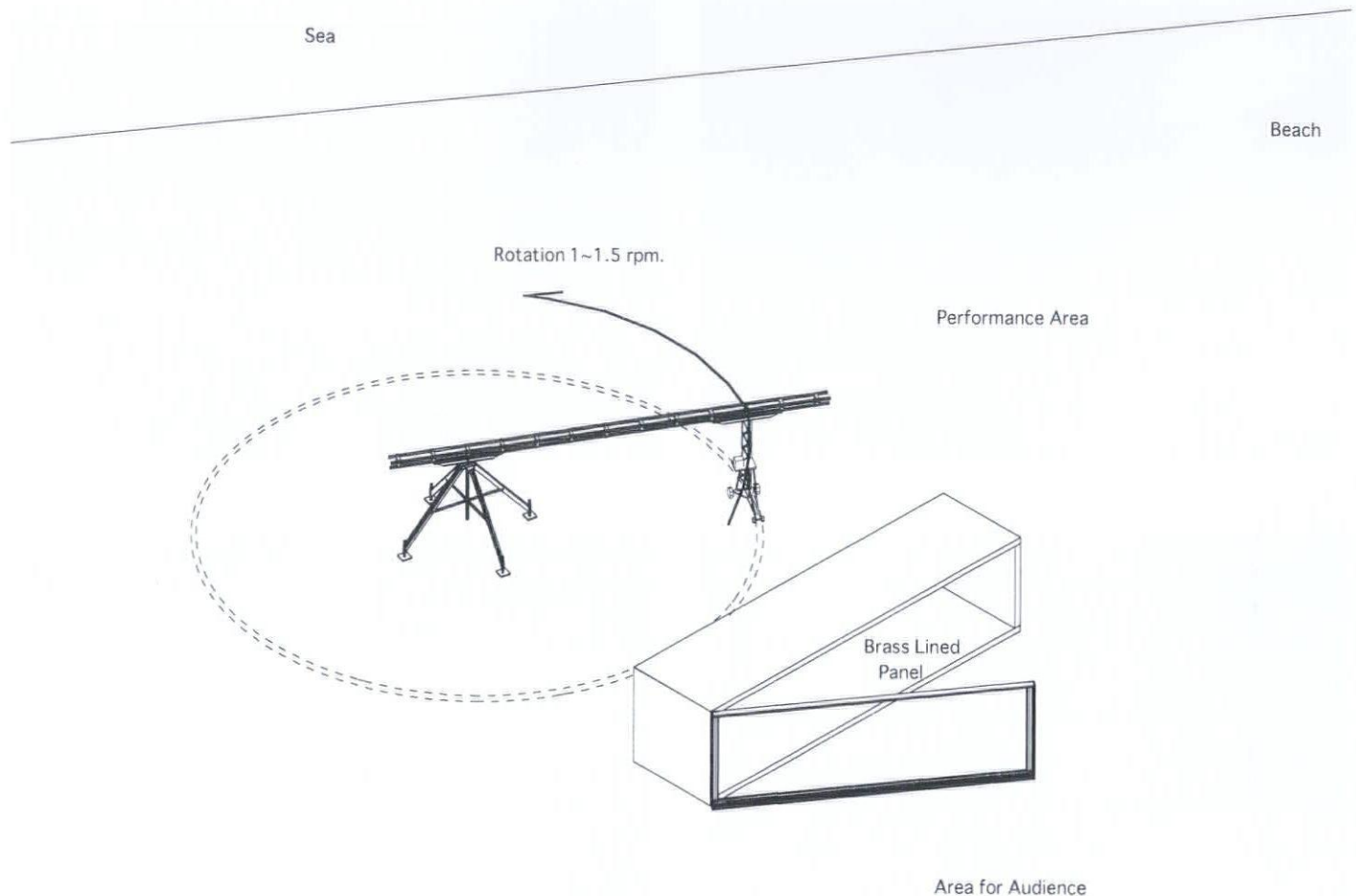
最近、何かいろいろな建築が似てきているということが、比較的口にされるのを聞くが（確かにそのような傾向があると私も思う）、中にはそうでないものがあるはずで、それを模型、図面等で示すのは、なかなか難しいのかもしれない。というのも、今年のSDレビューでは、そういう新しさみたいなものが少し足りなかったように思うからである。

自分も毎日建築をつくることに取り組んでおり、どのような建築を考えればよいのか試行錯誤の日々であるし、また、新しさだけを追求する必要もないのかもしれないが、ただそれでも、誰かが時々何かハッとするようなものを提示してくれると、建築をつくり続けるエネルギーをもらえるような気がする。そして、SDレビューこそそういう場所なのではないかと思うのである。

●せじま・かずよ／建築家

■RE[]/Responsive Environment

ダンスパフォーマンスのための舞台装置



はじめに、海辺でパフォーマンスをしたいと思った。
そのための装置は周囲の環境の中になるだけ、さり気なく。
浜辺に、長手に大きく開いた箱と、光を発しながらゆっくり回転するアームを置く。

夏の日差しが傾き始めた頃、
アームはすでに廻り続けている。

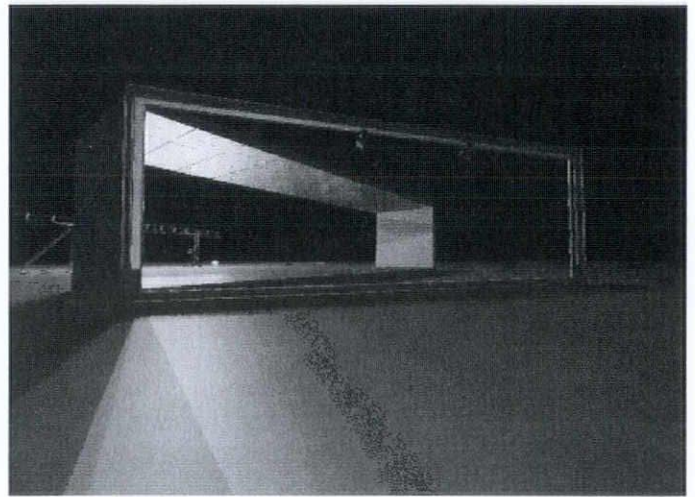
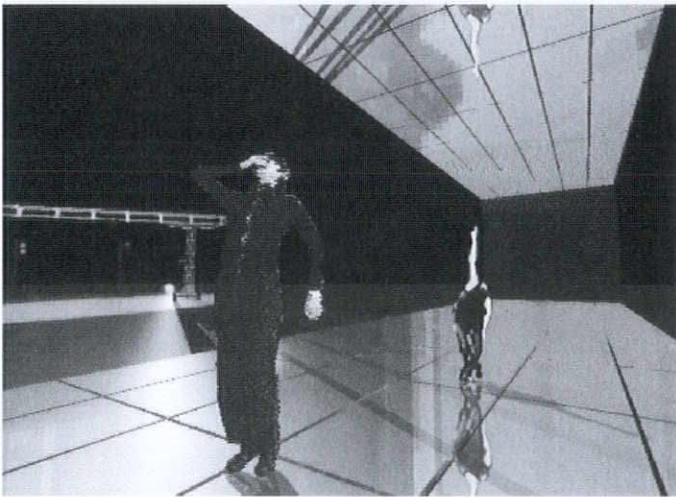
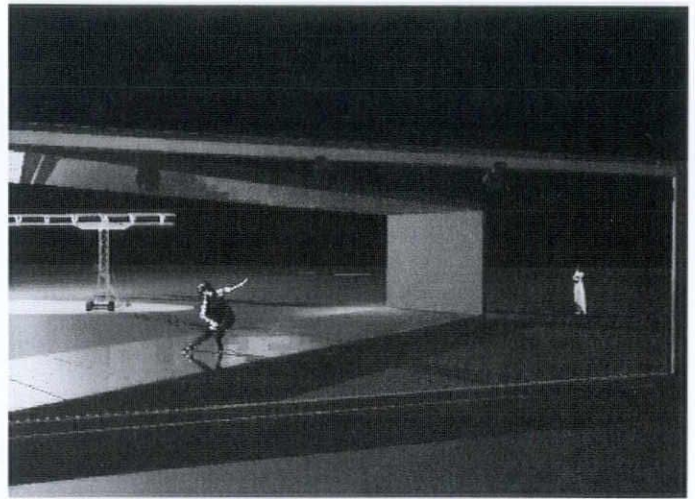
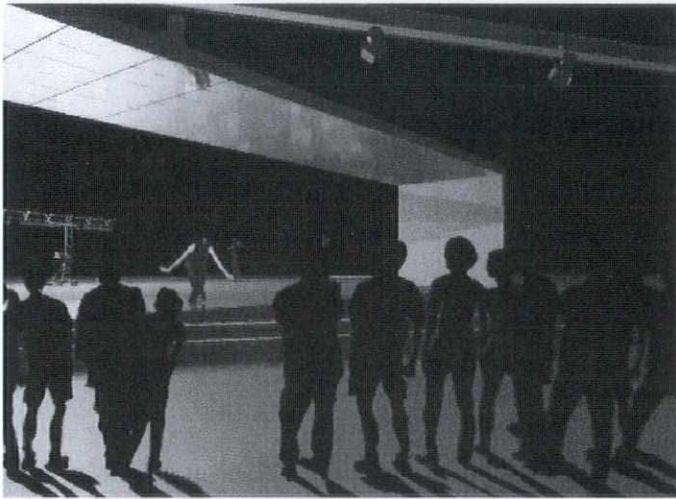
集まって来た人々は
めいめいに場所を探す。
尻の下の砂の感触に馴染んだ頃、
アームに取り付けたライトを灯す。
薄明かりの残る砂の上をあかりが移動する。

波打ち際に女が立つ。
波と、風とアコーディオンの呼吸を感じながら、
からだを揺らす。
足の裏の砂の危うさを感じる。

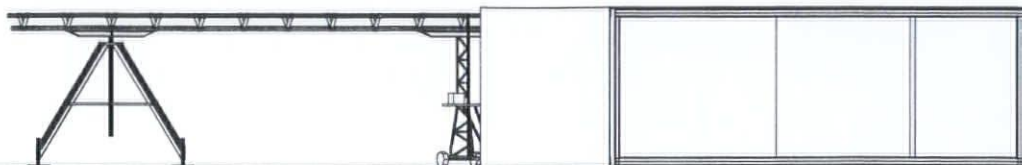
次々に人々が現れて、消えていき、
明かりの灯ったアームは箱の壁の陰から
姿を現しては、
箱をかすめてゆっくりと遠ざかっていく。

アームの動きを止め、
アームの光を消す時、
波の音、尻の下の砂の感触、潮の匂いが
再び支配的に現れて来る。

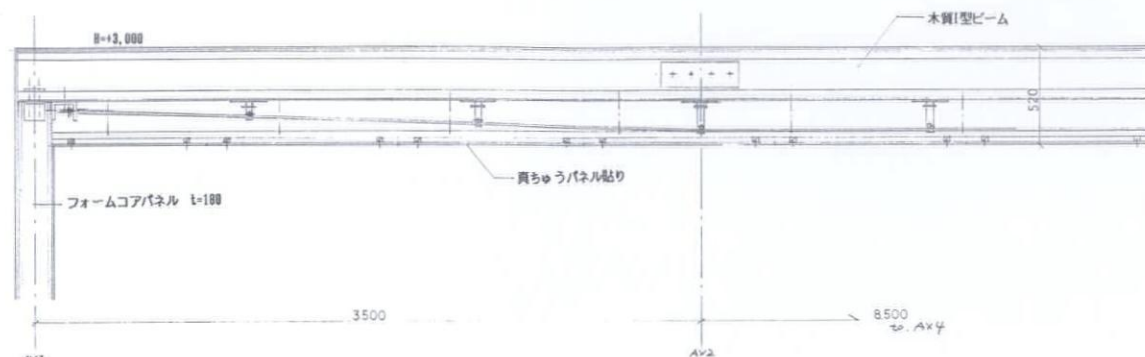
用途：仮設劇場
所在地：東京都近郊の海岸
主体構造：木造、一部鉄骨造
主要仕上材：真鍮、天然木
工事予定期間：1997年1月～8月
展示用プロジェクター提供：Large Hill（株式会社
広丘精機）



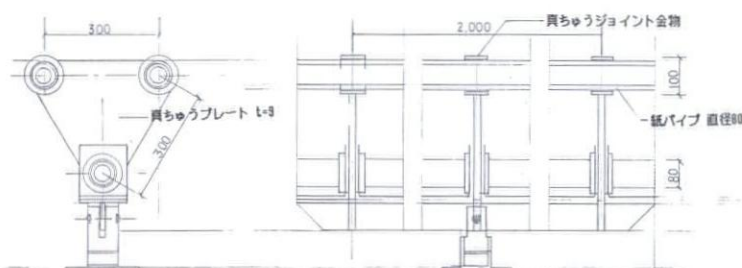
Rotating Arm



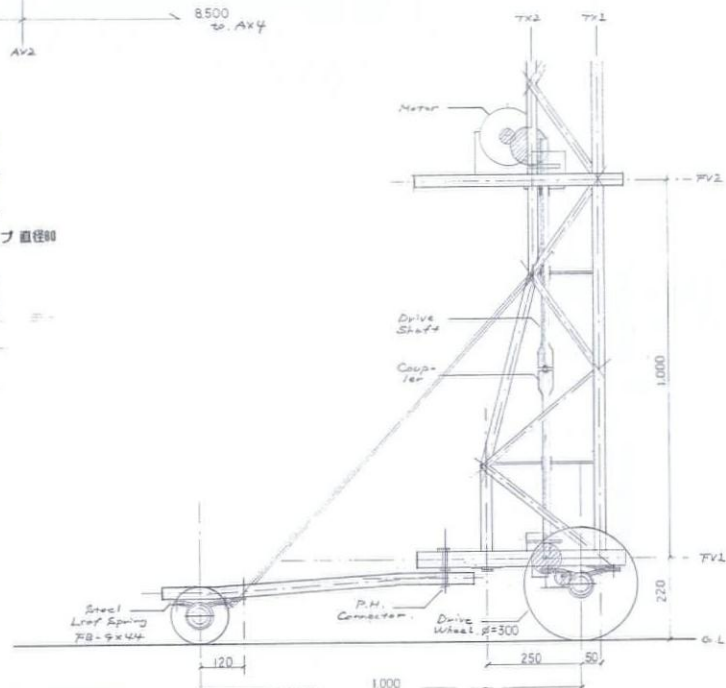
Rectangular Box



箱の屋根部分詳細図 S=1:40



アーム支点部分詳細図 S=1:20



アーム脚部詳細図 S=1:20



伊藤伸司 Shinji Ito
1970年 広島県生まれ
1995年 東京大学大学院建築学専攻修士課程修了
現在 清水建設建築設計部勤務

遠藤拓己 Takumi Endo
1971年 神奈川県生まれ
1995年 国立音楽大学卒業
現在 作曲家

遠藤徹夫 Tetsuo Endo
1970年 兵庫県生まれ
1995年 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻修士課程修了
現在 振付家、メーカー研究所勤務

馬場未織 Miori Baba
1973年 東京都生まれ
1996年 日本女子大学住居学科卒業
現在 日本女子大学大学院住居学専攻修士課程在籍

日高仁 Jin Hidaka
1971年 広島県生まれ
1995年 東京大学大学院建築学専攻修士課程修了
現在 磯崎新アトリエ勤務

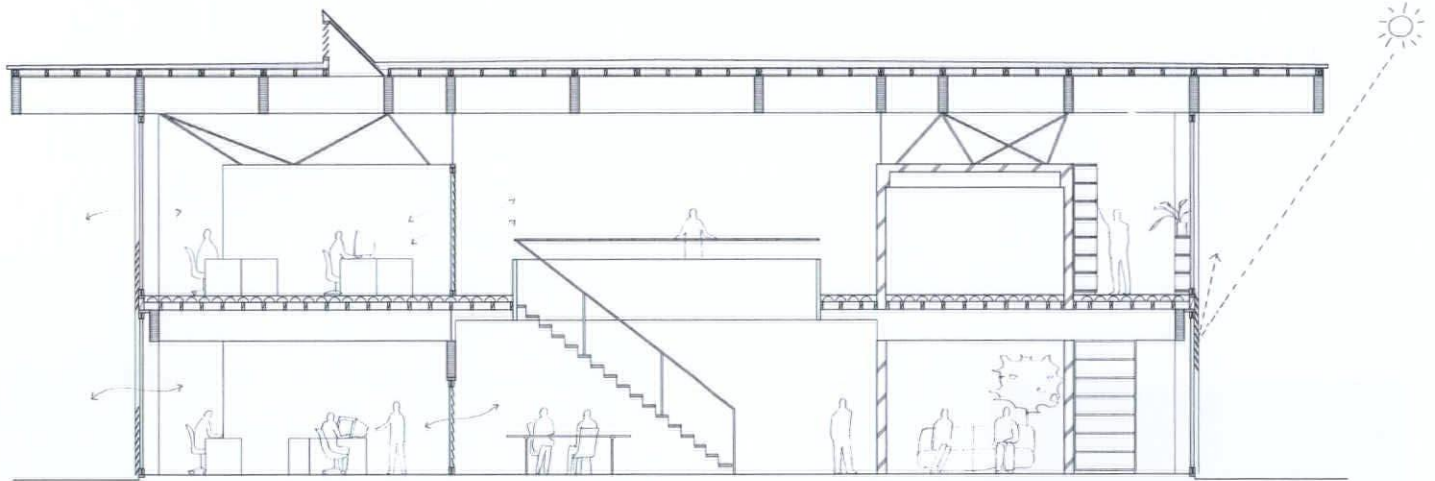
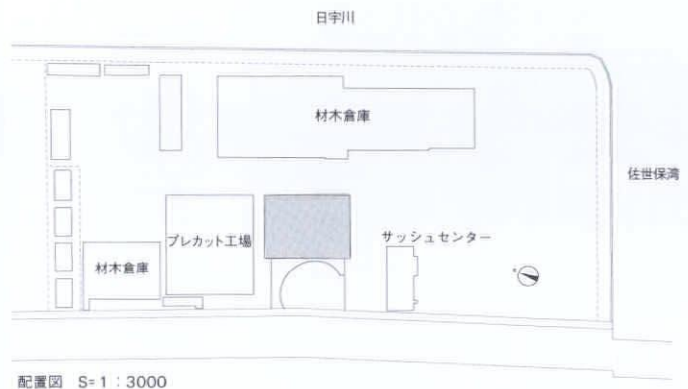
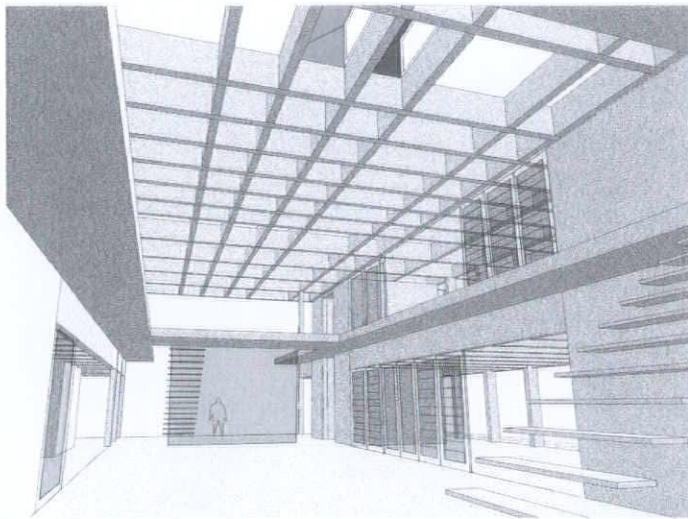
西澤高男 Takao Nishizawa
1971年 東京都生まれ
1995年 横浜国立大学大学院計画建設学専攻修士課程修了
現在 長谷川逸子建築計画工房勤務

三田村哲哉 Tetsuya Mitamura
1972年 東京都生まれ
1996年 東京都立大学建築学科卒業
現在 東京都立大学大学院建築学専攻修士課程在籍

山代悟 Satoru Yamashiro
1969年 島根県生まれ
1995年 東京大学大学院建築学専攻修士課程修了
現在 横総合計画事務所勤務

■城戸崎和佐建築設計事務所 (SD賞)

鈴木木材工業本社



断面図

長崎県佐世保市の製材会社のオフィスの計画である。敷地は佐世保湾に面した工業団地の突端に位置し、もとは貯木場だったという川と海に東南の2方向を囲まれている。施主の希望は、自社で扱っている集成材を使って、構造自体がショールームとなるような、大スパンの木造のオフィス空間であった。

周辺を巨大なスケールの工場や倉庫に囲まれた、人影もまばらな地区なので、事務所の中では人や時間の動きが感じられるように、吹き抜けの大空間の廊下を挟んで両側に2層の執務空間がある、3列の構成とした。この大きな廊下は、敷地内の工場や材木倉庫で働く

人々が通り抜ける傍らで、打ち合わせやミーティングのためのスペースになり、執務空間との間の引き戸を閉めて、独立したスペースとして、セレモニーや展示会に使われることもある。4方向を向いて取られた大小様々まのトップライトからは、季節や天候に応じた光や風が落ちて、この廊下の上を動いてゆく。

ふわりと浮かぶ格子梁のフラット・ルーフはテンション材でRCと結ばれ、水平力をRCが、鉛直力を木の柱が負担する。集成材のジョイントは、ドイツの構造家ピーター・バーチャー氏によるシステムを用いて、接合部の表面に金物の見えない木材だけの架構が実現される。

設計者名：城戸崎和佐、飯田恵美

共同設計者名：中田捷夫／中田捷夫研究室(構造)、川口洋輔／川口設備研究所(設備)

用途：事務所

所在地：長崎県佐世保市沖新町

主体構造：木造一部鉄筋コンクリート造

主要仕上材：集成材(サザニエローバイン)

構造用合板(サザニエローバイン)

木製建具

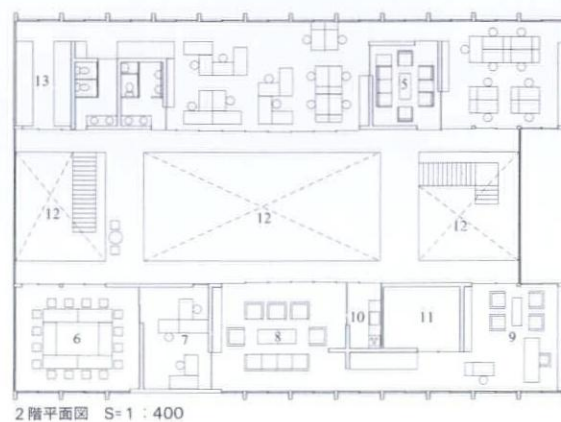
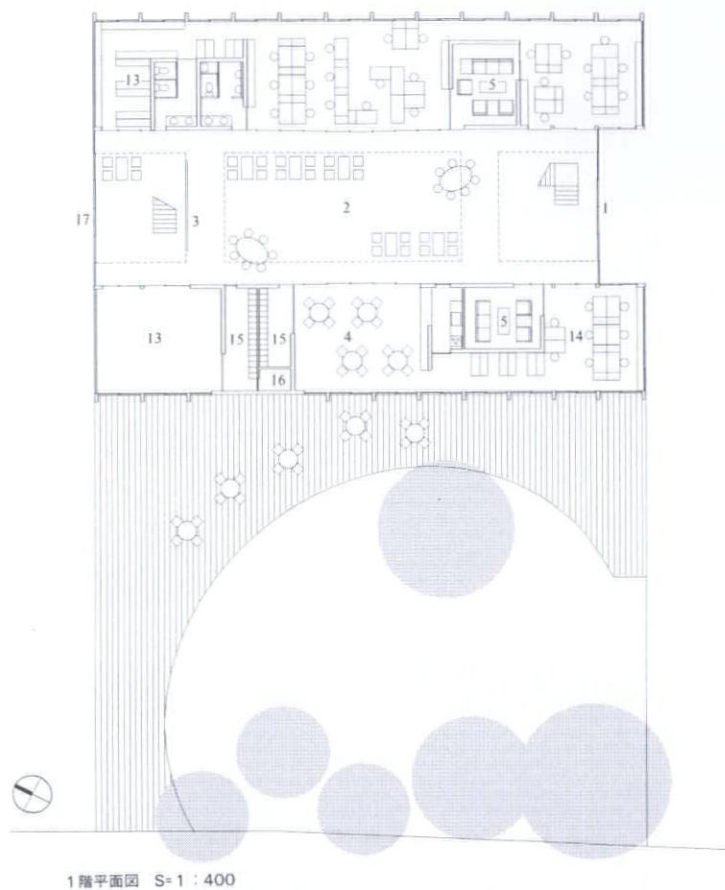
RC打放、一部フッ素樹脂塗装

敷地面積：20,884.16m²

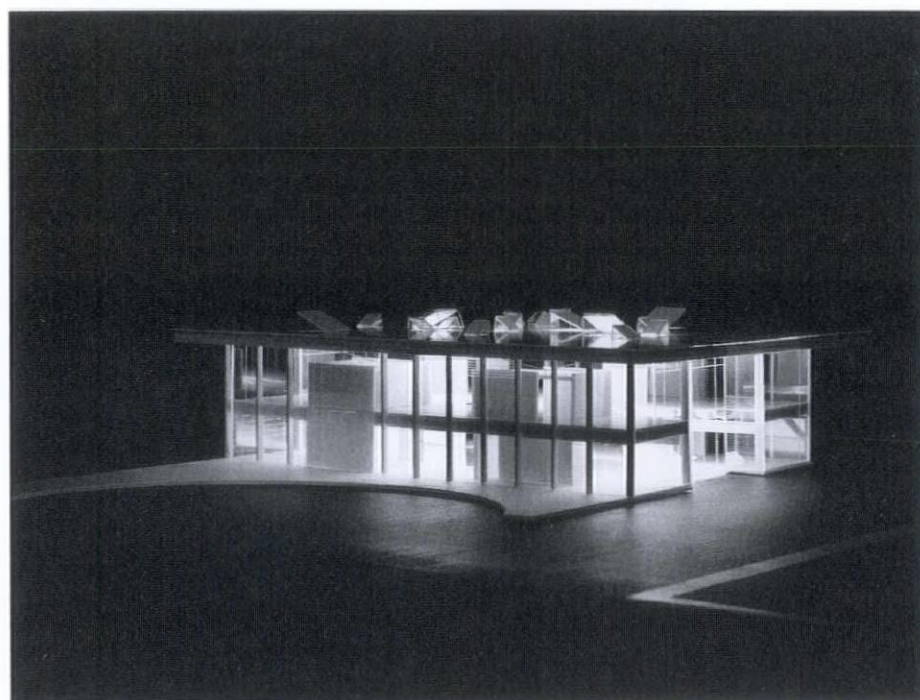
建築面積：733.12m²

延床面積：977.71m²

工事予定期間：1996年11月～1997年7月

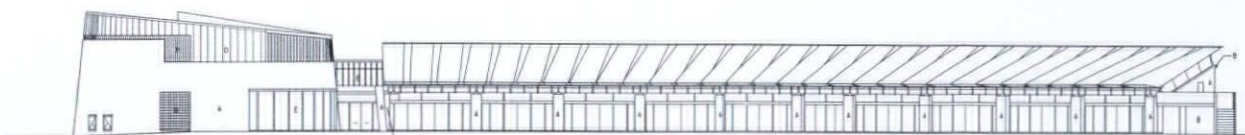


- 1:メインエントランス
- 2:多目的ホール
- 3:液晶ガラススクリーン
- 4:食堂
- 5:応接室
- 6:会議室
- 7:役員室
- 8:社長応接室
- 9:社長室
- 10:給湯室
- 11:資料・金庫室
- 12:吹抜
- 13:倉庫
- 14:外材
- 15:ロッカー
- 16:シャワー
- 17:連絡口

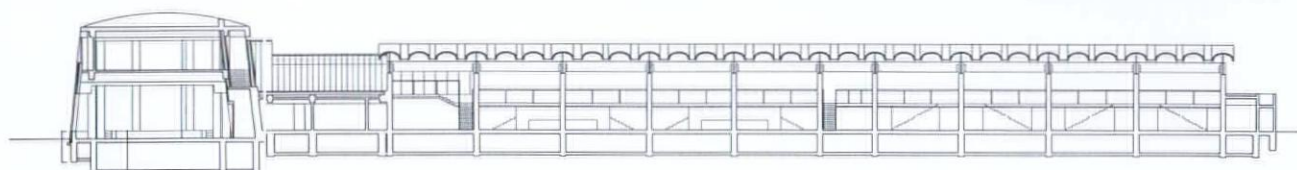


城戸崎和佐 Nagisa Kidosaki
 1960年 東京都生まれ
 1984年 芝浦工業大学大学院修士課程修了
 1984-85年 磯崎新アトリエ
 1985-93年 伊東豊雄建築設計事務所
 1993年 城戸崎和佐建築設計事務所設立
 1996年- 芝浦工業大学非常勤講師

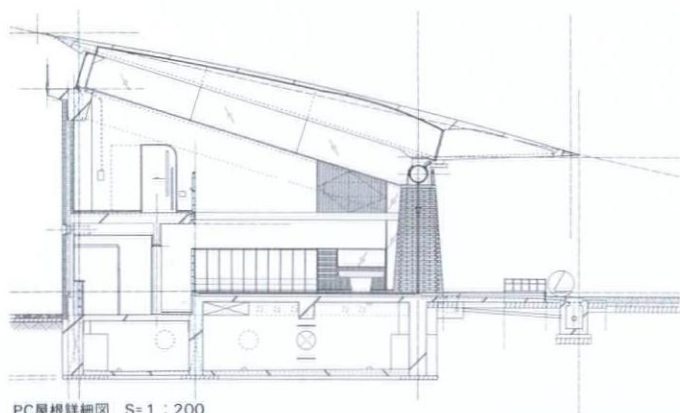
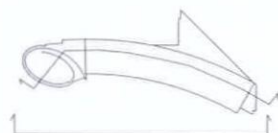
明かり屋根の幼稚園



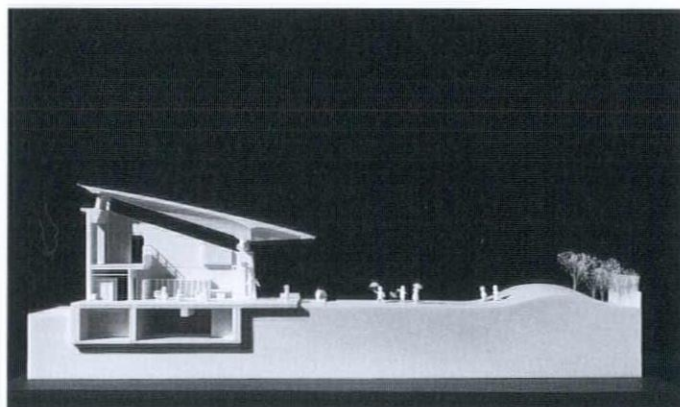
立面図 S=1:600



断面図 S=1:600



PC屋根詳細図 S=1:200



この幼稚園の教育方針は「自由保育」である。躰や規律は「あそび」を通して身につける。子供たちは、ただ力一杯遊ぶことが仕事である。子供はあらゆる所を遊び場にしてしまうから、先生の眼の届かない所があると心配である。だから教室の裏に廊下はなく、庭から緑側にあがる。楕円形の広間は遊戯室で、街路にはこの棟だけが向かい合い、子供のための異空間へ導入する。

各教室にはメザニンがある。教育実習の学生たちが、子供たちの振る舞いを上から観察するスペースとして作られた。日常はここも格好の遊び場になるだろう。

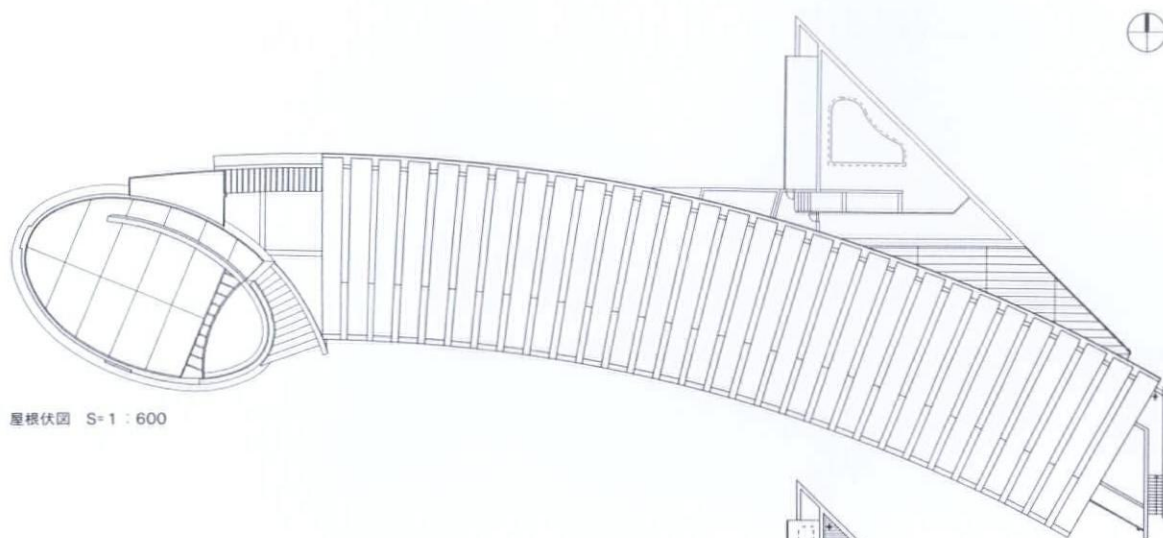
教室にはスリット状に天空光をいれた。室内のどこにいても子供の顔を順光で見るこ

ができる。細長いPC板のシェルを軒桁に乗せて屋根を架構した。床は内外とも木の同材である。視線も光も材料も空気も内外部は一体になってほしい。子供の遊びにはそういう空間が自然に思うが、郊外のこの辺りにすら稀少になってしまった。

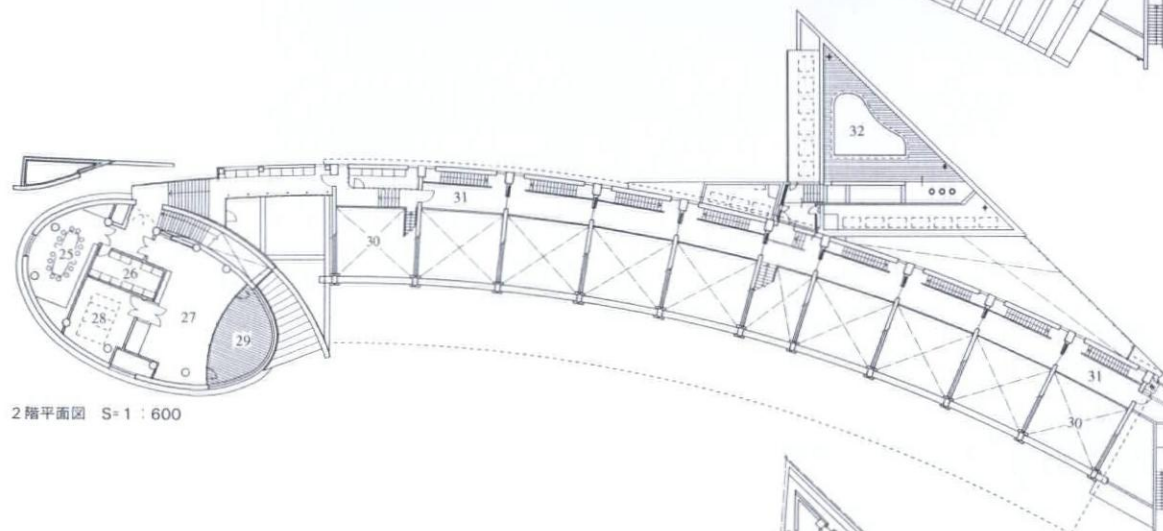
少なくなったのは、遊び場だけではない。「夢のような夢」を語る子供に出会わなくなった。責任はむしろ大人の側にある。都市は分断され住宅は規格化し、子供たちは少しづつ、世界を空想する手掛かりを失ってゆく。そうでない建築をつくろう。それを幼稚園にしよう。創造力に果てを知らないこの時期にこそ、それを自由にする空間で過ごしてほしいと願う。

共同設計者名：河瀬尚美（意匠）、土田伸二（構造）
協力者名：莊超涵、守住佳世子
用途：幼稚園
所在地：神奈川県川崎市高津区久本
主体構造：鉄筋コンクリート・一部鉄骨造、屋根PC
コンクリート造
主要仕上材：煉瓦（補強二重組積造）
敷地面積：2,811.79m²
建築面積：1,437.17m²
延床面積：1,909.66m²
工事予定期間：1996年3月～1997年2月

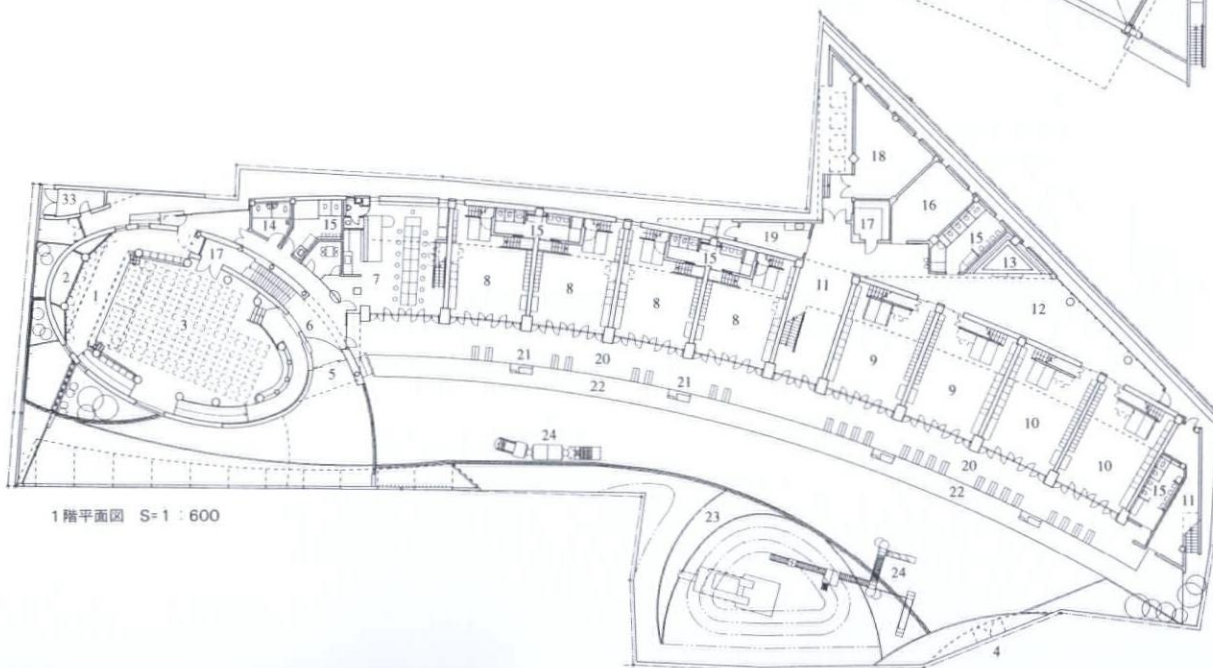
- 1:舞台
- 2:収納
- 3:遊戯室
- 4:通用口
- 5:玄関
- 6:玄関ホール
- 7:職員室
- 8:年少組保育室
- 9:年中組保育室
- 10:年長組保育室
- 11:共用スペース
- 12:プレイギャラリー
- 13:読書スペース
- 14:女子便所
- 15:幼児便所
- 16:保健室
- 17:倉庫
- 18:機械室
- 19:給湯室
- 20:テラス
- 21:洗面台
- 22:靴脱ぎスペース
- 23:砂場
- 24:遊具スペース
- 25:会議室
- 26:学生用ロッカー室
- 27:多目的室
- 28:電気室
- 29:バルコニー
- 30:吹抜
- 31:観察バルコニー
- 32:プール
- 33:ゴミ置き場



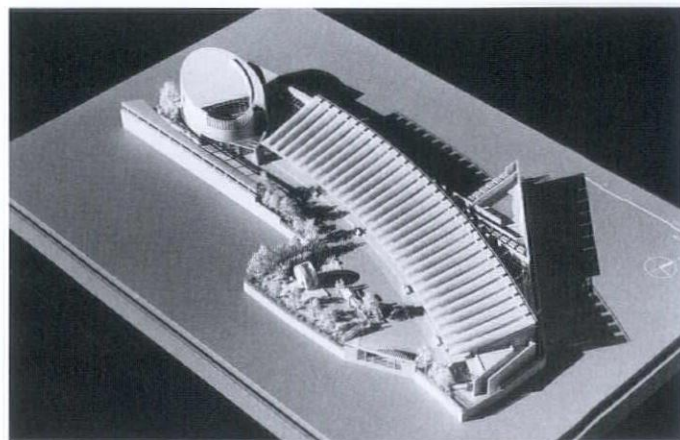
屋根伏図 S=1:600



2階平面図 S=1:600



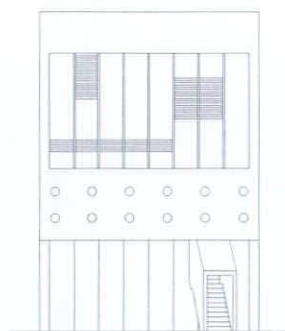
1階平面図 S=1:600



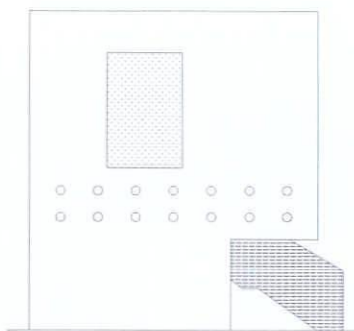
黒木正郎 Masao Kuroki
 1959年 東京都生まれ
 1982年 東京大学工学部建築学科卒業
 日本設計入社
 現在 同社第2建築設計群主任技師

横田千晶 Chiaki Yokota
 1969年 東京都生まれ
 1992年 明治大学理工学部建築学科卒業
 日本設計入社
 現在 同社第2建築設計群

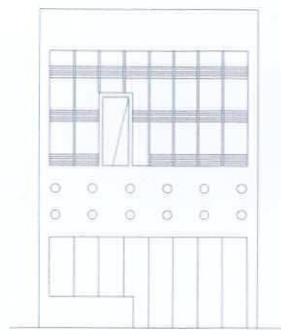
Sビル計画



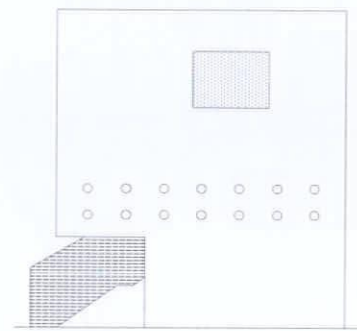
南立面図 S=1:300



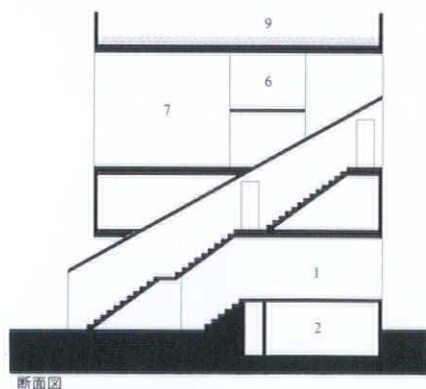
西立面図



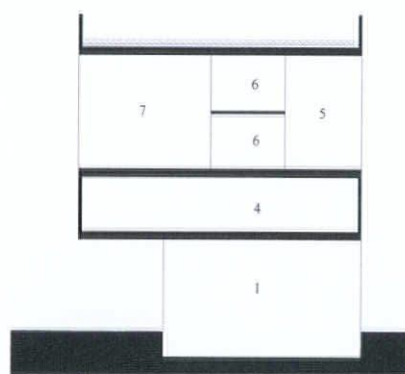
北立面図



東立面図



断面図



- 1:事務室
- 2:倉庫
- 3:吹抜
- 4:レンタルスペース
- 5:ホール
- 6:寝室
- 7:LDK
- 8:犬小屋
- 9:ガーデン

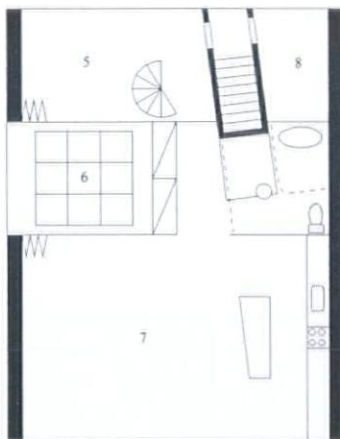
神奈川県秦野市に居住する施主は、現在自宅から2kmほど離れた場所に事務所を構え建築関係の仕事をしているが、事務所の敷地が道路の拡張計画にかかってくるのを機に、2ヶ所の土地と建物を売却して区画整理事業の進む秦野駅南口に1区画の敷地を購入し、新しい建物を建てることにした。

設計を依頼された我々は、新しい敷地、現在別々の場所にあるふたつの建物、新たに加えられるテナントスペース、を「ピクマック」のように単純に積み重ねるようにしてひとつの建物をつくることを考えた。

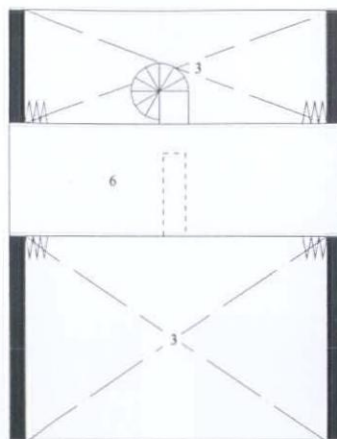
すなわち、区画整理前は田畑であった敷地

の表面を切り取って空中に持ち上げ屋上庭園とし、中間にテナントスペースのヴォリュームを挿入することによって上下にふたつの敷地をつくり出し、そこに事務所と住居を割り当てるというものである。これらの積み上げられた領域は、空に向かって一直線にかけ上がる路地状の階段によって連結されている。この敷地の周辺ではほぼ1年を通じて、付近を流れる水無川に沿って西北西の方向への風が吹いており、これはちょうど前面道路側から裏側へと抜ける向きになるため、左右の隣地側に構造壁を立てたヴォイド・ラーメン構造を採用した。

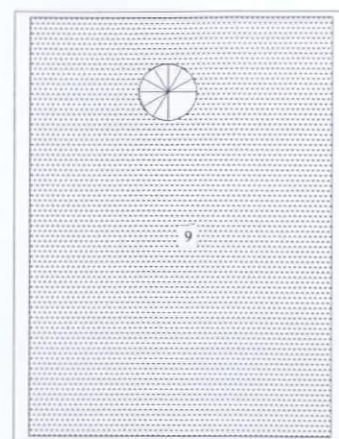
共同設計者名：中田捷夫（構造）
協力者名：工藤希子、栢野麻希、佐藤美保子（以上模型）、旭硝子マテックス株式会社
用途：住宅＋レンタルスペース＋事務所
所在地：神奈川県秦野市
主体構造：RC造
主要仕上材：
外壁 コンクリート打放
開口部 アルミサッシュ・アルミルーバー
敷地面積：125.0m²
建築面積：94.92m²
延床面積：304.34m²
工事予定期間：1997年～



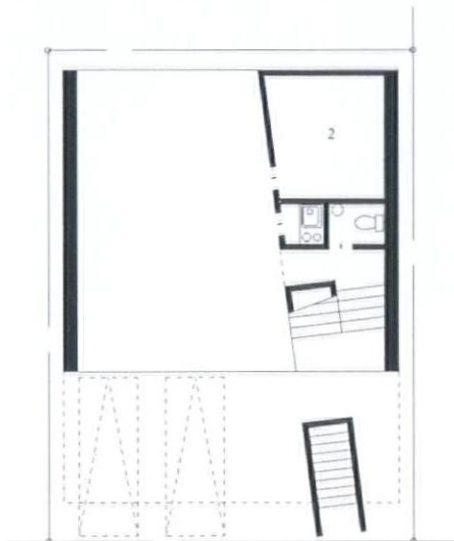
3階平面図



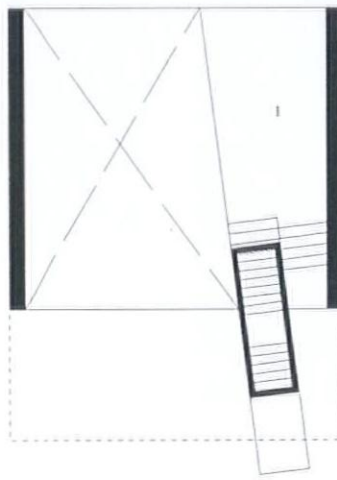
4階平面図



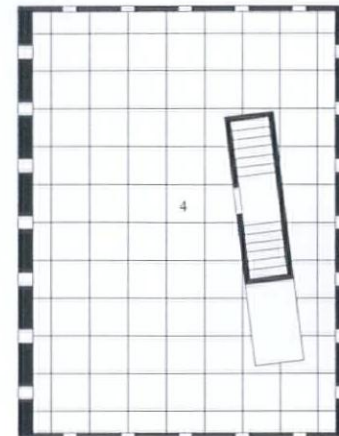
屋上平面図



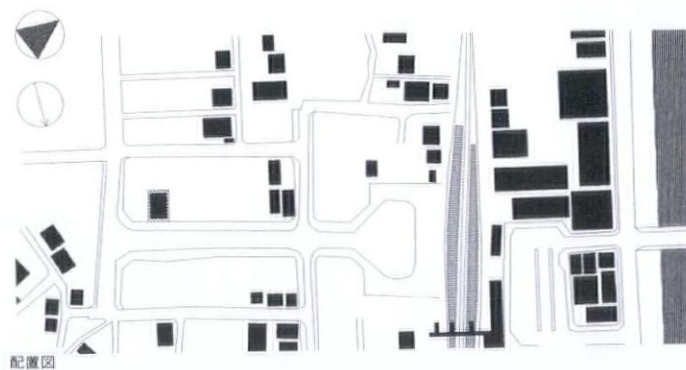
1階平面図 S=1:150



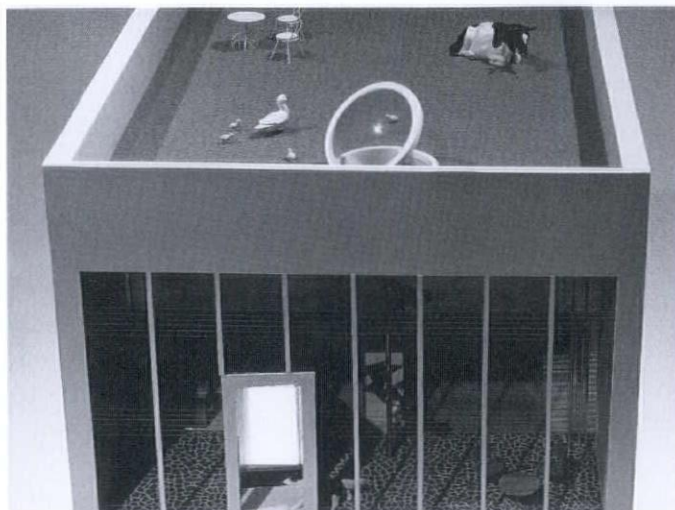
1.5階平面図



2階平面図



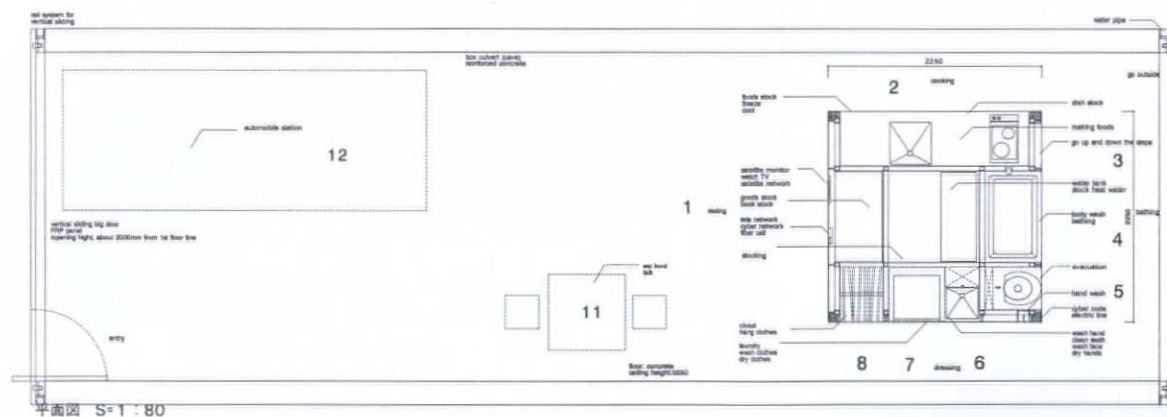
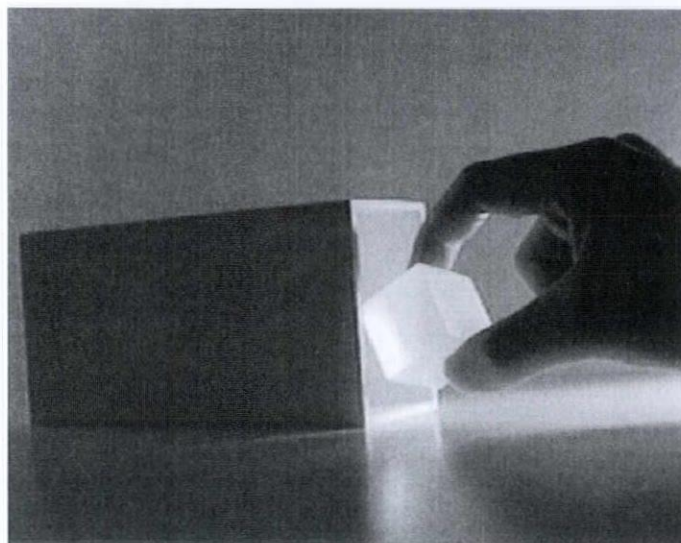
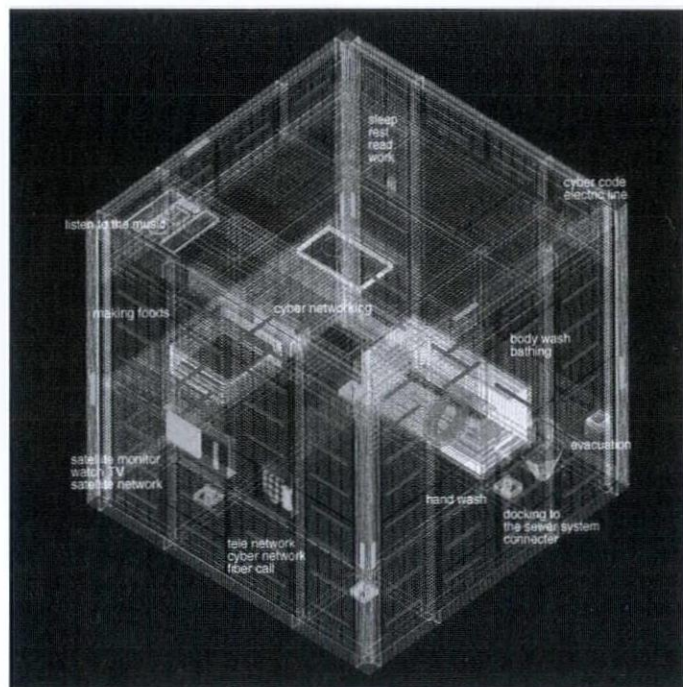
配置図



佐藤光彦 Mitsuhiro Sato
 1962年 神奈川県生まれ
 1986年 日本大学理工学部建築学科卒業
 1986-92年 伊東豊雄建築設計事務所
 1993年 佐藤光彦建築設計事務所設立

横溝真 Makoto Yokomizo
 1962年 神奈川県生まれ
 1984年 東京芸術大学建築科卒業
 1986年 東京芸術大学建築科大学院修了
 1986-89年 同大学建築科非常勤助手
 1988年- 伊東豊雄建築設計事務所
 1994年 デジタルPBXとして「欲望の砂漠」展に参加

PILOT HOUSE#01



- 1: 寛ぐ
- 2: 料理
- 3: 昇降
- 4: 入浴
- 5: 排泄
- 6: 手洗い
- 7: 洗濯
- 8: 更衣
- 9: 働く
- 10: 就寝
- 11: 食事
- 12: 駐車

PILOT HOUSE#01は居住という概念を明確に表現する思索行為である。これからの建築は極端な必要性に迫られたものでなくてはならない。究極的には、生理的行為を支えるための設備、デジタル化された社会への通信システムとの対応を兼ね備えた超高密度集積物体であるサイバーキューブを、敷地のあらゆる条件から導き出された最大限の空間に組み込むだけで良い。それは既存の建設行為における複合的に構造化された環境を必要とせず、

設備に伴う時間的ずれが無いために、より先進的かつ実験的住宅／パイロットハウスなものとなり得る。サイバーキューブを、車やコンポを選ぶように自由に選択、供給、流通させ、経済性のもとに建築が独占していたものを他分野に解放する。これは住宅に限らず、建築の生産システムを場所と機能に分解することで、既存のビルディングタイプに対してひとつの変革を与えようとするものである。

用途：住宅

所在地：広島市西区

主体構造：キューブ スチールフレーム+アルミ・
ボディ・コンポーネントボックスカルパ
ート、鉄筋コンクリート造

主要仕上材：コンクリート、FRP、アルミ

敷地面積：55m²

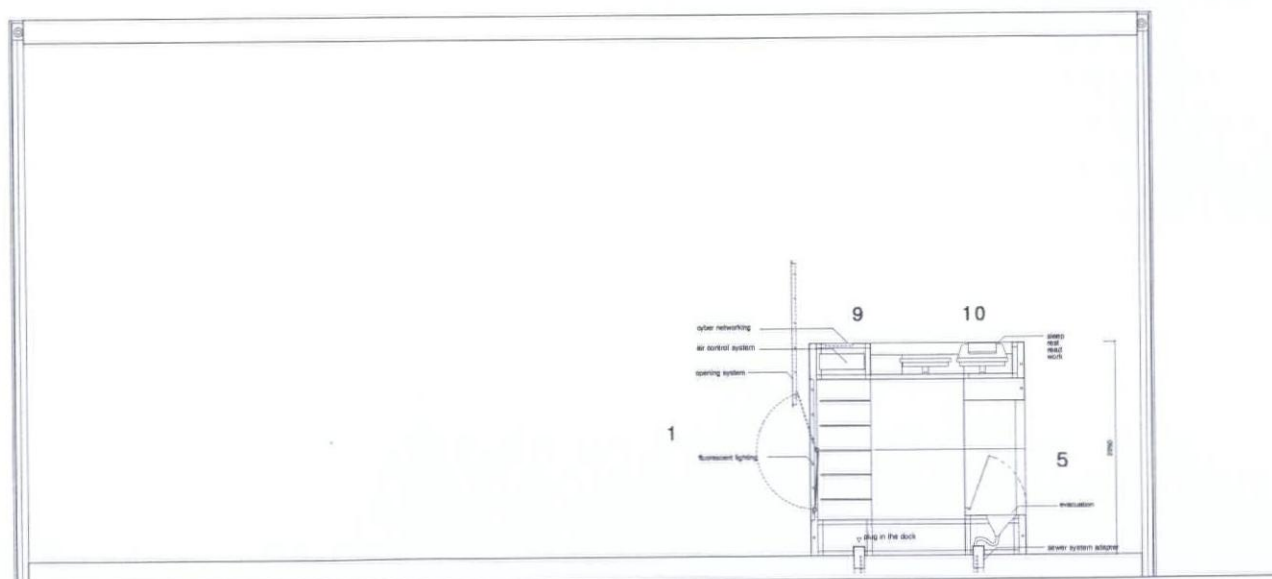
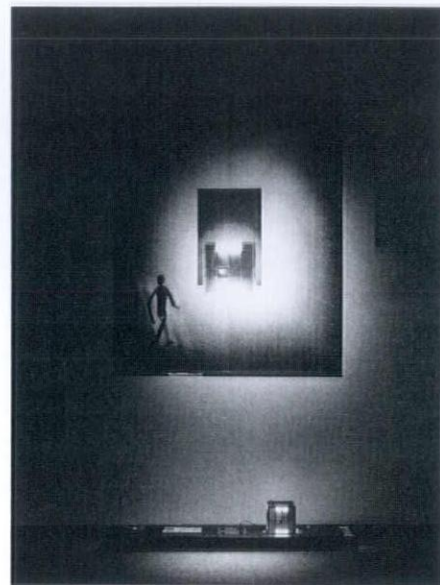
建築面積：48m²

述床面積：48m²

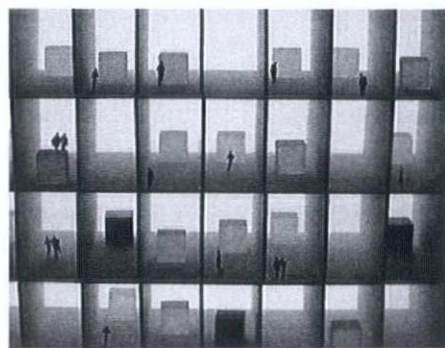
工事予定期間：1997年1月1日～1997年1月31日



配置図 S=1:10000



断面図 S=1:80



サイバークューブは、内部機能を変化させることにより、集合住宅やオフィスなど、あらゆるビルディング・タイプに応用可能なシステムとして考えられた。

三分一博志 Hiroshi Sanbuichi

1968年 広島市生まれ

1992年 東京理科大学理工学部建築学科卒業

1992年- 小川晋一アトリエ

西尾通哲 Michiaki Nishio

1969年 広島市生まれ

1992年 広島工業大学工学部建築学科卒業

1996年 広島大学大学院工学研究科博士課程在籍

塚田哲也 Tetsuya Tsukada

1968年 広島市生まれ

1989年 日本デザイナー学院卒業

1989年- 小川晋一アトリエ

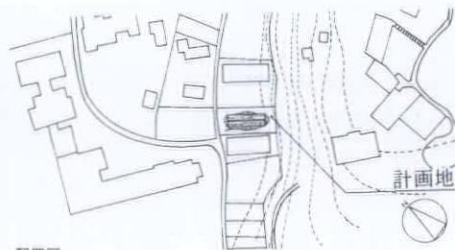
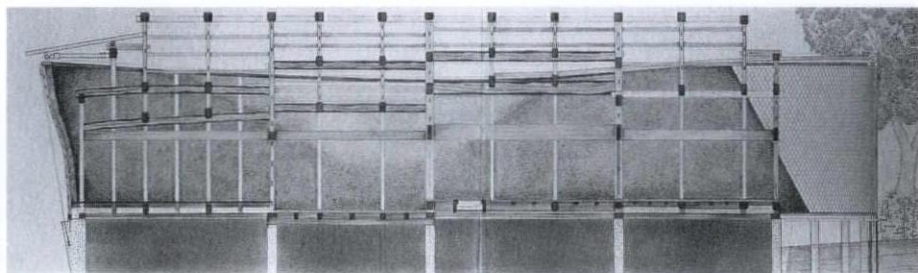
土井一秀 Kazuhide Doi

1972年 広島市生まれ

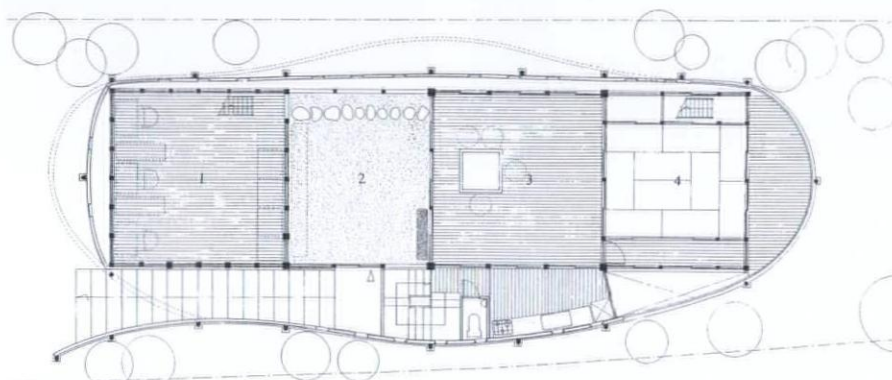
1995年 広島大学工学部建築学科卒業

1996年 広島大学大学院工学研究科博士課程在籍

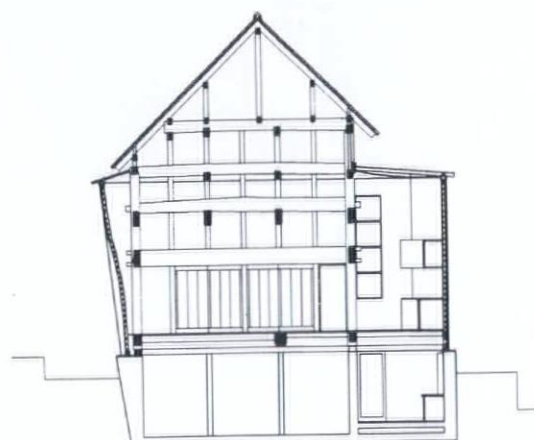
土の自由被膜



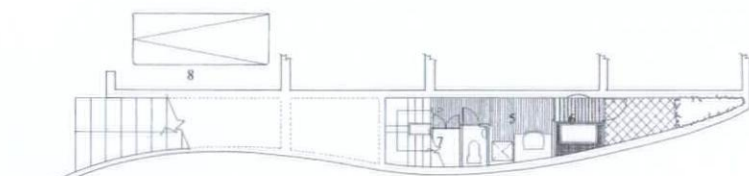
配置図



1階平面図 S=1:250



断面図 S=1:200



地下平面図 S=1:250

- 1:板の間
- 2:土間
- 3:いろりの間
- 4:座敷
- 5:洗面所
- 6:風呂
- 7:物置
- 8:車庫

プロローグ

1995年、解体処分寸前の旧坂本邸（青森県、田子町）を譲り受けることができた建主は、移築先の鎌倉市での再築にあたり、現在では得難い程の強度と美しさを持った骨組みを次の世代に引き継ぐことを前提とした計画を希望した。

そこで構造的な主フレーム（移築構造体）に対しての負荷を最小限に抑えた新たな外壁の実現に向けて検討を始めた。

コンセプト

各世代におけるライフスタイルと周辺環境の

変化への対応を可能とするために外壁を骨組みから解放させる。

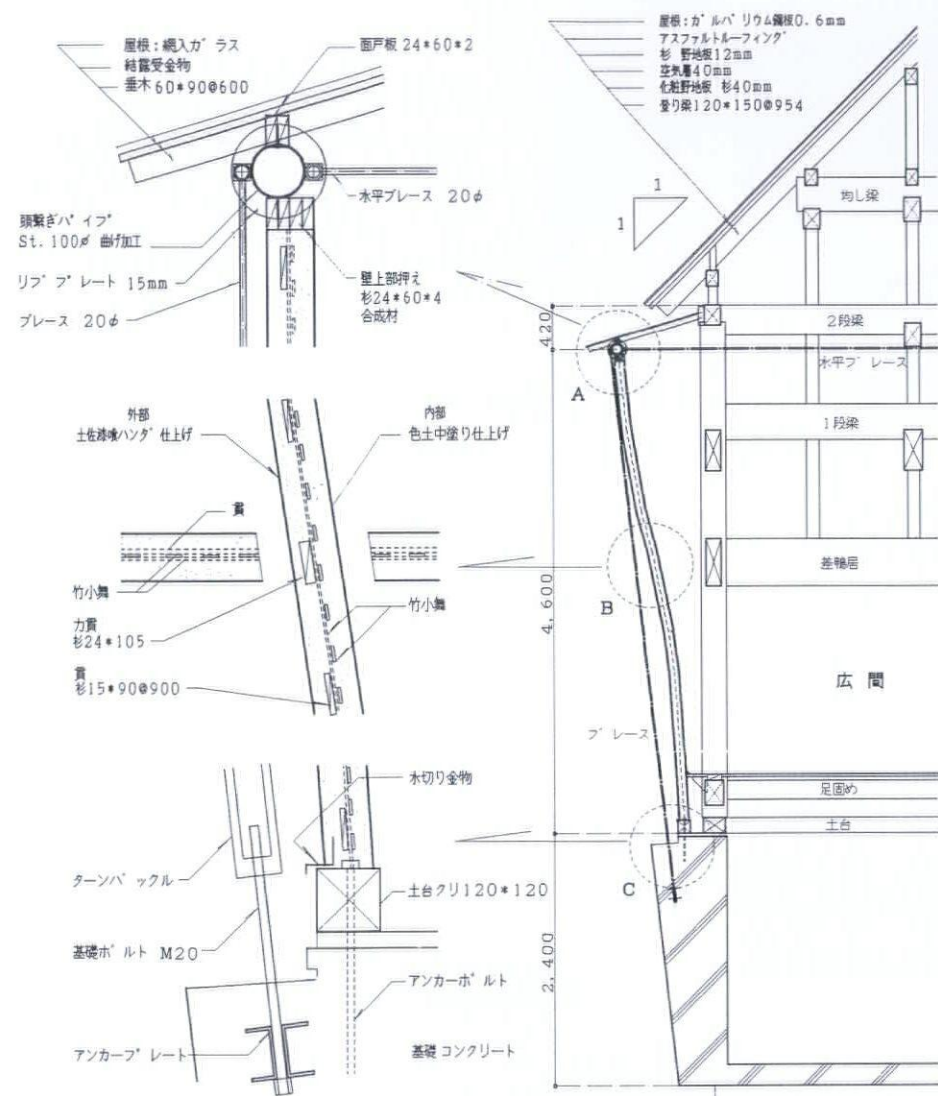
軸組から解放された外壁は自由な形態と仕上げを可能とし、容易な維持管理を実現させる。

メソッド

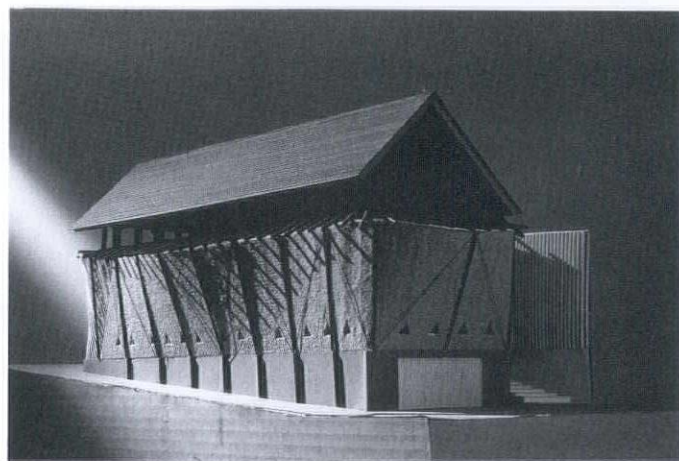
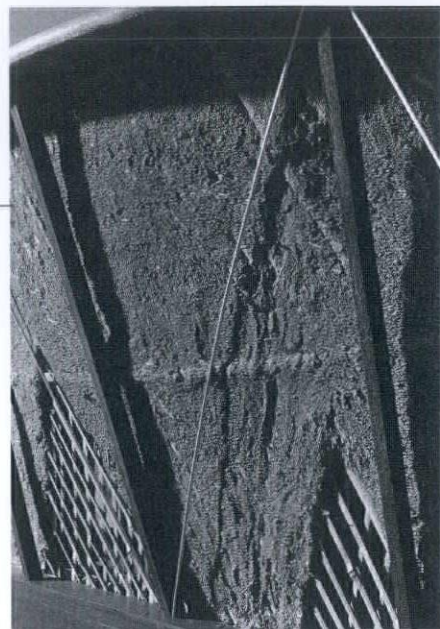
構造的に強靱な外壁とするために竹ファイバーによる菱目張り立体構造で周囲を包み、上部を輪でつなぐ。

皮膜は竹ファイバーの構造体を土で覆い、ブレース補強することで構造的に主フレームに依存することなく自立する。

共同設計者名：池田亮介、手島伊知郎、芳井浩
協力者名：藤村真咲
用途：住宅
所在地：神奈川県鎌倉市腰越
主体構造：木造
主要仕上材：木、土、ガラス、ガルバリウム鋼板
敷地面積：421.8m²
建築面積：159.23m²
延床面積：185.86m²
工事予定期間：1996年10月～1998年4月

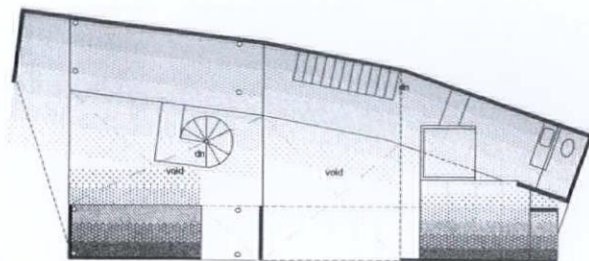
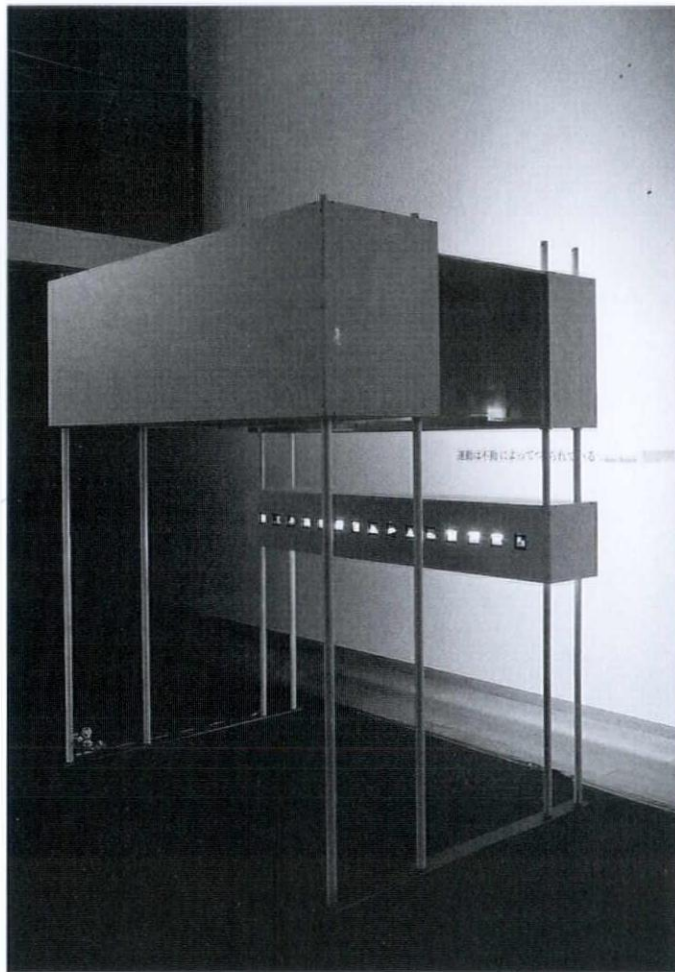


自立壁断面詳細図

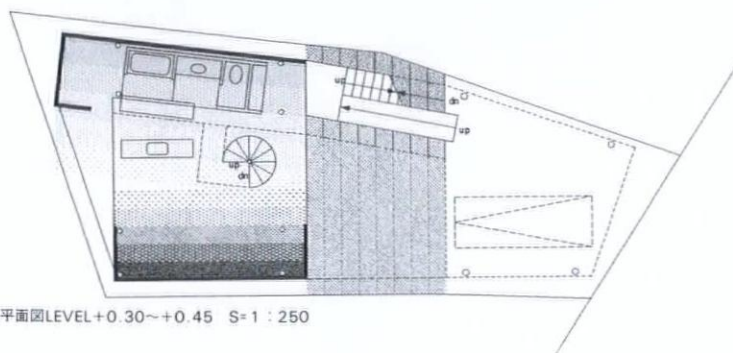


高橋昌巳 Masami Takahashi
 1954年 東京都生まれ
 1976年 芝浦工業大学建築学科卒業
 1976-87年 馬場一級建築士事務所
 1987年 シティ環境建築設計設立
 現在に至る

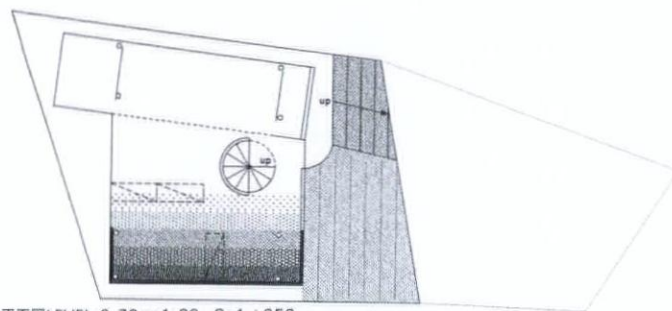
KANTAN HOUSE



平面図LEVEL+2.10~+3.90 S=1:250



平面図LEVEL+0.30~+0.45 S=1:250



平面図LEVEL-2.70~-1.80 S=1:250

我々は「弱い」建築」という認識から出発しようと思う。

時間の流れに抗う持続性、環境の操作を可能にする外部と内部の断絶、機能による空間分割。建築には様々なレベルの「強度」が要求されてきた。これらは、関係性の切断によって実現される硬い分節であった。しかし、時間的・空間的に固定された「強い」枠組みは、人間の行為や環境の変動によって常に裏切られ、容易に抑圧へと転化し得る。元来曖昧で奔放な人間の行為を包み込み、周囲の環境と呼応する建築、それは「弱い」ものではないだろうか。ここでいう「弱い」状態とは、自身の存在を後退させることで、豊潤な関係性を招き入れるような在り方を指している。

我々はそのような「弱い」建築の可能性を探ることにした。

この住宅は、敷地が都市計画公園内にあり、15年後には公園の拡張のために解体されることが約束されている。そのため、解体が容易なように階数、構造等に厳しい制限が課せられている。しかし、それは特殊な敷地条件というより、「弱い」建築を顕在化させる契機に過ぎない。

「弱い」建築に向けて、「行為、あるいは環境を切り分けてきた建築」は切り分けられ、弛緩した状態で宙吊りになっている。建築の枠組みを切開し、認知と行為の慣習的結び付きを解き放つために。そこに新たな関係性を招喚するために。

共同設計者名：沢藤四男/アスコラル構造研究所(構造)

協力者名：山下裕子、上本秀品、畑真吾

用途：専用住宅

所在地：大阪府箕面市桜ヶ丘

主体構造：鉄骨造

主要仕上材：

外部 杉小巾板縦羽目+ガルバリウム銅板波板

屋根 ガルバリウム銅板立ハゼ葺き

建具 アルミサッシュ

床 構造用合板、カーペット、エキスパンドメタル

壁 シナベニア、クロス

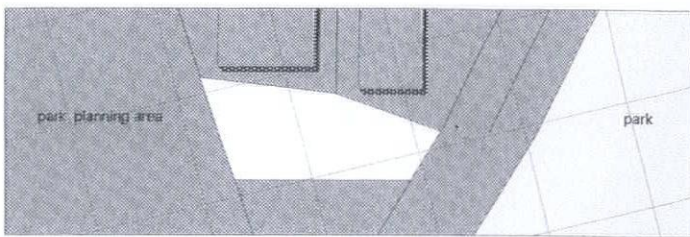
天井 ケイセル板

敷地面積：150.19m²

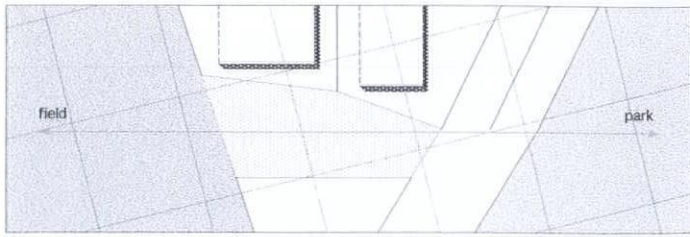
建築面積：86.50m²

延床面積：131.90m²

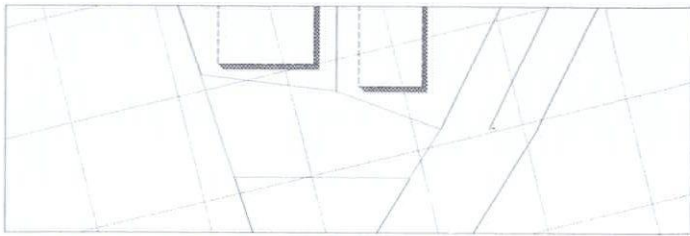
工事予定期間：1996年10月～1997年2月



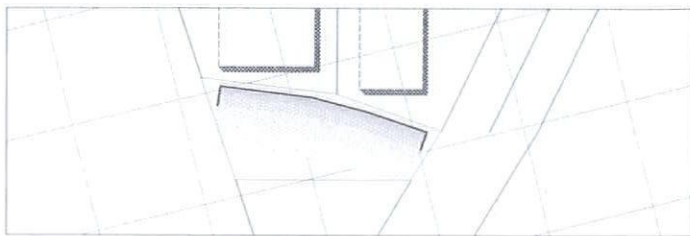
このプロジェクトの敷地は、都市計画法の計画公園内にあり2010年には公園拡張のため解体撤去される



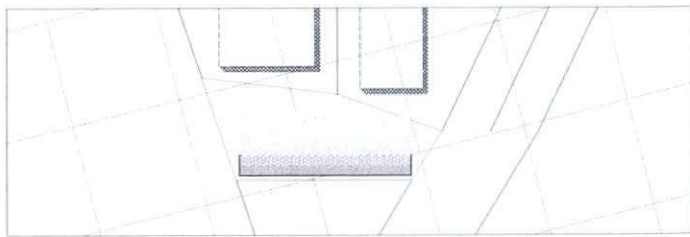
現況は、北側にはすでに公園があり南側には野原が広がっている



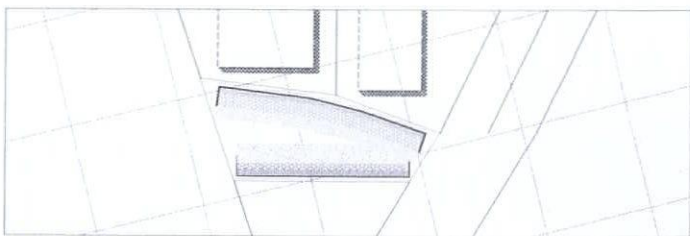
公園と野原の環境を相互に浸透させるような柔らかな分節を仮定する



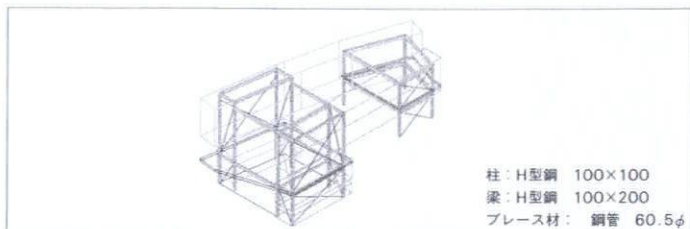
ある強度を持ったチャンネル（解体された箱）を置く



人体モジュールとはずらしながらさまざまなチャンネル（解体された箱）を置く

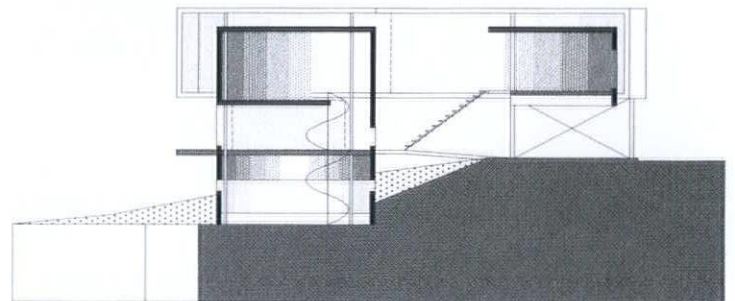
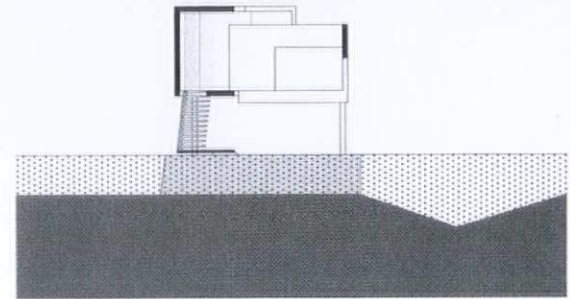
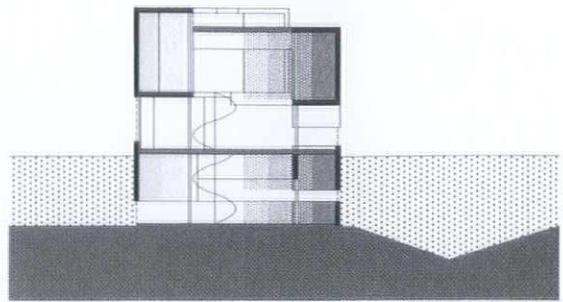


チャンネル（解体された箱）から発生する空間濃度の差異を重ね合わせ「柔らかい」分節の「弱い建築」を形成する

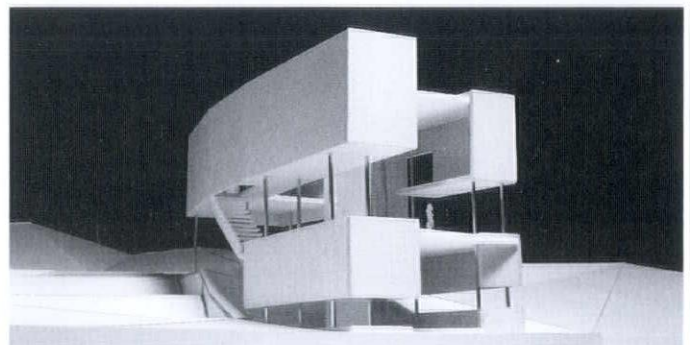


柱：H型鋼 100×100
梁：H型鋼 100×200
ブレース材：鋼管 60.5φ

構造はピン接合構造を採用し、ブレースや柱の配置により各部材を出来るだけ「弱い」ものにしていく



断面図 S=1:300



長田直之 Naoyuki Nagata

1968年 名古屋市生まれ

1990年 福井大学工学部建築学科卒業

1990-94年 安藤忠雄建築研究所

1994年 I.C.U.-Osaka設立

筏真司 Shinji Ikada

1967年 富山県生まれ

1990年 福井大学工学部建築学科卒業

1990-94年 妹尾正治建築事務所

1994年 I.C.U.-Tokyo設立

清水裕二 Yuhji Shimizu

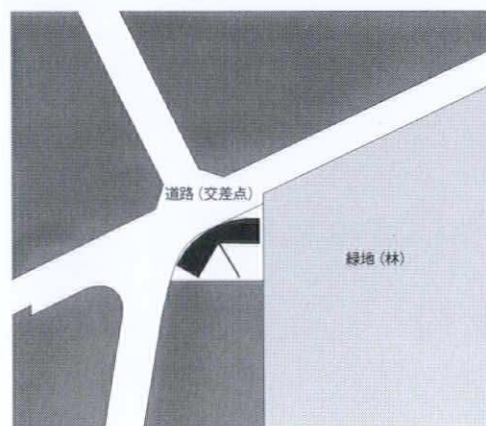
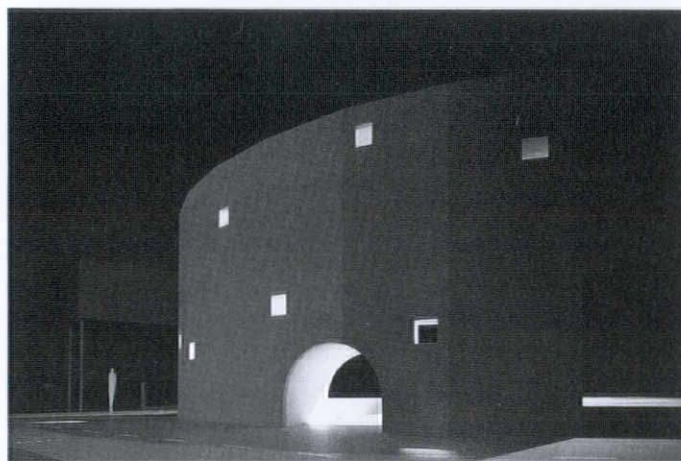
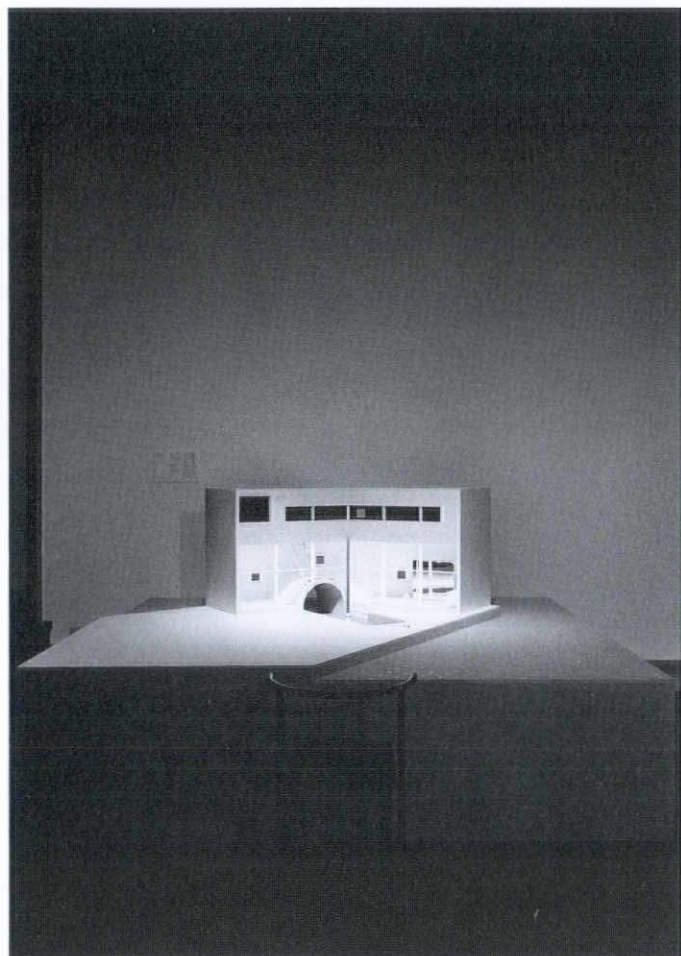
1966年 新潟市生まれ

1990年 東京大学工学部建築学科卒業

1992年 同大学院修士課程修了

1995年 同大学院博士課程単位取得退学

1995年 千葉大学工学部建築学科助手



配置図 S=1:1200

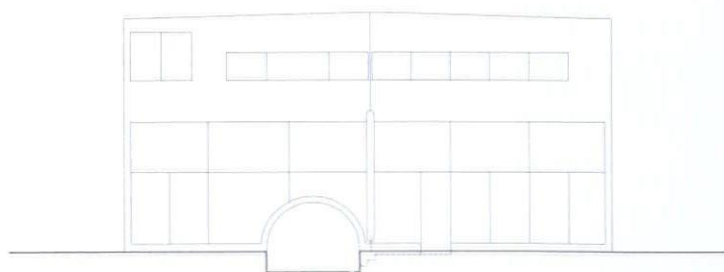
敷地は、北・西側で住宅街の交差点に面し、東側で緑地（林）に面している。交差点の道路面積よりも小さな敷地であるが、他方で東側の緑地面積はさらに広大でもあり、建物の配置計画次第で、周囲から受ける影響が大きく異なる敷地環境となっている。ここでは、まず第一に建物の配置によって、敷地内の居住環境の性格を特定しようとしている。

東側の緑地へ向けてオープンな配置としながら、南側隣家との距離も確保するため、建物を北西道路側に極力よせている。この配置によって庭およびそれと連続した室内のプライバシーを確保する一方で、交通量の増加が予想される北西交差点から居住環境を分離している。また、建物に小さなトンネル状のア

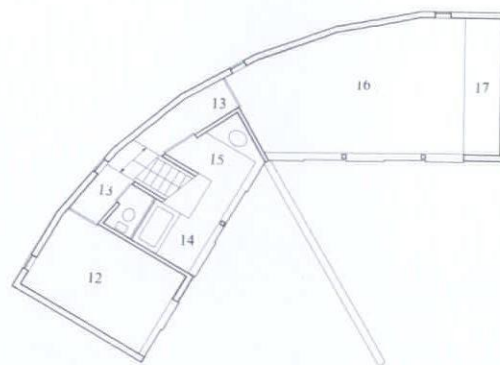
プローチを設けて庭側へ駐車スペースを切り込ませて、駐車スペースの確保と建物の配置計画とを両立させている。

室内では1階を共用のスペースとし、2階に私用諸室を集めている。1階は気積の大きなワンルームとし、南・東側の全面サッシュによって庭園に開放されたスペースとしている。主体構造は在来木造としたが、局所的な解法として、屋外駐車場付近から建物へ向けて鉄骨のフライング・バットレスをとばして横力を負担させ、1階室内に耐力壁を設けずに、LDKからオーディオルームにわたる全長15mの開放的なスペースを実現している。

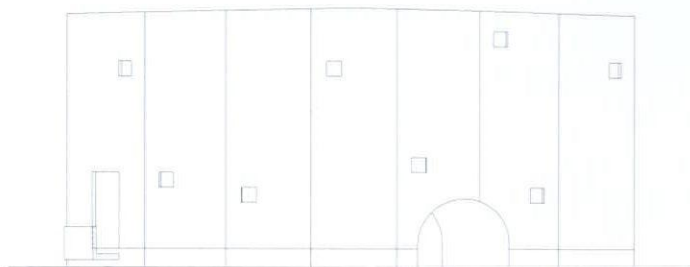
共同設計者：伊藤構造計画工房（構造）
協力者名：イノウエ・インダストリーズ（模型）
用途：専用住宅
所在地：立川市砂川町
主体構造：在来木造（フライング・バットレスのみ鉄骨材）
主要仕上材：
外部 屋根：防水シート貼
外壁：杉板横羽目貼、一部モルタル
床：土間コンクリート金ゴテ、カラークリート
内部 床 リノリウム貼り
壁 プラスターボード、AEP
天井 プラスターボード、AEP
敷地面積：121.2m²（36.6坪）
建築面積：48.02m²（14.52坪）
延床面積：95.77m²（28.97坪）
工事予定期間：1996年8月～12月



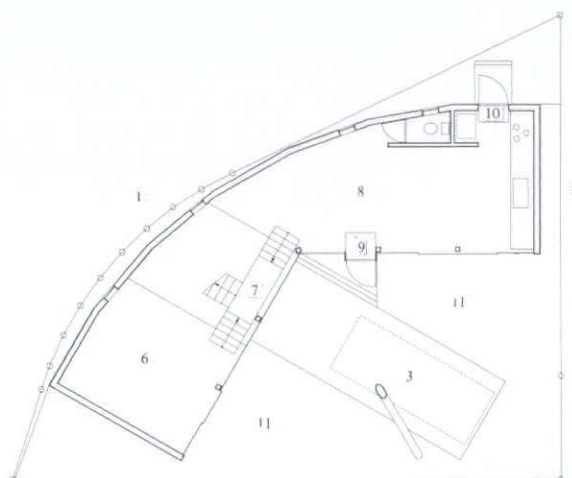
北立面図



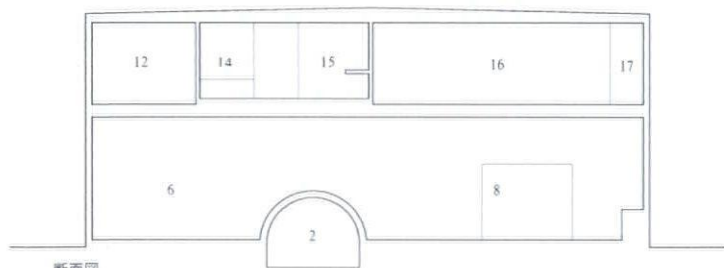
2階平面図



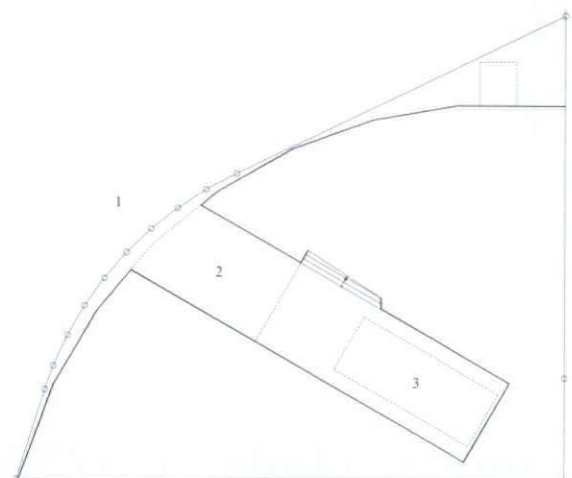
南立面展開図 S=1:200



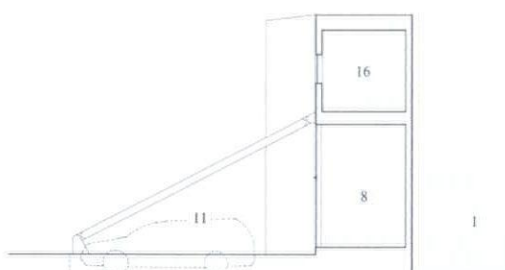
1階平面図



断面図



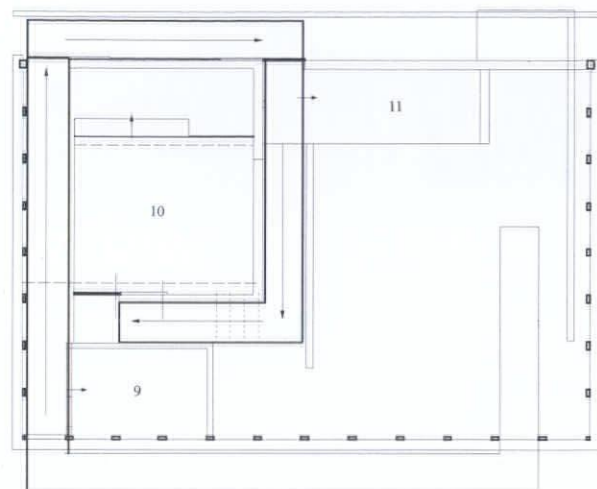
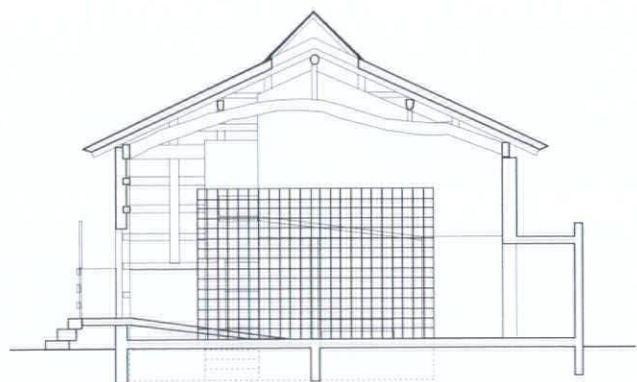
道路レベル平面図 S=1:200



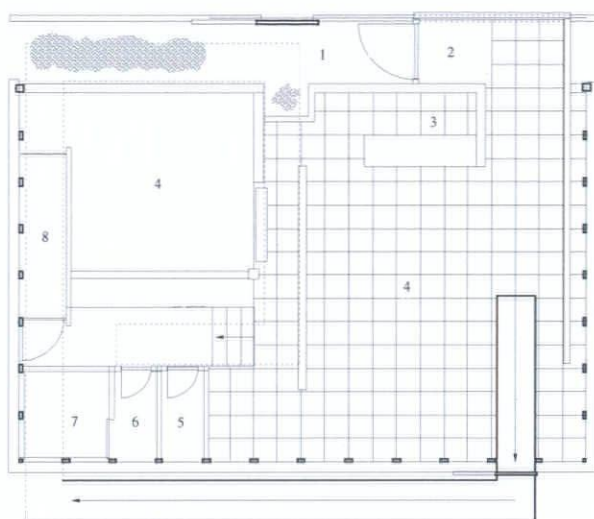
断面図 S=1:200

- 1:道路
- 2:アプローチ
- 3:駐車場
- 4:隣地
- 5:緑地
- 6:オーディオルーム
- 7:踊場
- 8:LDK
- 9:玄関
- 10:勝手口
- 11:庭
- 12:主寝室
- 13:廊下
- 14:浴室
- 15:洗面室
- 16:子供室
- 17:収納

西沢大良 Taira Nishizawa
 1964年 東京都生まれ
 1987年 東京工業大学卒業
 1987-93年 入江経一建設事務所勤務
 1993年- 西沢大良建築設計事務所



2階平面図



1階平面図 S=1:150

断面図 S=1:150

阪神大震災で建物は一瞬にして倒壊したが、依然として徐々に建物を消滅にいたらしめている。

ここには150年前に建てられた蔵の外構が残っている。道路側の壁は全くなく鉄骨で補強されている。

家主から相談を受けた。「この前の地震で壊れてしても早く壊さんとあかん」

この前の地震というから阪神大震災のことと思えば福井震災のことであった。50年も前の話である。しかし、今になって言い出したのは阪神大震災の影響である。補修することでまだ十分に生きつづけられる建物を恐怖から消滅させてしまう。こういった現状は地方には少なからず起こっている。

家における段階を概念的に3つに分けて定義

してみる。

第1段階：風雨から身を守るための大枠として

第2段階：個々の機能としての空間の構成

第3段階：生活者が「住む」行為において自らの歴史を刻み込む

それぞれの段階は他の段階と深く密接に関わる。この住居の第1段階は150年前に修了している。今回は第1段階の補修と第2段階の設計である。

これは家主の息子夫婦のための住居である。第1段階から第2段階に至るまでの150年の時間を感じ得ること。第3段階で住居として生き続けるとき、新たに生み出される記憶が、住居にそして人の心に刻み込まれること。このふたつを考えた。

協力者名：石田政彦、小野喜規

用途：専用住宅

所在地：福井県坂井郡三国町

主体構造：RC(改築)、木造(既存)

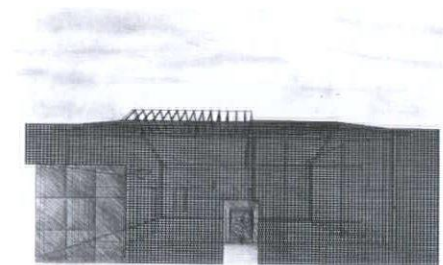
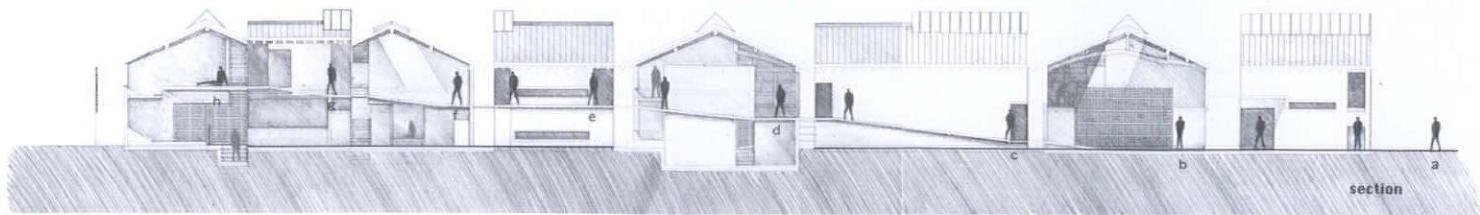
主要仕上材：RC打放

敷地面積：208m²

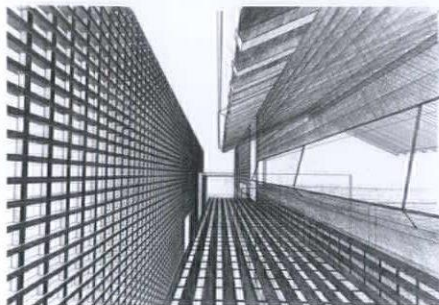
建築面積：115m²

延床面積：174m²

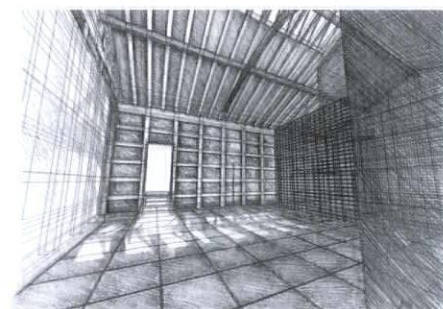
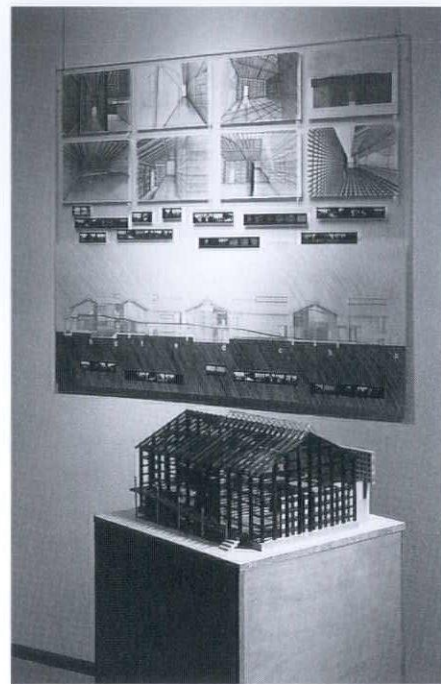
工事予定期間：1998年4月



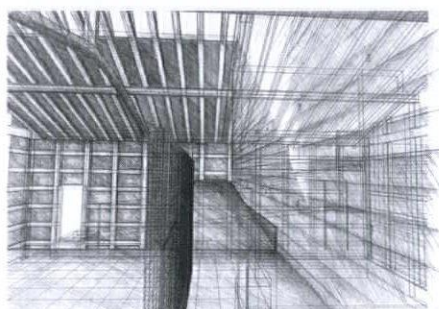
a



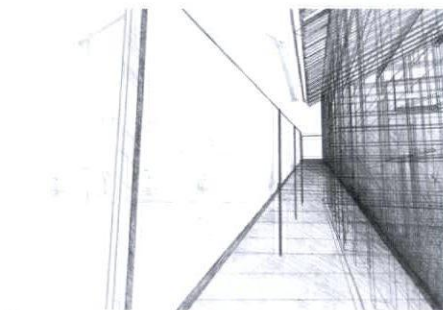
e



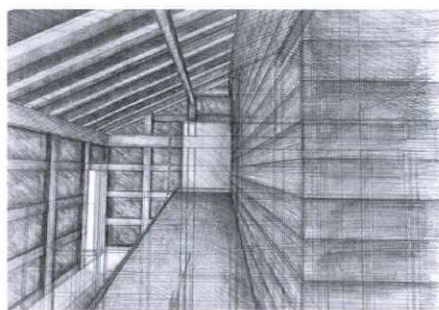
b



f



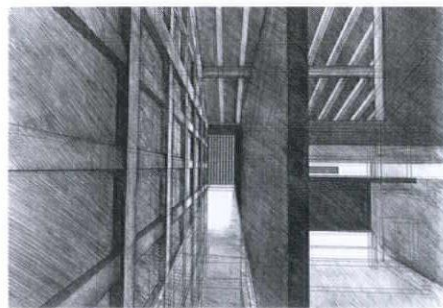
c



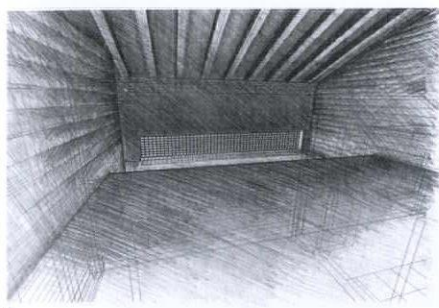
g



配置図 S=1: 1200



d

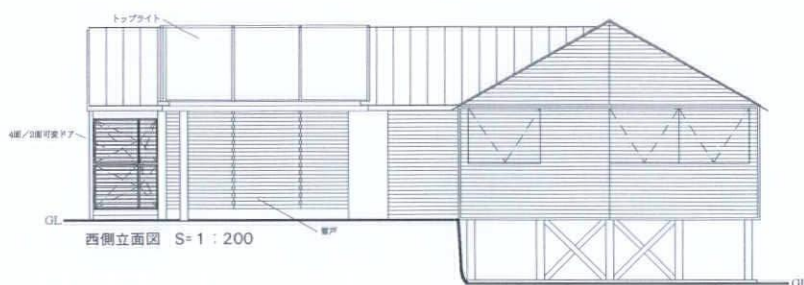
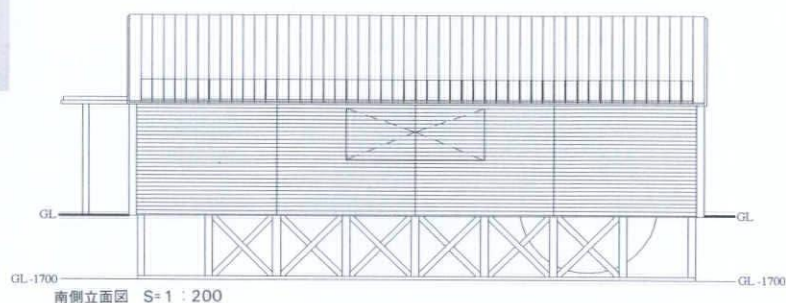
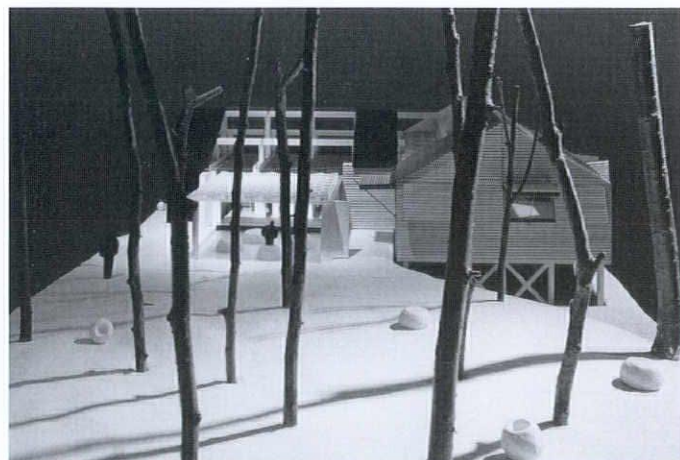


h

- 1: エントランス
- 2: 玄関
- 3: 台所
- 4: 居室
- 5: 洗面所
- 6: 便所
- 7: 風呂
- 8: 納屋
- 9: 書斎
- 10: 寝室
- 11: 花壇

宮沢透 Tohru Miyazawa
 1971年 福井県生まれ
 1995年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
 現在 早稲田大学大学院修士課程

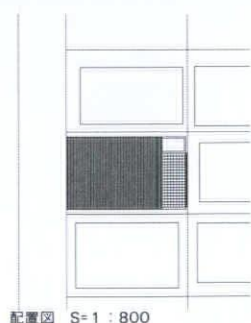
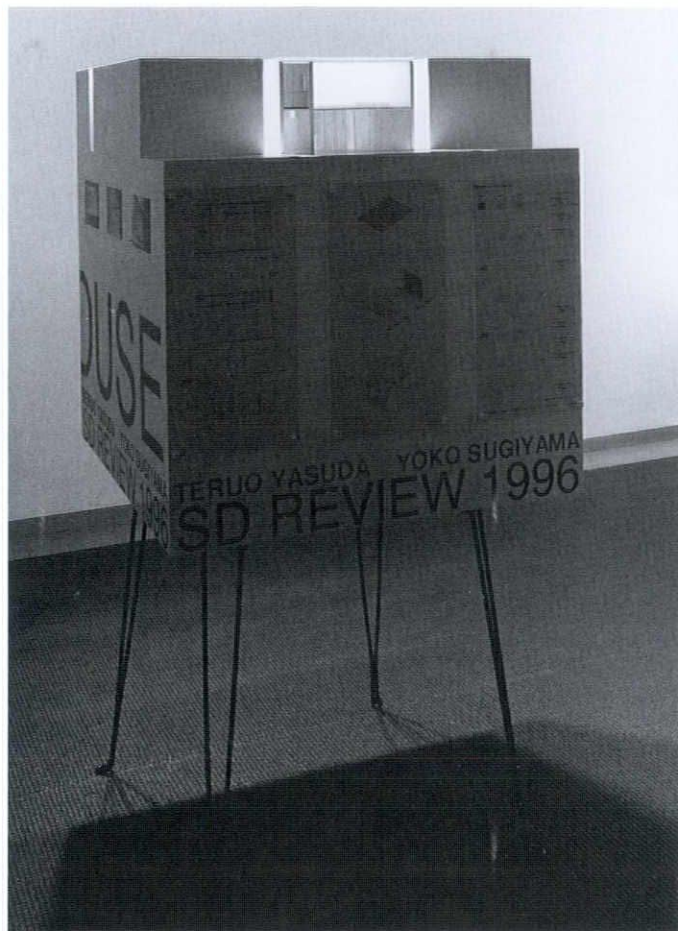
HOUSE ADDITION



北海道ニセコ町の自然美豊かな山林と農業地区の境に位置し、周辺の作物であるじゃがいもからでんぷんを作る工場として建設されたのが原型である。その後、個人の別荘に転用されていた。今では老朽化し、昨年の記録的な大雪で一部屋根が破損したことをきっかけに修復の計画が始まった。新築案も考えられたが、思い出深い空間を子供の世に残すよう、構造や壁の大部分を残し、アトリエとして使用出来るよう付加（アディション）／改造型の設計となった。既存の空間を読み換えることによって、内部空間と外部空間の関係について、どのような空間へのアディションが可能かについて試みてみた。

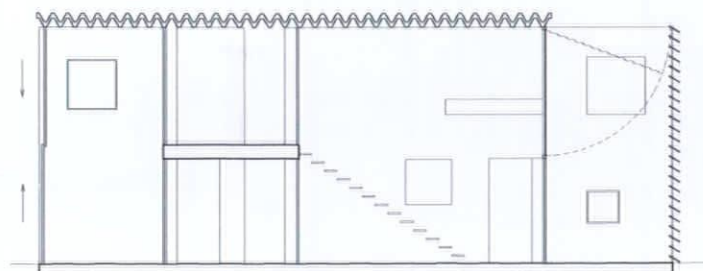
協力者名：伊藤隆一、伊藤淳子、伊藤千織（以上クライアント）、佐藤進、小篠隆生、麻里哲広、北野敦則（以上・構造等）、小倉寛征、千葉純子、奈良華織、ラサンタ・リベラ（以上予選模型）、朝野哲夫、石垣佳政、伊藤知則、中村友紀、西田武人、服部謙次、林昭光、松岡佳秀、和田裕平（以上展示模型）
用途：住宅（別荘、アトリエ）
所在地：北海道ニセコ町
主体構造：木造
主要仕上材：
外部 鉄、アルミ、木、カーボン、FRP、ポリカーボネイト
内部 カーボン、レンガ、木等
敷地面積：3,621m²
建築面積：181.44m²
延床面積：181.44m²
工事予定期間：1997年5月～1997年10月

Tategu House

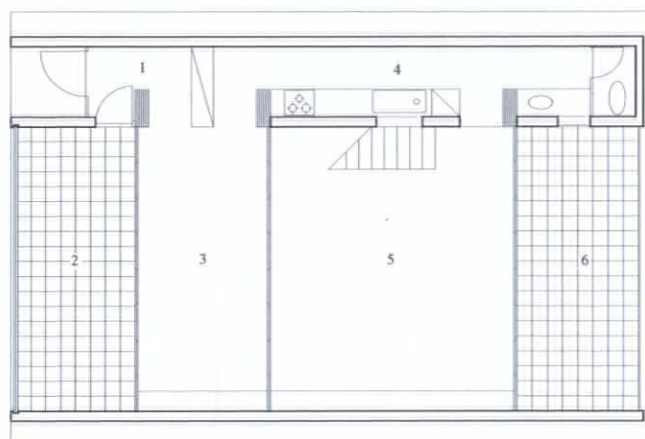


配置図 S=1:800

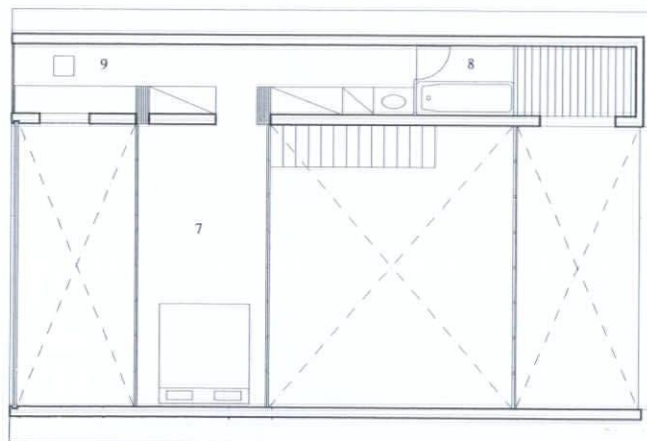
- 1:玄関
- 2:車庫
- 3:ダイニングルーム
- 4:台所
- 5:リビングルーム
- 6:テラス
- 7:寝室
- 8:風呂
- 9:書斎



東西断面図 S=1:150



2階平面図 S=1:150



1階平面図 S=1:150

敷地は、京都盆地のはずれにあり、周辺は低層の住宅密集地である。計画は夫婦ふたりのための住宅で、住宅としては最小限の機能だけが要求された。限られた敷地の中でリビングスペースの広さと、フレキシビリティを確保し、住宅密集地であるがゆえにおこる日照・通風・プライバシーの問題を解決することが、設計の留意点となった。

住宅の最低限の機能として設備スペースを北側にまとめて配置することによって、道路

と垂直方向に風の抜けるヴォイドを確保し、リビングスペースとした。

リビングスペースは建具というフレキシブルな壁によって道路（public）から住宅内部（private）へ徐々にヒエラルギーの変化する4つのゾーンに分けられる。

建具を変化させることによって、これらの空間は分節、結合し、自然環境や使い方の様々な変化に対応することができる。

用途：住宅

所在地：京都府長岡京市滝ノ町

主体構造：RC造

主要仕上材：コンクリート打放し、ガルバウム鋼板

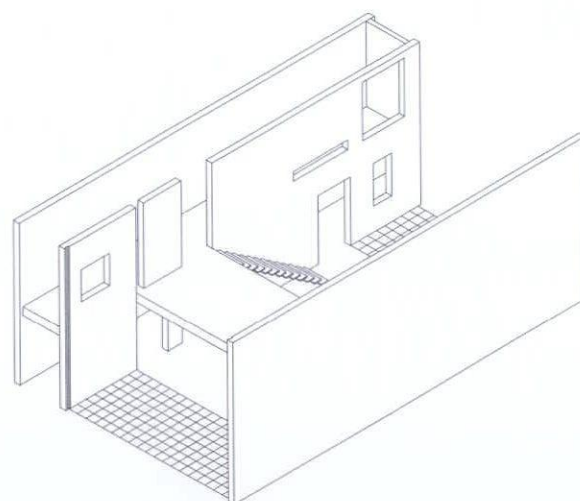
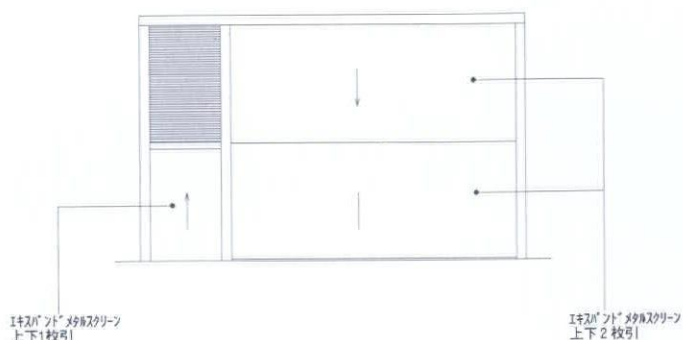
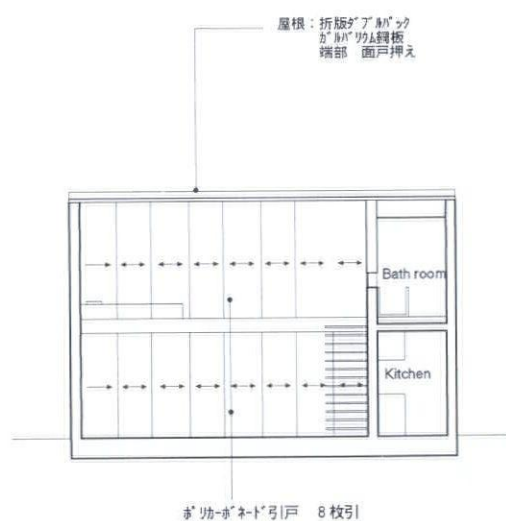
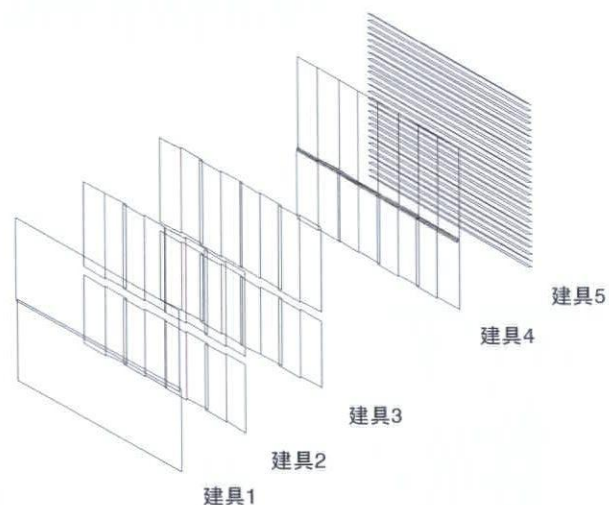
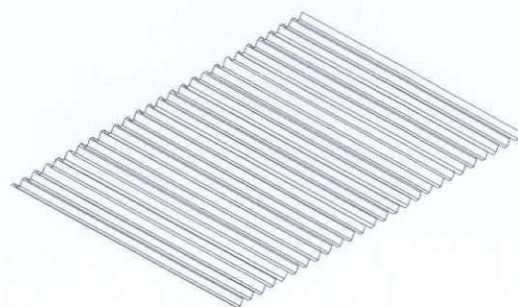
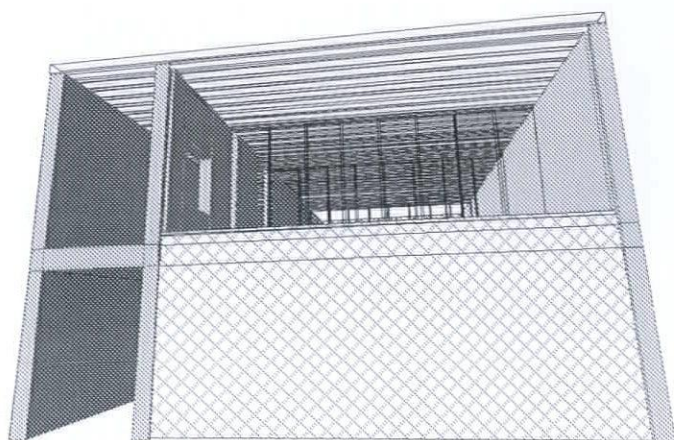
敷地面積：111.38m²

建築面積：73.76m²

延床面積：94.53m²

工事予定期間：1998年8月～1998年12月

- 建具1：バンディングメタルスクリーン上下2枚引。2枚が重なったとき、視線を遮るようにバンディングの穴が互い違いになっている。
- 建具2：ガラス入引戸8枚引。断熱、遮音アルミサッシ
- 建具3：ポリカーボネート引戸8枚引。上層は複層ツインカーボ。下層は乳白ポリカ
- 建具4：ガラス入回転窓+ガラス入引戸上部回転窓はオペレーター付。下部は断熱、遮音アルミサッシ
- 建具5：木製固定ルーバー。米ヒバ防腐剤加圧注入。視線は遮るが風は通す



アクソメ図

安田光男 Teruo Yasuda
1970年 京都府生まれ
1994年 東京大学卒業
1994年- 伊東豊雄建築設計事務所

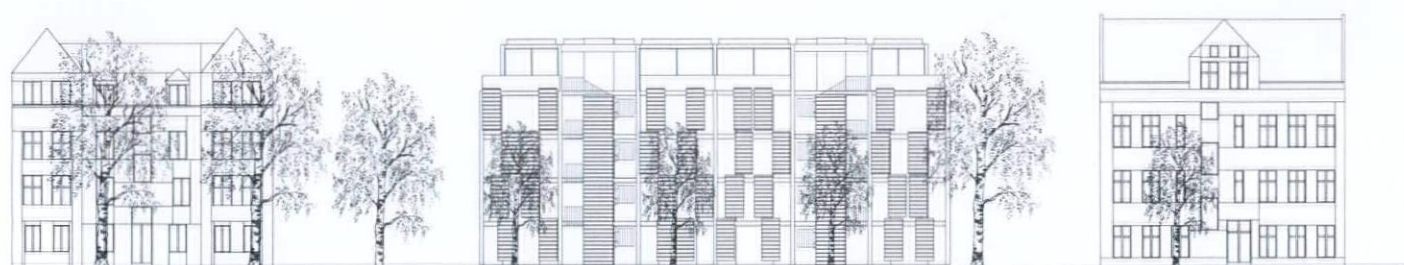
杉山陽子 Yoko Sugiyama
1971年 長崎県生まれ
1994年 東京大学卒業
1994年- 日本設計

■ユストス・ピザール+ペーター・ルーゲ (鹿島賞)

Haus Sonne



南側立面図



北側立面図



配置図

「ハウス・ゾンネ」は、全く新しい、簡易で、ローコストな、省エネルギーハウスである。建物の熱エネルギーは、屋根、壁、床からの、暖かい内部空気と、冷たい外部空気の交換を通して損失される。この建物の壁、スラブは、いわゆる「太陽壁」で構成されている。「太陽壁」とは、二重の断熱ブロック+現場灯コンクリートから出来たパネルで、この中には、銅パイプが張り巡らされ、冬は太陽蓄熱によって暖められた水が暖房機能を果たし、夏は、地中温度（8℃）によって冷やされた水が室温を調整する。それらは、コンピュータ・システムによって、各アパートごとに個別制御す

ることができる。また、屋根ルーバーのソーラー・システムは、給湯をつくる。ここで蓄熱されたエネルギーは、必要時に利用できるよう、地中のパイプで保存される。そして、ファサードの格子壁は、光電池ルーバーとなっていて、太陽光を調整すると同時に、電気エネルギーをつくる。まさに、「ハウス・ゾンネ」は、CO₂を全くつくりたくない、ニュートラルな建物として評価することができる。そして、この建物の屋根、壁、スラブは建物を構築する構造であり、建物の環境を潤す設備であり、また、旧東ベルリンに新しく建つ、シンボリックな意匠と成り得る。

用途：集合住宅

所在地：Schenkestasse Berlin(ドイツ)

主体構造：コンクリート壁式構造

主要仕上材：

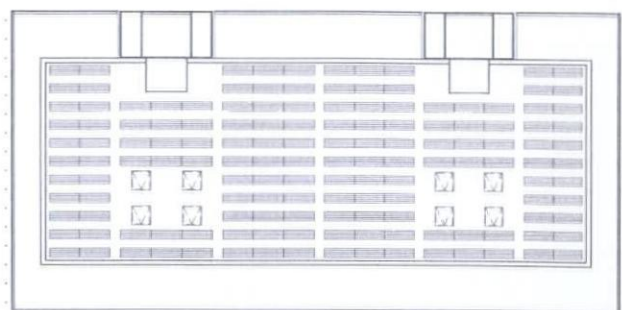
外部	屋根	コンクリート、ソーラールーバー
	外壁	太陽壁システム、光電池ルーバー
	建具	スチール
内部	床	フローリング
	壁	太陽壁システムの上プラスター塗
	天井	太陽壁システムの上プラスター塗

敷地面積：1,441m²

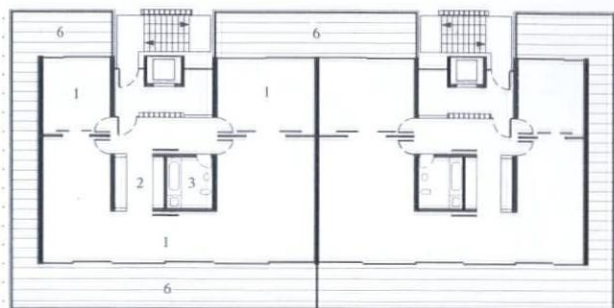
建築面積：527m²

延床面積：2,869m²

工事予定期間：1997年1月～



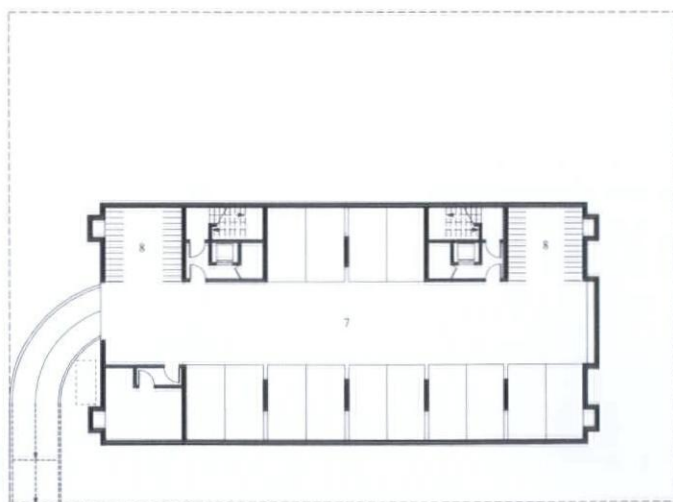
屋根伏図 S=1:400



5階平面図 S=1:400



基準階平面図 S=1:400

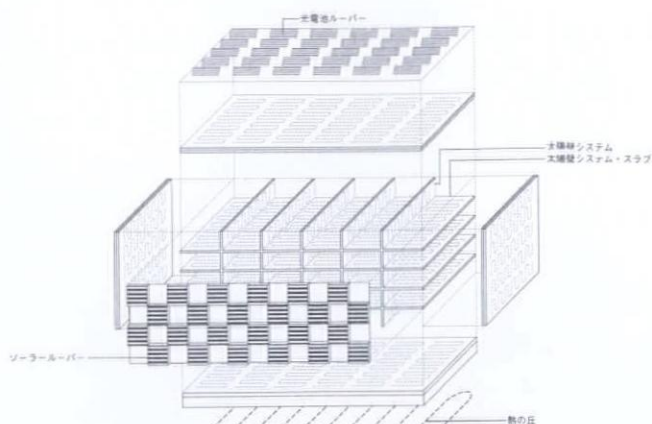


地階平面図 S=1:500

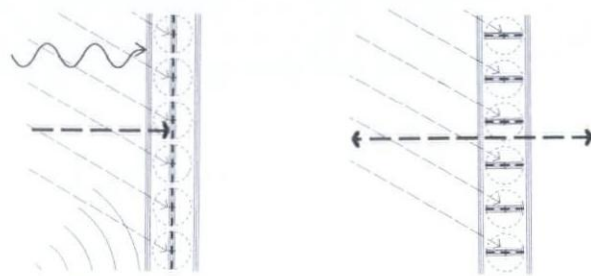
- 1:居室
- 2:キッチン
- 3:バスルーム
- 4:倉庫
- 5:ウインターガーデン
- 6:テラス
- 7:駐車場
- 8:駐輪場

ユストス・ピザール Justus Pysall
 1961年 Braunschweig(ドイツ)生まれ
 1989年 Braunschweig大学卒業
 1989年 Sir Norman Foster Associates(ロンドン)
 1990年 AAスクール講師
 1992年 Jean Nouvel Associates(パリ)
 1993年- Pysall・Ruge Architekten
 現在に至る

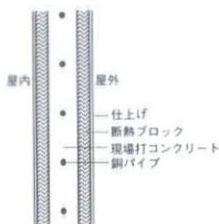
ペーター・ルーゲ Peter Ruge
 1959年 Dusseldorf(ドイツ)生まれ
 1988年 Braunschweig大学卒業
 1989年 京都大学工学部建築学科研究生
 1990年 設計事務所勤務(京都)
 1991年 大学講師(神戸、Braunschweig)
 1993年 Pysall・Ruge Architekten
 現在に至る



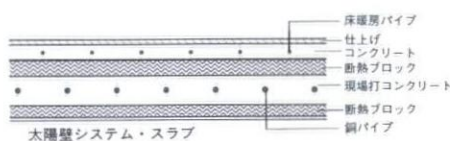
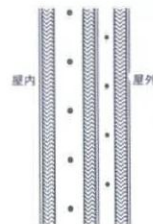
ハウス・ゾネシステム



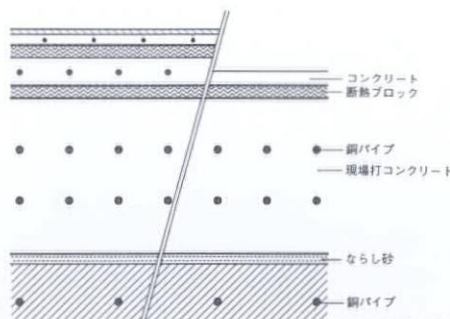
光電池ルーバー



太陽壁システム

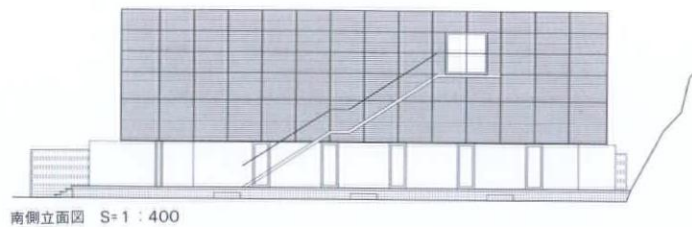


太陽壁システム・スラブ

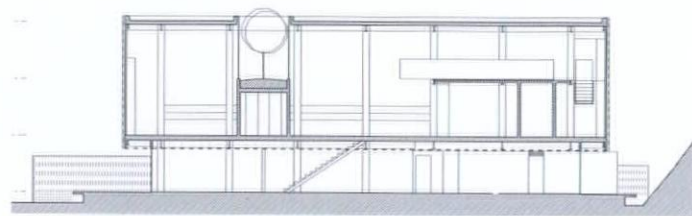


熱の丘ソーラーシステムで得たエネルギーは必要時に利用できるよう地中パイプの中で貯蔵される

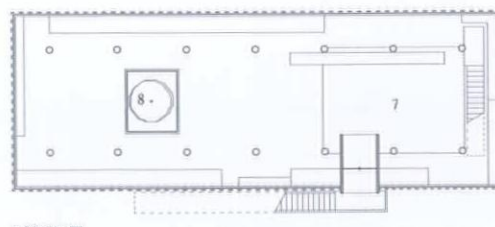
スクリーン



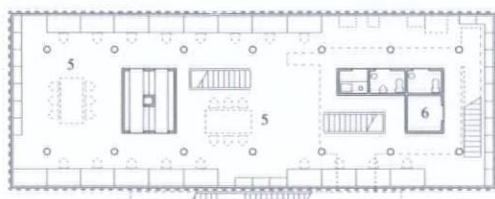
南側立面図 S=1:400



断面図 S=1:400



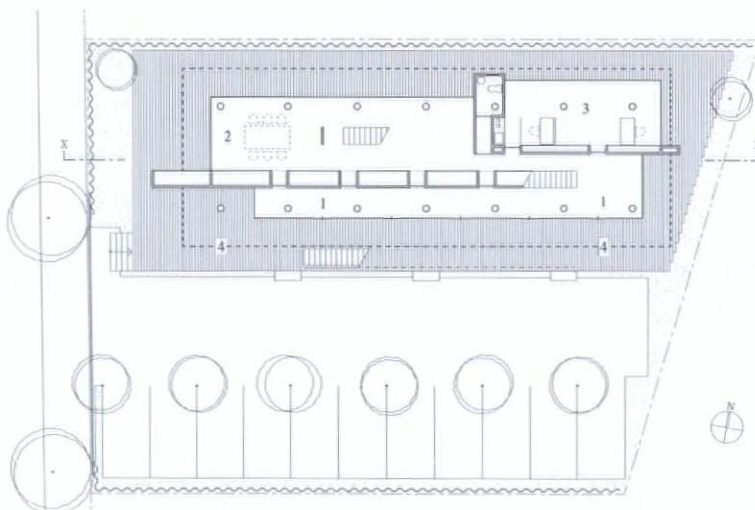
3階平面図



2階平面図 S=1:400



配置図



1階平面図 S=1:400

建築は単純に組み立てられる。建築は高度な意味を持っていない。

感性(身体)と直結するメディアの急速な発展によって、物理的な場と空間は捉えにくくなった。私たちの周囲には、既に身体に直結したリアルで親密な空間が存在している。

かつて建築家は、「スペースグリッドは、空間に秩序を与えるのではなく、空間がいかに無秩序であるかを証明するものだ」と言った。「空間を構成する要素は記号ではなく模様に近い。……空間を埋め尽くす模様は全て無用である」とも語った。

空間は、もともとささいな事件や出来事の一時的な定着に過ぎない。

高度に整理された空間構成や、新たなプログ

ラミングやシステムの展開は、モダニズムの差延に過ぎない。

漂う様な有気力な時代。

地方都市近郊という事以上に特筆すべき特徴の無い空地に、この計画は差し向けられている。

光が空間を満たし、闇が空間を支配している。漂白された空っぽの空間が、目の前に存在している。いくつもの模様が点滅を繰り返して空間を埋めている。真に迷宮的な次元を獲得したいという人間の欲望と曖昧な意識の投影、テキストの究極の在りようとして建築は漂っている。

共同設計者名: (株)不二設計(構造・設備設計)

用途: オフィス

所在地: 愛知県豊橋市西小鷹野

主体構造: 鉄骨造

主要仕上材:

床 木材、カーペット、リノリウム

壁 塗料、クロス、アルミカーテンウォール、

FRP製ルーバー

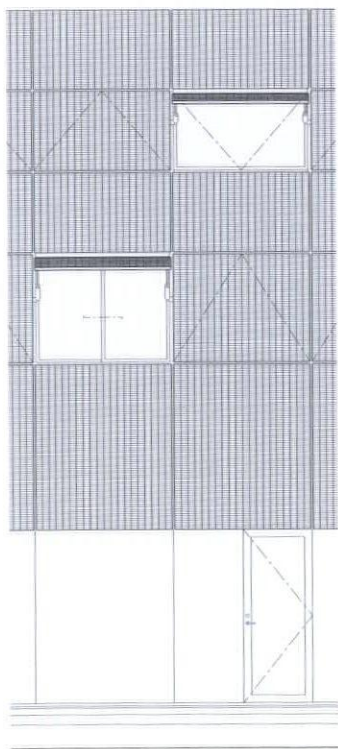
天井 塗料、アルミルーバー

敷地面積: 765.72m²

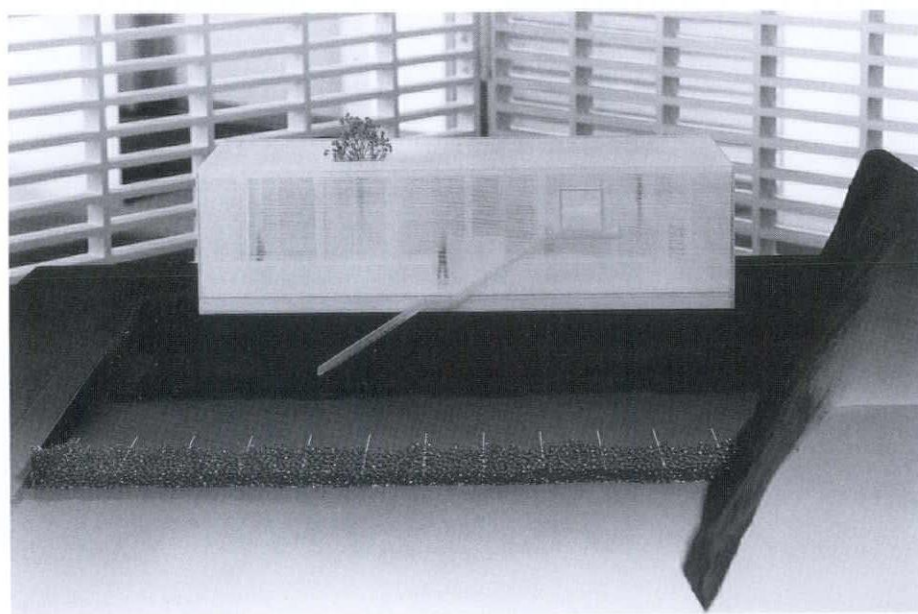
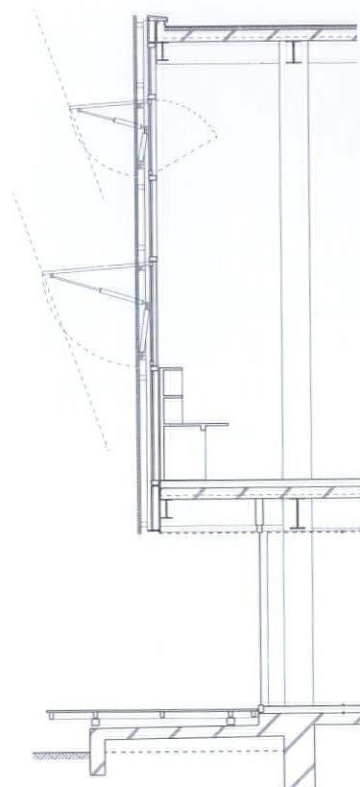
建築面積: 233.68m²

延床面積: 439.76m²

工事予定期間: 1997年1月~1997年9月



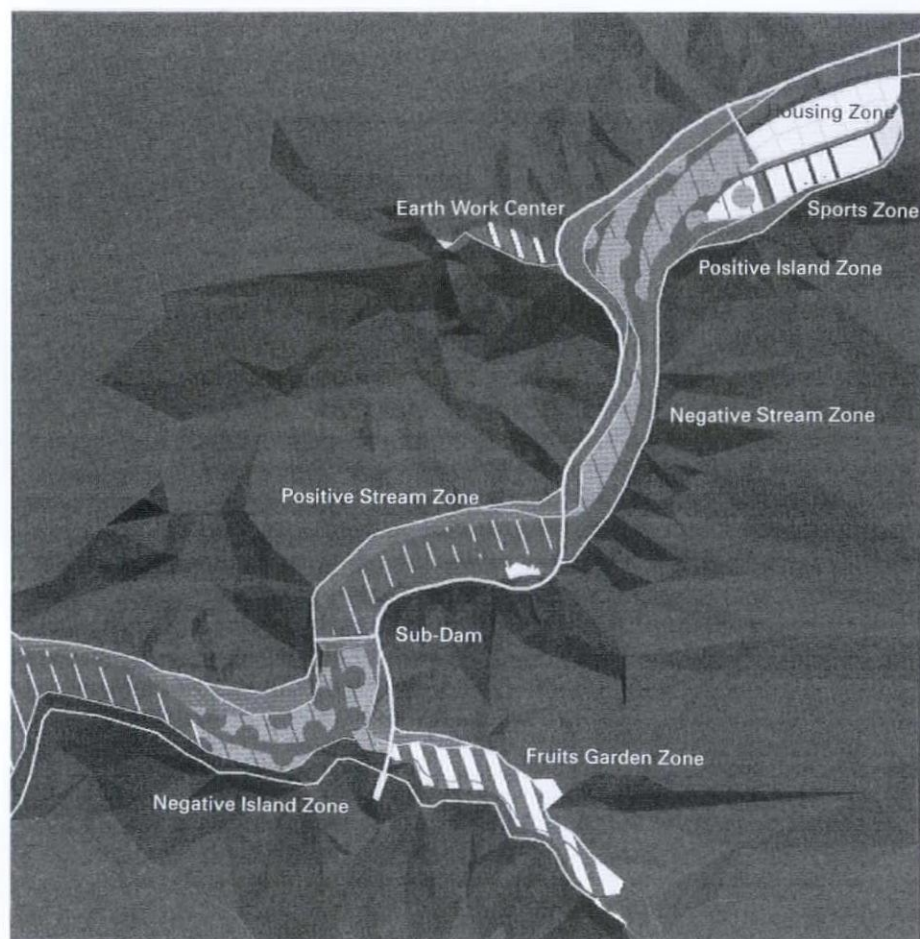
壁面詳細図



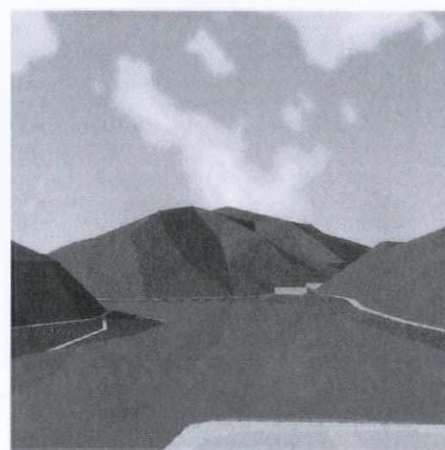
由田徹 Toru Yoshida
 1965年 石川県生まれ
 1988年 豊橋技術科学大学建設工学課程卒業
 1990年 同大学大学院修士課程修了
 1990-1995年 北川原温+ILCD
 1996年 TXT建築研究所

岡本美樹 Miki Okamoto
 1966年 徳島県生まれ
 1990年 日本女子大学家政学部住居学科卒業
 1992年 東京都立大学院修士課程修了
 1992-94年 北川原温+ILCD
 1995年- 東京都立大学大学院博士課程小林研究室
 1996年 TXT建築研究所設立

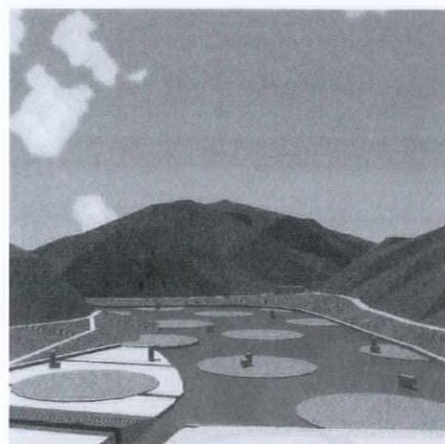
灰塚アースワークプロジェクト



配置図 S=1:45000



Positive Island Zone (Water Level 251M)



Positive Island Zone (Water Level 243M)

広島県の北東部の3町にまたがる地域に洪水調整を主目的とする灰塚ダムが計画されている。このダムエリアの未来像のひとつとして広大な河川敷の一部にアースワーク公園を作る案を提案した。

公園という形式から始まったこのプロジェクトは、現在環境芸術活動というフレキシブルな形態をもつに至っている。アースワークという言葉を出発点として、ダムエリアのそして町の未来を考え、コミュニケーションをしていくことがこのプロジェクトの第1の目的である。このいわばボトムアップな都市デザイン手法を示す言葉として「美術園」という考えを提唱している。

ここで示しているデザインはこういったア

ースワークプロジェクトの姿勢を構造的に表現したものであるといえる。水位によって地表面の表情が変化する分節化されたフィールドがつくられ、様々な提案が町の人達や作家や学者によって行われていく。環境を考えるためのインフラづくりがこのデザインの目的である。

敷地内にばらまかれている小屋は、作家たちの提案を内包した建築であったり、外部の提案を見る装置であったり、展示スペースや設備スペースであったりする。これらはリムナーブルな建築として計画される。アースワークプロジェクトは壮大な展示スペースであり、実験場であり、そして学校であるような地域づくりを目指している。

共同設計者名：岡崎乾二郎、前田道雄、小林賢司
設計協力者名：灰塚アースワークプロジェクト実行委員会

用途：アースワーク公園(環境美術園)

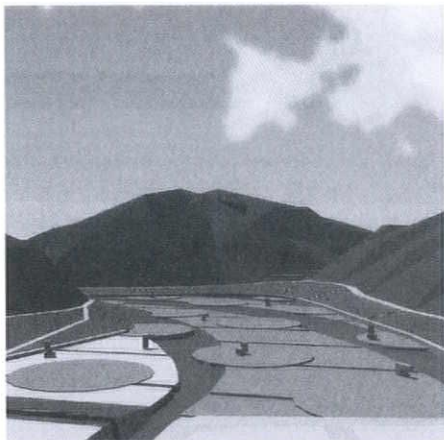
所在地：広島県甲奴郡総領町

主体構造：ブロック、石積み、木造

主要仕上材：和草種、銅板葺

敷地面積：955,000m²

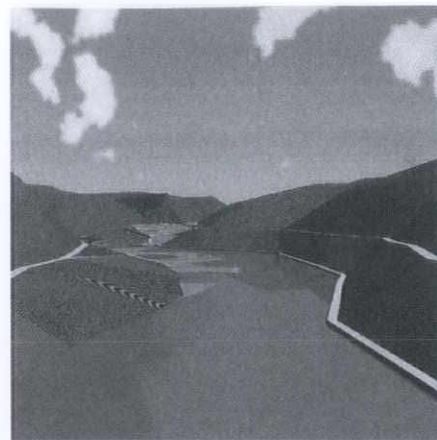
工事予定期間：1998年～



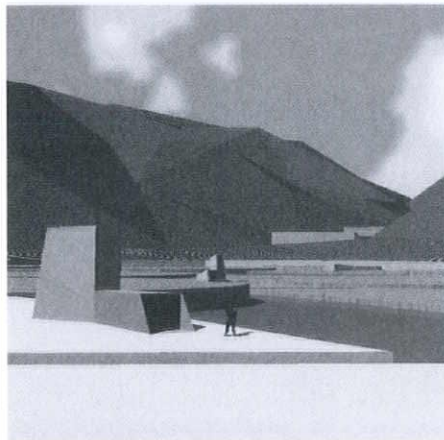
Positive Island Zone (Water Level 241M)



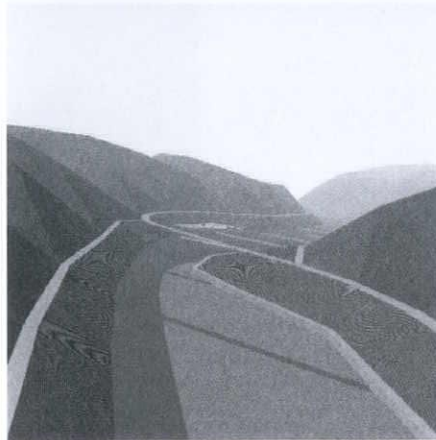
Positive Stream Zone



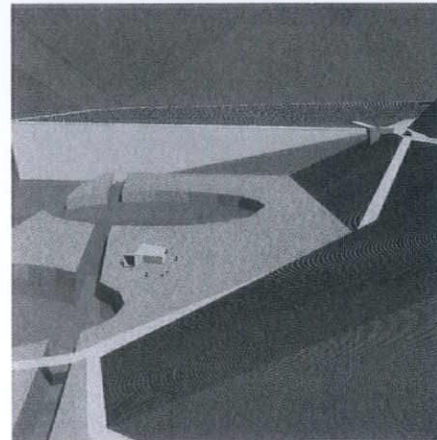
Negative Island Zone (Water Level 232.5M)



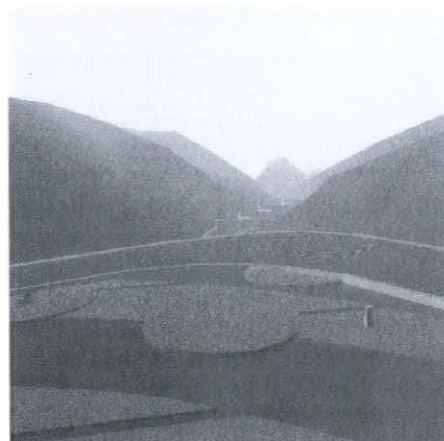
Positive Island Zone (Water Level 241M)



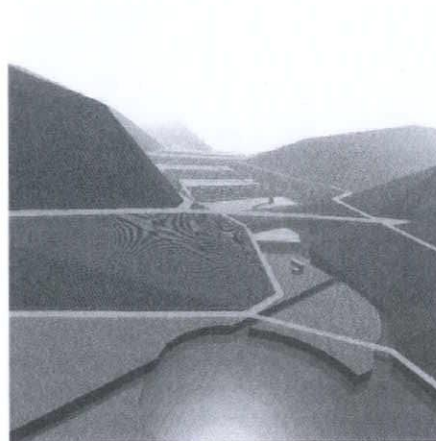
Positive Stream Zone



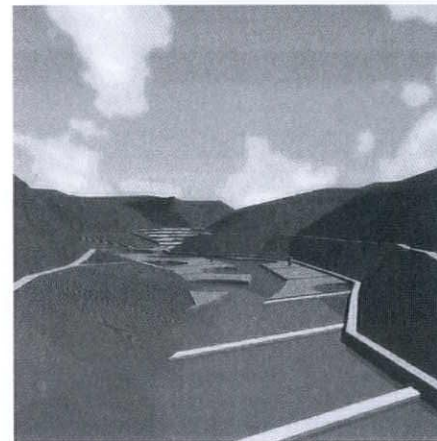
Negative Island Zone (Water Level 231M)



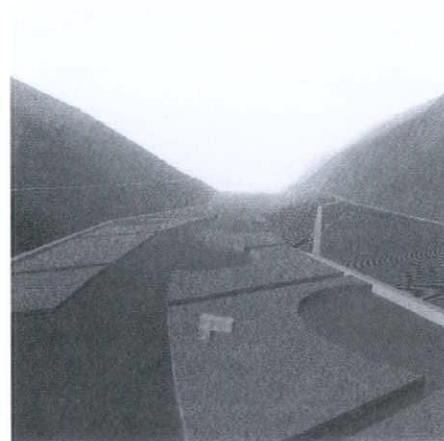
Positive Island Zone



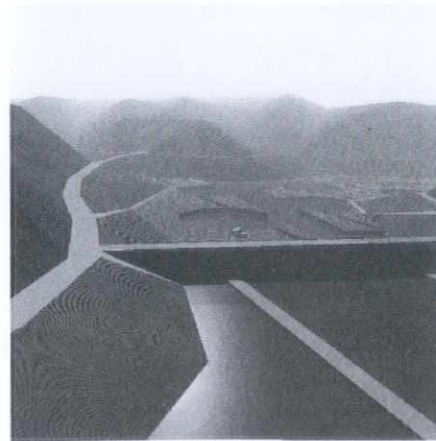
Negative Island Zone



Negative Island Zone (Water Level 231M)



Negative Island Zone



Negative Stream Zone

吉松秀樹 Hideki Yoshimatsu

1958年 神戸市生まれ

1982年 東京芸術大学建築科卒業

1984年 東京大学大学院都市工学専攻修士課程修了

1984年-87年 磯崎新アトリエ

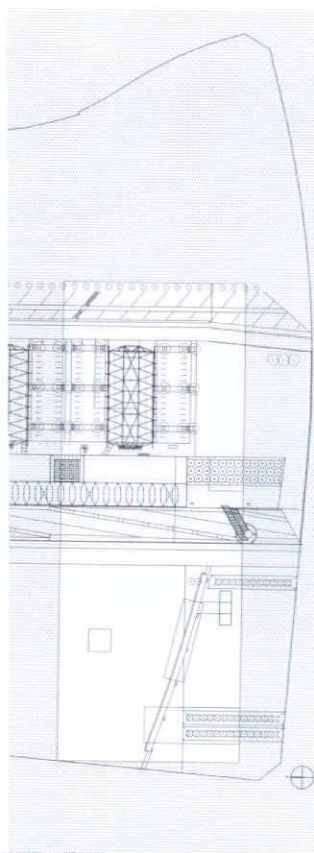
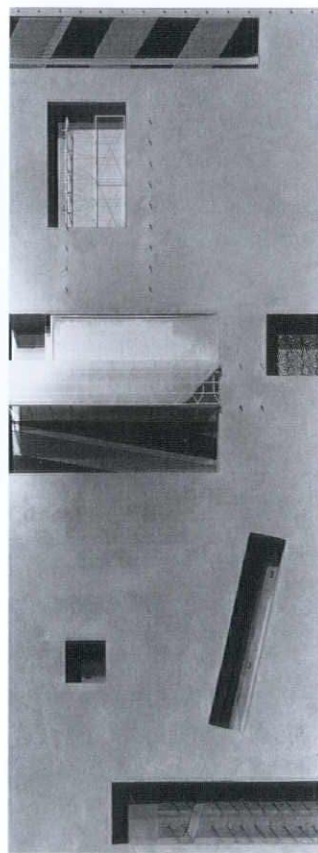
1987年-91年 東京芸術大学建築科助手

1991年 アーキプロ設立

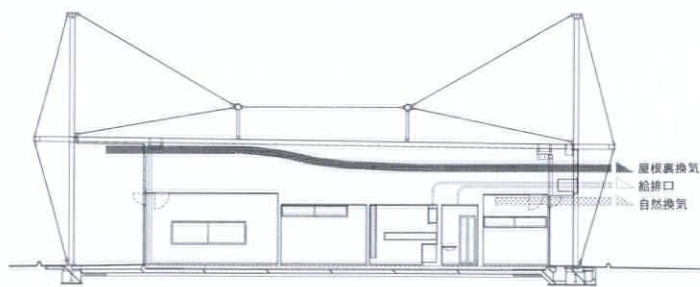
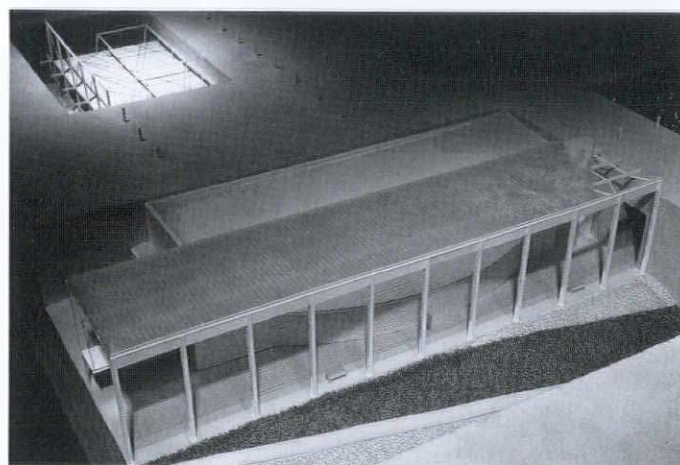
1994年- 東海大学非常勤講師

1996年- 千葉大学非常勤講師

タウンセンターH



模型部分該当図



断面図

〈タウンセンターH〉の模型は、一見、砂丘に埋もれた建造物の考古学的な発掘現場のように見える。しかし、字義通りの発掘現場でも、また、イングランド銀行（ジョン・ソーン設計）のJ・ガンディによるレンダリングのように建築の廃墟を表現しているのでもないことは、注意深い観察者なら直に見てとれるだろう。

この施設は新都市居住者の利便施設であり、小さなスーパーマーケット、飲食、物販などの商業施設のほか診療所、行政窓口などが集約されることになるが、そういった直接的な目的行為を満足するほかに、「出来事」を発生させる媒体となることが意図されている。模型上でかきとられた部分は、その「出来事」のいくつかのエピソードを示している。ここで特徴的なのは、建築とランドスケープがほ

とんど等価なものとして表現されているところだが、半径720mの曲率をもってゆるやかに湾曲するボードウォークも、高さ10m長さ110mの半屋外の散策路も、「出来事」の構成という点からはまさしく同等に重要であり、不可分かつ相互補完的な「部分」なのである。

匿名的で非限定的な敷地にごく可変的なプログラムを与えられた施設を建設するという与件の中で、「線分」形状がデザインのパルティとして、そこかしこに散りばめられている。ボードウォークも、メタセコイヤやヒノキの列植もエスプラナードとその列柱も、法面を上下するための斜路もみな「線分」という共通点をもっている。

「出来事」を発生させるための「線分」という設計意図が刻み込まれた模型。未来の記憶。

共同設計者名：ササキ・エンバイロメント・デザイン・オフィス（ランドスケープ）、梅沢建築構造研究所（構造）、環境エンジニアリング（設備）

用途：複合用途

所在地：兵庫県

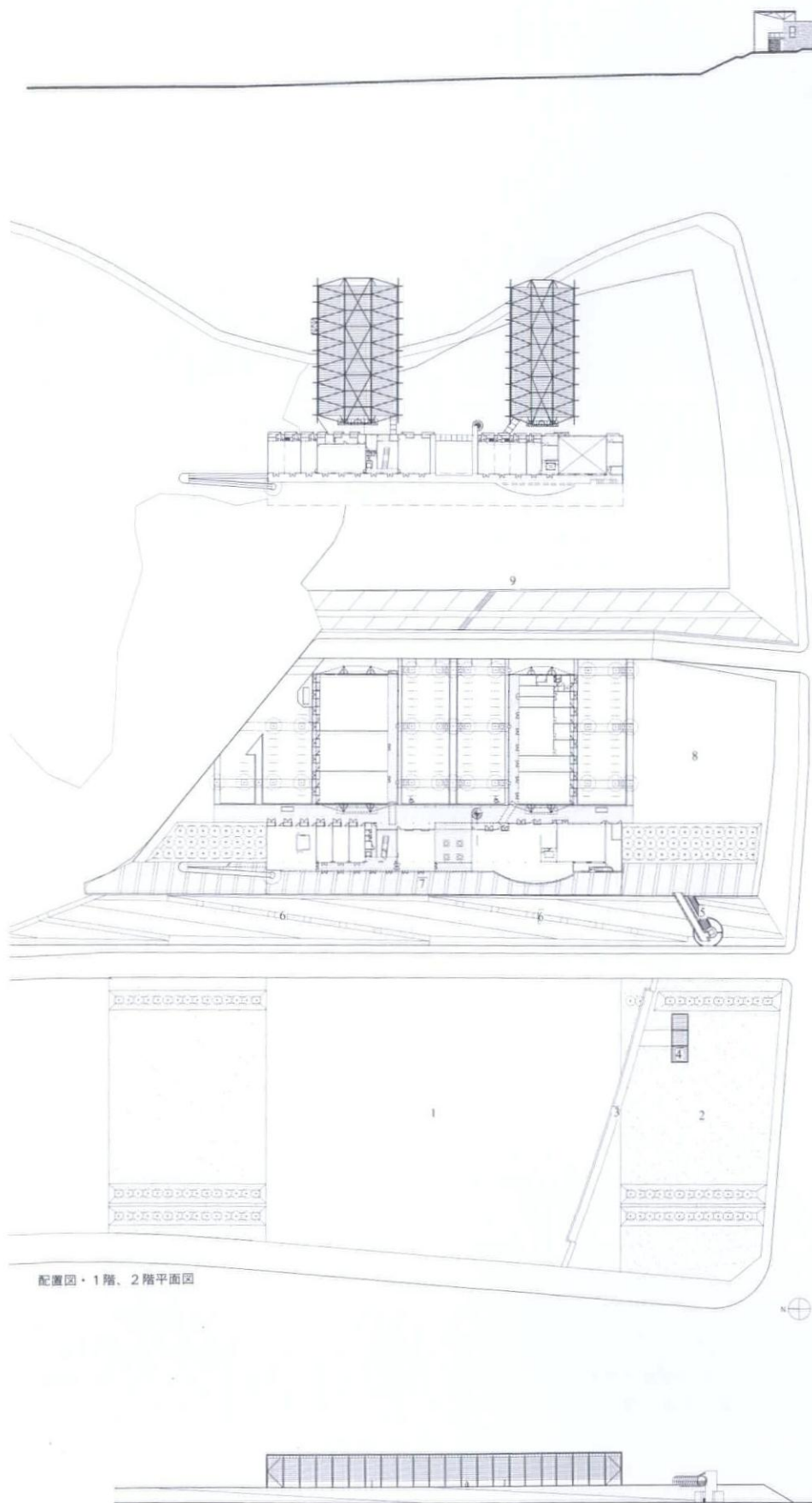
主体構造：鉄骨造

主要仕上材：アルミ・スパンドル、薄付仕上塗材仕上

建築面積：4,180m²

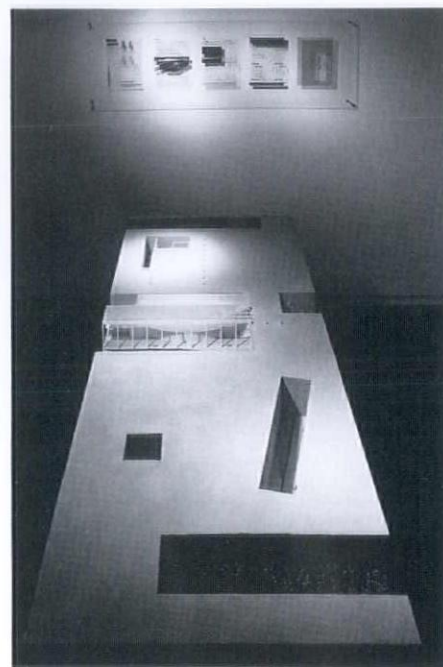
延床面積：3,980m²

工事予定期間：1996年9月～1997年6月（予定）



配置図・1階、2階平面図

- | | |
|-----------|----------------|
| 1:芝生 | 6:斜路 |
| 2:野原 | 7:エスプラナード |
| 3:ボードウォーク | 8:リザーブ用地 |
| 4:ユーティリティ | 9:オーバーフローパーキング |
| 5:エレベーター | |



渡辺真理 Makoto Watanabe

1950年 群馬県生まれ
 1973年 京都大学卒業
 1977年 同大学大学院修了
 1979年 ハーバード大学デザイン学部大学院修了
 1981-87年 磯崎新アトリエに勤務
 1987年 設計組織ADHを設立
 現在 法政大学教授

木下庸子 Yoko Kinoshita

1956年 東京都生まれ
 1977年 スタンフォード大学卒業
 1980年 ハーバード大学デザイン学部大学院修了
 1981-84年 内井昭蔵建築設計事務所勤務
 1987年 設計組織ADHを設立
 現在 日本大学講師
 芝浦工業大学講師

三谷徹 Toru Mitani

1960年 静岡県生まれ
 1987年 ハーバード大学デザイン学部大学院ランドスケープ・アーキテクチャ修士課程修了
 1987年 オヤジSン大学大学院ランドスケープ・アーキテクチャー修士課程修了
 1988-91年 ハーグレイブス・アソシエイツ、U.S.A.
 1991年- ササキ・エンバイロメント・デザイン・オフィス

長谷川浩己 Hiroki Hasegawa

1958年 千葉県生まれ
 1981年 千葉大学園芸学部環境緑地学科卒業
 1985年 オレゴン大学大学院ランドスケープ・アーキテクチャー修士課程修了
 1988年-91年 ハーグレイブス・アソシエイツ(U.S.A.)
 1991年 ササキ・エンバイロメント・デザイン・オフィス

■RE[]/Responsive Environment

ダンスパフォーマンスのための舞台装置

舞台装置の設計は、もともと建築家の仕事であつたはずだ。そして建築も都市も舞台のひとつであるはずだ。そういう考えから、私は真っ先にこのプロジェクトを支持した。空間を切り取る「枠」と、動く骨組みの対比も舞台の基本をうまく捉えている。しかし模型とビデオを見て思ったことは、観客の不在である。演者のみが、孤独に環境と「応答」するのか。果たしてそれが空間であるのか。(香山)

四角い箱と1分間で1周する回転アームの組合せが、妙にスタティックに見えた。展示会でセットされた椅子に座り、広大な海辺でのパフォーマンスの舞台装置としてのスケールの適切さについても疑問を感じた。回転アームを紙パイプと真鍮プレートで、しかもトラスにしないで垂直に繋いだ構成が巧みである。完成すれば軽やかなアームになるだろう。(渡辺)

何をやりたいのかよく解らなかったけれど、気になる案ではありました。ダンスという身体性と、装置というハードウェアの関係性を問いたかった、と勝手に想像しています。しかし、そうであれば、この案はその関係性を提示することに失敗しています。ここをやろうとした意気込みは高く買います。しかし、この部分は現在、もっともシニカルな最前線で、なかなかこの本質をえぐりだすのは難しい。春にフォーサイズを見たのですが、彼は身体の外にある種のオートマティズムのなかに入れ込もうとしています。つまり身体を意志のない装置と仮そうというわけです。その極限の果てにある消しがたい身体が今問題なのです。そこではハードウェアはある意味では完全な敗北をきしています。別の道筋を見付けるしかないような気もしているのですが、どうでしょうか。(内藤)

会場で椅子に座ってヘッドホンをして映像を見ると、その世界に入っていってなかなかいいなと思ったが、時間がたつにつれ、作られた装置は本当に必要だったのだろうかという疑問がわいてきた。もしかしたら椅子ひとつでも良いのではないかという思いがした。(妹島)

■城戸崎和佐建築設計事務所

鈴木木材工業本社

木材の骨組みとスクリーン、そして床と屋根にする空間の規定が、素直で心地よい。誠実な設計だと思った。模型と大きな写真がでてきけると、逆にやや大味なものになっていた。屋上のトップライトの意味は何か。実際に出来上がった時、再び熟成されるものになることを期待する。(香山)

集成材格子屋根を外周の柱で支え、内部の4本のRCシャフトで水平外力に抵抗する、という構造ストーリーが明瞭で、広々とした内部空間が実現できるだろう。RCシャフトと屋根構造をテンション材で結合して、屋根の重量を外周で支えているという意志表示が内部空間の潔癖性を具体的にしている。集成材の格子梁構造の接合部にパーチャーシステムを採用しており、美しい格子構造が実現できる。格子のピッチを方向によって、さらに荷重負担に対して変化させているのも独特な空間を産むことに寄与していることだろう。しかし、この作品の模型展示は最悪であった。大きな台にボツンと小さな格子が宙に浮いており、何を意図しているのかしばしば考え込んでしまった。後で聞いたら大きな台は佐世保湾と敷地との関係を示しているそうで、随分サバル建築家も世の中にはいるものだ、と感服した。(渡辺)

木造の架構形式が魅力的で、この建物が建てられる目的から考えても適切な選択ではなかったかと思えます。平面もシンプルな構成を採っており、架構を素直に活かしていこうという姿勢も好感の持てるものでした。ただ、模型表現で強調されていたトップライトの在り方が、現段階では全体構成の透明さを減衰するように見えたのが気になりました。(内藤)

全体のフレームがしっかりしており、完成したら魅力的な建物になるだろうと思う。構造とスペースの関係が興味深い。ただ、まわりにある建物との関係がどうなのだろうかと配置図を見ながら思われた。(妹島)

■黒木正郎+横田千晶／日本設計

明かり屋根の幼稚園

屋根の構成ピースの形も良く、そこから落ちる光も面白いだろうと思った。しかし、幼稚園の部屋はこのような様な光を求めているのか、模型を見て疑問になった。曲面を多用した形、柔らかなタッチのドローイングの裏に、単調で機械的な空間感覚の潜んでいることを恐れる。(香山)

PC屋根の配列とスパン方向の断面変化が、独自の内部空間をつくり出している。PCでなければできないともいえるだろう。こういったワンウェイ(一方向に架け渡した)構造では、最後の表面の外壁と屋根との納まりが難しいが、この模型ではさわやかに納まっている。

構造の全体構成がもちろん重要であるが、実施設計としては部材間の接合の考え方がその構造の特徴を際立たせるものである。特にRC構造と違い工場生産された部品を組み立てるときには接合部の明解さは重要だ。前面の鋼管梁とPC屋根との納まりが若干意図不明で、こういう部分にも強い意志をもったら、と考えながらこの精巧な模型を見ていた。(渡辺)

完成度の高い案でした。個性的な架構が模型でも丁寧に表現されていました。架構のもたらず空間が魅力的であることも想像できますが、ここで採られた方法が建物のスケールに比していささか過剰であったようにも見えます。ここまできたら、出来上がった実際の空間を見るしかないな、という気になりました。(内藤)

完成度が高いという意見が随分審査会では出たが、私としては幼稚園というものの間に少しギャップを感じた。スケールだけが子供用に合わされている点に少し不自由さを感じた。もう少し大らかなものでも良いのではないだろうか。(妹島)

■佐藤光彦+横溝 真

Sビル計画

階段が建物のマスを貫き、建物の空間と階段の空間が相貫する時は、建築の最も面白い瞬間のひとつである。私たちはそうした例を、各自それぞれにいくつも知っている。しかしこの階段はつまらない。建物を貫いても何も起こらない。それがむしろ作者のねらいであるのか。(香山)

この建築の設計コンセプトは大変面白いし、斬新なものだと思った。しかし、展示模型を見るとそのコンセプトが具象化されていないことがわかる。貫通しているボックスは踊り場に添ってしまい、それが構造化もされていないから、3層を突き抜ける力強さが全く失われている。

「敷地の表面を切り取って空中に持ち上げ」と説明しているが、いかなる屋上庭園なのか、模型には表現されていない。(渡辺)

斜めに突きささった階段空間が個性的でした。この空間の象徴性が気に入りしました。この空間は、この建物の特異性に寄与してはいますが、そこからの発展のさせ方が現段階ではもうひとつ足りなかったのではないかと思います。(内藤)

住宅と、レンタルスペースとオフィスがダイレクトに積み上げられた建物で、きれいな構成だと思った。それらを突き抜ける直通階段が私個人としては気持ちの良いスペースだと思った。ただ、もう少しそれによるゆがみが各々の空間に現れても良いのではないだろうかと思った。(妹島)

■三分一博志+西尾通哲+塚田哲也+土井一秀

PILOT HOUSE #01

ドローイングの段階では、ひとつの可能性も感じられたが、模型で期待は裏切られた。こうしたものが住居にはなり得ないことは、すでに十数年前に皆が確認したのではなかったか。それともそこにまた新しい可能性があるかと主張したのか。それにしてもその説得性もここにはみられない。(香山)

戦後の文化住宅を連想させる。最少限必要空間と設備、最先端情報システムを最小立方体に組み込んだ、この模型展示を見ていると本当に人はここに住めるのか、と素朴に疑問を感じる。「これからの建築は極端な必要性に迫られたもの」と定義するところが、僕には納得できない。

ただ、設備機器にしろ情報システムにしろ急速に変化・発展してゆく今の状況を考えて、それらをカプセル化して自由に変換できる組合せになっていけば生活の変化にも対応できる重要な自由度を獲得できるだろう。(渡辺)

個性的な案でした。一次選考では最も着目した案です。現代の生活は、所詮都市的な設備にコネクトすることでしか成り立たず、それならばそれを端的な形で表現してみよう、というある意味ではアイロニカルな案です。本当に実現可能なのが議論になりました。また、考え方としては70年代にアーキグラムが提示したプラグインシティの90年代版と見ることも出来、それならば90年代なりの新しさはどこにあるのか、ということになりました。模型のなかにそうした部分が見えなかったのが残念です。(内藤)

アプローチは面白いが、この装置の上で寝ることまで出来るという絵を見ると、少し疑問がわいてきます。少し窮屈な感じがして。ただユニット化することだけが目的になってしまうとつまらないような気がします。(妹島)

■高橋昌巳 / シティ環境建築設計

土の自由被膜

ドローイングを見た瞬間に強く共感した。土という素材への愛着に共感しただけでなく、格子状の骨組みと対比された塑性的な土の使い方に共感したのである。模型も、その造形性を十分に表現し、期待に応えるものであった。ただこの土壁の上にいる廂屋根がどういう形状になるのか。肝心の所が具体的に示されていない。実際の建物でその答を見せて欲しい。(香山)

和小屋を移転して再構築する意欲に敬服した。さらに、外壁を独立させて竹筋の土壁にする発想も面白い。この壁のうねりは平らな壁に較べればはるかに大きな耐力を発揮することだろう。外壁を水平ブレースで全体的に安定したものにする意図は理解できるが、展示した模型では土壁と木造本体構造の間に垂木を渡し相互の関係を曖昧にしている。壁面に添った垂直ブレースは構造的に意味不明だ。竹筋土壁の剛性を考えると、20φの鉄筋ブレースでは耐力上の役に立たない。しかし、模型を見ていると土壁が耐力を発揮するまでは、仮設上も形状を保持する上でこの鉄筋ブレースもあった方がいいかな、と自省した。(渡辺)

土壁の構造的な扱いについて審査員の間で議論になりました。復元する部分のスタティックなシステムと付加された土壁のシステムとの対照が面白く、その隙間にでてくる空間の変化もなかなか魅力的でした。目に見える意匠的な対比ばかりでなく、骨格や構法の点からもその対比に工夫がないかと詳細を見たのですが、最終的な模型表現からはそれが読みとれなかったのが残念なところでした。実現化される過程でこの点は補正されると、構造的により強い空間になっていくのではないかと思います。(内藤)

古い物と新しい物の合わせ方について、空間構成は非常に巧みであると思ったが、プレゼンテーションされた模型では、実際の接点となる部分が示されていないのが残念であった。(妹島)

■長田直之+筏 真司+清水裕二

/I.C.U.

KANTAN HOUSE

建物の大きな模型を、展示の装置に用いたのはひとつの面白いアイデアだが、結果は実際の建物を貧弱なものに見せることに終わった。模型を外から眺める時、人は自分のスケールを模型にあわせて縮めることができるが、模型の中に首をつっこんだ時、自分の首の異様な大きさを感じるのみである。残念。(香山)

説明書でいう「弱い」建築の意味は不明だ。展示模型を見る限り、端正で軽快な空間をつくりだしており、「弱さ」は感じられないが、よくまとまった作品である。15年経過後には解体する計画で、そのためもあり部材間をピン接合構造にして、建設と解体との両方をにらんだ構造計画がされている。それは構造計画として行き届いた配慮であるが、そのことと「弱い」こととは無関係だろう。(渡辺)

建築としてはとても面白いと思いました。囲い込み方が絶妙で、実現したらそれなりの新しい空間を生み出すのではないかと思います。しかし、展示の説明の仕方がひねりすぎていていけません。にわか仕込みのベルグソンの引用や、弱さを武器にしようとする論理と、このプロジェクトの持っている良い点とは、ことごとく矛盾しているように見えました。もっと自信を持って素直になったらどうですか。(内藤)

弱さという点から考えてみるというのは面白いと思ったが、示された物はどちらかといえば非常に構成的な物に感じられた。プレゼンテーションの方法もそういうコンセプトなら会場ともう少し関係のもてる方法にするべきではないかと思った。(妹島)

■西沢大良

立川のハウス

つかえ棒が、住居の中心的な表象となり得るのか。そもそも直立しない柱に中心を指示する力はあるか。とすると、この住居を囲むコンテキストはそれを成り立たせる特殊なものなのか。しかし、作者はそれを示していない。(香山)

この象徴的な一本の斜材が、地震や風圧の水平力に抵抗できるとは思えない。もし、この斜材が有効であればその構面の柱は他と違う太い柱になるはずだ。単純な三角構面ではなくもっと立体的に考えると、もし2階の床剛性が大きく垂直成分が他の柱の軸力にも分散するなら、それで構造的には成立するがそれほど水平剛性が大きな床であれば、建物両側の妻壁で水平抵抗できるはずである。要はこの斜材の意味が不明である。(渡辺)

つかえ棒のような構造体が、極めて個人的でした。実際の構造としてどうなのか、という議論が随分となされました。しかし、私自身が気になったのはその事よりも、こうしたものを象徴的に扱うことについてです。構造的なものが強調されて過剰なシンボルになる、ということからすれば、その求める表現が異なるにせよ、昨今の建築が持っている問題と同根であるような気もしました。(内藤)

小住宅ながら交差点に対して魅力的な建ち方をするだろうと思う。特に(木造だからだと思うが)曲面でなく、微妙に折れながら作られる道路側の表情に興味をひかれた。審査時には、庭に飛び出した柱について随分議論があったが、実際どのようなものになるのか完成した姿を早く見てみたいと思う。(妹島)

■宮沢 透

S邸

ドローイングに、空間を喚起させる力があつた。古い骨組みと新しい斜路とのからみあい新鮮さと共に、古い建物の空間の力呼び起こす力がある。模型も、そうした力を更に期待させる迫力あるものだった。民家の再生をテーマにしたものが、並び立ったために、惜しくも賞を逃したが、私は大きな拍手を送りたい。(香山)

時系列をとりいれた計画が魅力である。既存木造の蔵に対して、内部に増築する鉄筋コンクリートの構造が、一部屋根面まで延びて安定した構造に変化している。特に蔵の一面のファサードを外して、あらたにコンクリート壁を挿入し、施工上も内部のRC構造をつくりやすくしている、など十分な配慮の下に実施案として完成している。

木造とコンクリートというもったもなしの悪い構造素材を、巧みになじみのよいものに変えている設計の実力に敬意を表するとともに、実現が楽しみだ。(渡辺)

既存の蔵の改修のなかに新たな建築的表現を持ち込もうとする執念のようなものが感じられました。ドローイングから模型に至る道筋も明快でしたが、格子を使ったりする手法に迷いのようなものがないのが気になりました。望む空間の質を獲得するには無数の方法があるわけで、そのどれをどのような意志で取捨選択し、選び取るのかというところの試行錯誤も、自分なりの道筋を強固にするための手段ではないかと思うのですが、どうでしょうか。現実の建築との格闘の中で自分なりの道筋を見つけられることを期待します。(内藤)

うまくできていると思うが、外側の格子がある表現を前提にしているような気がして、それが気になった。(妹島)

■宮脇 勝

HOUSE ADDITION

古い建物の煉瓦の壁が、表裏逆転して中庭の壁となることに、強く魅かれた。しかし、私にとってはこの一番肝心なところが、模型では面白く展開されていない。そこが残念であった。(香山)

アトリエとしての爽やかな空間構成が巧みだ。しかし、模型では全面テラスのパーゴラ状の構造が、異質に見えた。建物との関係も明解でない。

昨年の記録的な大雪で一部屋根が破損したことが、修復のきっかけと説明書にあったが、このパーゴラ状構造は大雪に対してどんな対処が考えられているのかも不明である。(渡辺)

一次選考の時、シンプルで美しい全体構成と、その場所の記憶がボイドになって表現されていることに関心を持ちました。大きな模型のプレゼでは、壁の表現などがリアルにされていましたが、当初の案の透明感が遠退いたように見えました。(内藤)

応募の時と、実際に示された模型との間に多少ギャップを感じる。応募案の方が好感を持った。(妹島)

■安田光男+杉山陽子

Tategu House

直方体の空間を、いくつかのスクリーンで層状に分割する考えは、目新しいものではないが、しかし空間構成のひとつの基本形で、これを適切に、バランス良く行うことは、決して容易なことではない。この作品は、その分割のディメンションと、その結果できる層の重なりが、見事になされ心地良い。(香山)

密集市街地ではさまざまな矛盾した条件を充足しなければならないが、例えば日照、通風とプライバシー、遮音、断熱と軽量化など。ていねいに外壁面をコンクリート打放しにしているのに、屋根が折版型の鋼板にしているのが不可解だ。他の案にもあったが、工事予定期間がこの案では5ヶ月となっているが、展示模型にあるような繊細な空間をこれで施工できるとは思えない。(渡辺)

模型は、たいへん説得力のある美しいものでした。とてもうまくまとまった案だと思います。しかし、宮沢氏同様、この案に表れているデザインボキャブラリーの選択に、あまりに迷いのないのが気になりました。このプロジェクトを現実のものとするなかで、安田氏にのみ可能な独自の道筋を見付けられることを個人的には望みます。(内藤)

単純で気持ちの良い住宅だと思った。身近な所から考えられており、快適だろうと思う。ただ、キッチン、浴室などもTateguの構成の中に関わるができなかったのだろうかと思った。(妹島)

■ユストス・ピザール+ペーター・ルーゲ/ピザール・ルーゲアーキテクテン

Haus Sonne

爽やかな建築である。まだ壁のあった頃訪れたベルリンの重苦しい町並みを思いながら、そうした町並みにスケールを合わせつつ、明るい透明なマッスの出現するこの作品の素晴らしさを想像した。ガラス・スクリーンについての技術的な追求の結果も実現が楽しみである。(香山)

フラットな床と壁から構成される簡潔で明解な構造に、ソーラーシステムを組み込んだ試みがどこまで成功するか期待される。現在、さまざまな分野で試行されている太陽熱、太陽光利用の成否は、机上での議論だけでなく試行錯誤が重要だが、実施するとなると読み切れない要素も多く、それをカバーする勇氣と英知、それに建設費用もいるだろう。旧東ベルリンの町並みでの「ハイテック」集合住宅の実現が楽しみである。展示された模型は、一次審査のときに自分の頭に描いていたイメージとはほぼ寸分変わらないものであり、この設計者の図面表現の正確さに敬服した。(渡辺)

もっとも注目した案です。サステナブルな考え方を軸に、それに徹している姿勢に好感が持てました。ソーラーパネルの現実性がどの程度あるのか気になりましたが、自分のやろうとしていることへの道筋が、プロジェクトから模型に至るプロセスで微塵も揺らいでいないことがよく解りました。この徹底した態度が、このプロジェクトに清潔さと透明感を与えているのだと思いました。このスタンスの置き方がこの案のオリジナリティであって、形態的な差異を競う他の案とは一線を画していたのではないかと思います。(内藤)

パッシブをテーマにしながら、それだけで全部の問題を解こうとしないで、全体がうまくできていると思う。(妹島)

■由田 徹+岡本美樹

スクリーン

半透明な壁体を使った空間構成が面白いだけでなく、人の動き、平面構成もよく考えられていると思った。提出された模型が、ドローイングの段階で示されているもの以上になっていないことは、残念であった。(香山)

均等均質な鉄骨のラーメン構造、多分床はデッキプレートを敷いてその上にコンクリートを打設するのだろう。外壁面には跳ね出しをつくっておけば外壁を主体構造と分離して取り付けることができる。この手法には、空間を構成する力強さや構造と内部空間との必然性は生まれてこない。外壁面のルーバーが光学的装置であるというのも随分安直な話だ。(渡辺)

シンプルな構成は魅力でした。しかし、こうした組立の仕方には、ある種の困難さが付きまといます。表層の意味をどこまで掘り下げたかです。そこにしか価値がないのですから、その処理の仕方の突き詰め方がオリジナリティの所在です。その点でまだ未消化の部分があったように思います。(内藤)

美しいスクリーンの表情が想像されたが、多少構成的なような気がした。一種類のスクリーンだけでは足りなかったのだろうか。階段が複数あるのは面白いと思った。(妹島)

■吉松秀樹／アーキプロ

灰塚アースワークプロジェクト

ドローイングが示していた、大地との連続的な呼応は、模型においては分断されてしまった。ランドスケープのみが持つあの、広がりや連続性は、展示会場においては、きれぎれの断片に分断されてしまって、ありふれたオブジェと化している。展示会場の中には、デヴィルが隠れ住んでいて何時も出番を待っているのだ。(香山)

展示模型を見ても大変な力作だ。大地を相手に、しかも時々刻々と変化する水流を対象に計画するのは自然の営みを理解するだけでも苦勞するものだ。

ただ、この計画はまだコンセプトづくりの段階で、実施設計が完成していない印象が強かった。もっと具体的な装置としての提案がはっきりすれば、明解に設計意図が伝わってくるだろう。(渡辺)

土木のスケールでのこうした試みはたいへん興味深いものでした。新しいテリトリーにトライする意気込みには新鮮さがあります。模型の赤いフォリーに込められた恣意性が、全体の構成や論旨との齟齬があるのではないかと思います。(内藤)

プロジェクト自体が非常に面白いものだと思う。ダイナミックな構想の中で、ばらまかれる小屋のあり方というのが、一番難しいのではないかと思います。(妹島)

■渡辺真理+木下庸子／設計組織ADH +三谷 徹+長谷川浩己／S.E.D.O.

タウンセンターH

緑のスクリーン、それを構成する部材が美しく、実際出来上がったときの面白さを十分に期待させるドローイングであった。提出された模型は、はじめのうち同一作品であると思えなかった。どう見ても地中の建築としか見えない。模型を彫刻的オブジェと見れば面白いユニークなものであるが、ここにドローイングで示された提案は埋葬されてしまった。(香山)

かなり厳しい建設コストを前提に設計したと推測できる。無柱空間のための吊り屋根のロッドの張り方が巧く、屋根重量に対するものと風の吹き上げに対するものとのバランスがよくとれている。一次審査のときもエスプラナードの形態とそれを構成する構造との関係が不明であったが、展示された模型でも十分表現されていない。圧縮材と引張材との違いが模型化されていないから、構造のシステムはわかっても、それがどう視覚化されるかの判別がつかない。

構造設計された部材寸法をきちんと模型にし、あるがままの姿をプレゼンテーションすれば、この建築はもっと高い評価を得られるだけの内容をもっていたのに、と残念であった。(渡辺)

美しい架構は一次選考の時から目を引きました。模型では一転、実態としての架構ではなく、それらの構成が見せるさまざまなシークエンスを強調する表現になっていました。これは意外でした。プロジェクトを次の段階へと進化させる過程で、作者の意図に微妙な揺らぎが生じたのではないかと想像します。個人的には、架構よりもこの揺らぎの方にシンパシイを感じます。架構の象徴性よりも、架構の透明さの先に生ずる揺らぎこそが現代の難しいテーマであると思えるからです。(内藤)

大変美しい建築だし、完成度の高い建築だと思った。ただ、その美しすぎる点が、周辺に対してどのように存在するのだろうかと思わされた。(妹島)

久保清一

1982年にスタートしたSDレビューも今年で15年目を迎えた。ひとつの区切りのようでもあり、また新時代へのスタートのようでもある。折りしもいま政治は、自・社・さきがけの連立の枠組みが解体し、衆議院が解散、また、社会党が生き残りをかけて進めてきた新党構想が失速し、社民党は分裂した。民主リベラル勢力として誕生した民主党が果たしてこの混沌とした状況を切り開くのか。まさに新時代へのスタートとなり得るのだろうか。少なくとも時代精神を表現するひとつとして政治があるならば、オール保守派という今日状況に見え隠れする意味のない権力抗争を注意深く監視することが肝要だ。リベラルという甘い言説によって抽象化された不自由な時代を迎えないためにも、クリティックは必要だ。

第15回SDレビューに話を戻せば、今回の入選作品は審査員の傾向が顕著に表出したケースは、あまり記憶にない。審査員によって入選作品の傾向が決まるのは当然だし、むしろその方が良いのだが、応募案にはもう少し多様なコンテクストが見られたのではないかな。入選結果をいささか危惧している。言うまでもない。建築は幅広い角度より透視されるべきものであり、さまざまな人の営みに相関して派生する状態を知的に獲得する作業と言える。なのになぜか幾つかの作品は相変わらずのパターンにはまっており、概念操作をしているわりには内容が停滞している。まるで改革を唱えて結成されたはいが古い画一的な保守主義を繰り返す新党のようだ。今や野党は存在しないのか。あるいは当選（入選）できないのか。これではSDレビューはおもしろくない。

1993年のSDレビューの評論で鈴木明が指摘し、以来たびたび論上に登場した「擬き」のことだが、今はもう軽い感じの建物もデコンも消えたと言って、ここ2、3年は皆喜んでいて。しかし、果たしてそうだろうか。特に今年の作品傾向を見ると、そうとは言えない。確かにデコンは消えたが、原広司を中心とする1987～1991年まで常連だった建築家、例えば石田敏明や妹島和世「擬き」が、今年のレビュー入選作品の傾向として再来していることは否めない事実である。妹島が審査員をした影響か。それとも今は伊東スクールの時代

か。しかし、それが問題ではないはずだ。新居千秋が言うように、妹島和世のような個性の出現はまだない。妹島のような傾向の作品はあっても、新しい個性の出現は残念ながらまだ見当たらない。それどころか、昨年にもまして今年は傾向がパターン化してしまった。傾向というよりは「擬き」の形態があらさまに表出している。問題はそこにある。

具体的に幾つかの作品に触れてみよう。まず、ユストス・ビザール+ペータールーゲの作品。以前彼らは、やはり旧東ベルリンに建つリニューアル・プランの建築で、SDレビューに入選しており印象深い。それは喪失した歴史的な都市の表情を回復させるためのエンヴェロープの提案であったが、現代性の中に記憶を身体的に残留させるという新鮮なものだった。今回の作品、ハウス・ゾンネのプロジェクトは、時代性という意味では明快なソーラーシステムによる省エネルギーハウスの提案だが、システムとして構成された建物が時代性を帯びているからと言って、そのまま旧東ベルリンの新たなシンボルに果たしてなるだろうかといった疑問が残る。屋根のソーラールーバーや外壁の光電池ルーバーが放つ反射光に未来を託す旧東ベルリンの状況は、それとは別に深く考えさせられる。

記憶の中に宿るさまざまな感覚は、人の行為と場の関係を映し出す呼び水のようなものと言える。高橋昌巳、宮脇勝、宮沢透のそれぞれの木造改修プロジェクトは比較すると面白い。ただ余計なことを言わせてもらえば、これらの作品を選出した審査員の名が目瞭然だ。悪いとは言えないが、建築のディメンションを期待する側からしてみれば、やはりパターンにはまりすぎている。単純に言って申し訳ないが3作品は多すぎる。審査員に問題があるのか、それとも本当に他にめばしい作品がなかったのか。作品がダメという意味ではない。落選者にはお気の毒としか言いようがないのだが、それはおそらく僕だけが感じていることではないと思う。話が横すべりしたが作品について続けよう。高橋昌巳の青森の民家移築計画に見られる土のカーテンウォールは、建築素材によってヴァナキュラーな記憶が今日的な解釈の中で増幅されており、

新たな可能性を秘めている。しかし、昨今の建築の悩み、いわゆる原広司が言ったところの「自立した部分」への執着と、差異表現という枠の中でしかモノを語れない不幸を背負っているのが心配だ。宮脇勝の北海道のデンブ工場のアトリエ改修も木造の美しい建築に生まれ変わっている。軸組の立体感と2次元の線処理のような壁が内部空間の透明度を高めており、自然との交信を密接なものにしている。宮沢透の150年前の蔵の改修も木造軸組を残した住居計画である。蔵の天井高を利用して、補強を兼ねたスロープを巡らせ、空間を分節し、個々の機能としての領域を確定している。このスロープはギャラリー動線として成功しており、まさしく住み手を150年前にタイムスリップさせる装置となっている。

また他に、ランドスケープの領域に新風を吹き込んだ作品がある。あくまでもポジティブに場との関係性を見出だそうとするスタンスを持つ作品として、吉松秀樹とRE[]が挙げられる。吉松の灰塚アースワークプロジェクトは、ダムという人工的な自然を題材にランドスケープのスケールで建築的装置を試みており、その壮大な構想の中に和草種の風景を描くといった感性はまさに特筆すべきものがある。また装置としての建築という意味においてRE[]の作品は、インスタレーション的でオーソドックスではあるが、背景となる海辺の環境とダンスという人の行為を直截的に空間完結させるという知的で文学的なものである。今後この方向性は、非日常空間よりむしろ日常空間への提案に期待がもたれる。

SDレビューの魅力は、近未来を予測させる手掛りをそこに発見できることにある。さまざまに変容し展開する現実の枠、それをさらに超えたところに見えるものは一体何なのか。新時代の予兆を感じるところに大きな刺激がある。それはまた、気付かずにいた現実を知ることにもなるわけだ。

●くぼ・せいいち／建築家、大阪芸術大学助教授

1996.05 公募開始

SD9605号にて応募要項を発表し、作品募集開始。

募集要項は以下の通り。

募集対象：

実施を前提とした設計中ないしは施工中の建築、屋外空間、インテリア。国外に建つものも含める。但し、応募の時点で既に完成しているもの、雑誌などに発表済みのもの、実施の見込みが全く無いもの、コンペの応募作品（公開、指名、入選、落選を問わず）は対象外とする。応募作品点数は原則として一人一点に限る。

応募者の資格：特に必要なし。

提出物：

1. 設計意図を説明するために必要と思われる図面、写真等特に制約はなく、各自選択すること。表現方法は自由であるが、プレゼンテーションそれ自体の技術や密度は、審査に当たっての主要な評価の対象とはされない。
2. プロジェクト名、建築用途、施主名（事業主体名）、工事予定期間、主体構造、主要仕上り材料、建築面積、延床面積。
3. 400字以内の設計趣旨文（省略してもよい）以上をA3判用紙（420×297mm）4枚以内にまとめたもの、パネル化は不可（クリアファイル等に入っている場合は審査時に取り外します）。設計者氏名、設計組織名は一切記入しないこと。2、3は添付書類に含めず1と共にA3判用紙に記述することに注意。

1996.07.08 作品受付締切

応募総数174点（昨年186点）

関西から、もしくは関西の物件が多かったようである。阪神大震災後の復興計画のあらわれか？

1996.07.18 審査

例年通り、鹿島出版会会議室にて行われた。

今年は特に実施可能な案である点に重点をおいて審査がすすめられ、審査の結果15作品が選ばれた。

1996.07.19 展覧会出展依頼

各入選者に入選通知と展覧会の出展依頼をする。出展依頼は以下の通り。

・模型

ひとつでも、分割されていてもよいが、全体で以下の制限以内とする。

大きさ：幅+奥行+高さ=5m以内／重さ：20kg以内／素材：自由

・ドローイング

枚数：自由。但し、合計の面積が2m²以内。／素材：自由

・図面

大きさ：B4判／枚数：6枚以内

1996.09.18 東京展開催（～09.29）

昨年と同様、代官山のヒルサイドフォーラムとアサクラギャラリーの3フロアを使用して展示。

会場構成はスタジオ建築計画。照明計画は角館政英／L.F.A.。

会場：ヒルサイドフォーラムF棟ヒルサイドフォーラム+アサクラギャラリー（東京都渋谷区猿樂町18-8）

1996.09.26 審査員座談会

展覧会場での作品展覧後、審査員の座談会を行う。座談会では各出展作品の講評と共に鹿島、朝倉、SDの3賞が選定された。3賞の入選者は以下の通り。

鹿島賞：

ユストス・ビザール+ペーター・ルーゲ／ビザール・ルーゲ・アーキテクテン（ハウス・ゾンネ）

朝倉賞：

高橋昌巳／シティ環境建築計画（土の自由被膜）

SD賞：

城戸崎和佐建築設計事務所（鈴木木材工業本社）

1996.09.26 展覧会レセプション・パーティー

座談会後、審査員、出展者を交えてのパーティーが開かれる。

1996.09.30 東京展終了

観測史上3番目の降水量を記録した台風17号に見舞われながらも、来場者数1,772人を記録。

1996.10.03 大阪展開催（～10.8）

今年から大阪芸術大学建築学科が中心となり、関西の若手建築家の意向を汲み、大阪展が、大阪芸術大学芸術情報センター展示ホールにて開催された。

期間中の来場者は約1,500人

来年以降も連続開催される。

1996.10.05 大阪展レセプションパーティ

関西の若手建築家が集まり、おおいににぎわう。

SDレビュー1996

第15回建築・環境・インテリアのドローイングと模型の入選展

〔主催〕

鹿島出版会SD編集部

〔大阪展主催〕

大阪芸術大学

〔後援〕

朝倉不動産株式会社

〔協賛〕

ノール・インターナショナル・ジャパン

〔審査員〕

香山壽夫（建築家、東京大学教授）

渡辺邦夫（構造家）

内藤 廣（建築家）

妹島和世（建築家）

〔東京展会場構成〕

元倉眞琴+スタジオ建築計画

〔東京展会場照明計画〕

角館政英／L.F.A.（ライトニング・フィールド・アン・シエイツ）

〔東京展会場構成〕

大阪芸術大学建築学科学生

〔作品写真撮影〕

堀内広治

泉 弘子

金子昌弘

（新写真工房）

〔東京展〕

会期：1995年9月18日（水）～9月29日（日）

会場：ヒルサイドテラスF棟 ヒルサイドフォーラム

〔大阪展〕

会期：1995年10月3日（木）～10月8日（火）

会場：大阪芸術大学芸術情報センター展示ホール



審査風景

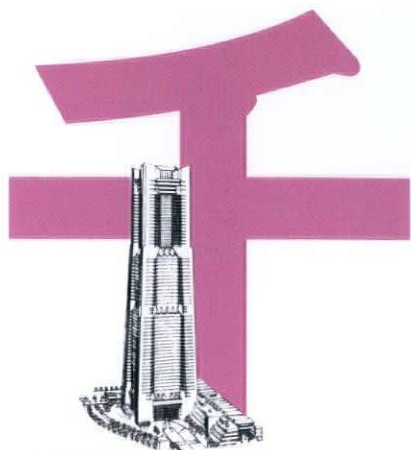


東京展会場風景



大阪展会場風景

いろいろな未来を乗せています。



夢の分速1,000mを目指して。

乗用エレベーターで世界最高速、ただいま分速750m。高層・高速エレベーター
横浜の新しい顔、ランドマークタワー。そのビル内交通を支えるのが、私たちの
エレベーターです。現在、乗用としては世界最高速。高性能・省エネルギーの最新
インバータ制御方式を採用し、安全性についても最先端技術を結集しています。



カタチが変われば、気分も変わる。

そこで、途中でほっと一息つける工夫をしました。踊り場付きエスカレーター
長くて急なエスカレーターの、あの不安な視界をやわらげたい。そこで、私たちは
エスカレーターに踊り場を設けました。生まれたものは、今までにない安心感。
子供からお年寄りまで、すべての人に快適を。三菱電機のひとつの答えです。



近ごろの空間設計は、千差万別。

それでは、こんなフォルムはいかがでしょうか。スパイラルエスカレーター
あなたはお乗りになりましたか。三菱電機ならではの技術が生んだ、カーブを
描くエスカレーター。ショッピングセンターを始めとする、全国の様々な施設で
大活躍。動くほどに変わってゆく光景と広がる視界が、なかなかの評判です。

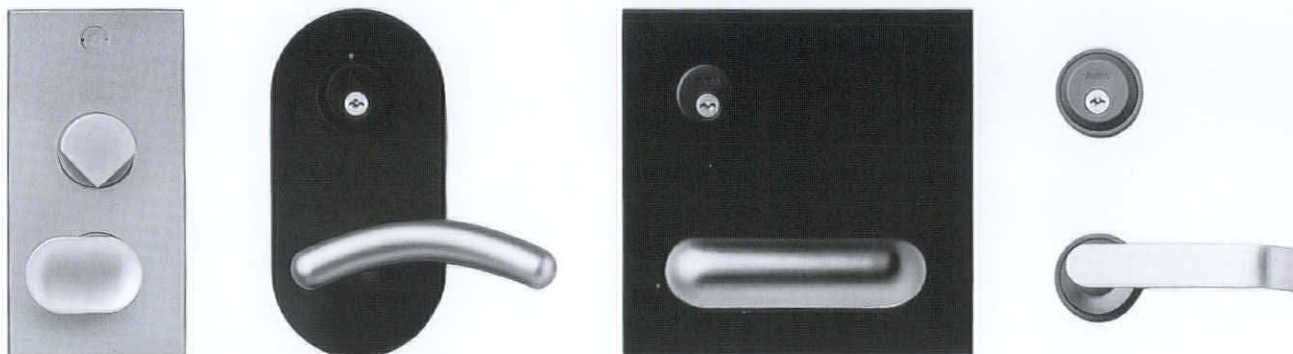


ビルにあわせてお化粧するエレベーター。

乗って、眺めて、ますます楽しい乗り物になりました。展望エレベーター
美しいビルに気付いたら、エレベーターにもご注目を。きれいにお化粧した展望
エレベーター。単なる移動手段をこえて、ビルの空間に溶け込む、美しい乗り物へ。
多様化するビルとともに、個性豊かに進化していく三菱電機のビル内交通です。

あんなこと、こんなこと。ビル内交通の“もっと快適”を実現します。
三菱電機のビル事業

なぜINTERFACEは



いい製品だけを心掛けてきたMIWA。

ロックには、まず破壊攻撃に対する対破壊強度、耐久性、豊富なカギ違い数という3つの基本性能が求められます。その上で、いいロックであるためには、用途に合わせた幅広い機能、使いやすさと建物との調和を考えたデザイン、さらには滑らかな作動感や音質、多彩なキーシステムなどをできる限り盛り込んだ、完成度の高いメカニズムが必要です。もちろん安心してご使用いただくための品質管理、販売、アフターサービスなどソフト面の充実も欠かせま



せん。MIWAはこのすべてを満たすことに全力を投入してきました。

時代を先取りしたロックINTERFACE。

ロックはさまざまな用途や要望によって細分化され、現在では実に多くの製品がつくられています。もちろんすべての製品は、今の社会が必要としているものばかりです。しかし決して現状に満足しているわけではありません。私たちは今の時代にふさわしいロックをあらためて考え、さらに1歩前進させるために3つのコンセプトを見つけました。それはボーダレス時代に備え、国際的に通用するロックにすること。高級化する建物に即した機能、性能、感性を備えた本格的なロックにすること。そして利用者にとって選びやすく、取り付けやすいロックにすることです。この3つの要素を満たすには、まず国際的な規格に適合させることが必要です。しかし、残念ながらロックには世界共通の規格がありません。そこで私たちは性能基準が厳しく、システムチックに整備されているアメリカのANSI規格（米国国家規格協会）に着目しました。

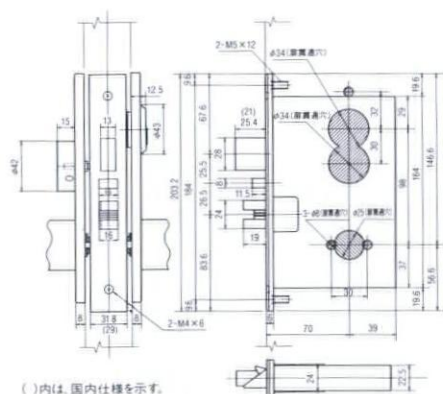
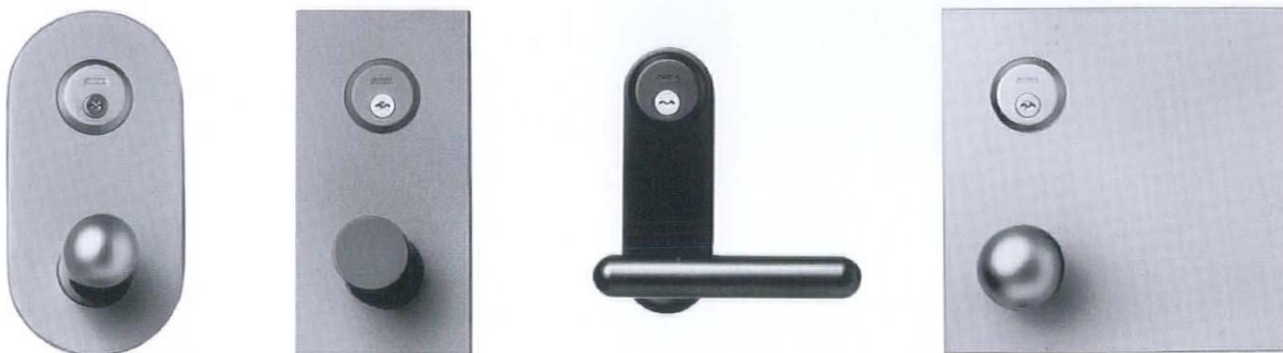
●ANSI規格は厳しい性能基準を規定。

ANSI規格はロックの実用性能試験、防犯性能試験、耐久性能試験、仕上性能試験について厳しく規定しています。その内容のレベルは非常に高いのですが、MIWAでも同じような研究を継続的に行ってきたので、努力の結果クリアすることができました。もちろんINTERFACEはこの規格のすべてに適合させて、信頼性を実証しています。

●ANSI規格は切り欠き寸法を規定。

ANSI規格には寸法基準があり、施工性を向上させています。玄関ドアから室内ドアまですべての錠ケースとストライクは、規定の切り欠き寸法に合致しなくてはなりません。ですから、扉と枠の加工が錠機能の決定前に行え、錠機能の変更もケースの交換だけで済みます。また、この規格はアメリカのものだけに、日本の一般的なドアには適さない部分があります。そこで、国内のドアの仕様に合わせたフロントの幅、デッドボルトのストロークなどを盛り込んだ、国内仕様のケースも用意しました。もちろんANSI規格のメリットはそのまま確保しています。

生まれたのか。



●ANSI規格はロックの機能を統一。

ANSI規格の最大の特長ともいえるのが、錠機能の記号化で、20数通りの機能がシステムチェックに構築されています。たとえばルームドア錠は『F21』、ホテル錠なら『F15』というように、部屋の用途に合わせた機能の指定が、メーカー間共通の記号で行えます。

INTERFACEの安心を支える『U9』。

ANSI規格では特に規定されていませんが、けっして無視できないのがロックの生命ともいえるシリンダーです。INTERFACEとはほぼ同時

期に完成した主力シリンダー『U9』は、約1億5千万通りの膨大なカギ違い数を得たので、多彩なキーシステムにも対応できます。しかもキーシステムの構築によって起きる、急激なカギ違い数の減少ありません。もちろん不正解錠に強く、カギの質感もよく抜き差し感が滑らかになりました。

U9



格調を重視したシステムチェックなデザイン。

このようにANSI規格への適合をはじめ、操作感や音質などにまで配慮してメカニズムを磨き上げましたが、もうひとつ大切な要素があります。デザインを忘れてはなりません。人の感性に訴え、高級化する建物にも対応する格調高いフォルムを用意するために、私たちは一流デザイナーに協力をお願いしました。モジュール化されたレバーハンドル、ノブ、エス

カチオンは自由な組み合わせができ、カラーを含めると660ものバリエーションが得られます。選択の幅をより広げることで、それぞれの個性やセンスが表現でき、組み合わせること自体が楽しめるようになりました。これがMIWAの自信作INTERFACEです。今後もデザイン展開などを含めて、さらに充実したシリーズに育てていきます。

記号	用途例または一般名称	略図	機
F01	空錠	 室外側 Exterior side 室内側 Interior side	常時、内外のハンドルでラッ
F02	個室 寢室 浴室錠		ラッチボルトは内外のハンド/ムターン、外からは非常開錠
F21	一般居室用		ラッチボルトは内外のハンド/ムターン、外からは非常開錠
F22	個室 寢室 浴室用		ラッチボルトは内外のハンド/ムターンの操作で施錠され、1のハンドル操作により外ハン

※INTERFACEカタログをご希望の方は、美和ロック株式会社までご請求ください。

INTERFACE

清らか、
爽やか、
和やかな環境づくり。



■空調設備工事 ■給排水衛生設備工事 ■給湯設備工事 ■その他建築付帯設備工事

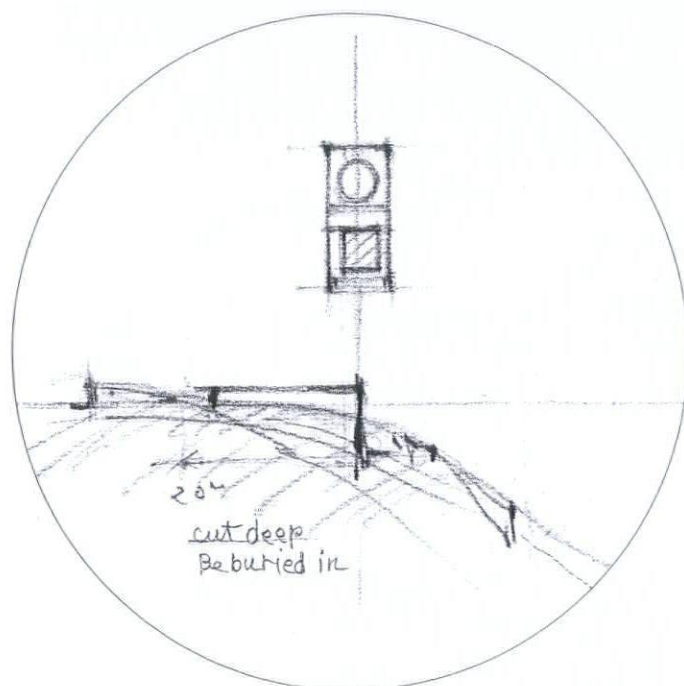
ヤナセ設備工業

good new days
人間らしい美しい未来を

ヤナセ

株式会社ヤナセ設備工業
〒105 東京都港区芝浦1-11-4
電話(代表)東京(03)3455-8091

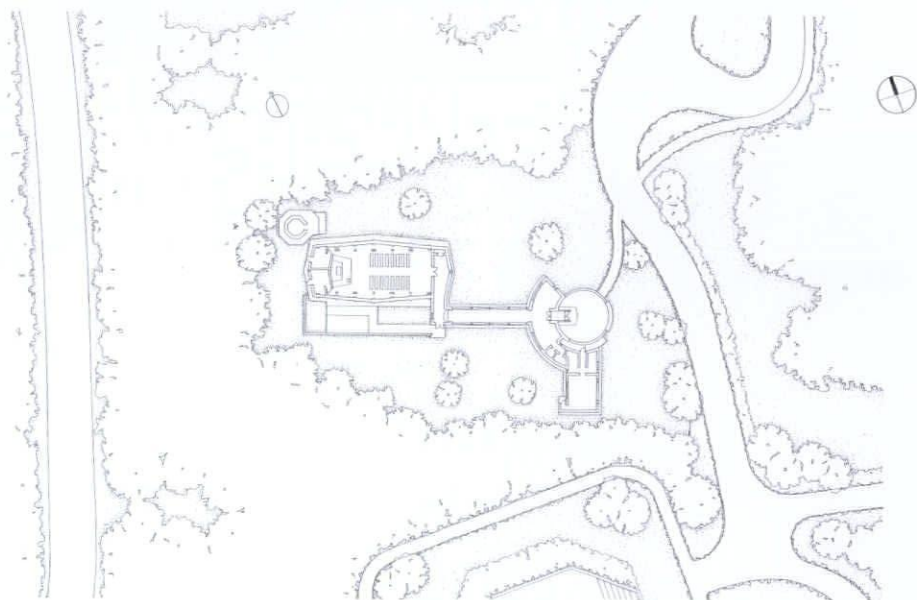
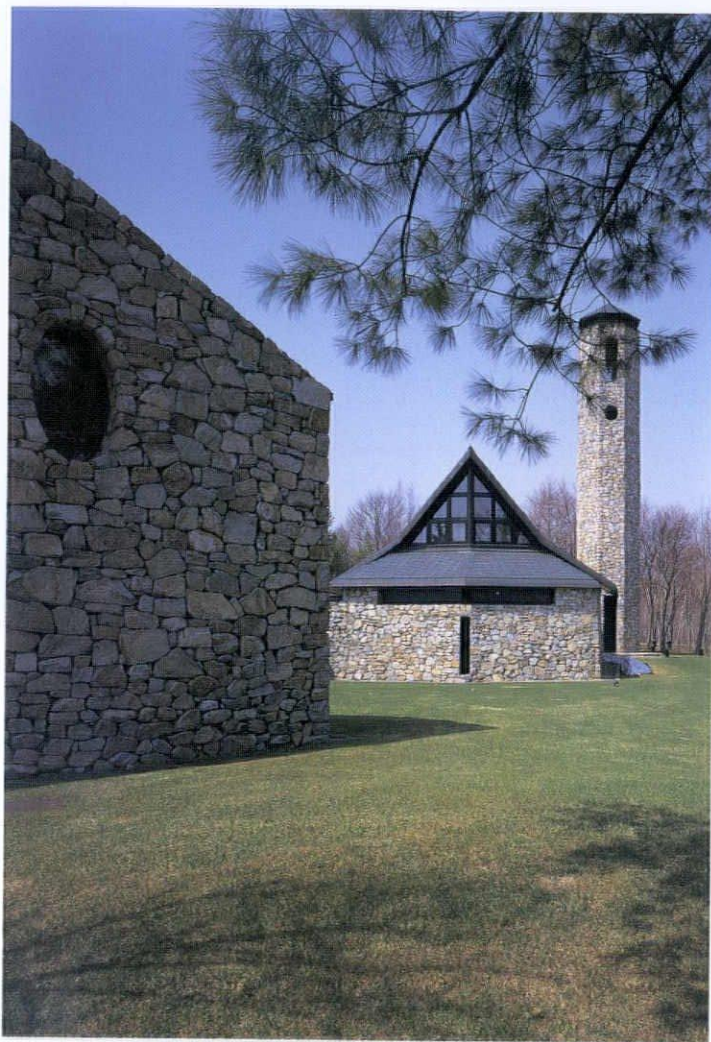
伊丹 潤の近作より
石彩の教会、木の教会、土の教会



〈土の教会〉のスケッチ

石彩の教会

苫小牧、北海道 1991



配置図 S= 1:1200



断面图 S=1:400

この建物は、北海道苫小牧市の南部にあり、西側を恵庭、樽前山地と東側を夕張山地に連なる丘陵に囲まれた平原に、ホテル・ニドムと共にある。

最初に現地を見て直感的に、この風景に拮抗し耐えられる建築、そして時代を超え「廃墟たりうる建築」という不変への言葉をかみしめた。この茫洋とした地に、冬の寒さは厳しい。人の手垢のついたものは、ひと冬で惨めなものになるであろう。点と線による構成では、この周囲の風景に消し飛ばされる。

漠然としながらも、足元がしっかりした塊のような建築をを考えていた。それには強靱な祈りを込めた造形感覚が基底になくはないということが、この仕事の私のテーマでもあった。

ここを訪れる人は、まず、分厚い石で敷き詰められた円形の前庭に立ち、その円形に従って、曲線を

描いて石を積み立てた壁を見上げる。その内部には、扇形の平面をもつ空間がある。その中心部から軸線上に低めに石積みされた長さ18m程度の廊が見える。突き当たりは、桧のムク材の楕円形の窓と黒色の鉄の金属壁しか見えない。

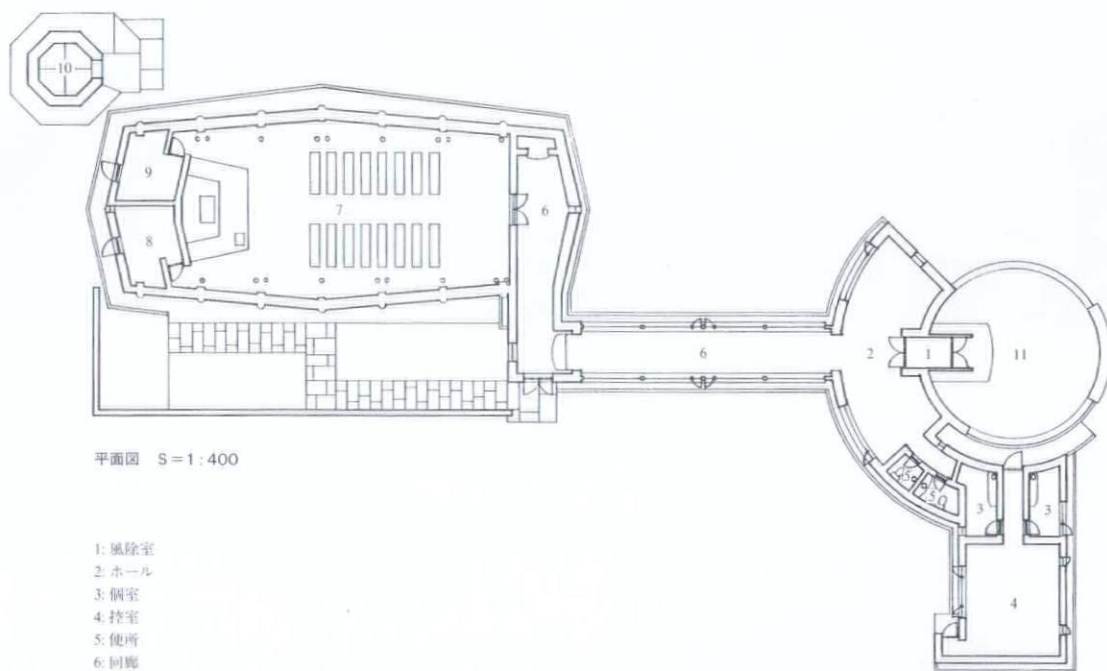
歩くにつれて、横に一気にずらし込みながら配置された前室をもつ礼拝堂がある。人はその前室に向かうときは、廊より90度振られた空間から歩くことになる。その空間は、まぎれもなく、礼の空間に対して、過去の伝統や文化をふまえた作法としての行為といえる。

25m×10mの横に先端をもって孕むその礼拝堂に向かう所々から、八角形の平面をもつ高さ23mの屹立する鐘楼が見え隠れする。人が荒々しい割石の前庭から礼拝堂に導かれるにつれて、風の音や木の葉の音

が徐々にではあるが消されていく。そして人は礼拝堂の石割の空間と相対したとき、自然の音も遮断された静と寂を感知する。

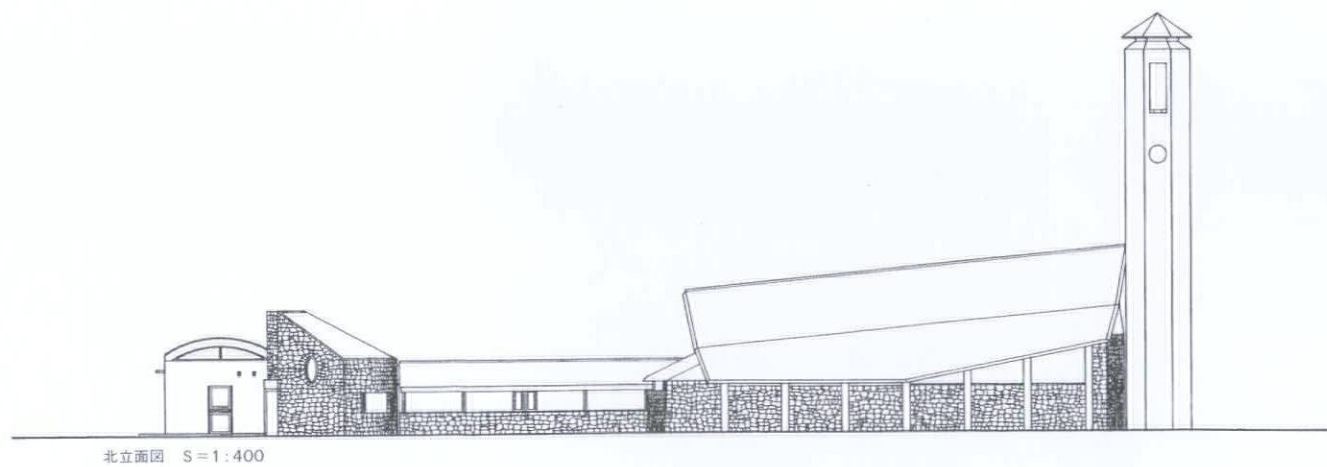
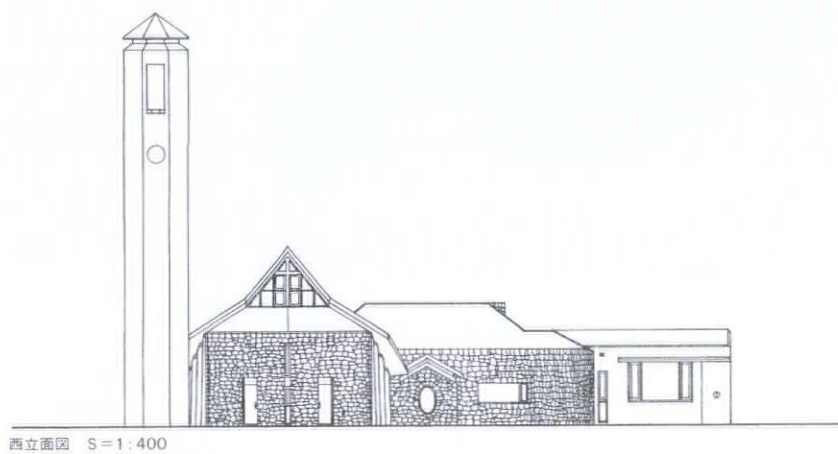
私にとっての聖なる空間は、この教会を通していまだ思惟の暗闇のなかに漂っているのだが、しかるべき場に、形態を超えて、石を積み立て、木を立てるという初源的な造形のうちに、石そのもの、木そのもの、さらに場所へと強い意味作用を求め、素材の独自な質感を引き出し、組合わせながら抽象化していく。

〈彫刻家のスタジオ〉(1985年)以来、切り砕かれた石を外部に、造形として、あるいは石の群風として見立て、その現代建築に抱え込んだ。いわば、建築と「石の群風」との照応とした。

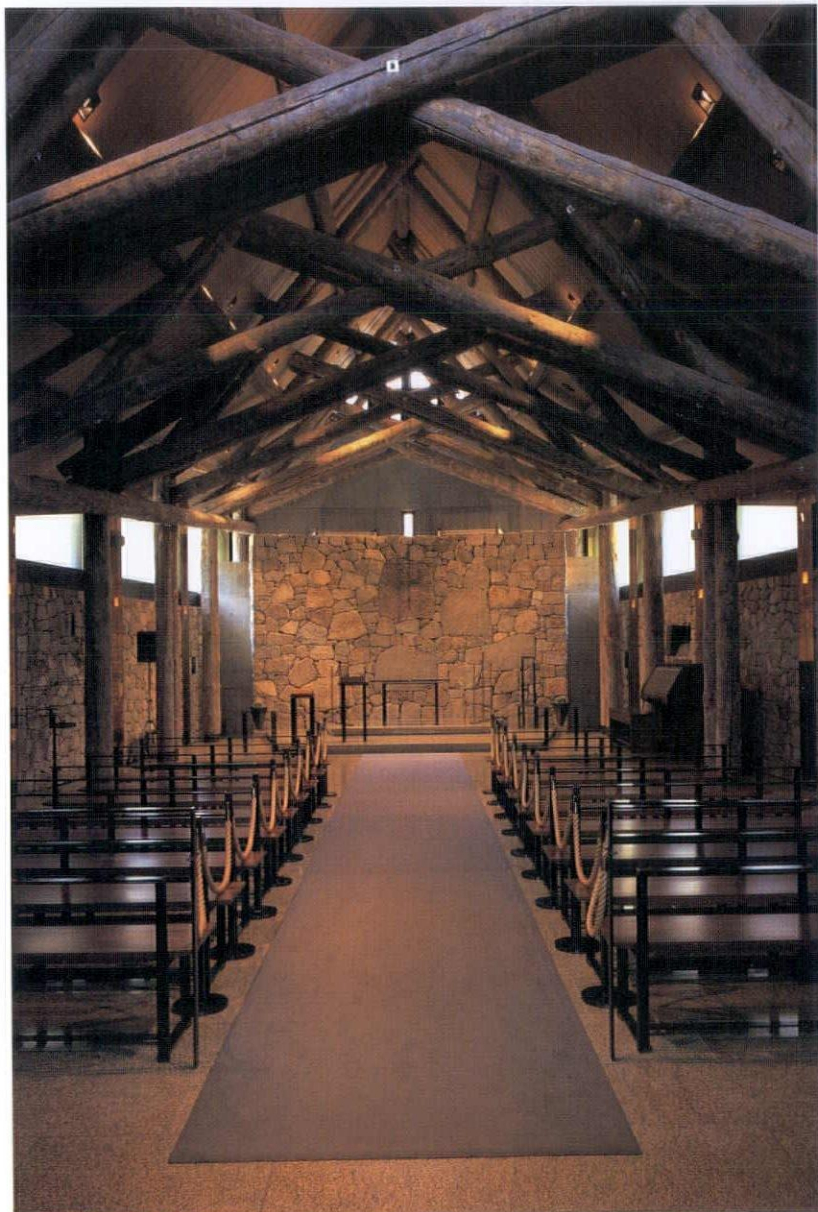


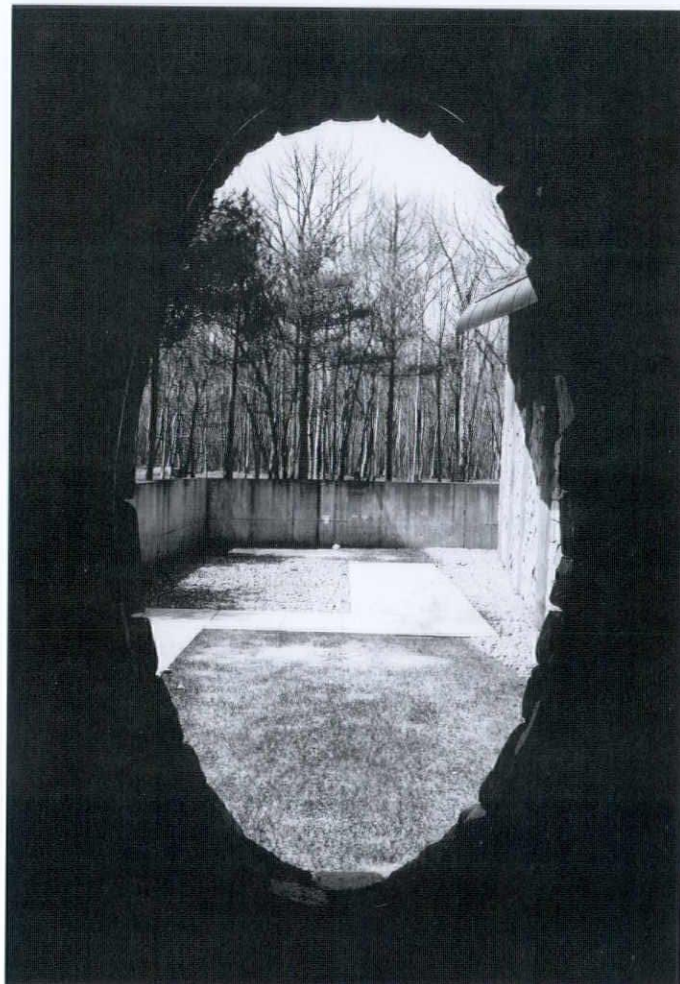
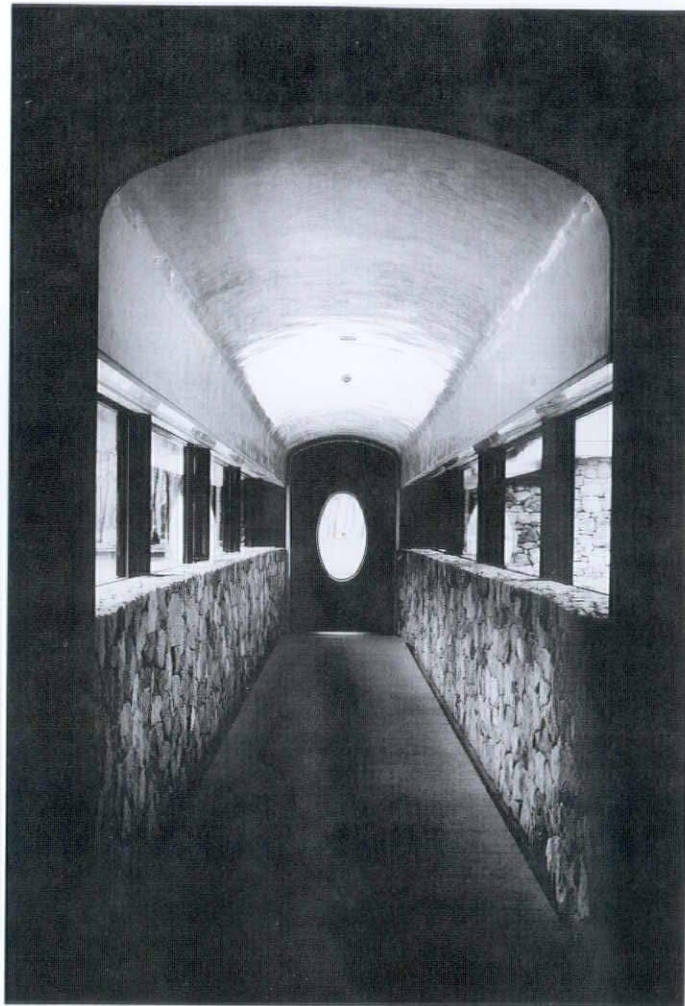
平面図 S=1:400

- 1: 風除室
- 2: ホール
- 3: 個室
- 4: 控室
- 5: 便所
- 6: 回廊
- 7: 礼拝堂
- 8: 牧師控室
- 9: 機械室
- 10: 塔
- 11: 円形広場





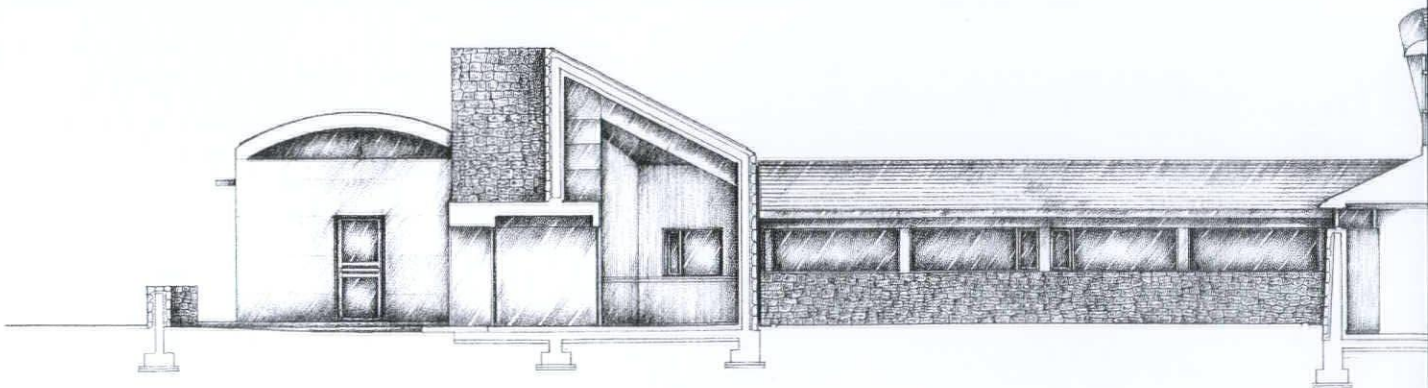
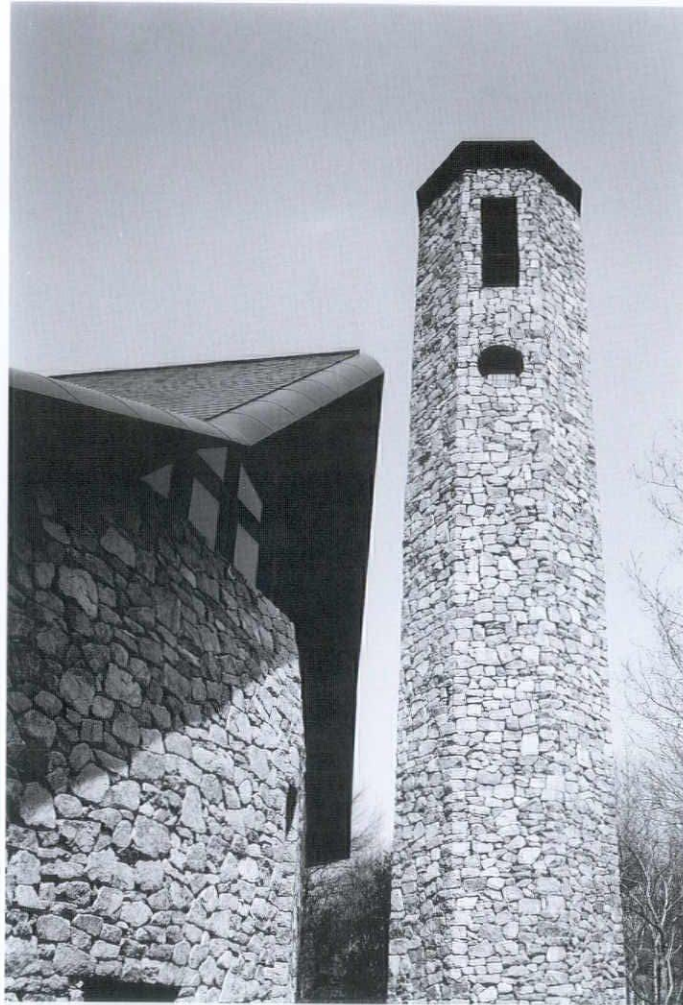


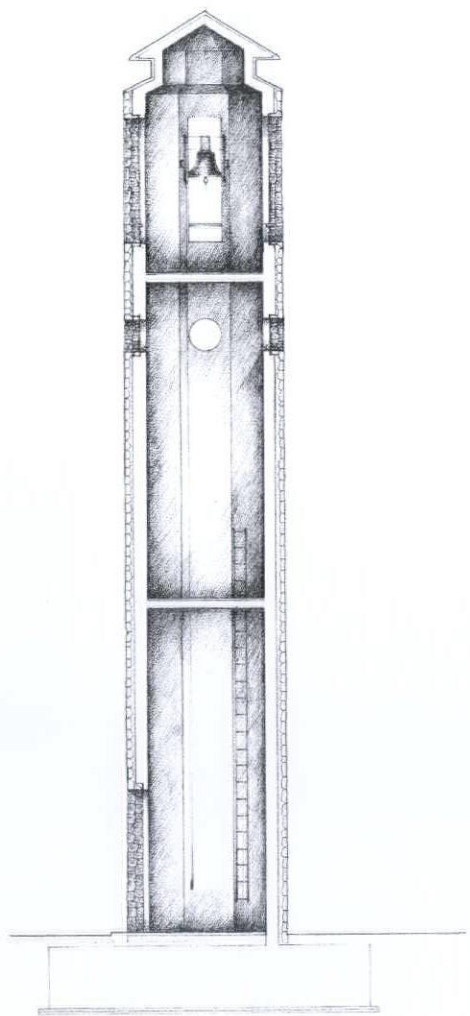
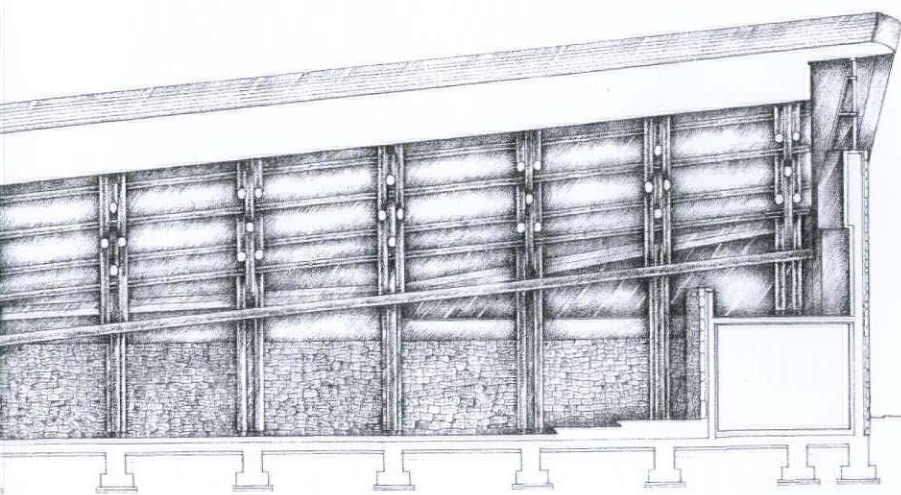












木の教会

苫小牧、北海道 1996

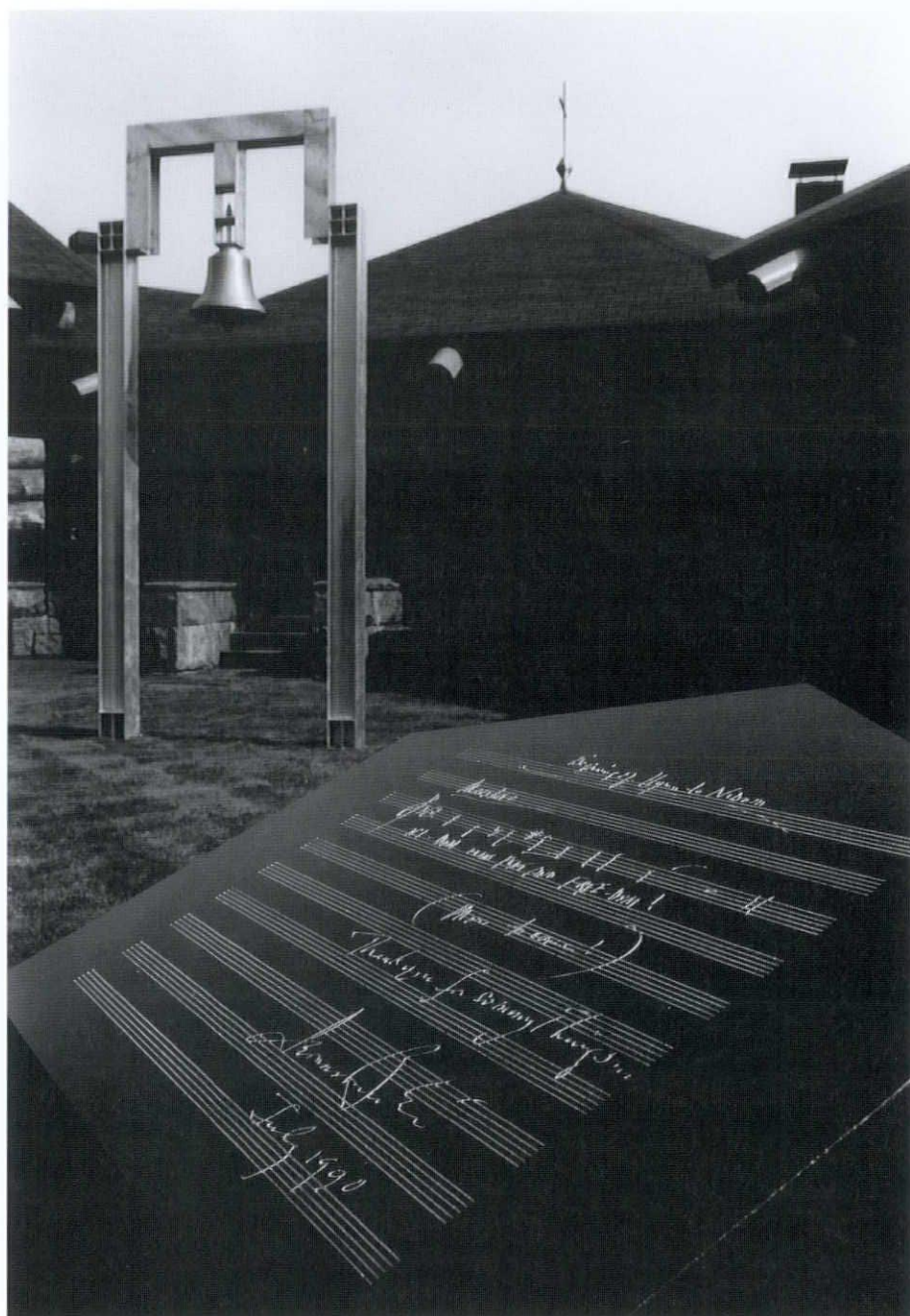
建物は北海道の南、苫小牧東、ニドムの森に位置し、1991年に完成した〈石彩の教会〉と対をなす〈木の教会〉である。

この教会は、通称〈レナード・バーンスタイン記念館〉と名付けられ、音楽家、指揮者のバーンスタインに因み、小さな室内楽コンサートホールの機能を兼ねる教会である。彼はこの地、ニドムの森を深く愛しながら、まもなくしてこの世を去るが、それを記念し、宿泊した部屋を遺し増改築された建築である。フィンランドのエスコ・レエモラ建築事務所がログ・キャビンを完成させ、結果的には共同設計とあいなる。

建築家が、個人のイメージで何から何まで作り出す今までの仕事と違い、個人の考えを出発点としながらも、自分以外のものと共同に関わり合いながら、それを活かし切り、表現する。つまり、自分以外の要素と、どう関わり合うかという設計行為は、今までの個人を解体しながら、私の個性ということから我を見直すことに他ならない。その意味においては、実に面白い経験と言おうか、新しい発見をしたと言える。既に小屋として完成されたであろう「物」に新しい意味を与える建築家としての作業は、あたかも音楽でいう指揮者のような役割だけを果たす。「物」をいかに改造するかは、「つくる論理」ではなくて「使う論理」に強いられていく。

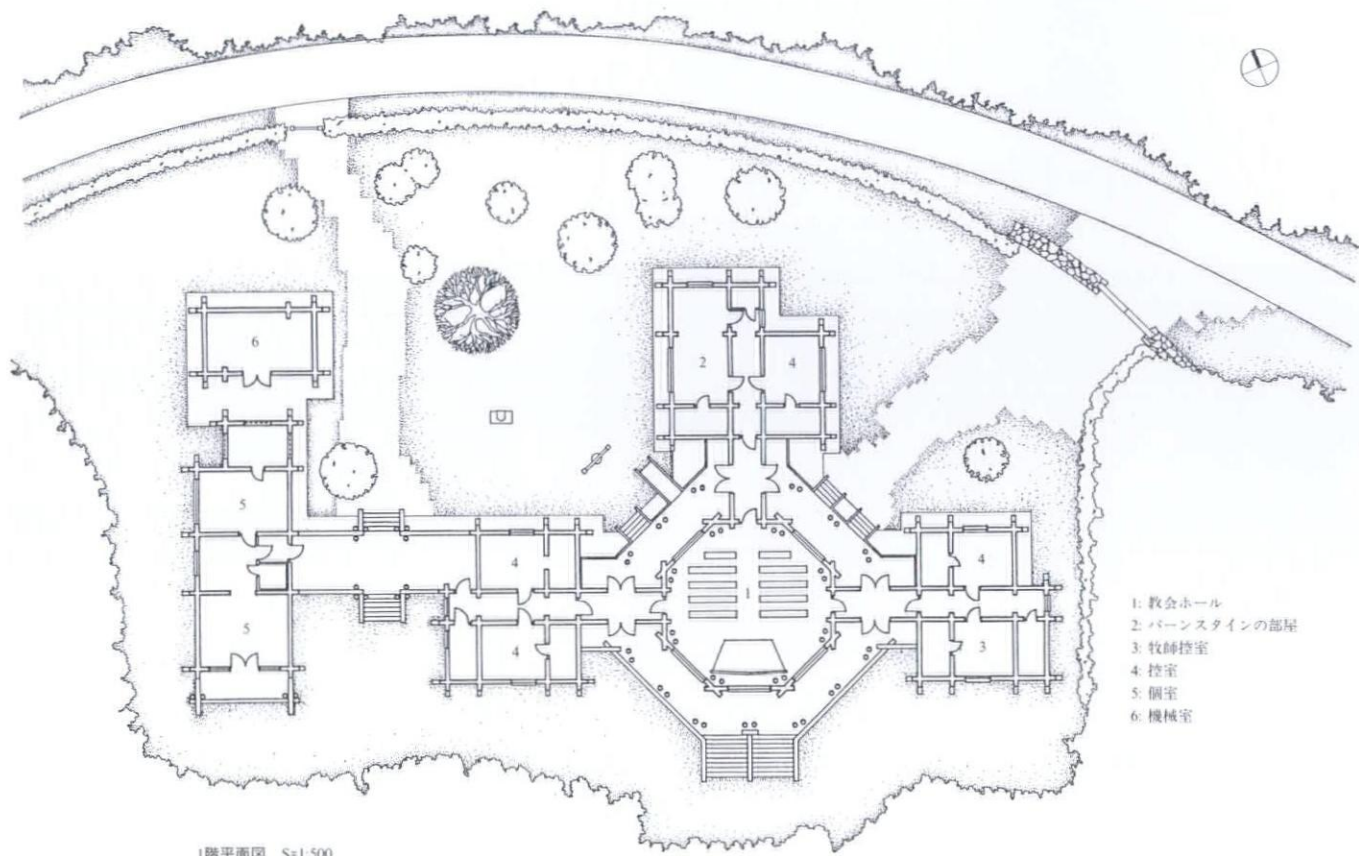
非凡を好む人は、美を積極的につくることを作家に強いることを考える。平易から生まれてくる美を認めようとはしないが、事実は不思議さをもつ。歴史を超えて、凡てとっていい美しき建築は、自然に実に従順だったもののみである。見え見えの作為よりも、自然の方が一層驚くべき結果を産むといていい。人の智も、自然の叡智の前にはなお遠いのかも知れない。

全体的にいえば、自然そのものの環境で自然を一体化し、建築を森の中に埋設させていく、外部性をもつ建築といえるだろう。



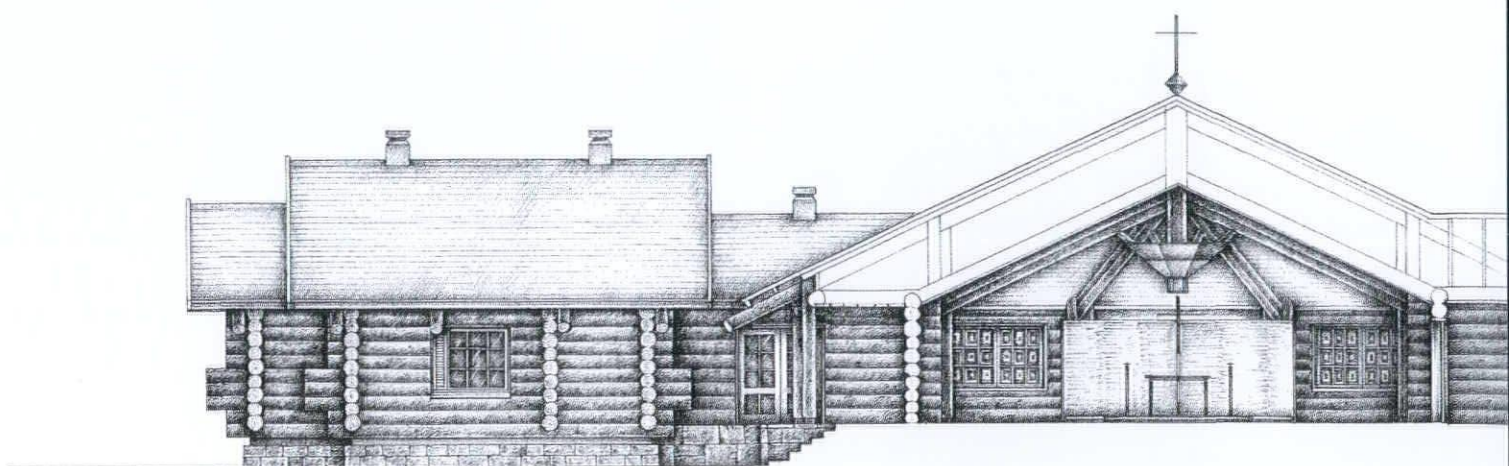
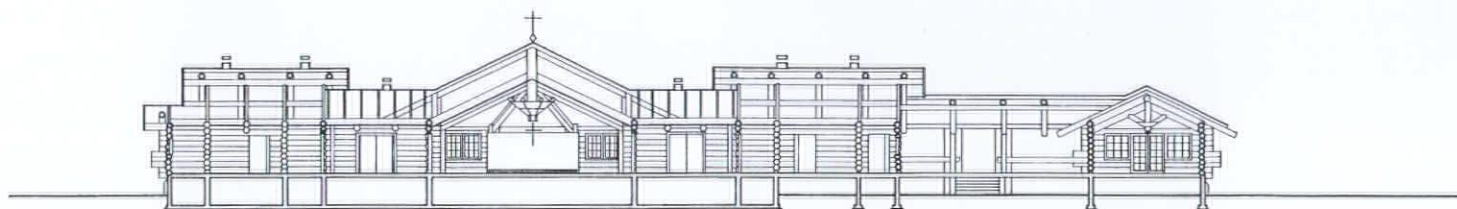


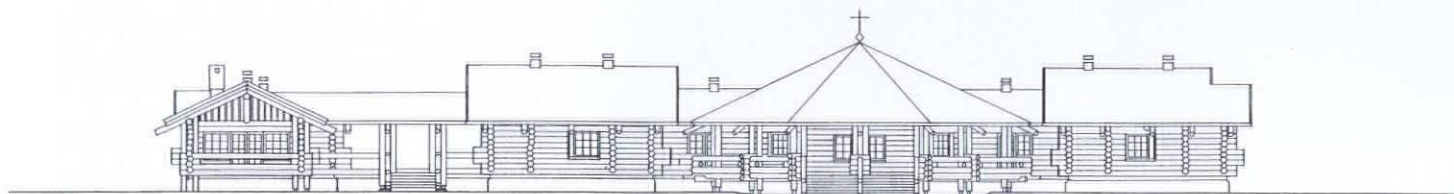




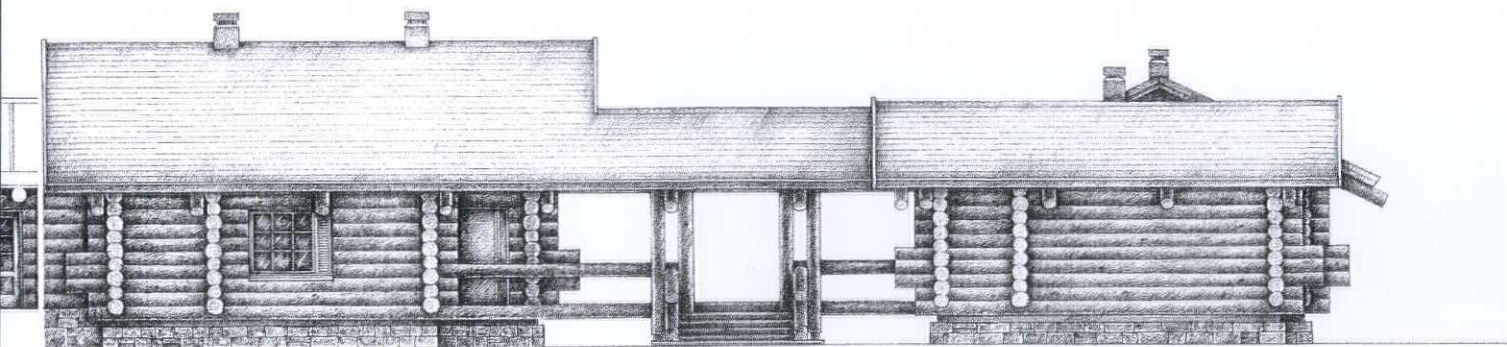








南立面图 S=1:400







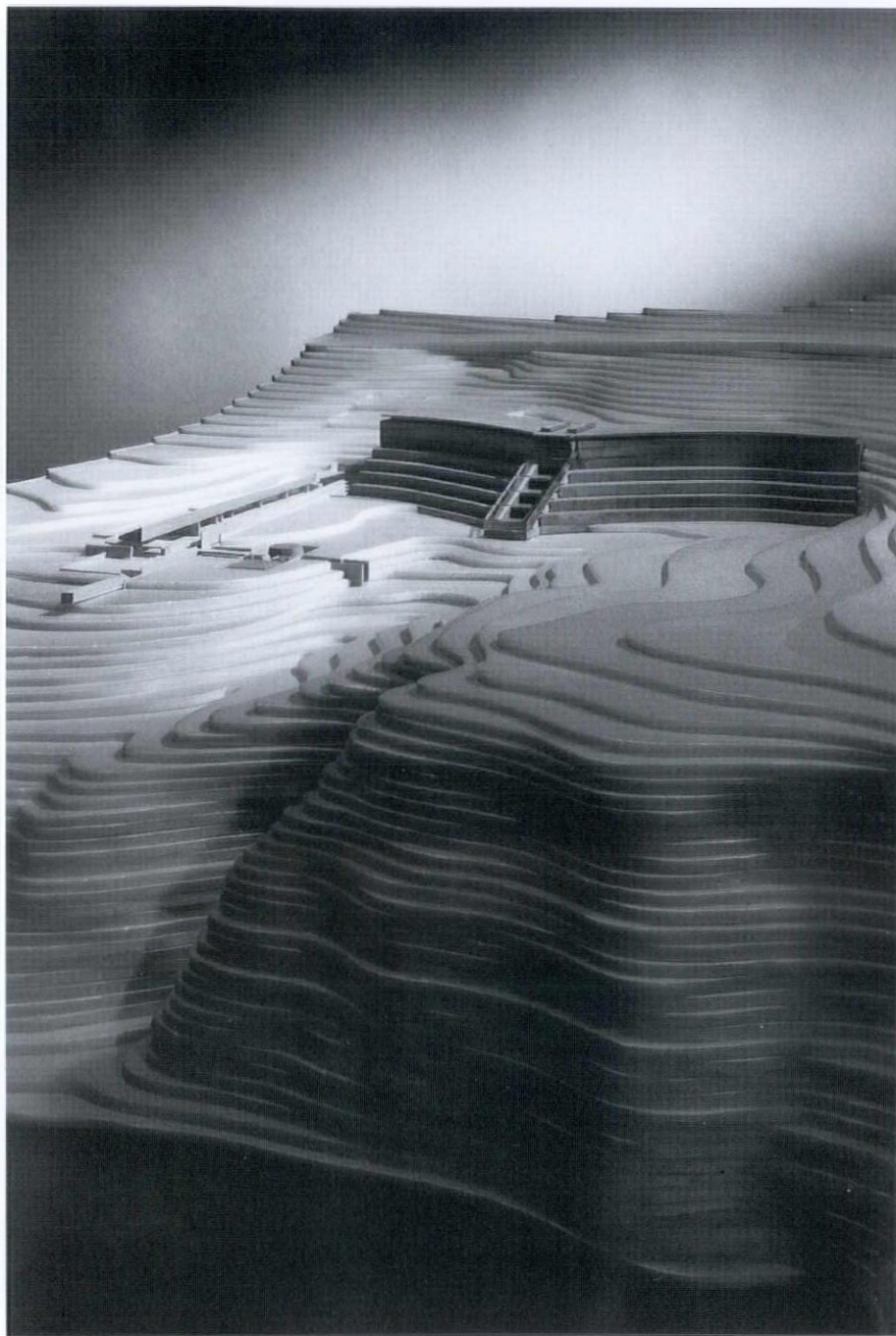
土の教会と三梅園プロジェクト

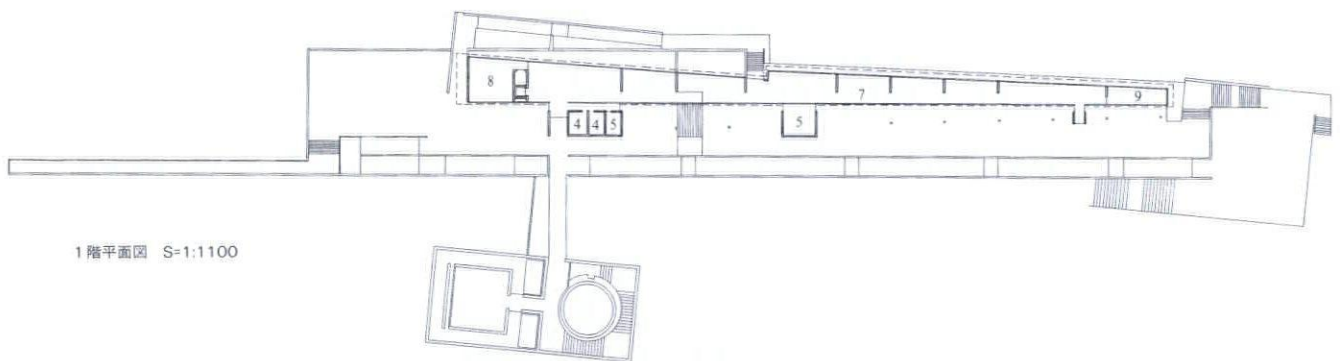
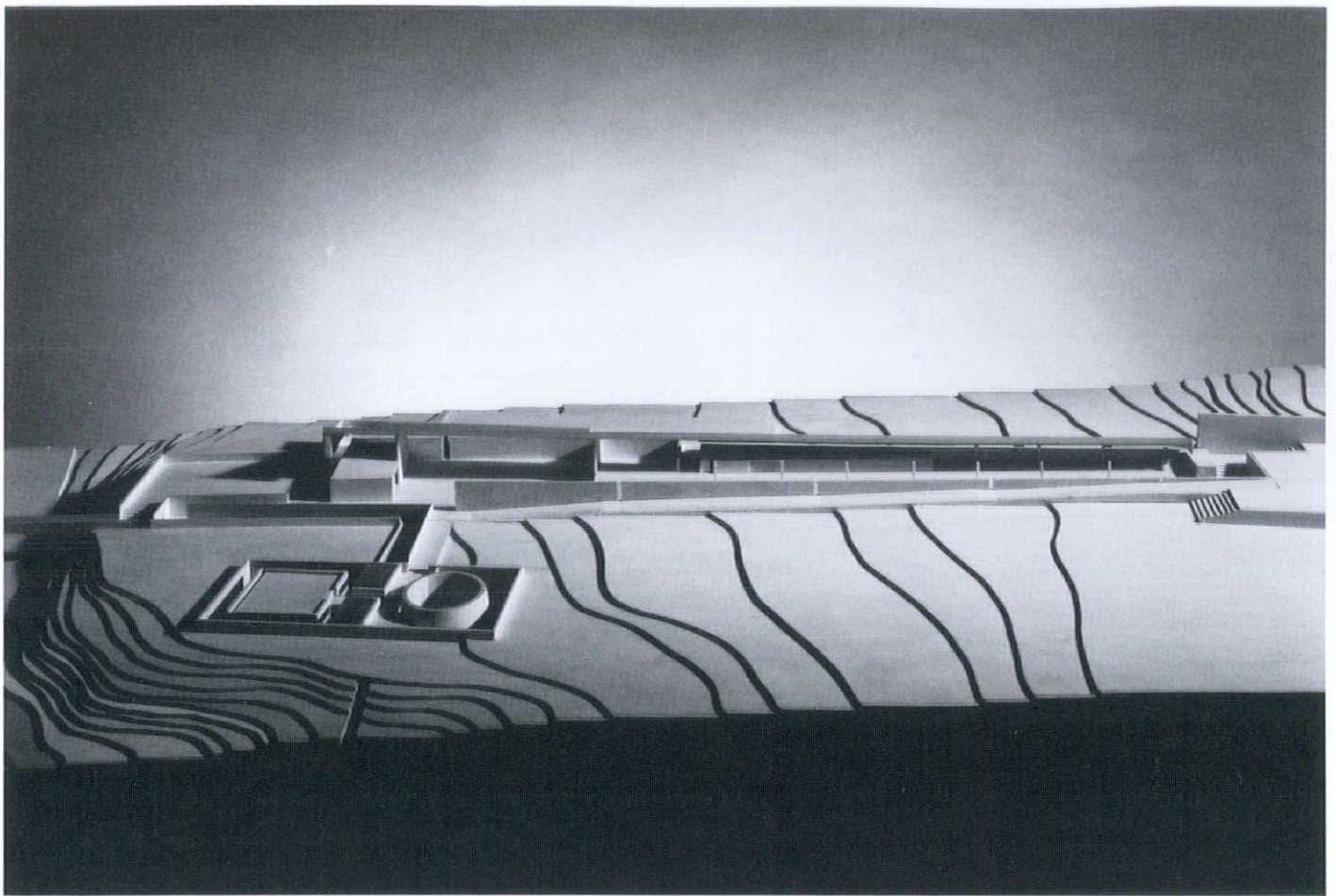
済洲島、韓国 2001

自然、つまり海と空という壮大な、無限定な、茫とした空間に、建築という「物」を配置させようとする場合、どうしても言葉が自然に対して華麗になりすぎ囁っぽくなる。ましてや、自然と対話と言うが、自然と対話できる極意などはなかなかない。せめて「自然は人間のパートナー」として接する努力が肝心と胸に刻むことにした。

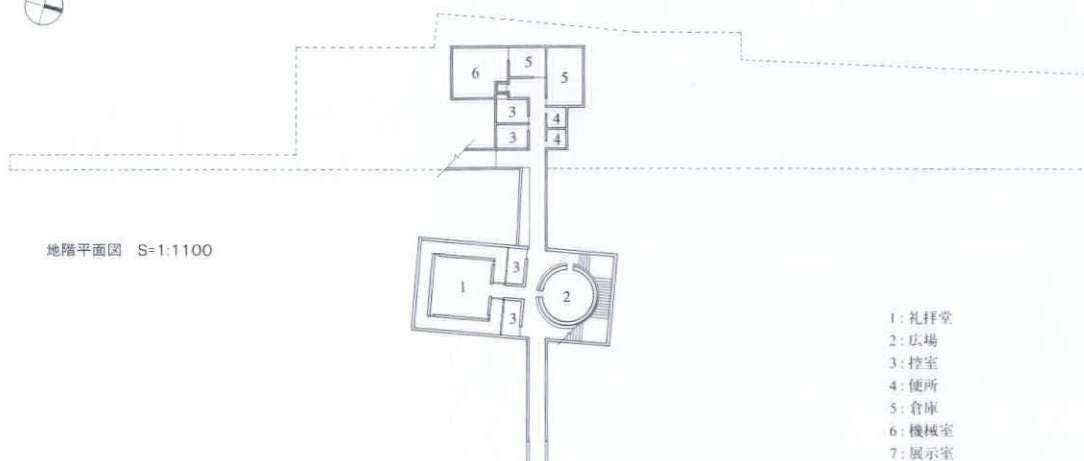
敷地は韓国の済洲島の日本に近い南部の小高い丘陵地帯に位置する。海に面し南斜面であるこの地帯は、自然が豊かで、月並みだが緑が多い。海と大空を臨むことができる。この優れた環境と自然をいかに活かし切れるか、人の手を最小限に加えながら、恵まれた自然と「物」を融合させるかを追求した。このプロジェクトは、リゾートホテルを主軸に据え、通路としても機能する美術館、そして教会で構成されている。ホテルの形態は、この地の強い風を意識し、造形で押し切ることなく、V字型の建築を目指した。形態を全体的に敷地の斜面に沿って、セットバックさせながら集合させ、屋上には庭園を設け、周辺の緑に埋設させたいと意図した。海に沿って南斜面という好条件を活かして屋上庭園を配することで、「物」としての建築をいかに控えめなものに見せるか、大きな課題としている。

土の教会は、〈ロング・シャドウ〉、つまり長い影と名付けられた美術館に連結していて、あたかも、ホテルと教会のための芸術に包まれた通路としても機能させた。この地面に埋設されるであろうこの教会は、地下建築を目指しながら、私は、このプロジェクトのシンボルとして据え、その表れ方を最小限に限定して、そこに教会が存在するという事実の人々が気づく、そんな何かであればいいと楽しげに考えている。また個人の主張、あるいは個性ということから少し距離を置きながら、思想的な環境づくりを表現したい。



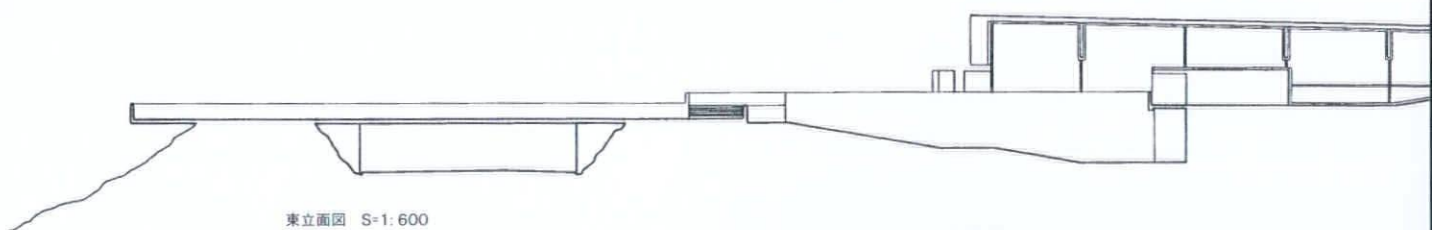
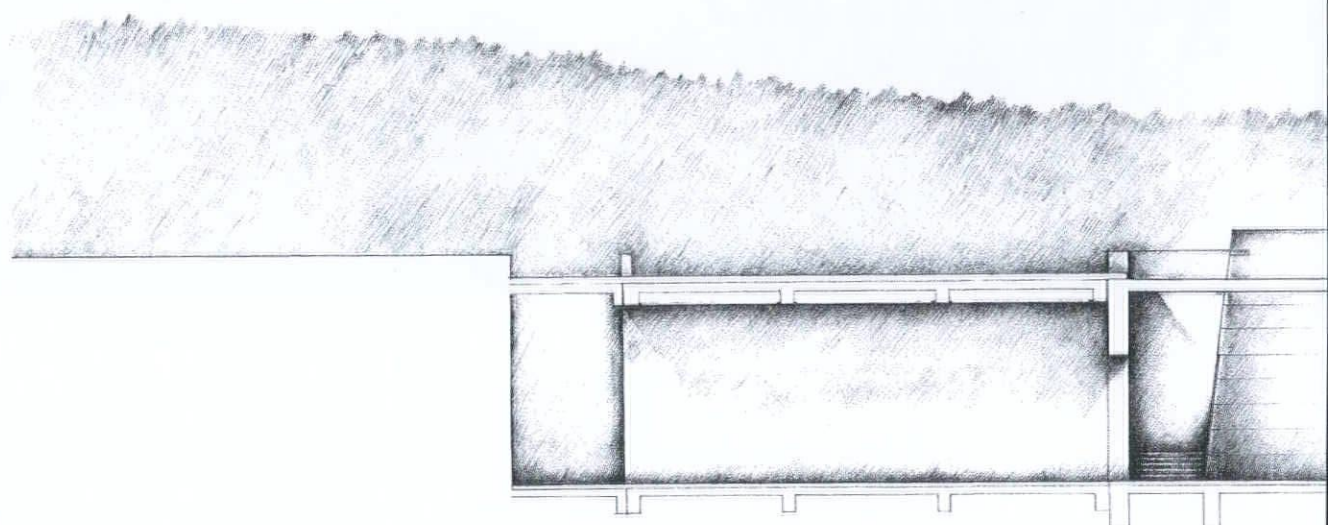
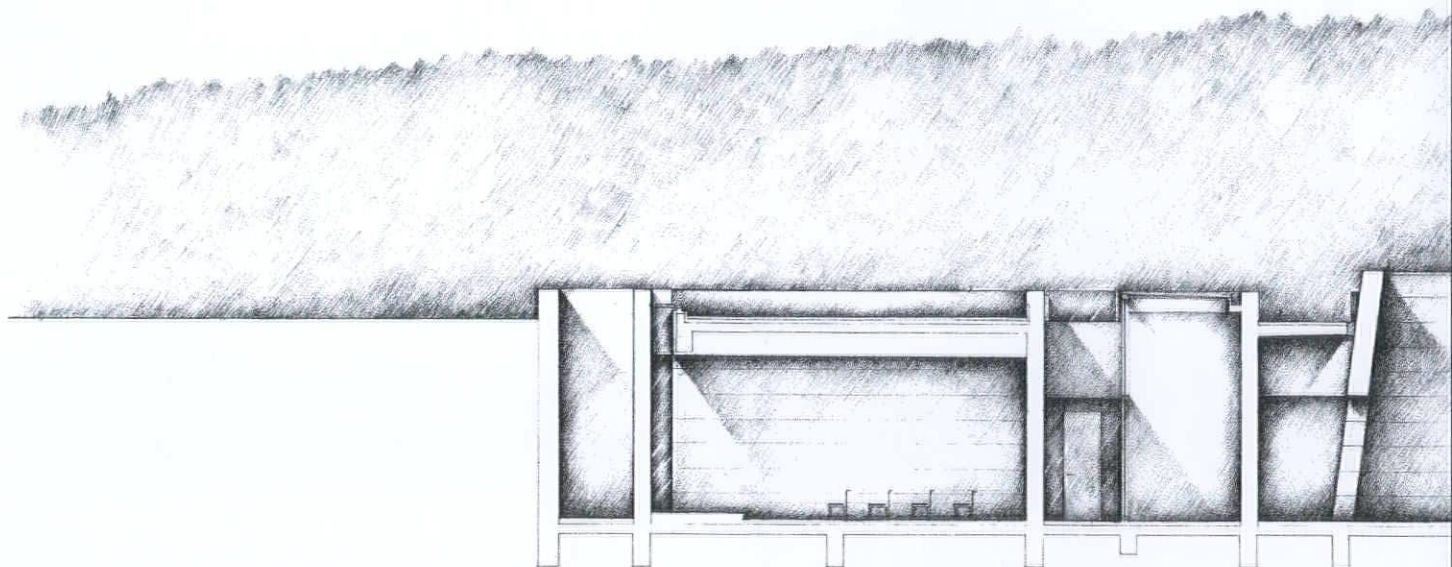


1階平面図 S=1:1100



地階平面図 S=1:1100

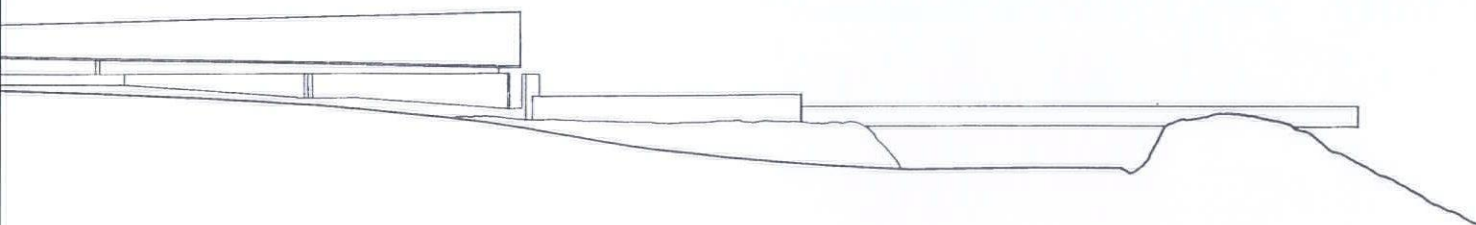
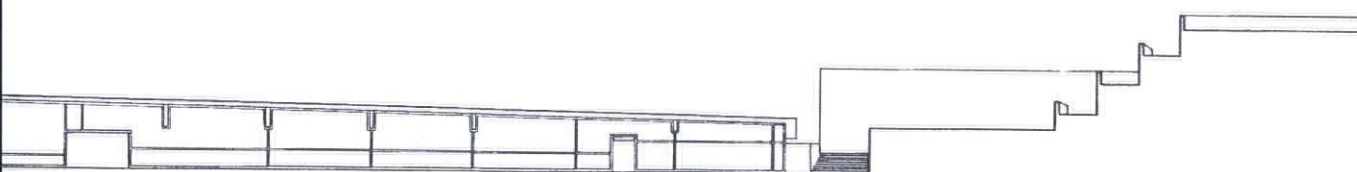
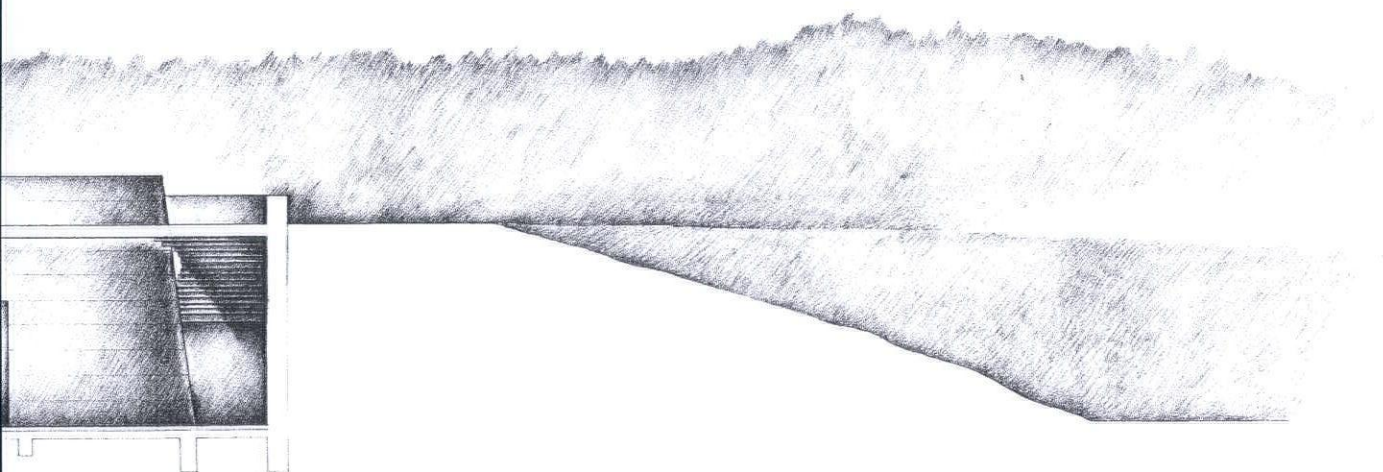
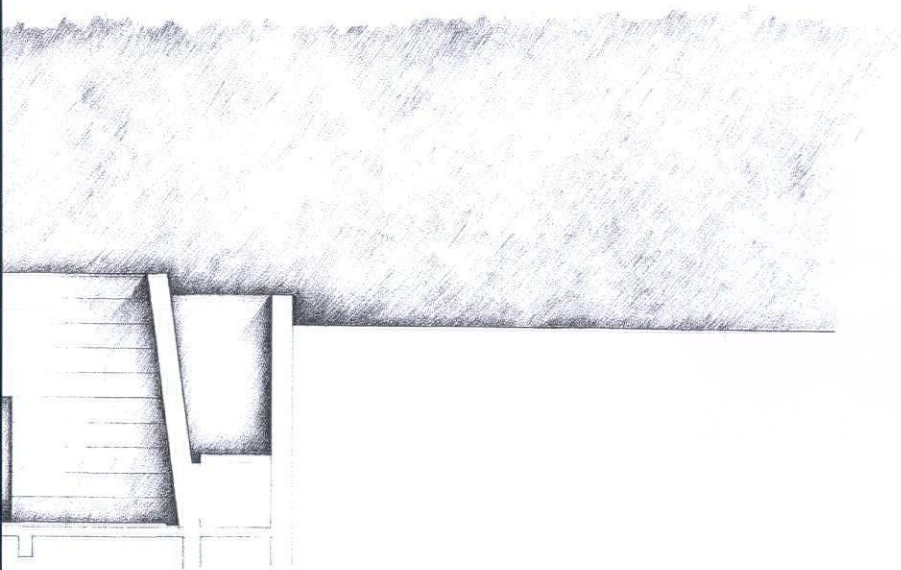
- 1: 礼拝堂
- 2: 広場
- 3: 控室
- 4: 便所
- 5: 倉庫
- 6: 機械室
- 7: 展示室
- 8: レクチュア室
- 9: 事務室

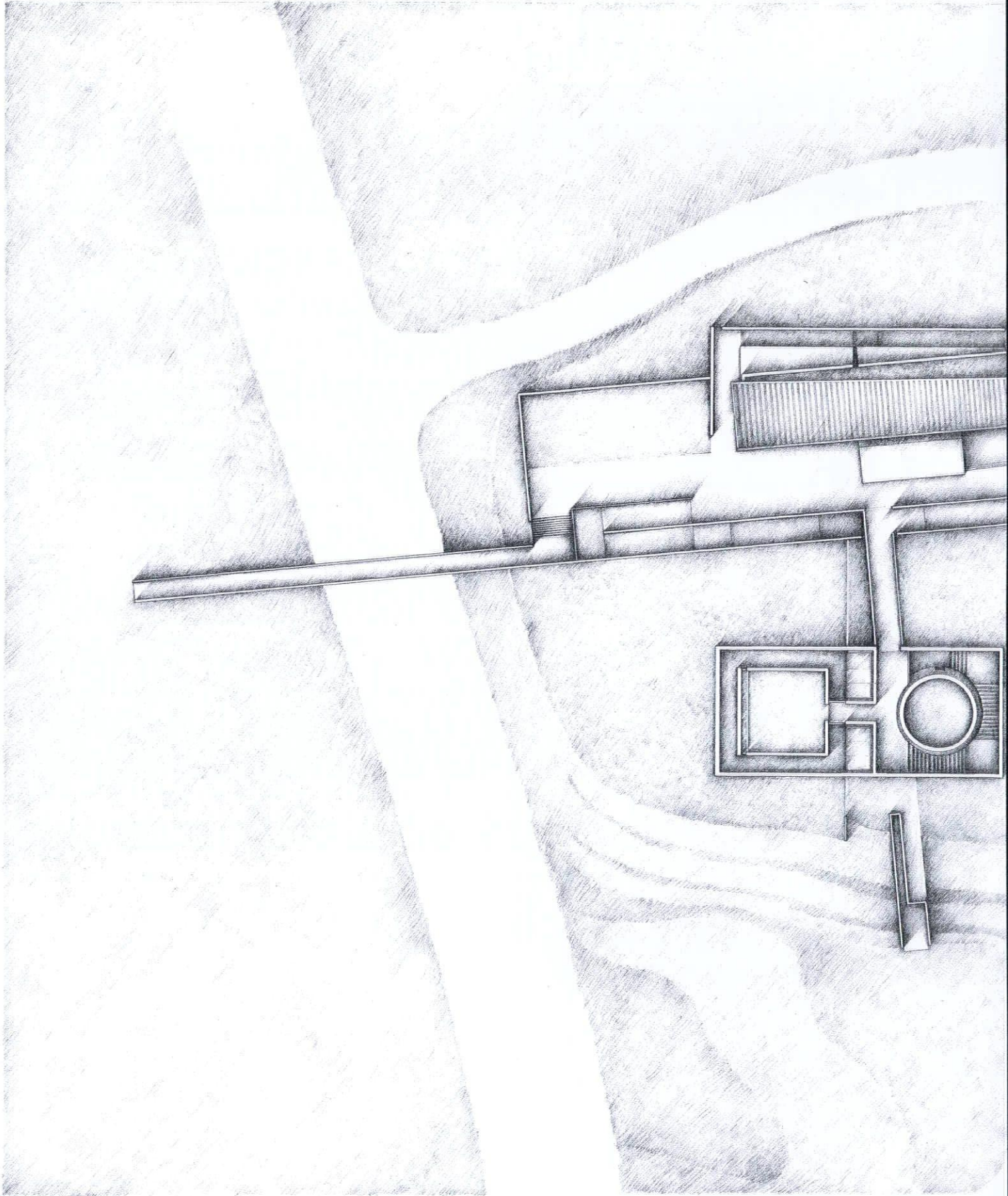


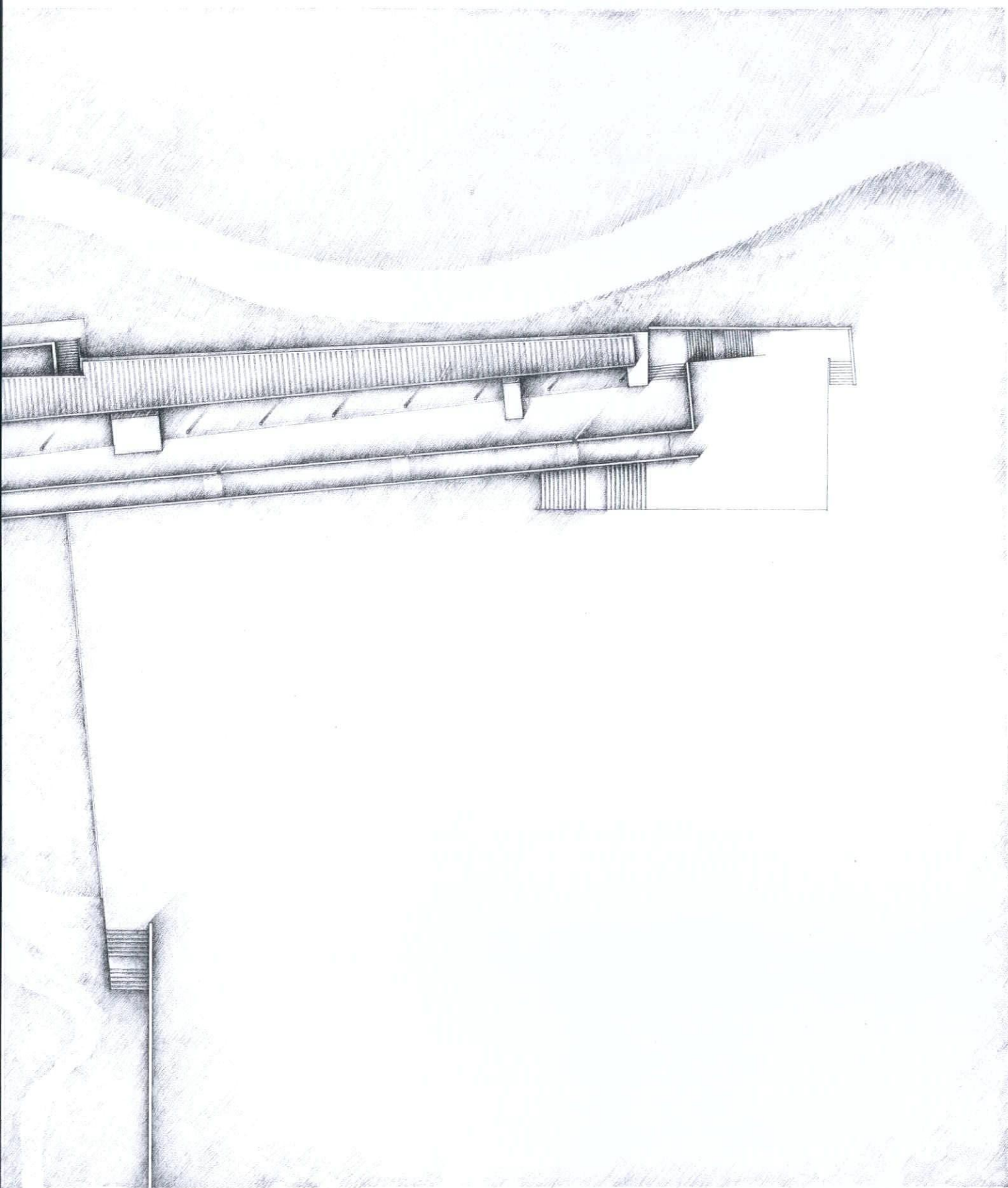
東立面図 S=1:600



西立面図 S=1:600







林 芳史

伊丹潤の教会建築作品の、3作は「連作」として捉えると、それぞれの作を個々に見るよりも、伊丹の建築の特質を集約的に見せる断面が現れてくる。北海道のリゾート・ホテル、ニドムに属し、丘陵に囲まれた森の中に建つ〈石彩の教会〉(1991年)、同じくニドムの〈木の教会〉(1996年)、そして2002年に竣工が予定されている、韓国済州島の海に面した絶壁近くのリゾート・ホテルに付属し、傾斜した敷地の地中に埋められる地下の〈土の教会〉である。

まず、まだ実現を見てはいない〈土の教会〉であるが、この計画案は前2作の建築空間の主題を担っている素材の現れ、例えば「石」「木」を意識して「土」を選び、意図的に立案されて連作化が計られている。異質の素材を選び連作として括ろうとするのは、伊丹の建築空間の主題、特質をより鮮明化させることを図ったものと思われる。〈土の教会〉とホテルを連結する長い通路のような美術館は、通路方向に添って二分され、接合されている。傾斜地に沿った全体は屋根に覆われているが、半分の室内美術館に対して、半分は野外の景を取り込む野外彫刻美術館である。〈ロングシャドウ美術館〉は地上に露出しているが、〈土の教会〉は地下に埋められる。〈ロングシャドウ美術館〉は、教会が地下に埋められてあることを、訪れる者に眼の当たりにさせ体験させるための教会空間の「前提空間」として設定されている。地上には教会建築の構造体を一部露出させ、平面図のように構造を見せている。教会外壁の「矩形」、さらにその内側の「矩形」と「円形」を記号のように対峙させて見せている。しかし「円形」は円筒形の「穴」である。「虚」の現れを見せている。「矩形」の一部に細い開口部が切り込まれている。内側の「矩形」は礼拝堂の壁構造体で、細い開口部は礼拝堂正面の十字架が架かる壁面に天空からの光を下ろしている。円筒形の「穴」を

通して教会空間に地上の景が呼び込まれている。外光が呼び込まれている。当然、風雨も呼び込まれている。「穴」から見える地上の景と言っても、それはほとんど「天空」である。この円筒形の「穴」の外壁に沿った螺旋階段を経て地下の教会の内部空間に至る。円筒形は上と地下とを結ぶ構造体であり、螺旋する媒介である。教会内部のほとんどの壁面は、そこに教会空間を掘り起こした大地の土を固めて塗り込めることになっている。教会内の空間は、さながら大地を掘削した「掘削空間」のような現れを持つものと思われる。あるいは天と地とを媒介する建築空間の気配があるのかも知れない。南海の済州島の絶壁近くに位置し、海を望み傾斜地に突き刺さるような〈ロングシャドウ美術館〉を経て、その本体をほぼ地下に隠しながらも、海域の風光を呼び寄せる〈土の教会〉は、伊丹の建築の諸作の特質を逆照射する作品として結実するように思われてならない。

ニドムの〈石彩の教会〉は、その建築外壁を割り石の野面積みで築き上げ、その名の通りに石肌で彩り強固な「石」の現れを伴わせて、建築空間を森の丘陵の中に圧倒的に現前させている。礼拝堂、その内部正面に十字架が架かる乱石組みの壁面、礼拝堂内部に林立するシルバーパインの柱、同材による露出させた天井の木組み、その礼拝堂の奥に向かって上方に故意に傾斜させた逆遠近法的な着色銅板葺きの変形切妻屋根、エントランス前の敷石の円形広場、その円形に従う凹面のエントランス外壁、それに従う同心円扇形のエントランス・ホールの内部空間、エントランスに繋がる横の控室の棟、扇形エントランス・ホールの円柱曲面の外壁に対応する控室棟のかまぼこ状屋根、エントランス・ホールと礼拝堂を結ぶ廊下の棟、廊下の奥の楕円形の窓、その窓から見える石庭空間、廊下から礼拝堂

に至る右に90度振られた「前室」としての「廊下」、廊下棟の切妻屋根、礼拝堂近くに建つ高さ23mの尖端屋根を持つ八角柱の鐘楼塔、鐘楼塔柱には長矩形と円形の「穴」が共に2方向から90度に交差するように開けられている、これが〈石彩の教会〉の概要である。この圧倒的なまでの石積外壁の現れに、「彫刻建築、あるいは建築彫刻」の評言が思い浮かぶが、この評言は当たっているようで、また当たっていない。「彫刻」も「建築」もあいまいな概念でしかない。流動化し揺れ動いている。しかし当の伊丹が、それらの概念をより一層あいまいにってしまうまでに踏み込み、空間を築き上げている。空間の現れがあいまいなのではない。その現れを語ろうとする評言の言葉の基軸があいまいであることが思い知らされるのだ。それは伊丹の建築文法が、形態と等価に、あるいはそれにも勝って素材の現れが建築空間を担っていることに一因がある。従ってそれは、「絵画的な相貌さえ持つに至っている。その総合的な現れは、単に「見られるもの」としてではなく、「生きられるもの」として表現されているように思われる。「生きられるもの」とは、人と人、人と事物、人と自然あるいは世界の関係を含んでいる。生きることへの認識が含まれている。伊丹の世界観がそこに影を落としている。伊丹が言う「礼の空間」とは、それを指しているに違いない。伊丹の「人倫」を少なからず含む世界観が空間を染め上げている。儒教そのものとは言わないが、儒教思想、朱子学にその一部が類似する世界観のように思われる。新たに変換されたひとつの「天地人」の空間ではないだろうか。その建築思考は、決して大地を忘れることなく天を意識する敬虔な思考態度に根差している。鐘楼塔は天に高く垂直に延び、天地を媒介するシンボルのようにさえ見える。この天地の媒介は、〈土の教会〉にも見られる構造である。

ニドムの〈木の教会〉の正称は、〈レナード・バーンスタイン記念館〉である。その名が示すように、音楽家、指揮者のバーンスタインに因み、また記念するコンサート・ホールの機能を兼ねる教会である。バーンスタインがこのニドムの地を愛して、疲れを癒しに度々宿泊した部屋を記念として遺し、増改築された建築である。この建築設計は、フィンランドのエスコ・レヘモラ建築事務所との共同設計である。共同設計ではあるが、伊丹の素材の現れへの傾斜が遺憾なく発揮されている建築である。ログハウスを校倉（あぜくら）造り風に変換し、シルバーパインの木組みの量塊の圧倒的な現れは、天地の間に生きることについて思いを導くものがある。森や山、川や海、空に、風に、私たちは今、どのように対しているか、また対しようとしているのかという思いを導くものがある。シルバーパインの木組み建築の現れがほとんど世界の現れという域に達しているからであろう。建築は、周辺の自然をより深く体験させるひとつの構造体である。この建築の外観の見せ場のひとつに、建物と建物を繋ぐ廊下の棟が設定されている。屋根を持っているが、建築空間塊の一種の開口部となって、建築背後の森林の景を覗かせて、背景を建築空間へと呼び込んでいる。背景を建築空間へと象嵌させるに近い。ニドムの風光が吹き抜ける開口でもある。建築内部空間で、伊丹は興味深いシルバーパインの壁面の集積による断面を見せている。礼拝堂の正面、説教壇の背後の十字架が架かる壁面である。木の断面には虫食いの痕跡が這い、痕跡群は抽象画のような現れを持っている。年輪と虫食い跡が自然の年月を経た断面を見せている。時空の斜めの横断面である。伊丹はこの集積材壁面の左右の中央にスリットを入れて切断している。スリットから外光が忍び込む。背後の遙かな光の世界が暗示されている。絵画空間とも言うべき壁面である。

スリットから差し込む光は、「聖」なる世界の暗示であるだろう。光は天のひとつの現れであろうか。あるいは伊丹にとっては同一のものであるのだろうか。これが建築内部空間の見せ場のひとつとなっている。

伊丹がその建築空間を最初に決定的に見せた作品は、アトリエの〈墨の家〉（1975年）である。極めて細長い2階建て建築で、「部屋」でもあり同時に「廊下」でもある空間が、矛盾的に絶えず現れを反転するような捉え難い空間構造を元型的に提示するものであった。この矛盾的構造空間は、伊丹の今日の作品にもその影を何処かに止めている。この作品が白井晟一に評価されるところとなり、白井晟一との出会いを導いている。この出会いは、伊丹をその近作に見られる建築空間へとさらに導く契機をなしたように思われる。白井晟一の薫陶を受け、その「廃墟たり得る建築」という言葉に、耐え得るだけの建築思考へと鍛えて深化させる方向へと突き進み、伊丹は自らの退路を断ったように思われる。現代建築の主導的な建築文法やそこに好んで用いられる素材から、敢えて身をずらせてまでも伊丹はその思考を推し進めたと思われる。主に経済の論理に従って、消耗品のように空間が消費された後は地上から消し去られかねない建築の運命から、如何に免れ耐え得る建築を築くか。それはそこに使用される素材が消耗に耐え得るものであることもさることながら、それにも増して建築空間を組成する世界観が、それに耐え得るものでなくてはならない。それは人の生を、また同時に建築空間における人の生を、消費消費行為を超える何物かとして、どのように見るかの思考であると言い換えることが出来る。その思考の深化が伊丹の近作を築いている。

〈墨の家〉から〈石彩の教会〉に至るまでの間に、伊丹の重要な局面を示している作品

として、その詳細は記し得ないが〈温陽美術館〉（1982年）と〈刻印の塔〉（1988年）の2作が挙げられる。伊丹の建築思考の開拓と深化の航跡が明確に読み取れる。楕円筒形外壁への日干しレンガの積み上げ、屋根を支える天井の木組みの露出、また外壁に採石廃材として廃棄される側石の積み上げ、大地を知覚させるような外周に余白空間を持つ地階の設定、建築を天から吊り下げられたように見せるかの屋上に据えられた抽象彫刻等、その思考航跡の断面が見られる。

氏と茶、酒、食、旅を伴にして談笑する時、抑制された言葉の端々に、自らの航跡に否定も妥協もし得ない深い自認が窺える。その伊丹の建築空間を見る眼が、伊丹の建築空間の捉え難い妖しい魅力を形成している。捉えがたく妖しい空間とは、言い換えると現代建築の文脈の現象的な中心から伊丹が意図的に離れた距離の、その総体のことである。伊丹の、合理性に距離を取る世界認識、つまり伊丹の言葉で言えば「余白」の空間は、白井晟一の「廃墟たり得る建築」の言葉に耐え得る強度を目指している。少なくとも伊丹の建築空間には、その空間を消費されるべき「空間の商品」に還元してしまうには、残余のものが残る。それを拒絶しようとするものがある。簡単に言うと、その空間には伊丹が、金では売り渡したくないもの、あるいは売り渡せないものを含んでしまっている。それは建築家、伊丹からの「贈り物」として受け取り、また見るべきものであるのだろう。また生きられるべきものであるのだろう。銘酒のように深く味わうべき価値がある。

●はやし・よしふみ／美術家、美術評論家

作品データ

石彩の教会

建築面積 403.34㎡
延床面積 408.10㎡
敷地面積 291、265.19㎡
構造 鉄筋コンクリート地上1階建
竣工 1990年6月
所在地 北海道苫小牧市
用途 教会

木の教会

建築面積 756.02㎡
延床面積 721.66㎡
敷地面積 291、265.19㎡
構造 木造地上1階建
竣工 1996年4月
所在地 北海道苫小牧市
用途 教会

土の教会

建築面積 419.52㎡
床面積 255.31㎡
敷地面積 54.100㎡
構造 鉄筋コンクリート地上1階建
竣工予定 2001年
所在地 韓国済州島
用途 教会

ロングシャドウ美術館

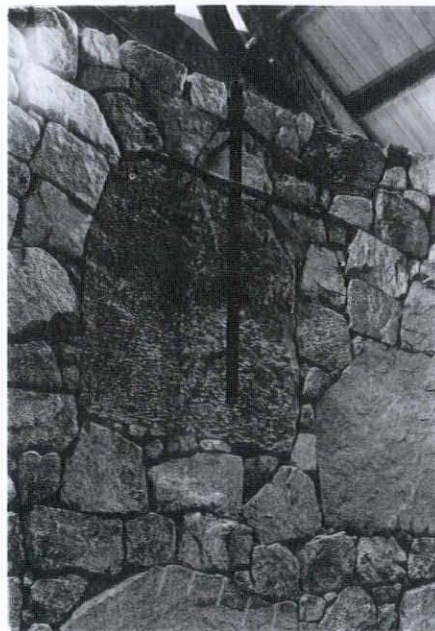
建築面積 1050.79㎡
1階床面積 518.35㎡
2階床面積 263.12㎡
延床面積 781.47㎡
敷地面積 54.100㎡
構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造地下1階+地上1階
竣工予定 2001年
所在地 韓国済州島
用途 美術館

伊丹 潤略歴

1964年 武蔵工業大学建築学科卒業
現代美術、建築による個展歴15回。埼玉県立近代美術館、北九州市立美術館、国立国際美術館、長谷川コンテンポラリーミュージアムに作品を収蔵。
代表作品に〈墨の家〉、〈刻印の塔〉、〈Mビルディング〉等。著書に、「李朝民画」（講談社）、「現代建築家ドローイング集」（求龍堂）等。

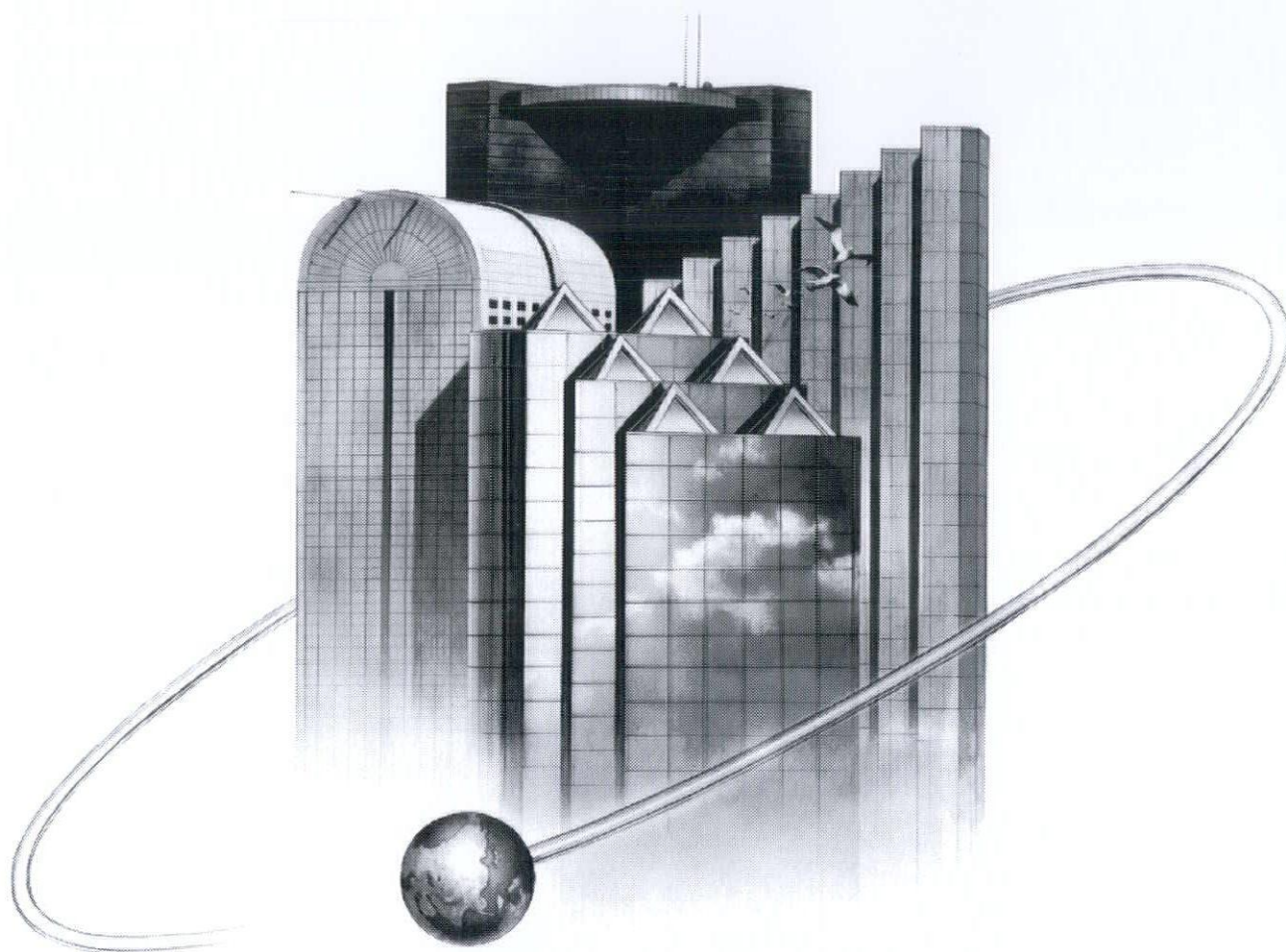
写真

安斎重男
平井広行（P.84、85）



石彩の教会

快適創造



人と自然と機能が調和した理想の快適環境を。

人と自然、そして機能が調和した新しい快適環境を創造する。

それが三機工業のめざす総合エンジニアリングです。

都市、コミュニティ、産業施設…人を取りまくさまざまな環境について考え、

その理想を追いつづけている三機工業は、

いま、地球環境という視点にたって、すばらしい未来にむけての新しい環境のかたちを提案しています。



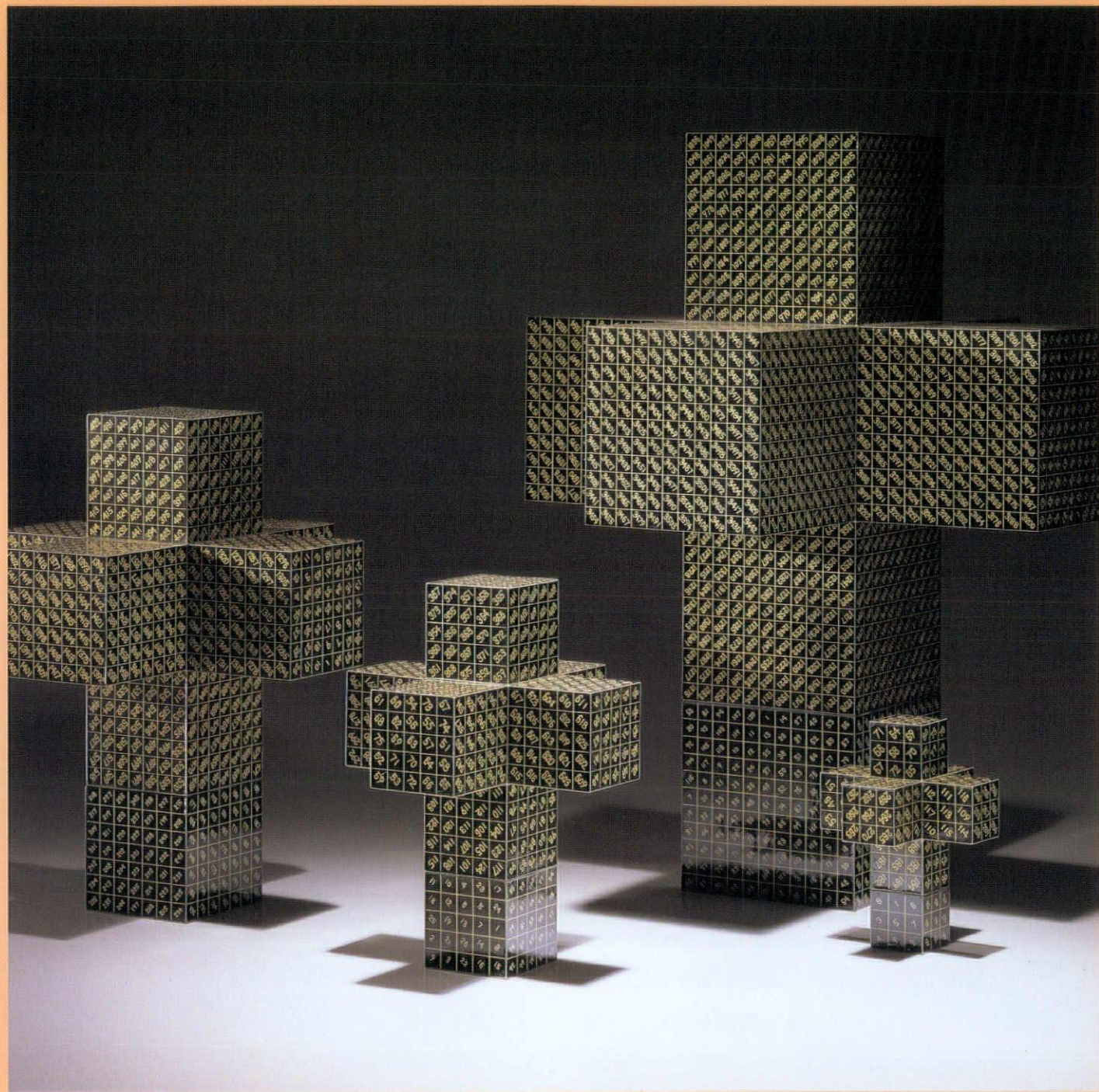
三機工業株式会社

〒100 東京都千代田区有楽町1-4-1 TEL.03 (3502) 6111



戸村 浩

CUBIC CROSS



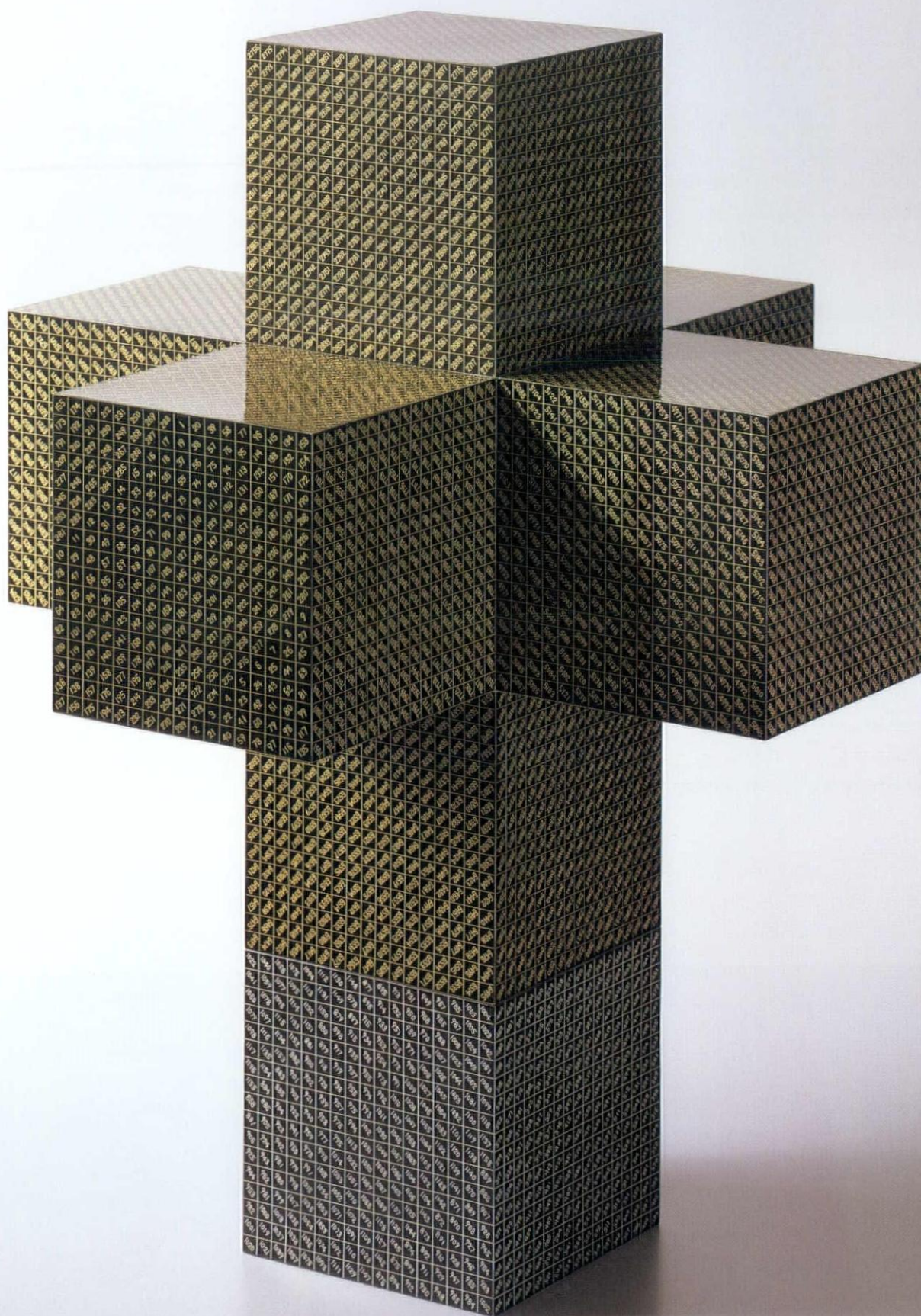
縦、横、斜めのどの列を加えても、同じ和を作るように数が配置された正方形。それを6面の表面に持つ「MAGIC CUBE」は、単なる普通のサイコロである。

サイコロの裏表の数を足すと、必ず7になることはよく知られている。とすれば、残された4面を一周する数の和も、常に一定の14となる筈だ。その真にバカバカしい、単純な原理に基づいて作ったのが、これらの立体魔法陣である。中でも最も大きいものは、1から13254までの数字で埋め尽くされた先号の巨大なサイコロであった。そして、その立方

体のそれぞれの列で一周する数の和は、常に、1245970という膨大なものとなっている。今のところ、私の制作した最大の魔法陣であり、筆により書き連ねられた数字の最長記録でもある。

今回の作品も、歴とした立体魔法陣で、中心となる立方体の6面に、それぞれ新たな立方体が付いて、3次元化された十字型となった。台座である別個の立方魔法陣に乗せられ、4次元の立体・超立方体の3次元における展開図の姿を現している。右の大きな作品では、1~8670の数字が書き込まれた。

●とむら・ひろし／造形美術家



動く光の面白さ——花電車の夢

電車、自動車、船、飛行機、多くの電照移動箱が夜に生き物のように行き交っている。ゆっくりとしたペースで川を行き交う屋形船の明かり。都市の動脈のように曲がりくねった高速道路を走り抜ける自動車の赤白ラインライト。夜空を見上げると、飛行機やヘリコプター、ふんわり浮いた光る広告飛行船まで見える。自転車、屋台、踵の光る靴まで現れて、街は移動する光で大にぎわいだ。

これらトランスポーテーションの必要性から街を徘徊する光装置を「電照移動箱」と命名した。共通点は、殆どがバッテリーと自家発電を原理としているので、電力会社のお世話にならないということ。この何気ない事実は、もしかすると画期的な都市照明の手法を導くかもしれない……。

こんなイントロで始まった第10回の講座は「都市を駆ける電照箱」がテーマ。都市生活の中での電照移動箱の役割を探り、その未来像を描くのが主題であった。ゲストには多彩に活躍するアーティストの日比野克彦氏を迎え、いつもとは趣向を少し変えて、会場で氏による「電照箱の製作」がライブパフォーマンスとして行われ、日比野ファンを大いに喜ばせた。

まず、どのような電照移動箱が都市空間に見受けられるかを、探偵レポーターの田中が取材報告した。田中が興味を持ちテーマにした

のはアートトラック（いわゆるトラック野郎というやつ）と電飾の花電車の持つ祝祭性であった。

千葉の蓮沼町で行われたアートトラックのチャリティ撮影会に出かけ、彼らの超装飾的なトラックに対する美学、思い入れを取材してきた。定期的に開催されているというこの撮影会では、全国から何百台という数のアートトラックが集まり、きらびやかな姿を競い合っていた。運搬車両という機能を遙かに逸脱した動くオブジェの光による自己顕示欲には圧倒されたということだ。

また、「輝ける移動箱」の代表として、懐かしき花電車が紹介された。花電車とは祝賀行事や外国貴賓歓迎、祭りのときなどに運行された装飾電車のことで、始まりは1905年（明治38年）東京の市電が行った日露戦争凱旋将兵歓迎のものとして行っている。昭和の始めまではなにかの行事に際して運搬された花電車は、夜は色とりどりの豆電球で飾られ、そのきらびやかな行列に、人々は夢見心地であつたらしい。永井荷風は『断腸亭日乗』の中で、戦争体制が深まっていった1940年（皇紀2600年）という祝賀行事で走った花電車に銀座で遭遇し「群衆歓呼狂するが如し」と記している。

1959年の皇太子御成婚を最後に、そして路面電車の廃止と共に東京ではその姿を今となっては楽しむよしもないが、（大銀座まつりのパレードやディズニーランドのファンティリ

ュージョンがその後継者か）絵はがきとして残されている花電車の晴れ姿を、作家の伴田良輔氏にお借りした。

加えて、日比野氏も乗っていたという1970年代に流行した電飾付きの〈フラッシャー自転車〉が当時の子供にとっては夢の乗り物だったとして紹介された。

「自分が光っているという力強さ、光って動いているのは自分か太陽しかない、というような迫力、強さは凄い」と日比野氏は花電車をコメントした。動く発光体は、権威を強調するために、ヒトラーがナチの行進を夜に行っていたことから分かるように、当時の日本の暗い夜道に、忽然と光をまとった勇姿を現す様は、圧倒的な威力を持っていたに違いない。

しかし、日比野氏はアートトラックの派手さと自己顕示の光の中に、暗闇の中で虚勢を張っている悲しさをも見る。「おもしろてやがてかなしき 鶴飼いかな」という芭蕉の句にあるように、鶴飼い（日比野氏の出身地、岐阜名物である）のたいまつのはかりは、悲しさ、はかなさの最たるもの、と解説する。

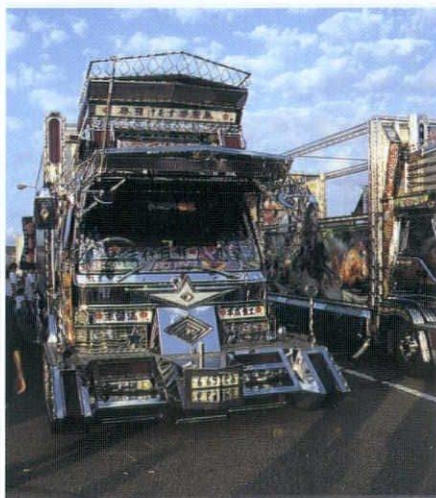
トラックの装飾が仏壇内部のそれと通じるように、また、インドのバスの運転手が運転席の周りに神様をたくさん祭っているように、この種の光のデコレーションは気持ちの中ではかなさの裏返しなのかもしれない。



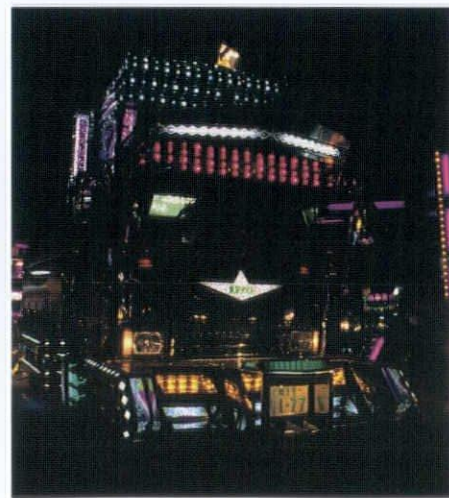
花電車は人々を夢見心地にさせた

資料提供：伴田良輔

SD9612
96



アートトラックの勇姿



輝ける電飾をまとっていざ出陣

第10回テーマ：「都市を駆ける電照箱」
日時：'96 9/30 18:30～
会場：東京デザインセンターガレリアホール
ゲスト探偵：日比野克彦（アーティスト）
コーディネーター：面出薫

「土木や建築のための照明デザインは長寿命を要求され、街のインフラストラクチャーとしての役割を担うが、そこでは色々なルールで金縛りに遭ってしまう。一過性のあるもの、ふっと消えていくもの、インフラでないものには、そのルールの無味乾燥を全部吹き飛ばすエネルギーが感じられて、大切にしたい。動く光が都市のエネルギーの象徴であるからこそ、動く光は自由に芸術的に浮遊するものであると面白い。

今はやりのパブリックアートが街に鎮座するタイプのものであるとすると、電照箱はパフォーミングアートとしての触媒となり得るのではないかと面出は主張する。

さて、日比野氏が会場で制作した電照箱。本来のアイデアでは、渋谷・神宮前に構えるラーメン屋台に電照アートを仕込む提案がされたが、会場への搬入不可能ということで、自転車が使用された。電動三輪車に紙を張り巡らせて内側からミラーボールや裸電球で照らし、アクリルでペインティングする、というもの。ねふたを思わせる行灯状のものが出来上がった。「一枚の絵が中から光が入ると、体温を感じて生き物のように見える。冷蔵庫を開けたときに光が消えていると悲しいけれど光っていると嬉しい、という気持ちと同じで、ライトアップのように光を当てるのと、中から光が輝いているのは意味が違う」と生

命を得たペインティングに満足そうであった。

当日は、照明探偵団ボランティア有志によるサイリウムを使った電飾自転車も制作されたが、実は私たちが幻と終わった東京フロンティアの照明計画で提案した光には、自転車、船、飛行船などのたくさんの電照移動箱が含まれていた。テーマの解説にもあったように、電力会社のお世話にならないこれらの自己発光体が、新しい照明の感性を持ち、自由なデザインの可能性を拓いて行くのではないかとという提案である。

多少横道に逸れたものの興味深かったのは、日比野氏と面出のトークの中で、日比野氏が強調された「ずれ」についてであった。これは氏の最新の展覧会でのテーマということで、この中での論旨は、(最新の蛍光灯は点灯時のズレがなくなってしまった。このように)ずれないことが豊かさだとする科学技術に対する不信である。「『三池炭坑閉山』という報道がされて、その一方でアメリカの某靴メーカーがマサチューセッツ工科大学に莫大な費用を出して靴にコンピューターを仕込み個人の情報を全てインプットするような開発が進められている、というような話題がある。そんな極端な時代に我々は生きている」という日比野氏だからこそ、ずれが悪者になってしまう、全てが均等均質であることが目標になってしまうような環境は危険である、こんな時代だ

からこそむしろアナログ感を求めたりもする、と述べた。

「光や明かりは、色以上に無数の種類があって、同じ明かりはその時しかない。だから、どれだけ多くの明かりを見てきたかがある意味で勝負になる。空間の仕事などを含め、やればやるほどに明かりのことが重要になってくる事を学んでいる」という氏のコメントは、照明探偵団の心得の第5番目「光の体験を継続的に蓄積すること」を思い起こさせる。

誰もが同じ光や明かりを良しとするはずはない。感性も体験も違う。都市を駆けめぐる電照箱はもしかすると光害、騒光として糾弾されるかも知れない。街のアート化は大いに結構、という人もいだろう。今は無き花電車の運んだ夢と希望は現代の私たちにはもたらされないだろうが、無味乾燥に均質化されつつある都市の景色の中で、「ずれ」が生み出す景色が果たして街に出現してくるのかどうか。都市を駆ける電照箱は、その紋切り型でワンパターンな街の表情に褐を入れることができるのか。

●葛西玲子/LPA



電照移動箱：日比野克彦作



講座風景



サイリウム入りの「光るジャケット」はいかが



只今制作中

南仏のスペクタクル：ミヨー高架橋

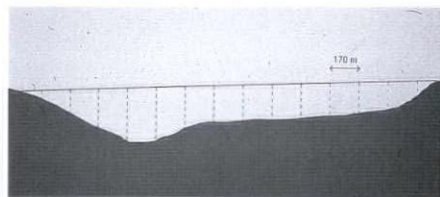
Spectacle in Southern France: The Millau Viaduct



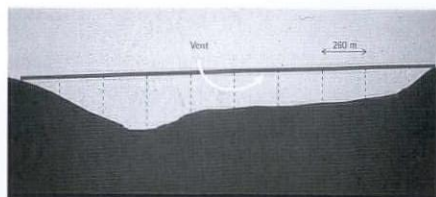


この構造は、合理的、論理的に設計を進めた結果、自ずと辿り着いたものである。そのスタディは、敷地の解釈から始まっている。つまり、敷地を読みながら橋脚の位置が決まり、それに応じた形態が提案された。多くの案が

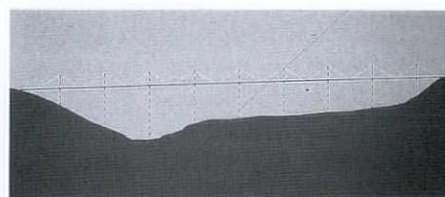
取捨選択され、最終的に明確でゆらぎのない結論が導き出された。以下はその構造スタディの初めから終わりまでを簡潔に示したダイアグラムである。



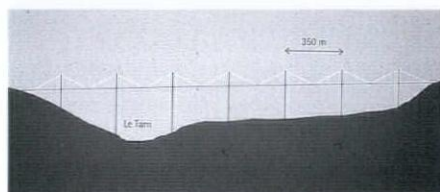
敷地は特にアクセントもない巨大空間なので、橋脚はできる限り等間隔に並べた方がよい。通常のコンクリートもしくは鉄骨材を使用した構造なら、170mスパンが妥当。しかしそうすると、橋脚の数が多くなり過ぎる。必要な14本の橋脚を立てるのは、この敷地では困難であることがわかった。



スパンをより大きくして、橋脚の数を減らしてみる。通常の工法ではスパンは260mが限度。しかし、このスパンだと桁の厚みが大き過ぎて（橋脚上で約14m）、風圧による応力が許容量を超える。



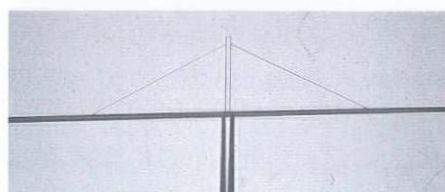
上部に斜張構造を加え、桁の厚みを薄くする。この構造では、スパンは500mまで可能。



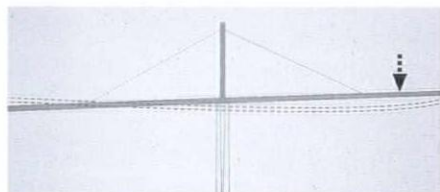
ミヨウ高架橋の場合、350mスパン、橋脚7本が最適であった。例えばさらに橋脚を減らし、6本にすると、スパンは400m以上必要である。しかし、その場合橋脚の位置が敷地の制約に抵触し、また斜材への風圧が増し、建設費も増大する。



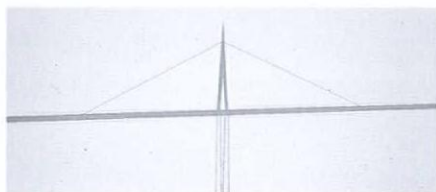
だが、まだ問題がある。スパンが大きいので、桁の伸長が著しい（橋の両端で1m位）。スライド・ベアリングを桁と橋脚の間に入れる方法があるが、桁の荷重が大きいため、ベアリングにかかる摩擦力が大きくなり、橋脚に大きな曲げ応力を生じてしまう。



その解決として、橋脚を2本の細いシャフトに分割することで柔軟性を持たせた。これで、橋脚はある程度の水平方向の運動にも耐える。



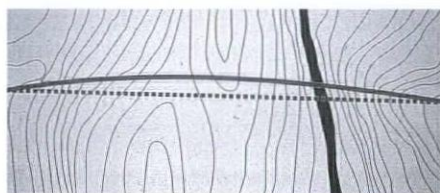
さらに問題がある。多重ケーブル式斜張構造の特徴であるが、桁に負荷がかかると斜材を引っ張り、斜材はマストを引く。このときマストが細ければ、マストも桁もたわんでしまう。



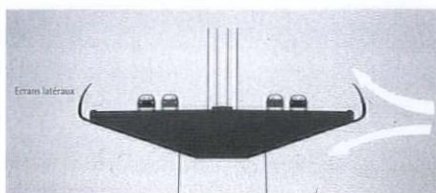
マストをA字型に2本の足を開いた形にすると、斜材からの引張り力の一部は、マストの足を介して橋脚への垂直荷重に転換される。



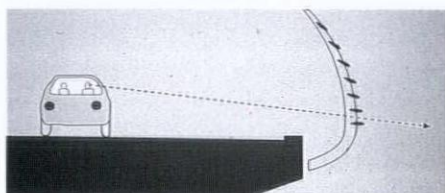
A字型のマストにしたことによって、斜材のアンカーは、自然と上部に集まった。つまり、扇状の斜張構造は、マストの形状から直接導かれたものであった。



高架橋はカーブになっている。長い直線でしかも、険しいスロープを登る頂上に至ると、ドライバーは不快感を覚えるが、カーブはそれを防止するもの。また同乗者が道路側面の景観を見やすくする効果もある。



桁は風圧に耐えるように、平たい翼のような形状をしている。



ランドスケープは側壁を透かして見える。



フォスター・アンド・パートナーズはフランスのエンジニアリング事務所 Sogelerg、EEG、SERF と協働し、南フランスの巨大な自動車専用高架橋の指名設計競技で優勝した。全長 2.5 km のこの高架橋は、クレルモン・フェランとベジールを結ぶ新しい幹線道路 A75 の一部を形成し、タルン渓谷を跨ぎ、アヴェロン県のミヨー西側へと続く。

この高架橋は非常に勇壮な風景となるだろう。各橋脚の高さは 75 m から 235 m。上部のマストは路面から 90 m の高さがある。タル

ン川を跨ぐ最も高い箇所では、川面から路面まで 275 m あり、それはフォスターがデザインしたヨーロッパで最も高い建物、フランクフルト商業銀行のタワーをしのぐ高さである。

この優勝デザインは、各スパン 350 m の 7 本の橋脚をもつ、多重ケーブル式斜張構造を採用している。柱は、この大きな構造物の動作に対して、直接応答できる形態になっている。例えば、橋脚は橋桁の大きな伸長と収縮をうまく調節しなければならない。したがっ

て、すべての橋脚はふたつに割けた形の、細いシャフトの 2 本組みになっており、桁下はフレキシブルな構造となっている。また、橋脚上部のマストを「A の字」にして、その上部から扇状にケーブルを張ることによって、たわみを抑えている。

橋全体の形態は、結果として、空に浮かぶシルエットによる劇的な景観をつくり、また谷を難なく跨ぐエレガントさと緊張感を生み出すこととなった。(フォスター・アンド・パートナーズ)



ミヨー高架橋

所在地：アヴェロン県ミヨー市

設計：フォスター・アンド・パートナーズ

共同設計：SOGELERG、EEG、SERF

Photographs : Foster and Partners

移ろう水の「霊」と光の「声」

この「トボスの復権」展2は、昨年4月にヒルサイド・フォーラム(東京・代官山)に始まり、10月にOXYギャラリー(大阪・ライカ本社内)、本年2月に富山市民プラザ(富山)を巡回した同展1、に次ぐ、第2回目の催しである。一般に、協働的作業を埋めこむパブリック・アートが、建築の計画後に対応させられ、デッド・スペースや設備隠し等のツールとされることがあるが、本展は、そのような具体的に空間を分け合う表現というよりも、パフォーマンス的なアーティストと建築家が、互いの思考を誘発させ合っの、実験的なコラボレーションになっている。

ここでの「トボス」とは、従来からの、固定化したその地=場に、突き刺し貫通させるようなトボスではなく、その場所の固有性を意識しつつ、それでもなお、「ここではなく、またどこでもない」といった、「サイト」という意味に限りなく近いものとして、選択されているはずだ。したがって、上に記した「巡回」という言葉は、まったくそぐわず、あらかじめ設けられた各展示空間をただ移動する、といった類のものではない。つまり、概念としての「展示」からも「空間」からも、遙か遠くに逃れ去ろうという意図をもつ。

美術館といい、ギャラリーといい、そのありようが、ルネッサンス以来の史的背景や空間的固定性、またそれに見合った市場構成に対応しており、さまざまなアポリアが指摘されている。現在、そういった数百年におよぶスパンの中で「自治体美術館」の運営や、絵画購入額の高低をめぐる問題が、浮上していることは、あらためていうまでもない。いずれにせよここでは、「展示」も「空間(スペース)」の概念も、きわめて歴史的につくられてきたことを、強調しておくにとどめよう。

本プロジェクトの参加作家は、横文彦(特別出展)、イリ・キリアン(振り付け家)+北川原温(建築家)、エト・イン・テラ・ボックス(有村肯也と杉本圭司のパフォーミングアーツ・ユニット)+隈研吾(建築家)、小野誠彦(音楽家)+中道淳(写真家)+ナンシー・フィンレイ(建築家)、藤本由紀夫(美術家)+元倉真琴(建築家)、の横プラス4組。

横の展示は、前回マケットと完成予想図で示した、オランダ北部にある町フローニンゲンで行われるパフォーマンス・イベントのためのパビリオンが完成し、この8月からフェスティバルが開催されたその模様を、ビデオ・モニター(完成模型なども含む)で紹介している。屋根架構部がスパイラルを引っ張ったような、あるいは天球を展開して伸ばしたかの、構造をもっており、水上に浮いたその姿は、とどまることなく移動し続ける、古代以来の、まさにパフォーマンス的な演劇の原点を想起させる。水、光の、透明さと、全体を覆う清澄さが印象的であり、ビデオ映像の記録も興味深かった。設計に際してのコラボレーターは、舞台演出家ファン・デル・グローエン。

北川原温は、バレエ・ダンサーのイリ・キリアンに企画主旨を伝え、インスタレーションに示唆的な、詩、スケッチ、ビデオを送付してもらい、白い布を使った、空間を変形させる自在な構成に、直接その映像をプロジェクターで映した。ダンサーの潜在的にもっている霊性が、空間を切断し縫いあわせ、かつ複数の時間と呼びよせる。

隈研吾らは、大きなガラス板を立てかけ、そこにポンプによって水を吸い上げ、常時、水がそこに流れるよう設置し、ガラス面を通して、プロジェクターの映像を流している。水の滴りと相まった動く映像は、壁に拡大射

「トボスの復権」展2

会期：10月15日～11月3日

会場：アサクラギャラリー&ヒルサイドフォーラム

なお、以下の予定で巡回展が行われる

会期：1997年3月27日～4月13日(予定)

会場：富山市民プラザ

写真＝矢萩喜徳郎

影される。その茫洋とした情景は、はかなく美しい。壁とガラスの合間は、パフォーマンス・スペースとなり、現実と映像の境目を混乱させる。その幻惑の度合の深さは、階上のトップ・ライトに映写された、晴れ上がった青空の、うごめく「虚像」が、きわめてリアルに見えるほどだった。

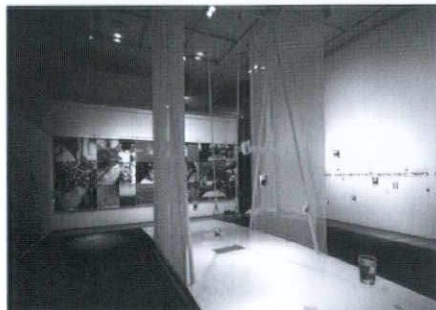
小野+中道+フィンレイは、湾の埋め立て計画をめぐる揺れる、瀬戸内海沿岸の町、鞆の浦で1993年より公開フォーラムを開催し、文化と伝統、発展のバランス、環境意識の促進を住民と共に考えてきた。本年の夏の、この地でのコラボレーションを、写真・音・インスタレーションで「再現」提示するものだ。天高い晴れ間の、におい立つような「場」の記憶、雨降る中での子供たちの哄笑が伝わり、オーディエンスの感官を刺激する。藤本由紀夫+元倉真琴は、内外に透明膜を仮設し、吸音・遮音・鳴き籠・ノイズといった現象によって、視覚・触覚・聴覚の異化と変化を促している。

開催されたヒルサイドテラスF棟は、緩やかなスパイラル状の弧を描いて、導入部や廊下、吹きぬけ、中庭など、段差のあるパッサージュ空間だが、それぞれ、その制約を利用して巧みに配されている。前述したように、本展は、数百年スパンでの特定化した、実体化した(もの)としてのトボス喪失の後に、(情報)社会下のトボスのありかを、アーティストと建築家が互いに干渉しあって、「水」と「光」の粒を、「霊」として、「声」として働きかける、いま・この、遂行的な試みになっている。

●高島直之／美術評論家



エト・イン・テラ・ボックス+隈研吾の作品



小野誠彦+中道淳+ナンシー・フィンレイの作品



藤本由紀夫+元倉真琴の作品

検証：インターネットによるヴァーチャル・デザイン・スタジオ 「A/E/C SYSTEMS JAPAN '96 国際セミナー」より

建築設計・都市計画のネットワーク上の共同設計を実証したプロジェクト「Virtual Design Studio (VDS) '96」が国際セミナーで紹介された。パーソナルなデジタル・デザイン・スタジオの可能性を伺ってみる。

3日間で計10回開かれた国際セミナーのひとつをここで紹介したい。それはマサチューセッツ工科大学、京都工芸繊維大学、熊本大学の建築学科の学生が、自分の大学に居ながらインターネット上で行った共同設計（VDS '96）のプロセスと、その作品の報告である。

海を隔てた共同設計は、ネットワークがその真価を発揮できる最たる作業のひとつと言える。TV中継を見ればわかるように、ここで使われる技術自体は決して新しいものではない。しかし、設計者が日常的に使用してゆけるようなパソコン・レベルの道具だけで何ができるのか、手軽な共同設計技術の確立が、VDSのねらいである。また、カタログなどで周知の道具がどんな感じで動くのか、実演を通して体感してもらうのがこのセミナーの見せ場でもあった。

会場には3つのディスプレイが設置されている。1つはMIT、1つは京都工芸繊維大学、最後の1つは会場でプレゼンテーションされるものが映される。両角先生が「Can you hear me?」とMITを呼び出す。「ただ今QTCを使っております」ところでQTCって何だろう？

【QTC(Quick Time Conferencing)】 アップル社が開発したパソコン用テレビ会議用ソフト。ISDNやLANを介してビデオカメラが捉えたカラー映像を見ながら討論できる。

VDSでは、2種類の道具を使う。ひとつはデジタル・ピンナップ・ボードと呼ばれるホームページ。CAD図やCG、文章や3次元モデルなどいろいろな形の設計情報を掲示すると、インターネットを通じて世界中のどこからでも、同時に見ることができる。参加者はピンナップされた作品を各大学のパソコンで眺めながら討論するわけである。

その討論は、いかに行われるのか。電子メールも頻繁に使用するが、同時打ち合わせが可能な、テレビ会議システムが有効だ。家庭用ビデオカメラと小型スピーカーをパ

ソコンに接続。ソフトは今回、QTC及びCU-See Meを使った。

【CU-SeeMe】 コーネル大学開発のテレビ会議用フリーソフト。インターネット上に設けたりフレクターにアクセスすることで最大8箇所の映像を表示しながら討論できる。

各人がピンナップしてはCu-SeeMeを使い、チーム内で討論。さらにそれらを編集してチームのピンナップページをつくり、今度はQTCを使って講評会を開く。VDS '96ではこの作業を5週間繰り返しながら共同設計を進めた。一般的な建築設計の、担当者打ち合わせ、個人作業、そして部内会議や施工説明に対応している。（この他、ホームページに描かれた作品の表現力を高める手法として、VRML、QTVRなどが使われた）



セミナー会場 写真提供：デルファイ研究所

この1年間のインターネットの爆発的な普及によって、建築・都市の電子メディアでもネットワークが一番の話題である。この展示会／セミナーでは、どうだろうか。

今年11月に熊本県で開催された国際建築展「くまもとアートポリス'96」の中のプログラムのひとつの「熊本まちづくり展」に参加してみる、というのが今回の「VDS(Virtual Design Studio)'96」の課題であった。具体的には、数ある空き地のひとつ102m×38mの敷地に、パブリック・スペースのデザインをするというものだ。彫刻家吉井講二氏とのコラボレーションでもある。

MIT、京都工芸繊維大学、熊本大学から各1人ずつ集まり3人で1チームを構成、全部で3チームがつくられた。初対面の3人がどうやってひとつの作品をまとめたのだろうか。見ていると、ひとりの強い主張が貫かれて、そこに収束しているものや、リーダーがメンバーの発想を巧みに調整してまとめたものなど、収め方はさまざま。デザイン・イメージ、構造、施工法、植栽計画など、多面的な資料をうまく分担作業でこなしていた。一度否定

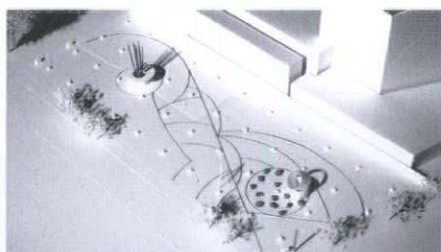
第11回建築新技術展/国際セミナー A/E/C SYSTEMS JAPAN '96
会期：1996年9月25日(水)～27日(金)
会場：東京・池袋サンシャインシティ文化会館、他
主催：A/E/C SYSTEMS JAPAN組織委員会 デルファイ研究所
国際セミナーS1
タイトル：検証：インターネットによるVirtual Design Studio
——アートポリス・モニュメントの国際協調設計はどう進められたか
講師：両角光男（熊本大学教授）
VDS討論者：ウィリアム・J.ミッチェル、仲隆介、川角典弘

された形態が再利用された場面もあった。

プロジェクトの経過説明の後、セミナーは実演に入る。チームのひとつが各サイト（作業地）から自分達の作品を説明した後、MITからウィリアム・ミッチェル先生の講評。実際の講評会の一部ならもっと面白かったが、今回はデモ版だった。しかし、聴講者は自分がこのシステムを使うところを、およそ想像できるようになっただろう。

ただ最近では日米間の通信網が過密状態になり、ホームページの情報交換に時間がかかるアプリケーション・ソフト（特定のパソコン上で動いているペイントソフトを遠くのメンバーと対話的に操作できるようにするソフト、例えばTimbuku-Proなど）が動かなくなるなどの障害が出始めたという（国内ではまだ問題ないらしい）。

ミッチェル先生も両角先生もこの技術的な難点は将来解決されるもので、問題はないといわれる。しかし、VDSの監視が問題である、とミッチェル先生は言う。「メンバーの選択、有効な協調の方法、言語、文化の違いなど、プロセスの監視は複雑になる。この監視がVDSの鍵である」たまたま居た人間がコラボレーションしても意味がない。有効に監視されたVDSでは世界中から有能な人材をリクルートすることが可能である。教育の次には実務でいかに使えるかが問題となろう。

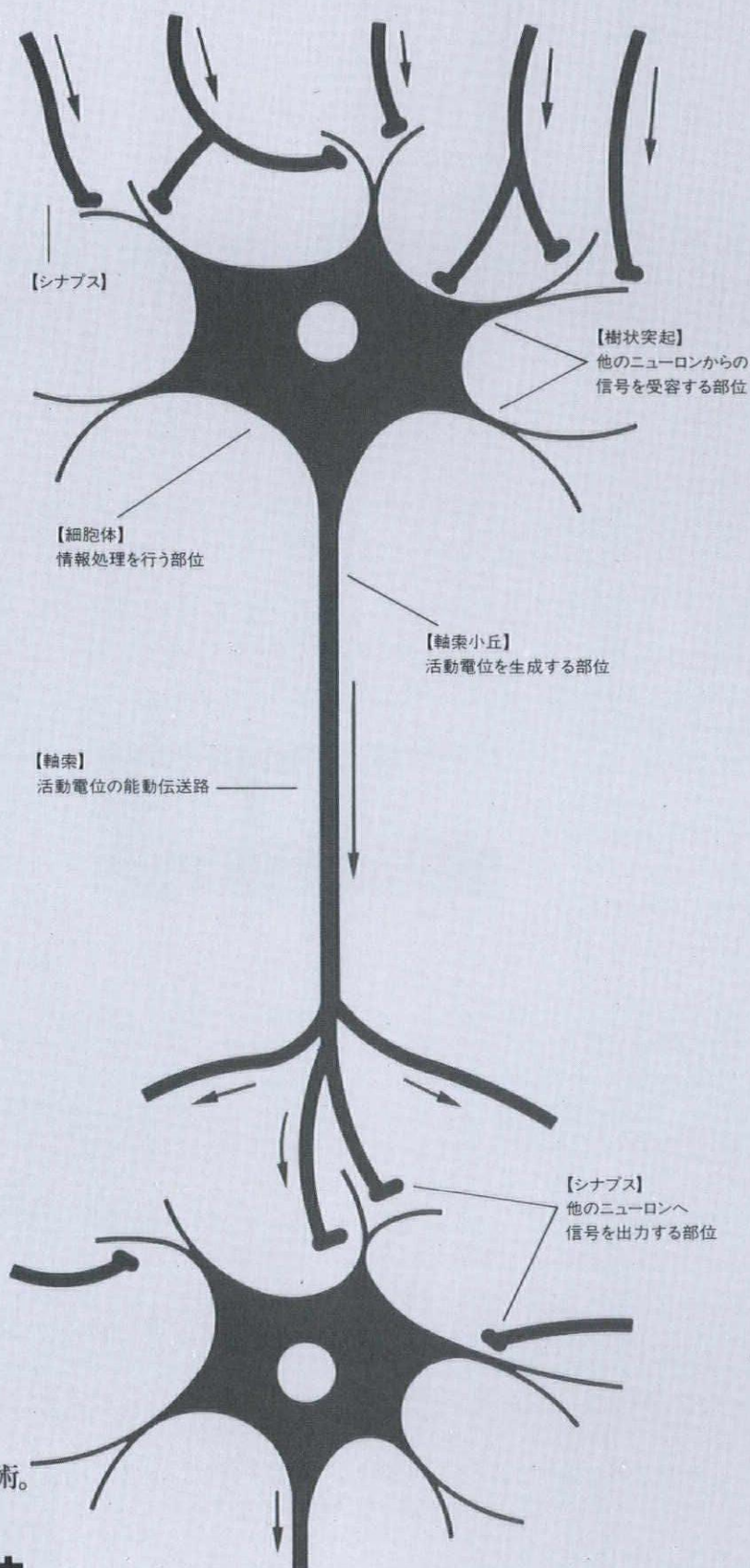


最終案の模型。区外に放置されていた農業用サイロの廃材（直径4m高さ3mの鉄製ドラム4つ）を使うことが設計条件



熊本市城東町の九州電力跡地での実作。吉井氏が最終案をもとに実施設計したもの。光の格子や装飾古墳の紋様（熊本の古代芸術の代表）は、巨大な鉄のドラムのボリューム感と共に市民の関心を集めた 写真提供：熊本大学両角研究室

21世紀の空調は、人間の脳神経がお手本になる。



私たちは「ニューラルネットワーク」理論を応用した、次世代の空調システムの開発に取り組んでいます。誰もが心地よい空気を作り出すことは、本来、極めて微妙なコントロールを必要とします。もっと簡単かつ鋭敏に、人が求める快適さを感じできないだろうか。そのテーマに応えるべく、私たちは生体の脳回路に着目。脳の神経細胞が行う高度な学習機能や適応能力を応用することで、エア・デザインング技術の新たな主流となるシステム研究を始めています。

東洋熱工業株式会社 〒104 東京都中央区京橋2-5-12 TEL 03-3562-1351

時代の呼吸に応える技術。



東熱

『変化するオフィス』

沖塩荘一郎・吉田邦彦・仲 隆介＝著

四六判 176頁

丸善 1854円

インターネットによって「テレコミュニケーション」「オルタナティブ・オフィシング」などオフィスの在り方は劇的に変化している。さらに、オフィスのみならず人々のライフスタイルをも変える欧米でのネットワークの事例を数多く紹介。今後の日本の情報化を考える上で示唆に富んでいる。



『日本の都市は海からつくられた』

上田篤＝著

新書判

中公新書 720円

諸外国に比べ日本では沿海に発達した都市が多いことから発想し、日本人の生活空間が海を中心として形成されたことと筆者は説く。

さらに、鎮守の森や木造建築などにも視点は及び、筆者独自の文化論を展開。今後の日本の都市の未来像を提案する。



『アーバン・デザインという仕事』

望月真一＝著

B5判 290頁

住まいの図書館出版局 2678円

日本の「アーバン・デザイン」がどのように展開していったか、欧米との相違点は何なのか。フランスで都市計画に携わり、帰国後日本の各地のまちづくり、環境づくりを手掛けた著者が、現状への批判を含みながらも、地域と行政が一体となって参加するまちづくりを提案する実践書。



『免震——地震への絶縁状』

多田英之＝著

四六判 200頁

小学館 1500円

業界が拠り所とする耐震構造は、建物を頑丈に仕上げることで地震を逃れようというもので、これは著者によれば、「理論上は有効」という域を未だ出していない。著者は、こうした現状を放置する業界、行政に痛烈な批判を浴びせ、一方有効な地震対策として積層ゴムを利用した免震構造を提案する。



『イギリス色の街——建築にみる伝統と創造性』

連 健夫＝著

四六判 180頁

技報堂出版 1854円

学生として、教師として、また建築家としてイギリスに滞在した著者が、建築を通して彼の地を語る。二国は「あいまいな共通点」と「興味深い差異」を持つと言い、「都市と町並み」「住宅とコミュニティ」「教育と創造性」などをテーマに、伝統を尊重するイギリスの姿を私たちに教えている。



『CRITIC Vol.3 John Pawson』

石丸信明＝編

A6判 100頁

大伸社 1000円

本シリーズはVol.1において岸和郎の〈日本橋の家〉、Vol.2において小川晋一の〈キュビストの家〉を取り上げている。今回、ロンドンのジョン・ポーソンの自邸を取り上げ、丸山洋志、マイケル・スピークスらの批評文を掲載、建築とミニマリズムまたはミニマル・アーキテクチュアについて考察する。



『地震に強い家づくり町づくり——』

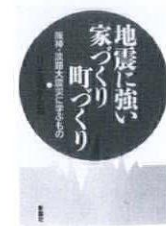
阪神・淡路大震災に学ぶもの』

日本建築学会＝編

四六判 186頁

彰国社 1854円

95年10月21日に行われた公開シンポジウム「安心して暮らせる住まいとまち」を基にした本書は、阪神・淡路大震災を教訓として、特に住まいに焦点を置きその被害と分析を行う。またパネルディスカッションでは、具体的な耐震対策を提示する。



『ウィリアム・モリス——近代デザインの原点』

藤田治彦＝著

四六判 218頁

鹿島出版会 1854円

今年、ウィリアム・モリスの没後100年を契機に、「近代デザインの祖」と呼ばれる彼の活動を再確認し、最新の研究を取り入れて生涯を概観する。モリスがなぜ「近代デザインの先駆者」に据えられたのか、それを通じて「近代デザイン」という概念とその歴史的意義を再検証する。



『V字形の空——名古屋からのメッセージ』

塚田守＝著

A5判 95頁

三玄舎 1200円

〈弥富町立弥富北中学校〉などで中部建築賞を受賞している建築家の塚田守が、自作について、彫刻家、流政之との交流について等々、自身の言葉で率直に語る。「ものとしての強さが欠落し、言語が優先し、プロセスだけが目立つ建築が15年来続く」という著者の言葉が印象的。



書評

『インドの建築』

神谷武夫＝著

A4変形判 200頁

東方出版 12360円



評者＝

黒河内宏昌

行くか！インド建築

この本にはふたつの特徴がある。ひとつは従来のインド建築の書物とは全く異なる切り口、構成を持つこと、もうひとつは解説の役割を写真に多く担わせていることである。

従来のインド建築関連の書物は、宗教（仏教、ヒンドウ教、イスラム教）、地域（北インド、南インド）の区分に従って、建築を年代順に並べて変遷を追っていくのが通例であった。しかし本書は、こうした諸要因を踏まえた上であえてその枠組みを消し去り、視点をより建築の側に移し、あくまでも対象とする建築そのものの姿に「インド建築の特性」を語らせようとしている。

紹介される対象は約140件にのぼる。従来紹介されることの比較的多かった寺院のみならず、あらゆる種類の建築が登場し、インドにはこんな建築があったのかと驚かせてくれる。メジャーな建築ばかりではなく、路傍に立つ鳥の餌付け小屋、コルビュジエのチャンディガールの隣に自然発生したスラム、インドならどこにでもある伝統的住宅、寺院の片隅に立つ1本の柱など、無名の建築も等価に扱われている。

著者はこれらの対象を、26のタームに分類し章立てしている。そのタームを順に挙げると、ストゥーパ、洞窟、山、水辺、公益物、都市、住居、木造寺院、煉瓦造寺院、石彫寺院、石造寺院、モスク、墓廟、城、宮殿、楽園、塔、門、回廊、柱、ドーム、開口部、彫刻、色彩、洋風化、そして現代建築である。これらは一見すると、恣意的に選択された言葉ではないか、インド建築を脈絡なく並べているのではないか、という危惧を持つかも知れない。しかし読み進めるうちに、ひとつひとつのタームが「インド建築の特性」を示す指標であり、かつそれらを順に追っていくと大まかにインド

建築の歴史を辿っていることに気付くのである。タームはみな一般的な建築用語であり、インド建築に固有の言葉は「ストゥーパ」を除きほとんどない。したがって、例えばアジアの住居に興味がありインドの事例を知りたい、といった関心からも、極めてアプローチしやすい。

掲載されている大小約430枚の美しいカラー写真は、この本の命とも言える。全て著者自身の撮影によるが、妙な誇張がなく、意図を明解に表している。図面による建築の説明は一切ない。しかし、付属する簡潔な文章を読むと、著者の伝えたい「インド建築の特性」がどのように写真に現れているかを確かめることができる。そして写真と文章を往復して何度も見るうちに、どんどんと対象に引き込まれ、イメージが膨らみ、できることなら訪ねて行ってみたいくなるのである。

このように本書は、インド建築を著者のつかんだ特性に沿って、魅力的に映し出してくれる。しかし、インドの建築は我々現代の日本人にとって、最も理解しにくい建築のひとつであると言えよう。著者はこの本の中で、我々がとすれば「神秘的」などという言葉でのごしてしまうインド建築の思想と表現に、インドならではの「合理性」を見出したいと述べている。その「合理性」を詳細につきとめることはなかなか難しい課題だが、このテーマには強い共感を覚える。著者はインド建築関係の洋書の邦訳を3冊手掛けた後、第1弾の著作としてこの本を出版した。ほぼ同時にインド建築のガイドブックも出版しており、今後の展開にさらに興味が持たれる。

●くろこうち・ひろまさ／早稲田大学客員講師

Metropolitan Library

12月の評者＝
難波和彦

ヨーロッパに端を発するモダニティ＝近代性の懐の深さを痛感させる何冊かの本を紹介したい。

『認識問題－4』は『象徴形式の哲学』（生松敏三他＝訳 竹内書店）や『人間』（宮城音弥＝訳 岩波書店）で知られる新カント派の哲学者、エルンスト・カッシーラーの最後期（1944年）の著書である。認識問題とは、認識の本質や起源に関する問いかけのことを言う。本書は近代の哲学と科学における認識問題の歴史的研究の最終巻にあたり、ヘーゲルの死（1832年）から相対性理論や量子論の出現（1932年）までの約100年を対象としている。前3巻も間もなく翻訳出版される予定である。ちなみに、第1巻はニコラス・クザヌスから新プラトン主義を経てコペルニクス、ガリレイ、デカルト、パスカルまでを、第2巻はベーコン、ホッブス、スピノザ、ライブニッツ、ロック、ニュートン、オイラー、ラヴォ

アジェを経てカントまでを、第3巻はカント以後のフィヒテ、シェリング、ヘーゲル、ショウベンハウアーなどのドイツ観念論を対象としている。哲学や歴史学だけでなく、数学、物理学、生物学など科学の広い範囲を扱っている点がカッシーラーの真骨頂であり、その視野の広さには目が眩むほどである。序論を読むだけでもヨーロッパの近代思想史を概観できる。カッシーラーはまさにモダニティの本質を体現した思想家だと思う。

『精神発生と科学史』は、児童心理学者であり発生的認識論の創始者でもあるジャン・ピアジェの遺作で、メキシコ大学の物理学者であり、認識論者であるロランド・ガルシアとの共著である。1970年代にピアジェの発生的認識論とノアム・チョムスキーの生得的言語論との間で繰り広げられた論争は、クリストファー・アレグザンダーの建築思想との関

『記憶に残る場所』

ドンリン・リンドン+チャールズ・ムーア=著

有岡 孝=訳

A5判 280頁

鹿島出版会 4532円



評者=

渡辺武信

「場所」への愛と建築家の誇り

本書はリンドンとムーアが往復書簡の形で、それぞれが愛着を持つ建築、都市空間を語り合った記録である。このふたりの建築家はかつてW. タンブル、R. ウィテカーを加えた4人で、MLTWという共同事務所

を構えたこともあり、彼らの建築的感性の共通性は『MLTWの住宅』(A.D.A. EDITA刊)にリンドンが代表して書いた序文に如実に示されている。したがって本書で語られる内容もディベートというより、むしろよく知る者同士が親密な対話によって共有する建築観を確認しあっている感が強い。つまり刺激的な対立点がなく、議論が弁証法的に発展するスリルに欠けていることに若干の物足りなさは残るが、著者たちの感性にかねてから共感を持っていた私にはたいへん楽しく読めた。

各章は軸、柱列、階段、壁、開口、門……というような類型別に分けられ、アクロポリスからペルーのマチュピチュ、日本の鹿島神社の鳥居など実に多様な建物が、筆者たちの見聞の豊かさを圧倒的に示しつつ次々と登場し、その魅力が、語り手が美食を回想して舌なめずりしているかのような口調で語られる。建築を愛する者にとって、こうした会話に読者として同席するのは楽しい限りであって、自分が知っている建物なら「うん、そうそう」と頷き、知らない建物なら行ってみたいくなる。特筆すべきなのは、著者たちの空間に関する語彙の豊富さで、例えば私自身も何回も訪れているローマのスペイン階段を上から順に描写しつつ「二つの階段が溶け合い……、ひとつの面は微妙に中心に向かい、もうひとつの面はわずかに外側の縁に向かい、敷地の境界の外側に向かう広がり」に追従している」(p.66)というような一節に接すると、よく知っているつもりだった場所について新たな視野が開かれる思いがするのだ。こうした叙述は著者たちの手になるスケッチによって見事にヴィジュアルライズされる。これらのスケッチは大胆で簡明な線を通じて議

論のポイントを巧みに強調することによって、空間の表現として写真に勝る効果をあげている。

本書の最も重要な役割は、著者たちが言う「現実の様々な場所をもっと記憶に残るものとなるように手助けすること」(序章)にあるだろう。つまり本書を読み終えた人は建築的な「場所」について、より深い見方と豊かな語彙を獲得し、より鮮明で具体的な「場所の記憶」を持つようになるだろう。これは建築を学びつつある者にとってはきわめて有効な基礎的思考訓練になるという意味で本書を学生諸君に推薦したい。

一方、建築家として仕事をしつつある私にとって、本書は上記の「場所の記憶を強化する」に加えて、もうひとつ深い感銘を与えてくれた。それは著者たちの場所への愛着の裏に潜在する、空間を人為的に操作することの喜びと、それができる建築家という職業の誇りである。「空間は親密に占有し、操作し、あるいは隅の辺りから消滅させることもできる実質である」(p.170)、「開口の多様性との戯れは、基本的な重要なリズムを確立し、大きさを調整し、建物の表面にその内に繰り広げられる生活を映しながら、特に興味深いことを作り出す、すばらしい喜びとなり、建築家を作曲家や物語の作家の心境に近づけることも出来る」(p.91)というような言葉は、私、および志を同じくする者の初心である建築家という職業への憧憬を再確認させる力強い励ましのメッセージであると思う。

最後に翻訳について言うと、詳細な訳註を付けた訳者の労を多とするが、訳文は生硬で読みにくく「最も還元的な配慮」(p.64)というような分からない訳語も多い。

●わたなべ・たけのぶ/建築家

わりで、よくにとっては忘れることのできない出来事だった。本書は、発生的認識論によって明らかにされた児童の知能の発達プロセスと、アリストテレス以来の科学の発展プロセスとの対応、つまり知能における「個体発生」と「系統発生」の対応に関する研究である。両者の対応から導き出される「一般的過程」とは、対象の分析から、対象間の関係、変換の分析を経て、構造の構成(ピアジェはこれを「超対象」と呼ぶ)の分析へと達する過程である。これはカッシーラーの認識問題にも通ずる結論である。

『科学者たちのボール・ヴァレリー』は19世紀末から20世紀初頭にかけての科学の大転換期に創作活動を始めたヴァレリーが、当時の科学に対してどのような態度を取っていたかを、現代の第一線で活躍する科学者たちがさまざまな角度から論じたものである。ヴァレリーの作品が科学者からも興味を

持たれるのは、そこに科学的明晰性と論理的一貫性を追求する近代的な合理精神が潜んでいるからである。彼が「構築」や「体系」に関心を示した点にも、それは表れている。『テスト氏との一夜』や『レオナルド・ダ・ヴィンチの方法』は近代的な思考のモデルを示した珠玉の作品であり、多くの愛読書でもある。ヴァレリーもまたヨーロッパのモダニティを体現した芸術家だといえよう。

『複雑系』は、現代科学の最先端にある「複雑系の科学」の生みの親とも言えるサンタフェ研究所についての物語である。ある人はそれをポストモダン・サイエンスと言うかもしれない。しかし僕の考えでは、依然としてそれはモダン・サイエンスの延長上にある。なぜなら、そこでは明晰さと体系性が追求され、さらにそれが「微細化」されているからである。

『認識問題—近代の哲学と科学における：4 ヘーゲルの死から現代まで』

エルンスト・カッシーラー=著 山本義隆+村岡晋一=訳

みすず書房

7004円

『精神発生と科学史：知の形成と科学史の比較研究』

ジャン・ピアジェ+ロランド・ガルシア=著 藤野邦夫+松原望=訳

新評論

4944円

『科学者たちのボール・ヴァレリー』

J.ロビンソン=ヴァレリー=編

菅野昭正+垣川邦夫+松野浩則+塚本昌則=訳

紀伊国屋書店

4800円

『複雑系：COMPLEXITY』

M.ミッチェル・ワールドロップ=著 田中三彦+遠山綾征=訳

新潮社

3400円

黒川紀章展 「歴史と現代の共生」

会期：～1997年2月23日(日)
12月29日～1月1日、月曜休館
会場：北九州市立美術館建築展示コーナー
福岡県北九州市戸畑区西鞘ヶ谷21-1
展示作品：奈良市写真美術館、門司港レトロハイマ
ート、メルボルン・セントラル、ヴァン・ゴッホ美
術館新館
問合せ：北九州市立美術館
Tel.093-882-7777 Fax.093-861-0959

稲門建築トーク&ギャラリー

展覧会「栗生明+古市徹雄展」
会期：12月10日(火)～12月14日(土)
10:00～18:00
会場：早稲田大学理工学部55号館大会議室
東京都新宿区大久保3-4-1 入場無料
講演会
講師：古市徹雄「建築のシナリオ」
栗生明「環境のトータリティ」
日時：古市徹雄—12月10日(火)18:00～
栗生明—12月13日(金)18:00～
問合せ：稲門建築会 東京都新宿区大久保3-4-1
早稲田大学理工学部55号館 Tel.03-3208-0640

ギャラリー煖 企画展 「あかりが楽しい」

会期：11月23日(土)～12月21日(土)
11:00～19:00 月曜休館
会場：ギャラリー煖 東京都渋谷区東4-11-8
出展作家：伊藤猛(漆)、川合光(鉄)、北村迪子(織)、
木村国男(金属)、斉藤裕子(デザイン)、戸室武
(大谷石)、姫井容子(和紙)、矢谷佐知子(草の布)、
ランディ・ウーヅ(陶) 他
問合せ：ギャラリー煖 Tel.03-3797-9864

福田則之写真展 「プラントI」

会期：12月10日(火)～12月22日(日)
12:00～21:00 無休
会場：ギャラリー・ルデコ3
東京都渋谷区渋谷3-16-3 TOWAビル3階
会場構成：小全紙20枚 B1 5枚額装
問合せ：ギャラリー・ルデコ Tel.03-5485-5188

東京国際フォーラム開館記念事業 「建築とアート」講演とコレクション展

展覧会
会期：前期—1月10日(金)～1月22日(水)、
後期—2月9日(日)～2月18日(火)10:00～20:00
会場：東京国際フォーラム・Aギャラリー 入場無料
講演と対談
日時：1月11日(土)13:30～16:00
会場：東京国際フォーラム・レセプションホール
講師：講演—ラファエル・ヴィニオリ「東京国際
フォーラムの建築デザイン」、小池一子「東京国際
フォーラムのアート」
対談—ラファエル・ヴィニオリ+小池一子
申込方法：往復はがきの往信部分に、氏名、住所、
電話番号、同伴者(1名まで)を、返信部分の裏にご
自分の住所と名前を書いて「100 東京都千代田区
有楽町1-1-1、ニッセイ基礎研究所内 東京国際フォ
ーラム開館記念事業係」迄
12月16日(月)消印有効
定員：500名 入場無料
問合せ：東京国際フォーラム開館記念事業係
Tel.03-3597-8438

GA JAPAN センバツ1996展

会期：～12月15日(日)
12:00～19:00 月曜休館
会場：GAギャラリー
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-12-14
出展作家：新井清一、新居千秋、有馬裕之、
石井和紘、石田敏明、北山恒、隈研吾、
栗生明、黒川哲郎、シーラカンス、高崎正治、
竹山聖、手塚貴晴+手塚由比、内藤廣、坂茂
古市徹雄、古谷誠章、村上徹、
六角鬼+丈、ワークステーション
入場料：500円
問合せ：GAギャラリー
Tel.03-3403-1581 担当/後藤

パブリックアート・ギャラリー企画展 「現代の作家」展1 吉水 浩

会期：12月2日(月)～12月20日(金)
10:00～17:00
会場：パブリックアート・ギャラリー青山
東京都渋谷区神宮前5-2-8 入場無料
問合せ：アートファクトリー玄
Tel.03-3407-9175 Fax.03-3407-5247
担当/山田、森山

デイヴィッド・リンチ展 「DREAMS—官能に貫かれた運命の シンフォニー」

会期：12月21日(金)～1月20日(火)
10:00～20:30
会場：バルコギャラリー
東京都渋谷区宇田川町15-1 渋谷バルコパート1 8F
出展作品：ペインティング3点、ドローイング10点、
写真50～70点
問合せ：バルコギャラリー Tel.03-3477-5873

第7回エス・バイ・エル住宅設計コンペ 作品募集 「ミース・ファン・デル・ローエの家」

審査員：出江寛(委員長)、妹島和世、内藤廣、
早川邦彦、村上徹、中島昭午、馬場璋造
賞金：大賞1点 150万円他
登録締切：1997年3月17日(月)当日消印有効
応募締切：1997年4月14日(月)当日消印有効
登録及び応募先：株式会社 新建築社「第7回エ
ス・バイ・エル住宅設計コンペ」係
113 東京都文京区湯島2-31-2 Tel.03-3811-7101

アントニオ・タビエス展

会期：～12月25日(水)
11:00～19:00 無休
会場：キリンアートスペース原宿
東京都渋谷区神宮前6-26-1
キリンビル原宿本社ビル1F Tel.03-5485-6321
入場料：500円(学生 300円)
問合せ：キリンビル株式会社 広報部 報担当
Tel.03-5540-3450

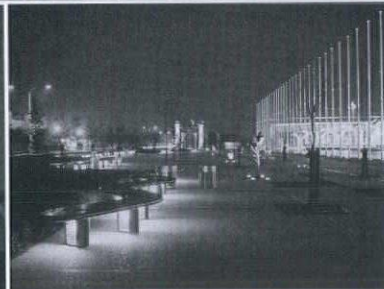
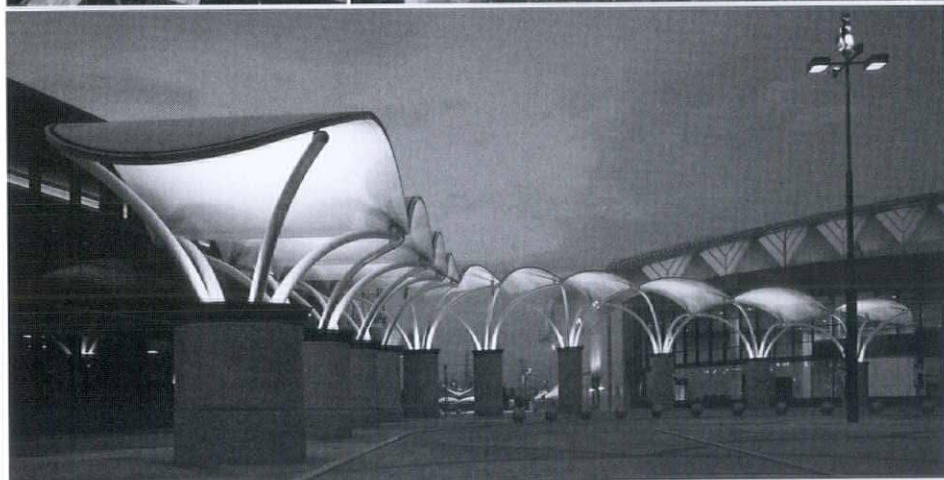
不動産競売 一般向け解説ビデオ発売 「不動産競売の手引き」

不動産競売は関係者のみでなくテナントやマンションに賃貸入居している一般の人でも対象になるケースがある。競売の手続きはかなり複雑であり競売一般向け解説ビデオが発売された。
問合せ：スーパービジュアル
Tel.03-3226-4712 担当/蓮香

お詫び
SD96年11月号p.68左上写真のキャプション「水の庭：10」は「草の庭：4」の誤りでした。ここにお詫び申し上げます。

表情多彩

照明は空間づくりの重要なポイント。
人々に、常に気持ちよく空間を利用してもらいたい・・・。
山田照明ではさまざまな条件やニーズを満たすために、
多種多様な照明器具を用意。ベストなあかりで、
ひとつひとつの空間を、個性的・機能的に演出し、
表情多彩な空間創造を力強くバックアップしています。



みやぎ産業交流センター（宮城）



山田照明株式会社

本 社	社/ショールーム 〒101 東京都千代田区外神田 3-16-12	TEL.03-3253-5161	横浜支社/ショールーム 〒220 横浜市西区南幸 2-20-1	TEL.045-311-1731
仙台支社	/ショールーム 〒980 仙台市青葉区二日町11-11 (ANDビル)	TEL.022-267-1630	大阪支社/ショールーム 〒542 大阪市中央区日本橋 1-21-23	TEL.06-643-3421
福岡支社	〒810 福岡市博多区店屋町 8-30	TEL.092-282-7635	名古屋営業所	〒460 名古屋市中区 5-16-14
北尾東営業所	〒370 高崎市上中居町 51-1	TEL.0273-26-4111	静岡営業所	〒420 静岡市西草深 23-9
鹿児島営業所	〒890 鹿児島市上之園町 4-14	TEL.0992-58-0031	宇都宮出張所	〒1802 宇都宮市海道町 818-2-1002
			TEL.0286-60-1381	
			札幌営業所	〒003 札幌市白石区菊水七条 2-61
			広島営業所	〒730 広島市中区十日市町 2-2-34
			長野出張所	〒380 長野市三輪 2-9-27
				TEL.011-811-2215
				TEL.082-293-6119
				TEL.0262-43-8420

個性が集まって大きなエネルギー

サッシ・カーテンウォールの総合メーカー



私たちは、今、ひと昔前の科学技術の進歩を強調するだけの時代から
“テクノロジーとヒューマニズムの調和”をめざす新しい時代をつくろうとしています。

とくに人間の生活空間を創造する建築業界においては、
こうした先進性が強く要求されていますが、その中で、生活空間としてのアメニティ（快適さ）や、
建築物内外の両面にわたるデザイン・外観・色彩など
美的付加価値の重要性もますますそのウェイトを高めています。

弊社は斬新で、確かな品質の製品を供給することを通して、
社会へ大きく貢献していきたいと考えています。



昭和サッシ

昭和鋼機株式会社

本社 ▶ 〒174 東京都板橋区前野町 6 丁目 1 番 10 号
☎ 東京 (03) 3969-1101 (代表)

所沢工場 ▶ 〒354 埼玉県入間郡三芳町大字上富 1163

明石工場 ▶ 〒673-01 明石市二見町南二見 21 番 3 号

昭和鋼機サービス株式会社 ▶ 〒174 東京都板橋区前野町 6 丁目 1 番 10 号

大阪支店・札幌営業所・仙台営業所・横浜営業所・名古屋営業所・九州営業所

どこの家にも、アクリルの中に入ったミニチュアの五重塔や金閣寺等のみやげのひとつやふたつはあるだろう。例に漏れず、私も小学校の修学旅行でその類のみやげを買ったひとりである。よく見れば、その五重塔は安っぽい金色に塗装されたプラスチックのミニチュアを、アクリルの中に閉じこめただけである。はっきり言って大したものではない。しかし、当時の私にとってそれは何とも魅力的なものだった。「もしかして、この金色の五重の塔は本物の金かもしれない」「五重塔は本当は金びかだったのかも」。あるいは「このミニチュアの中にはなにか大事なものが隠されているかもしれない」。など、私はその壊さない限り触れることのできないアクリルの中の五重塔に様々な夢を募らせていた。アクリルによる物理的距離が小学生の私に多様な解釈を許したのだ。多様な想像の海の前に、私にはもう本当の中身の価値など見えなくなっていたのである。

さて、私の取り上げるのはベン・ファン・ベルケルとカロリン・ボスによる、1960年代に建てられた小さなオフィスの改装である。既存のファサードをポリエチレンで覆い、第2の表皮として強化ガラスと木ルーバーからなるスクリーンが、既存の建物から吊るされている。ここでは入念に工法的痕跡を消去し、ガラス面の平滑さと透明さが強調され、既存の開口部に対応する木ルーバーが建築らしさをかろうじて保っている。

ベルケルはこのオフィスの改装にあたり、半透明のスクリーンで全体を覆った。この半透明のスクリーンによる効果として考えられるのは、例えば、見えそうで見えないことにより呼び起こされるエロティシズム

であり、その結果生じる凝視である。彼自身も言うように既存の建築は半透明のスクリーン越しに確かにその存在を主張しているし、木ルーバーが既存の開口部と少しずれていることからその様な意図が感じられる。また、その二重性から、見る者の視線はスクリーン越しに見える既存のエンペロブ(過去)と新しいエンペロブである半透明のスクリーン(現在)を行き来することで、強く「改装」というイベントを意識させられる。これは、一過性であるはずのイベントに記録性を与えようという目論見とも読むことができる。

しかし、ここで重要なのは多様な解釈の例をいくつも挙げる事ではない。むしろ、多様な解釈が許容されていること自体である。アクリルの中のプラスチック製五重塔と同様に、このプロジェクトの既存の建物は非常に凡庸で大したことはない。しかし、半透明のスクリーンによって与えられた視覚的距離により見る者は多様な解釈や想像を許され、既存の建物の凡庸さなどは見えなくなってしまうのだ。それどころか、多様な解釈や想像の運動の中、その魅力は増し続けるであろう。

ここで、改装という行為自体に対する態度に注目すると、様々な意見があるだろう。凡庸でつまらないモノは消し去り、新しい魅力的な表現を付加すればいいという人もいるだろうし、いや何十年も見続けてきたこの建物には愛着があって、できればそのままに残したいという人もいるかもしれない。しかし、建築には様々な要求条件や態度に対し決断することがつきまとう。そして、どこかでヒエラルキーが登場する。ところが、この半透明のスクリーンにより、前者はガラスと木の新しいエンペロブに満足するかもしれないし、

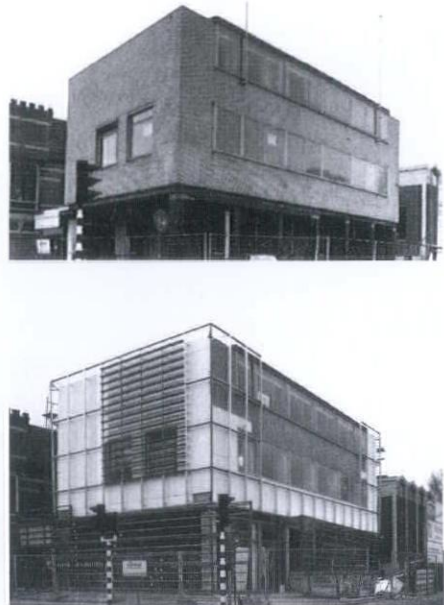
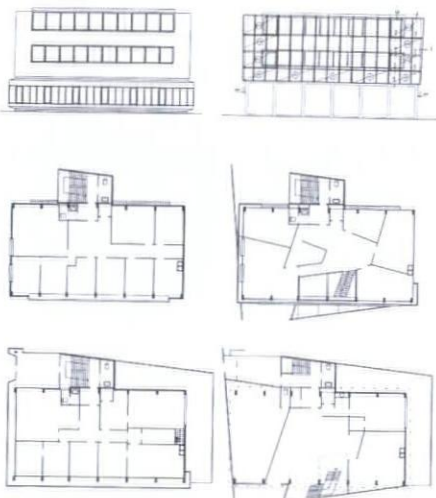
後者はスクリーン越しに見える既存の建物に永遠の夢を見ることができる。つまり多様な解釈や想像を許容する方法により、ベルケルはそれを避けることができた。このシリーズの大前提に帰れば、アンビバレントな要求条件、あるいは態度をヒエラルキーなくそのまま成立させたという意味で透明であると言えるであろう。

余談になるが、ベン・ファン・ベルケル自体について少し述べたい。彼の一連の作品には作品集を見た方は分かんと思うが作風と言えるような一貫性がない。ベルケルについて『a+u』誌上でジェフリー・キブニス述べているが、彼はその中でベルケルとモーツアルトの類似性を指摘し、ベルケルの設計手法を、現代デザイン手法のハイブリディゼーションと呼ぶ。コラージュが固有性を保った物の不連続な集合であるのに対し、ハイブリッドは固有性の融解した有機的結合体である。ハイブリディゼーションにおいては要素は相対的なものとして扱われている。つまり、ここで「透明性」の定義に立ち返れば、ベルケルは様々な他の建築家の設計手法をそれぞれ一条件としてヒエラルキーなく扱い、設計手法までも「透明化」しているといえないだろうか？ 批評活動にも熱心な彼にとって自然な流れなのかもしれないが、設計手法が透明化された時、建築家としての作家性あるいはアイデンティティは何に根拠を持つことが可能なのであろう。もし、それでも作家性という言葉の存在を信じるとすればそれは「透明性という名の作家性」とでも言うのであろうか。

アクリルの封印

小室圭介

ACOM, Amersfoort, 1993
architect: Ben van Berkel and Caroline Bos
EC72(II)



飯田都之麿
小室圭介
高橋淳司
福田能梨絵
福屋粧子
三村大介
山口久美子



ひとつの建築を成立させるためには、いろいろな角度からの条件が関わってくる。必要なのは、その中から建築として表現するために必要な条件をひとつピックアップすることではなくて、いったん全ての条件に対して建築側が開いて、その全ての条件の中でどの辺でバランスをとればリアリティを得ることができるのかを考えることだ。バランスをとるといのが、これまで慣習化されてきた方法の延長線上にあるのではないことは言うまでもない。慣習化された判断がどう働くのかということもひとつの条件として含めて、あるひとつのプロジェクトを考える時に関わらざるを得ない条件全体のバランスを考えるということになるのではないだろうか。エンベロブ(=建築の外装表面)に注目するのは、それぞれの建築毎に働いている要求条件が多層に積み上げられている様子が、外装表面においてもっとも鮮明に確認できることを期待したからだ。だから、ユニット化のためのカーテンウォールというような、近代以降すでに確認されているような条件に対応してつくられた外装のバリエーションを分析しても仕方がない。外装のつくられ方を読み解くことから、これまで

い。それに対し、注目され得るべきエンベロブは何かしらの条件に対応したもので、直接の効果を期待して検討されたものなわけだ。その建築に対して、立ち現れ方に関わるどういった要求条件が取り上げられているかを見て取ることができるはずなのだ。

その場しのぎ的に、よくある方法で外装をつくるのは訳のないことだ。しかし逆に見れば、これまで培われてきた手法の消極的な再生産を越えるのは簡単ではない。エンベロブを問題にできるプロジェクトは、この硬直化した状態を転化することができるだけの、強力な条件群が引き上げられたプロジェクトだといえる。

これまで「タイポグラフィ」「素材」「色」というように、建築を構成する具体的な要素を切り口としてひとつのプロジェクトを分析するという方法を探ってきた。そうしたことで、そのプロジェクトに関わっている条件をより具体的なリアリティのあるものとして読み解くことができた。より深く勝手に深読みするという意味では有効だったはずだ。しかしその一方で、それぞれの切り口=テーマが対応する条件を限定するため、そのプロジェクトに対して現れている、要求条件の多層的な断面をつくっていることを見て取ることは難しかった。

それぞれのプロジェクトでどのような条件が取り扱わ

海外建築情報 リミックス

未確認だった要求条件が抽出されてくるようなことが目指される。つまり、各プロジェクト毎にあるはずの要求条件セットを浮かび上がらせることが目的となってくる。

この事をもう少しエンベロブ寄りに考えてみよう。そうすると、エンベロブに注目することの目的は、建築全体がどのように立ち現れるのか、エンベロブのつくられ方を通してその出現の仕方を見ることにあると言えそう。言い換えると、エンベロブがどのような条件セットを担っているのかを意識的に考えることが、建築の出現の仕方をつくり上げることになるわけだ。建築の立ち現れ方をつくっている要因を、「ヴォリューム」(大きさ)と「エンベロブ」のふたつ側面に分けて考えるとはっきりするだろう。このふたつを単純に切り放して考えることができないのはいうまでもないが、特に近代建築での建築の立ち現れ方と、ここで注目しているようなエンベロブが問題となっているような建築の立ち現れ方をみると、その違いは明確だ。具体的には、ヴォリュームを分節したり、形や構成の上で調整を図ろうとするのは「ヴォリューム」の問題で、少々大雑把だが、これは計画学的に確認された機能に対してヴォリュームを対応させることに代表される近代主義的な方法の延長線上にある。それに対しエンベロブは、単純な計画学的な意味での機能ではすくいとれないような条件を扱うことが特徴的だ。当然のことながら、内部での機能的な分節の行われ方が外側(=エンベロブ)に現れることに直接の効果はな

Theme: エンベロブ その3「見えないこと」

れているのか。そして、それがどのように現れるのかを意識的に考えたい。つまり、建築の外装表面がどうあるべきなのかを語るのではなく、表面が何を担っているのかを明らかにすることを目的にしたい。で、前段で進めてきた話につながるわけだが、今回は建築の立ち現れ方、つまり「見え方」を考えたい。表面的な構成の問題のような表層的なデザインとしての見せ方の問題ではなく、どんな条件(意味や文脈)から出現させられたのかという見え方に注目するわけだ。単一の素材や単一の色で覆われているような状態は、この「見え方」がもっとも際立たされ、抽象化された姿だといえる。こういった抽象化された状態でのエンベロブの「見え方」を問題にすることは、どう「見えない」かを考えることでもある。そこで、エンベロブの状態によって建築が建築として意図的に見えなくされているプロジェクトについて考えたい。何から見えなくしようとしているのかを考えることが、そのエンベロブが担わされていることを考えることでもある。「見えないこと」というのは建築が透明であるということだ。このシリーズの大前提である「条件の積層化」も、建築の透明化に他ならない。透明であることを、建築の現れ方と建築をとりまく条件群の中での状態というふたつの側面から考えたい。

曾我部昌史

建築の外装表面=エンベロブをテーマにしたシリーズの最終回(かつ、現コア・スタッフによる海外建築情報リミックスの最終回)。建築の出現の仕方がいろいろな意味で「透明」であるような状態に注目し、透明であることがエンベロブによりどのようにつくられているかを探る。それぞれの建築がどのような条件を引き受けているのかを浮かび上がらせることを目指している。

’96コア・スタッフ
岩下暢男
今井公太郎
アトリエ・ワン
曾我部昌史
山本想太郎

EC: El Croquis
TA: Techniques & Architecture

「アドルフ・ロースと私が為したのは——彼はずばりとその通りを言葉で言い、私は文章によって表現したのだが——骨壺と便器のあいだには違いがあり、この違いによってはじめて、文化の活動領域が生じるのだ、ということを示すことにほかならなかった」
(カール・クラウス)

私事になるが、この夏にチューリヒ・スイス連邦工科大学 (ETH) 主催のワークショップ (プラハで行われた) に参加する機会があり、各国の学生、若手の建築家と共働する貴重な経験であった。ワークショップの課題はプラハ市内のヴルタヴァ河沿いの敷地100ha以上にわたる都市再開発で、2週間の作業にはいささか荷が重いものであったが、そこで印象に残っているのは、旧西ヨーロッパ、特にドイツ語圏の学生のチームの多くが、プランニングに際して当然のように中庭型の街区ブロックを用いていたことである。このような大規模開発に限らず、普通の課題や卒業制作等においても、彼らはしばしばこのような「街区型」建築をデザインしているようだ。そのような都市建築では、当然のことだが大事になってくる点は、ヴォリュームの形態よりもむしろ「表面」そのものである。こういった傾向には無論、学生自身の気質云々というよりも大学における建築教育の方針が深く関わっているのだが、それにしても彼らのファサード、特にそのディテールにかけるエネルギーは並大抵のものではなく、それだけで作品集を出版しているほどである (図1)。このような状況は、少なくとも日本で建築教育を受けている我々には理解し難い部分もあるし、場合によってはひどく保守的な態度として映るかもしれない。

最近、Herzog & de MeuronやGigon & Guyerなどと並んで日本でも注目されるようになったDiener & Dienerは、ある意味でこのような傾向を代表する建築

家であろう。彼の建築の特徴は、やはりなんといってもその「表面」にある。バーゼル市の美術館に面して建つBasler社のオフィスビル (図2) では、その外部のほぼ全面を、均質な開口部を持った、自立する石のパネルで覆っている。内部はヨーロッパの平均的なオフィスの通例通り、中央に廊下を持ち、その両側に小規模のオフィスが並んでいる。注目したいのはオフィスを分割している壁の位置で、通常なら柱の裏にあるはずだが、場所によってはマリオンしかない位置にもパーティション・ウォールがあるのがプランからわかるだろう (図3)。

このように、外壁の仕上げを内部のプランから独立させる彼の傾向は、バーゼルのフランス国鉄駅のすぐ近くに建つ (Fides Office Building) (図4、5) では、よりいっそう顕著なものとなっている。ここでは、外見上は5枚の窓からなる開口部がファサード全面を均等に覆っているように見える。サッシの枠の幅もごく普通の寸法である。しかし、外見の予想に反して、ここでもBaslerのオフィスビルと同様に、サッシの枠の背後にもパーティション・ウォールがあり、また、ふたつの開口部の間の壁は、窓一枚と全く同じ幅になっているので、各室は非常にシステムティックかつ、「自由な」寸法で分節されている。ここではその内部はもはや外部からは「見えない」。

内部と外部のこのような関係は、いわゆるインターナショナル・スタイルの「自由な平面」と「自由な立面」の関係などといったものではもはやない。なぜならファサードは単なる内部の結果としてそこにあるのではなく、(実際は内部に従いながら) 感覚的にはそれを「裏切って」、自律的な存在となっているからだ。

その内部に関わらず、表面を均質に覆い尽くすこと。あくまでも外見上はニュートラルであろうとするこの姿勢は、アドルフ・ロースのそれを髣髴とさせる。いや、単なる無装飾ではなく、積極的かつ厳格に、ニュ

ートラルなファサードを作ろうとする姿勢は、むしろヴィトゲンシュタインのストンボロウ邸におけるそれを思い起こさせるかもしれない。正確に言えば、外部が厳格でありかつ内部は「自由」であるという意味で、両者の性格を兼ね備えているといえよだろうか。

どちらにせよ、ひとつだけいえることは、彼のファサードは (結果としてどのように見えるにせよ) 複合的なプログラムを持った「内部」と、それを包み込む「パッケージ」というような二元的な文脈からつくり出されたものではない、ということである。むしろ、クラウスの言葉を借りれば、問題はその間にあるのだ。(いささか大袈裟な言い方ではあるが) ハンス・コルホフ流に言えば「窓のディテールから都市まで」を同じ態度で捉えているのであり、だから、ここでこうして「エンベロプ」というくくりかたで論じているとき、すでにわれわれは彼等と違う場所にいる。彼等にとってのファサードは、図式的に中身のできあがった建築にほどこす「気の利いた」仕上げなどでは全くないのだ。

実際のところDiener & Dienerは、単なる保守的な歴史主義とも、「気の利いた」シンプリシズムやミニマリズムとも違う位置にいる。しかし外から見れば、彼の「位置」は、簡単にそのどちらかに回収されてしまう危険性ははらんでいるし、そうでなくても、その一貫性によってひどく専制的なものにもなってしまうかねない。実際、スイスとドイツにおけるコルホフの位置は、もはや単なる「専制的歴史主義者」のようなものだ。

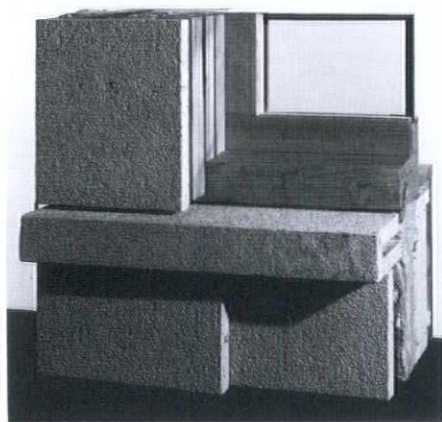
前出のワークショップを主催したETHの建築家に、コルホフとDiener & Dienerの違いを尋ねてみると、(彼には個人的な事情もあるのだが) 「コルホフは専制主義 (Autocracy) で、Diener & Dienerは民主主義 (Democracy) で、全然違う」という。この違いは絶対的で、同時にひどく微妙だ。

エンベロプの「場所」

高橋淳司

ETHの学生作品——1
Administration Building Picassoplatz, Basel, 1987-1993——2,3
Fides Office Building Steinentorberg, Basel, 1984-1990——4
撮影＝筆者——5
architect: Diener & Diener

参考文献
"Experimentelles Entwerfen mit Industrieprodukten", ETH, Zurich
"Construction Intention Detail", Artemis, Zurich, 1994
「アドルフ・ロース」、ハインリヒ・クルカ編、岩下眞好・佐藤康則訳、養流社、1984
フランツ・グリュック、「アドルフ・ロースの横顔」



1



2



3



4



5

細く引き締まった彼女の右足首には可憐な薔薇が咲いている。しかし、その紅く小さな花びらは枯れることも風に吹かれてなびくこともない。ゆっくりと脚を組み直し彼女は言う。「私はこれに魅せられてしまっているけど、縛られてはいないの……」

Tatooと入れ墨——指している事柄は同じであってもそれらは全く異なったものだ。確かに、どちらも容易に消えることのない絵柄を肌に描き込む行為であることには変わりはない。しかし、描き込む対象である皮膚に対する意識、認識がそれらでは全く相反している。「入れ墨」は永遠性を求めて自分の身体に刻印するといった意味をもつ。断ち切ろうとしても断ち切ることができない、一生消えないものとして残すもの。そこでの皮膚はあくまでも自己の延長、自己の一部であり、自分の身体に絶対的に従属するものなのだ。ところが「Tatoo」はもっと気軽だ。それはいわばファッションであり、コサージュやアンクレットといったアクセサリーがTatooに変わったに過ぎない。つまり、服飾で行われていたデザインを皮膚そのものに刷り込む(刻み込むではない!)のがTatooなのであり、それは日焼けサロンに通い、夏でもないのに肌を黒くすることと何ら違いはない。そこでの皮膚はもはや、自己の延長というような身体に従属する付属物ではなく、身体が一番外側にあるだけの単なる所有物なのである。

身体における皮膚は建築でいえば外装である。それは建築物の一番外側にある部分として「外層」という字を当ててもよい。外層は端的には立面であり、外層のデザイン＝立面の意匠である。多くの場合、その外層は壁の表面と同一のものを指しているため、立面をデザインするということはそのまま壁をデザインすることとして理解される。このとき、表現の対象になっている外層＝壁は、建築の実体という絶対性の中で従属関係にあり、それへの意匠は建築における付属品に任意の表現をまさに刻み込むことに等しい。それはすなわち「入れ墨」と同じである。刻み込まれた意匠は建築物への忠誠を誓う(というより誓わざるを得ない＝服従?)。

ならば、建築における「Tatoo」とは? その解答がここに挙げるヘルツォーク・ド・ムーロンの〈Cultural Center〉と〈Jussieu Libraries〉である。このふたつの作品の外層＝立面は、建築物本体から剥離したように独立して存在している。これにより、それらと建築本体との間に、どこかの領域に帰属するのか曖昧な空間、場を発生させていることも注目に値するが(これについてはまた別の機会に)、ここで特筆すべきは、建築物をコンパクトに梱包しているこれらの外層が、背後に控える量塊を薄いベールがごとく覆い隠すことで、その存在を希薄(神秘的?)にしているだけでなく、電光掲示に流される文字やガラスにプリントされた作家や学者のポートレートという情報、それら自身が直接建築の立面になっているということであ

る。つまり、その建築物の全体を決定づけているのが実体としての外層ではなく、そこから発せられる情報そのものであるということだ。ここでの外層は、外部に対し領域を切り出すという役割を特化、強調することで建築の階層性の中で相対的な関係性においてでしか従属しておらず、建築(壁)からの束縛を解き放たれ、自由な存在となっている。そこではもはや、外層＝立面はただ一番外側にある脱着可能な存在であり、あらゆる条件(広告であろうと映像であろうと緑であろうと……)が等価なものとして扱われ、並列的に刷り込まれ得る(如いては、実際問題として非実体である情報が外層を作るための媒体が外層であると考えれば、それすらも等価な水準にあるといってもよい)。このことが建築の立面表現を一層自由に行っていることはもちろん(「自由な立面」を越えた!?)、建築の絶対的な呪縛を肩で透かし、その階層性を煙に巻くことを可能にしているのだ。外層すなわちエンベロップが担う可能性はまさしくここにある。建築にとって交換可能な気軽な存在で、あらゆる情報を容易に刷り込むことができる所有物＝エンベロップ。それは「彼女」にとっての皮膚と同じである。

「近いうちにここにも咲かせようと思ってるの」。彼女は胸元をそっと指さし、優しく微笑んだ。残念ながら今度はそれにお目にかかる機会を得ないであろうが、その枯れることのない薔薇はまた美しく咲くに違いない。

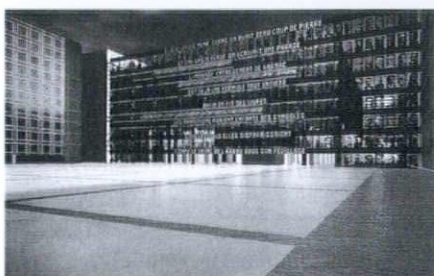
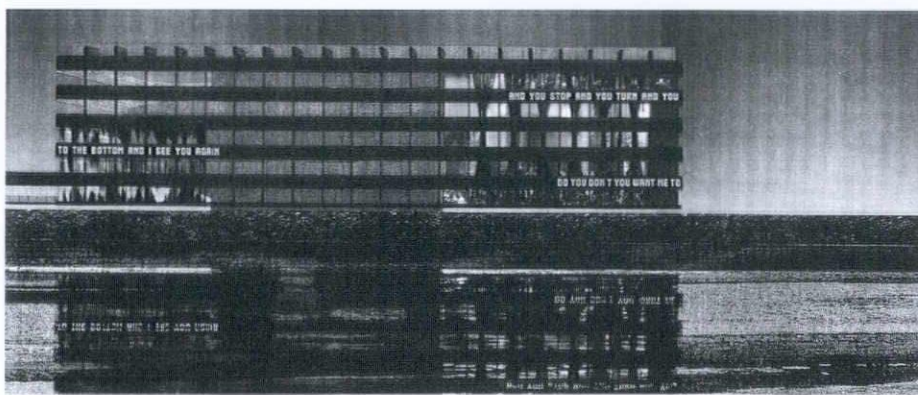
Cultural Center, Blois——1
Jussieu Library, Paris——2
architect: Herzog & de Meuron
EC60

枯れない薔薇

三村大介+山口久美子



SD9612
114



都市は、脆さの上で成り立っている。ひとつの關係に固執することもなく、常に關係を切り離しながら、同時に新たな關係をつくり出している。都市にはそのような漂泊性がある。我々は、そのような運動の中を漂うことによってのみ、予期できない新しい発見を行うことが可能となる。それ故に、我々もまた漂泊する。

建築が、動き続ける都市の中で、ある瞬間に適した条件を組み込んで外装をつくって、数十年間保ち続けることは、漂泊のさなかに遭遇したひとつの關係に対して、人為的に固執することになる。建築が都市と連続的に繋がるためには、周囲との關係を膠着した状態で持ち続けることを放棄しなければならない。

下の写真にあるラタピエ邸は、このような膠着した關係を放棄した建物である。

都市と住人の動きの間で、その境界線である建築の表面に「動き」が発生するのは、必然である。例えば、我々が、道に立ち、カメラのシャッターを開き続けたと考えよう。そこには、おそらく、人も、車も、その他変化するものは、はっきりとは写らない。それはただ、流れとしてだけ写され、決して見られることがない。都市を動きの集合としてみたとき、その見えない存在が都市である。まわりの建物がはっきり写る中、このラタピエ邸のような動く建築の表面も、また見えなくなる。ラタピエ邸は、ある一定の形を放棄して、動き自体の中に存在している。都市を動きそのものとみるならば、絶えず動き続けるこの建築は、まさに都市的である。

ただし、動くこと自体が都市的なわけではない。変化を生み出す動機自体、それを「動かしているもの」が表面に現れてきて始めて都市的となる。

動き：生活という情報の表面化

人間の主観的な動きと建物の物質としての客観性との

相互運動が、ラタピエ邸において完全に現実化されている。このデザインは、ア・プリオリに決定されたわけではなく、人の動きが加わって、ア・ポストエリオリに完成される。そして、その建物の要素によってつくられる空間を人が動くとき、その動きは、要素自身=表面に伝わってくる。生活という情報の表面化である。この建物の表面を支配しているものは、「動くことによって存在する」ノマド（遊牧民）である。それは、ちょうど都市がそうであるように、絶え間なく動き続け、絶え間なく変化し続ける。時間は、この建物の要素であり、建築の表現を完成させる。そして時間を介して建築は都市と接続し、場所と動きとを結びつけ、「場所性」という存在を形成している。

ラタピエ邸における場所性は、「物質」それ自身と、サイン／物語としての「物質の動き」によってつくられる。この建物は透明な波形のPVCの箱と内側に木の箱を含んでいる。そしてそれぞれが住人の情報を表している。外側のPVCのスキンの開口部は回転扉のための「ヒンジ」を持っている。その透明性は内部の活動を見せる役割を果たす。そして、ちょうど、建物が息をするように開いたり閉まったりする。また、内部の木の壁には、ス「レール」を持つ開口部がある。それは、「隠れる」または、内部から「覗き見る」役割をする。このふたつのスキンの間の、開口部の表現の対話は、サイン／物語を作り、それは、動きのエンベロープとなる。

脆さ：可能性の表層化

脆さは、あるひとつの關係を弱くすることで、次の關係に移行しやすくする。脆さの上で、様々なものは漂泊し、変化していく。脆さは、ラタピエ邸の動きの背景として存在している。

まず、脆さは材料を建物に固執させないことにより現れる。この建物の材料は、PVCやエタニット等の工業製品を仕上げをせず使い、その接合は、無造作で

ある。この、材料の日常性と、接合部の貧弱性は、それ自体ひとつの運動である。それは、ちょうど蛇が脱皮して新しい皮をまとうように、利用目的や住み手が変われば、建築は変化することを可能としている。

また、脆さとは、1枚の外装に切れ目をいれることでもあった。つまり、外装は、切れ目を入れらることによって、1枚の外装としての關係を弱められ、人の複雑な主観を表現することを可能とした（もちろん、1枚の外装に戻ることもできる）。

脆さは、プロセスそのものを露にし、それは建築をつくる時に生じる動きである。

我々は、脆さによって生まれる切り離された断片の中に、ものを動かしている存在自体を感じるのである。

建築家のプロセス=静的な關係付けの放棄

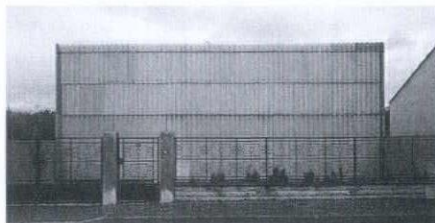
複雑な都市のある条件を汲むよりも、条件を汲んでしまわないようにつくることがさらに難しい。この建築家は、周りの条件との關係付けによって、この建築の表現を成立させている訳ではない。静的に「關係（relation）付ける」ことは、将来、他の關係が入ってくることを排除する。他の關係や、住人の創造性の余地を与えるためには、ただ、それに対して敏感に反応（reaction）できるようにだけつくられればよい。そうすることにより、建築自身が、關係を見つけたのである。このとき、エンベロープを内部外部の動的なものに敏感に「反応づける」ことが、表面を作り出すプロセスになる。建築家は、建築の形態ではなく、そのようなプロセス自身の中に、自らの存在をもっていくのである。

このエンベロープは、住み手のキャンバスであり、住み手が絶えずスケッチをしているのである。この動きをエンベロープに閉じこめたが故に、この建築は都市の動きに接続していくのである。

動く／動かしているもの

飯田都之磨＋福田能梨絵

Maison Latapie
architect: Anne Lacaton & Jean-Philippe Vassal
TA9410-11



ようこそ新宿高島屋へ！

あなたはいま新宿駅新南口にいます。

ここには駅前広場があります！

ここにはまばゆいケーシング型の建物があります！

ここには東急ハンズ、紀伊国屋書店、HMV、高島屋、ジョイボリス、アイマックスシアター、レストラン街、展望広場があります。目の前にうつくしき加減の魅力的な異性が立っています。どうしますか？

中に入れ

あなたは「あらゆる」方向に出口のある巨大な一体空間の中にいます。ここには「ありとあらゆる」種類の品物が所狭しと並んでいます！人々は幸福感に満ちて買物をしています！愛想のいい店員があなたに近づいて「何かご用ですか？」と訊いています。

地図を買え

ここには地図が見当りません。書店の中でしょう。

紀伊国屋書店へ行け

建物の中にはありません。方向を指示して下さい。

西へ行け、西へ行け、西へ行け、西へ行け

あなたは旧東ベルリンのフリードリヒ大通りにいます。あなたは巨大な何かの前にいるのですが、どうしてもそれを見ることはできないようです。

中を見ろ

黒い表面にあなたが映り込んで、中は見えません。

中に入れ

あなたはブラックホールのようなものの中に引き込まれました！あなたはコーン型の巨大な吹き抜け通路の前にいます！あなたの回りを光の帯が取り囲んでいます！ここには「ありとあらゆる」種類の品物が所狭しと並んでいます！人々は幸福感に満ちて買物をしています！愛想のいい店員があなたに近づいて「何かご用ですか？」と訊いています。

地図を買え

了解

外に出ろ

あなたにはそうすることができません！ガラスがあなたの邪魔をします。コーンを壊しますか？

壊せ

素手で、ですか？

はい

おめでとう！今あなたは素手でベルリンの〈ギャリ・ラファイエット〉を破壊しました！（素晴らしいですね！）目の前には大量のガラスの破片、コンクリート、人体、「ありとあらゆる」種類の壊れた商品があります。怒ったジャン・ヌーヴェルがあなたに近づいてきます！周囲の人が逃げて行きます！

これを直せ

あなたにはそうすることができません！

ここには設計図が見当りません。

設計しろ

素手で、ですか？

はい

もし私があなただったら、そんなことしません。パトカーのサイレンが聞こえます。拘束され器物損壊現行犯で逮捕されたあなたは取調官の前にいます。あなたには以下の権利があります。黙秘権。

ヘルプ

ジャン・ヌーヴェル設計の、旧東ベルリンのフリードリヒ大通りの新しいギャリ・ラファイエットは（以下G.L.）、従来の百貨店とは違った新しい構成であるとされる。内部に12個の光のコーンを内包し、対照的にファサードは街路に対して威圧的に沈黙しているように黒いミラーガラスで覆われている。これはバリのG.L.のアトリウムを模したものだとしているが、では、ベルリンにおける新しさとは何だろうか？

「デパート」の語源である“department store”は部門別の店という意味で、「分割」も示唆される。高山宏氏は著書『カステロフィリア』で、デパートの特質とは異質なものがひとつの建物の中に収まっているだけではなく、「多層に分割されたイベント的な空間の中を垂直に移動していく」ことこそがデパートの魅力であったし、店側もそれを意識すればこそ、説明図としてセクション（分割・断面図）を多用したと指摘している。

東京に出現した最新版のデパート、新宿高島屋も既

存の専門店の複合体である事を戦略として強く打ち出しているが、高山氏の言う「デパート」的な出来事は有り得ない。建物の巨大さとテナントの独立性が強くそれぞれが閉じているためで、新宿高島屋の場合、立地や建物の外形はともかく空間的には郊外のショッピングセンターに近いと言えるだろう。

ベルリンのG.L.については、ジャン・ヌーヴェル自身が「これは奥行き方向と上下の層方向に建物を読解する試みだ」と説明するように、中心のコーンは建物全体を使ったセクション（図2）となっているが、ここでも実際の空間移動としては「多層に分割されたイベント的な空間の中を垂直に移動する」事はできない。代わりに、訪れる人も入り込めないコーンの中に視覚的な空間移動がホログラム像のように映し出される。「デパート」だ。

だが、それが「デパート」なのだとしたら、何故それは外部に「見え」ないのか？（ヌーヴェルは西面のモニターでそれを意図したと主張しているが、成功しているとは思えない。外見はどう見ても黒いカタマリだ）。それは逆に考えて行けばすぐたどり着く結論で、要するに「デパート」の価値はそれだけだからだ。（「ありとあらゆる」商品ではなく）古典的なデパート（単位体積当たり最小限の表面積であるかのようなずんぐりむっくりとした直方体）は、それを隠すための様々な手法（古典的な形だけの窓・平滑な表面など）で覆われてきた。その最新の2作品（新宿高島屋、G.L.）では、前者はスケール・アウトしたオフィスビルの「外観」、後者はオフィスビルの「空間」を身に纏うことによって、その内部の活動を一般的な経済活動に回収させ、都市の中で見えないもの（背景）になりながら、まばゆいベビーベッドや黒御影の墓石のように中に秘密を隠している。（か、そのフリをしている）古典的過ぎるって？しかしデパートの商品価値はそこにしかない。

それでも、デパートに行きたいですか？

はい

ようこそ新宿高島屋へ！

デパートの外装斯く在るべし

福屋粧子

Galleries Lafayette

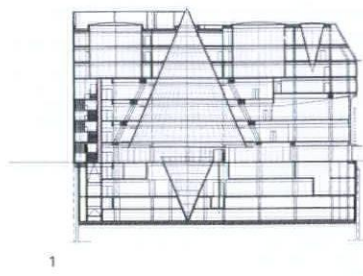
architect: Jean Nouvel — 1

撮影＝高橋淳司

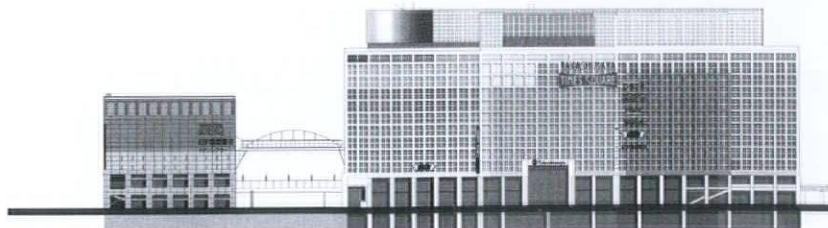
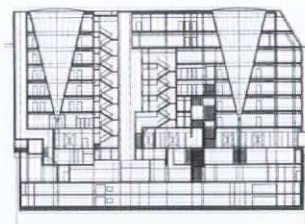
高島屋タイムズ・スクエア — 2



1



1



2

算用数字のうち、前者は月号数、後者は当該記事開始ページを表す

特集

- 1●5 都市づくりを仕掛ける——建築家たちの実践
 1●6 鼎談：継続する都市づくりをめざして 岡田新一+八束はじめ+堀池秀人
 1●13 [くまもとアートポリス] 牛深ハイヤ大橋、馬見原橋、熊本市営新地団地A-E棟、熊本県営竜蛇平団地、泉村ふれあいビクターセンター、うしぶか海彩館、天草ビクターセンター+展望休憩所、不知火町図書館・美術館、他くまもとアートポリスの評価と課題 川上 隆/くまもとアートポリスの近況 八束はじめ
 1●53 [クリエイティブTOWN岡山] 県営中庄団地建替、倉敷市立玉島北中学校、グリーンヒルズ津山、岡山西警察署庁舎、加茂川町民体育館、水鳥サロン、岡山県バイオテクノロジー研究所、他
 1●56 CTOの目指すもの 長野士郎/都市環境の創出と設計者選定 岡田新一
 1●109 [長崎アーバン・ルネッサンス] 長崎港ターミナルビル、長崎港元船B棟上屋、長崎港元船C棟上屋
 1●111 ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想について 徳永正憲^{エッセイ}/癒しの詩学：文化的戦略として 堀池秀人
 1●129 [白石メディア・ポリス] 白石市立白石第二小学校、しらさぎ橋美装計画、白石デザインフォーラム展示デザイン、STREAM（白石市北保育園）、他
 1●131 「くらし日本一のまちづくり」を目指して 川井貞一^{エッセイ}/「白石デザイン会議」の試み 川向正人/デュアル戦略の都市づくり 堀池秀人
 1●148 知事の意識と官僚制 三宅理一
 1●150 まちづくりと建築家の活動 国吉直行
 2●5 建築のメモリア——イタリア合理主義の流れ
 2●6 新古典主義としての新合理主義 櫻井義夫
 2●14 フランコ・ステッラ/ティエネの住宅、アルツィニャーノの中学校、他
 2●26 ウェルト・シオーラ/サン・アッレンデ通りのホテル、モンテルシェッロ獣医学科新校舎、サントポーノ小児科病院改修計画
 2●32 アントニオ・モネスティローリ/ミラノ・ガッララテゼ地区新教会計画、ガッリアーテの老人の家、ヴォゲラ墓地第5回拡張計画、他
 2●44 アルドウィーノ・カンターフォラ/ラヴァンナの屏風 住居としての都市、集積としての都市、オペラ「パルセウスとアンドロメダ」舞台装置
 2●49 マリーノ・ナルボッツィ/フィエツォ・ダルティコ墓地、マルコン・ヴェネト新庁舎、マルティエグ市立劇場
 2●57 ニコラ・ディ・パッティエスタ/テラモの集合住宅、ローマ近郊の教会、他
 2●62 現代合理主義建築をめぐるさまざまな起源 アルド・デ・ポーリ
 2●67 ミラノ・トリエンナーレ
 3●5 ベトナム建築大博覧
 3●6 はじめに——ベトナム・都市と建築への招待 村松 伸
 3●9 「折衷」という大きな流れ 写真+文=鈴木 豊
 3●25 ベトナム建築史とその特質 重枝 豊+中沢信一郎+村松 伸
 3●33 ハノイ 東京大学生産技術研究所藤森研究室+東京大学工学部都市工学科西村研究室
 3●34 ハノイ・ハノイ・ハノイ 村松 伸
 3●36 ハノイ近代建築100選+古建築10選
 3●44 重層するハノイの歴史 大田省一/36通り地区の成り立ち 土田 愛/ハーコーの暮らし 辻 鈴子/ハノイ36通り地区の町屋の建築類型 大嶋信道
 3●59 フェ 中川 武+早稲田大学アジア建築研究室
 3●64 阮朝の歴史、フェの都城、皇帝陵、フェの王宮——午門、太和殿、世廟、紫禁城、王都の舞台装置——南郊壇、文廟、天姥寺
 3●79 ホイアン
 3●80 歴史都市ホイアン 福川裕一+友田博通/ホイアン貿易陶磁博物館 平 幸夫/遺跡が語るホイアンの歴史と町並み形成 菊池誠一/ホイアン町家の修復 林 良彦
 3●95 チャンパ遺跡 重枝 豊、日本大学理工学部建築学科片桐研究室
 チャンパ建築再発見、チャンパ建築巡礼、チャンパの遺跡保存事情 重枝 豊

- 3●113 ホーチミン 東京大学生産技術研究所藤森研究室
 3●114 動き出したベトナム最大の都市ホーチミンシティ 大田省一
 3●116 ホーチミン近代建築30選
 3●121 ベトナム少数民族の住まい 重枝 豊/北部少数民族の住まい 上田博之/中南部少数民族の住まい 重枝 豊/中南部チャム族の住まい 中村理恵
 ベトナム南部のオクエオ文化と前アンコール期の建築遺跡 菊池誠一
 ベトナムの木造架構 中沢信一郎/フエ阮朝王宮の修復保存 中川 武+中沢信一郎/ベトナムの都市住宅 内海佐和子+友田博通+北川泰三/「建築家なし」のミニホテル 村松 伸/ベトナムの工業団地 阿部俊行/北部の開発：ハノイ周辺の新都市開発 森 映子/南部の開発：タントアン輸出加工区とサイゴンサウス計画 高橋俊介/発熱・ベトナム建築事情 村松 伸
 4●5 大地と光の変容 オーストラリア建築1788—
 東京都立大学建築学科 小林研究室=写真
 4●6 オーストラリア建築の魅力 小林克弘
 4●18 オーストラリア植民の始まり、シドニーのコロニアル建築、タスマニアの教会建築、オーストラリアン・ハウス、メルボルンのヴィクトリアン建築、都市住居テラスハウス 岡本美樹
 4●56 キャンベラの新首都計画 安藤貴昭/現代建築の可能性 佐々木龍郎/オーストラリア建築と植民の痕跡 ジェニファー・テイラー/建築の〈メタモルフォーシス〉 片木 篤/自然と建築についての考察 ビーター・ウィルソン
 4●71 オーストラリアの歴史+建築家年表
 5●5 多様性と調和の建築：ゲルカン+マルクの最新作
 5●6 多様性と調和 マインハルト・フォン・ゲルカン 山下昌彦=訳
 エルプシヨセー139、ミロ・データシステム・ビル、サラマンダー・ハウス、ドイチュ・レヴィジオン、チューリッヒ・ハウス、独日センター、ライブツイヒ・メッセ、ハノーバー・メッセ、ハンブルグ空港駐車場、ベルリン・レーンター駅、ミュンヘン21・プロジェクト、他
 5●46 ゲルカン+マルク事務所の30年 山下昌彦
 5●70 都市に開かれた建築 クラウス・ディーター・ヴァイス
 6●5 建築家の椅子111脚
 6●12 対談=時代をまとった愛しき椅子たち 光藤俊夫+宮脇 恒
 6●14 象徴としての椅子 光藤俊夫
 A.ロース、C.R.マッキントッシュ、A.ガウディ、H.ヴァン・デ・ヴェルデ、ヨゼフ・ホフマン、O.ワグナー、エリエル・サリネン、W.グロピウス、F.L.ライト、G.トーマス・リットフェルト、E.G.アスプルンド、マルセル・ブロイヤー、マルト・スタム、ビュール・シャロウ、ミース・ファン・デル・ローエ、ル・コルビュジエ、A.アアルト、ジャン・ブルーヴェ、ジュゼッペ・テラーニ、B.タウト、R.ノイトラ、エーロ・サリネン、C.イームズ、マルコ・ザヌーゾ、マックス・ビル、G.ボンティ、A.ヤコブセン、ヨーン・ウッツォン、C.スカルバ、M.ペリーニ、A.ロッシ、リチャード・マイヤー、他
 6●61 椅子の現象学 山口昌男/椅子ではない椅子 羽原庸郎/「部屋」と「馬」林 昌二/シェーカーの椅子 藤田 弘/懐かしい椅子・気に入っている椅子 池田武邦/いま、ジョージ・ナカシマのこと 村井 修/落ちつかない椅子 いろいろ 山口勝弘/フィン・ユール氏の想い出 織田憲嗣/近代椅子デザインを通して 島崎 信
 6●145 主要椅子年表1841-1994
 7●5 1. 再考 建築家 土浦亀城
 7●9 対談：モダニスト土浦亀城とバウハウス・デザインの系譜 植田 実+藤森照信
 7●15 初期モダニズムと建築家土浦亀城 西澤泰彦
 7●21 山懸邸、山本邸、谷井邸、土浦邸(第1、第2)、トクダビル、俵邸、岩出邸、保坂病院、竹原邸、長谷川邸、野々宮アパート、強羅ホテル、国際観光会館、他
 7●36 乾式構造の住宅、新住宅建築の問題 土浦亀城
 7●54 作品年表
 7●56 元所員へのインタビュー：土浦亀城の建築思想
 7●61 「白い家」へのオマージュにかえて 岸 和郎
 7●67 土浦亀城と同時代建築家たち アントニン・レーモンド—構法からのアナロジーと素材の真理 内田祥士/遠藤新一ライトを師とした建築家 内田青蔵/吉田鉄郎—モダニズムの前衛と後衛 大川三雄/山口文象—初期モダニズムの意義 河東義之/前川國男—モダニズムの両義性を巡って 松隈洋/谷口吉郎—自邸にうかがえる近代建築に対する姿勢の違い 藤岡洋保

- 7●80 土浦亀城の住宅計画 小川信子
7●84 土浦亀城と私：アメリカ仕込みの合理主義者 松村正恒／設計者のお人柄と作風 佐原真彦／自邸で燃えた最後のエリート 畑中 康／師ライトを敬愛し続けられた土浦先生 谷川正巳
7●89 2. スタジオ建築計画の集住考
7●90 集合住宅をめぐるテーマ——プロジェクトを通して 元倉眞琴
7●95 スタジオ建築計画の集合住宅を俯瞰する 矢代真己
7●96 FHプロジェクト 1. 全体計画 杉 千春、2. 構造計画 今川憲英、3. 設備計画 高間三郎、4. 外構計画 井上洋司
7●109 FHプロジェクト——アプリケーションI FH・HOYA II、他
7●120 都市型ハウジングシステムのニュー・バージョン 宇野 求
- 8●5 マイケル・ホプキンス
8●6 序文 マイケル・ホプキンス 訳＝中江 哲
8●10 イギリス国税局新庁舎、チケット・オフィス・パッキンガム宮殿
グランドボーン・オペラハウス、ブラッケン・ハウス、シュルンベルジェ・ケンブリッジ研究所、デヴィッド・メラール事務所兼ショールーム、ローズ・クリケット競技場マウンドスタンド、ホプキンス自邸
8●93 新たな建築の構成をめざして ケネス・フランプトン 訳＝櫻井義夫
8●101 イギリス社会に受け入れられた建築家マイケル・ホプキンス 佐藤親英
8●102 ポスト・ハイテクの可能性——マイケル・ホプキンスのデザイン思想 難波和彦
8●104 新国会議員会館、トッテナム・コートロード駅再開発計画、他
- 9●5 デンマーク・モダンハウスの最盛期
9●6 レス・イズ・モアの可能性——デンマーク50年代のモダン住宅を訪ねて 木下壽子
9●13 デンマーク50年代は最後の黄金時代か? リズベット・バルスレフ・ヨーゲンセン
9●18 ニルス・ボーアのサマーハウス別棟 ヴィルヘルム・ヴォリャト／グンログソン自邸 ハルドル・グンログソン／ソーレンセン自邸 エリック・クリスチャン・ソーレンセン／スーホルム I アルネ・ヤコブセン／ケアホルム自邸 ハンナ・ケアホルム、
9●45 インタビュー：ハンナ・ケアホルム
9●50 試論：デンマーク近代住宅再考 斎藤光代
9●52 ネアルムヴェンゲ／パッレ・スーエンソン、フレデンスボーのテラスハウス／ヨーン・ウッツォン、他
9●68 50年代のデンマーク・ランドスケープ・アーキテクチャ マレーネ・ホークスナー
9●70 アロットメント・ガーデン カール・テオドル・ソーレンセン／ブッディング教会庭園 スペン・イングバー・アンダーソン、他
9●76 インタビュー：デンマーク・デザインのルーツを探る アルフレッド・ホームマン、イェンス・ムラー・イェンセン、ポール・ミュギン・イェンセン
9●82 職人性と近代性——デンマークのフィフティーズ 三宅理一
- 10●5 中世の光と空間 フランス中南部のロマネスク建築
10●6 ロマネスク——その文化的基盤 饗庭孝男
10●22 ロマネスク建築のつくる景観構造と空間性 河辺哲雄／プランの多様性 羽生修二／ロマネスク建築のプロポーション——数と幾何学と 西田雅嗣／古代ローマの遺影 渡辺道治／ロマネスク聖堂扉口彫刻 馬杉宗夫／回廊——用と聖、あるいは牢獄と天国 西田雅嗣／素材と石積みと地域主義 羽生修二／ヴォールト架構のタイポロジー 羽生修二／イスラムとの交流 山田幸正
10●68 アクチュアル・ロマネスク 鈴木了二
10●82 ロマネスク——特にシトー修道院の建築について 香山壽夫
10●50 ル・トロネ修道院、セナク修道院、シルヴァカンヌ修道院、サン・カプリエル礼拝堂、サン・ジル・デュ・ガール教会、サン・マルタン・ド・ロンドル教会、エルヌ大聖堂、セラボス小修道院、サン・タンドレ・ド・ソレド教会、サン・マルタン・ド・カニグー修道院、サン・ミシェル・ド・キュクサ修道院、モザック教会、サン・サテュルナン教会、ノートル・ダム・デュ・ポール・バシリカ聖堂、ノートル・ダム・バシリカ聖堂（オルシヴァル）、他
10●85 作品解説
- 11●5 栗生明
11●6 環境のトータリティ 栗生明
11●22 インタビュー：ガラス箱の中の非日常性 横 文彦
- 11●26 岡崎美術博物館（マインドスケープミュージアム）、コア山国、チューリップ四季彩館、バトリ+清里フォトアートミュージアム、植村直己冒険館
11●34 外気のうつろいを人肌に引き寄せる家具 藤江和子
11●40 風景を誘う建築 宮城俊作
11●42 時間のない世界 飯島洋一
11●44 神慈秀明会黄島神殿、カーニバル・ショーケース、伊丹市地下めいそう空間、新湊市菅本江住宅、信州博覧会：コンストラクション・アート・ミュージアム・CAM、世界都市博覧会：青海2地区会場計画、香港ピーク設計競技案
11●82 コラボレーションとコンティニュアンス 南條道昌
11●50 栗生さんとコラボレーションと僕 養原 敬
- 12●5 SDレビュー1996
12●17 審査員総評 香山壽夫／渡辺邦夫／内藤 廣／妹島和世
12●19 RE[]/Responsive Environment、城戸崎和佐建築設計事務所、黒木正郎+横田千晶／日本設計、佐藤光彦+横溝 真、三分一博志+西尾通哲+塚田哲也+土井一秀、高橋昌巳／シティ環境建築設計、長田直之+筏 真司+清水裕二／I.C.U.、西沢大良、宮沢 透、宮脇 勝、安田光男+杉山陽子、ユストロ・ビザール+ペーター・ルーゲ、由田 徹+岡本美樹、吉松秀樹／アーキプロ、渡辺真理+木下庸子／設計組織ADH+三谷 徹+長谷川浩己／S.E.D.O.
12●50 作品講評
12●55 新時代は見えるか 久保清一
12●56 SDレビュー1996経過報告
- 作品・その他
2●73 闇からの変容——洞窟僧院 写真＝平 剛
ゲガルド修道院（アルメニア）、スメラ修道院（トルコ）、カッパドキアの聖堂（トルコ）、他
2●81 闇のアイコン 山崎揚史
2●89 彫刻と建築のはざまで インゼル・ホンブロイヒの新たな試み
2●90 美的精神の形象としての美術館 南條史生
4●81 ネクストジェネレーション in New York
4●82 スミス+ミラー+ホーキンソン／コーニング・グラス・コンプレックス、マスキミン・ハウス、他
4●92 ジョエル・サンダース／「視覚限定性(サイト・スピーシフィック)」 ペダーセン邸
4●102 批評的な境界、あるいはモダニズム／ミニマリズムからの逃走の線 松畑 強
5●81 海と建築 鈴木了二の最新作
佐木島プロジェクト、佐木島の住宅
5●102 混在するイメージ 飯島洋一
8●129 光と空間の夢を訪ねて 南條史生
ドナルド・ジャッドのチナティ財団とウォルター・デ・マリアのライトニング・フィールド
9●85 山上の都市と塔の家 イエメン：都市と住居の形態学
文+写真＝昭和女子大学芦川研究室
シバーム、サヌア、ハジャラ、ロック・パレス、コーカバン・シバーム、他
10●97 ふたつの都市考〈近代都市と芸術展〉と〈未来都市の考古学〉展より「都市」は描かれたか? 飯島洋一
10●102 街路の身体 田之倉 稔
10●105 97Chairニューヨークから略奪された椅子たち
10●106 略奪の街——97の椅子 プアー・ボーイズ・エンタープライズ
11●133 田窪恭治 サン・ヴィゴール・ド・ミュー礼拝堂プロジェクト3
完成、そして新たな始まり ジャン・マルク・ユイトレル 三宅京子＝訳
12●61 伊丹潤の近作より：石彩の教会、木の教会、土の教会
石彩の教会、木の教会、土の教会と三梅園プロジェクト
伊丹潤の建築思考の一断面——教会建築連作に見る 林芳史

連載：apple tomology トムの時空形象学
戸村 浩＝文 田中 昇

- 1●154 4. MOVE FORM——チューブとネット
2●70 5. MOVE FORM——たためる絵画
3●154 6. MOVE FORM——たためる彫刻
4●74 7. MOVE FORM——HAND461: 不易流行
5●78 8. MOVE FORM——TORUS: 不易・変易・簡易
6●154 9. MONOLITH
7●122 10. MONOLITH——ルート直方体
8●122 11. 木の星——Jupiter
9●112 12. 内部の謎
10●90 13. CUBE SUGAR CUBE
11●126 14. MAGICCUBE
12●94 15. CUBE CROSS

連載：ヤマトホテル巡礼
ホテル文化研究会 都市とホテルの空間文化誌

- 2●97 1. 拠点／ハル濱ヤマトホテル 角野幸博
3●161 2. 異国への玄関口／大連ヤマトホテル 永井良和
4●74 3. リゾート／星ヶ浦ヤマトホテル 橋爪紳也
5●105 4. 時代の臨界／奉天ヤマトホテル 竹山 聖
7●129 5. 新都建設とヤマトホテル 毛谷村英治
8●137 6. まれびと空間としてのホテルと街の風俗 横川公子

照明探偵団：連続実践講座レポート
葛西玲子／LPA

- 3●158 1. みること——目のうろこを落とすこと
4●78 2. アーユーワイヤード？ 近代化と夜景
5●76 3. 増殖するグレムリン 自販機と仲良くする方法
6●156 4. 芸術としての光 天使の舞う都市
7●124 5. 「美しき東京」の顔 コンビニ進化論
8●112 6. ライトアップ・ゲリラのすすめ
9●114 7. そぞろ歩きの空間—水と光の出会い
10●92 8. 盛り場の「行灯街」——ネオンの行方
11●130 9. 誘う光・誘われる光 ——ホイホイとフラフラ
12●96 10. 動く光の面白さ——花電車と夢

◇海外建築情報リミックス

- 1●162 ビルディングタイプその4：「戦争を記憶する建築」（戦争博物館）
アトリエ・ワン＝出題
ペロンヌ第一次世界大戦ヒストリアル
太田浩史
ユダヤ博物館 和田克明
ホロコースト・メモリアル・ミュージアム
新井大介
メモリアル・モニュメント 松原弘典
ビルディングタイプではなく、概念操作による戦争博物館 奥田真也
2●106 ID（インダストリアル・デザイン）その1：電子製品
今井公太郎＝出題
Leapfrog Computer 丸橋 浩
キーボード・マッド（サーフ） 柴雲照英
液晶ディスプレイ 梶橋 修

電子レンジ 真崎英剛

- サイバー・インターフェース 田鍋 稔
3●166 機能その1：「場所」による機能
山本想太郎＝出題
1995年の地政学 五十嵐太郎
「より～らしいということ」 柴雲照英
時間の遅れというところ 橋本直明
魅惑的な対象の残骸 堀井義博
不可視な「場所」の視覚化 奥田真也
4●114 エンベロップその1：単一素材
曾我部昌史＝出題
ハイウェイ・アーキテクチャ 岡部克哉
建築の「はだざわり」 田上健一
反射するというところ 柴雲照英
インターフェイスとしての外皮 丸橋 浩
ストレートにストレート 村上誠一
5●114 ビルディングタイプその5：スポーツ建築
アトリエ・ワン＝出題
ニュー・アムステルダムスタジアム 永山明男
サン・ドニのスタジアム・コンペ 米川 淳
10万人のスタジアム計画 奥田真也
ナントの体育館とウエスカ・スポーツ 梶 修
アトランタ・オリンピック施設 小川次郎
6●166 ID（インダストリアル・デザイン）その2：自動車
太田浩史＝出題
自動車とディテール処理 前田紀貞
自動車とコンフィグレーション 清水裕二
自動車とカスタマイズ 田上健一
自動車とスタイリング 丸橋 浩
自動車とプログラム 田鍋 稔
7●134 機能その2：「中身」の機能
山本想太郎＝出題
横断と連続 小室光矢
「複合性」という中身 福屋粧子
カラマツを着た建築 丸橋 浩
求心的＝有機的學校建築 伊藤有宏
時代と寝続ける男 梶橋 修
8●142 エンベロップその2色——1色で塗り込められること
曾我部昌史＝出題
コココーラ、コネチカット、デコン
永山明男
緑＋緑色！？ 三村大介＋山口由美子
症候としての80s' 銀色建築 堀井義博
「素材」という色 奥田真也
零度の色相 田中大介
9●118 ビルディング・タイプその6：公園——余白の再定義
アトリエ・ワン＝出題
人間のいない公園 小川次郎
並列された余白 高橋淳司
方法の余白 宋知殷
自然維持システムのデザイン 山内彩子
余白のマシン 前田紀貞
10●112 ID（インダストリアル・デザイン）その3：ハイテク・スニーカー
今井公太郎＝出題
'96ソール完全読本 丸橋 浩
たかがひも、されどひも。シューレースの問題 橋本直明
はいてく・にんじや・しゅーず 堀井義博
市場最強のスニーカー 永山明男

身体的(physical)ピロティ 福屋粧子

- 11●149 機能その3：建築と自然
山本想太郎＝出題
自然+人間+建築 齊藤 理
温室の機能 山内彩子
空白による顕在化 小室光矢
浸透する自然 飯田都之磨＋福田能梨絵
見えない自然 堀井義博
12●106 エンベロップその3：見えないこと
曾我部昌史＝出題
アクリルの封印 小室圭介
エンベロップの「場所」 高橋淳司
枯れない薔薇 三村大介＋山口久美子
動く／動かしているもの 飯田都之磨＋福田能梨絵
デパートの外装斬く在るべし 福屋粧子

◇書評

- 1●162 錯乱のニューヨーク
レム・コールハース＝著
鈴木圭介＝訳 筑摩書房
小林克弘＝評
1●163 美術館とは何か
大島清次＝著 青英舎
渡辺真理評
2●106 ハイテック・コンストラクション3：スーパーシェッズ
クリス・ウィルキンソン＝著
難波和彦、佐々木睦朗＝監訳 鹿島出版会
伊東豊雄＝評
2●107 見ることの逸楽
谷川 渥＝著 白水社
建皇 哲＝評
3●166 「ヒルサイドテラス白書」
横文彦＋アトリエ・ヒルサイド＝編著 住まいの図書館出版局
西脇敏夫＝評
3●167 「建築」批判—空間をめぐる光芒
鈴木隆之＝著 彰国社
松畑 強＝評
4●114 世紀末の未来都市
柏木 博＝著 ジャストシステム
倉田直道＝評
4●115 かたちに見る造形の構成イメージ・ジェネレーターの展開
島田良一＝編・著 鹿島出版会
戸村 浩＝評
5●114 提言・都市創造
伊藤 滋＝著 晶文社
渡辺定夫＝評
5●115 哲学的建築 理想都市と記憶劇場
ライナルト・ベルギーニ＝著
伊藤博明＋伊藤和行＝訳 ありな書房
6●166 デュラン比較建築図集
長尾重武＝編・著 玲風書房
鈴木博之＝評
6●167 パリ 都市の詩学
海野 弘＝文
村井 修＝写真 河出書房新社
植田 実＝評
7●134 ヴィクトリアン・ゴシックの崩壊
鈴木博之＝著 中央公論美術出版社
片木 篤＝評

- 7●135 始源のもどき——ジャパネスキゼーション
造物主義論——デミウルゴモルフィズム
磯崎 新=著 鹿島出版会
難波和彦=評
- 8●142 王の身体都市
飯島洋一=著 青土社
西垣 通=評
- 8●143 トランスアーキテクチャー
菊池 誠=著 INAX出版
花田佳明=評
- 9●118 カステロフィリア
高山 宏=著 作品社
岡田哲史=評
- 9●119 庭の意味論
マーク・フランシス、ランドルフ・T.ヘス
ター・ジュニア=編
佐々木葉二、吉田鐵也=訳 鹿島出版会
進士五十八=評
- 10●112 家
安藤忠雄=著 住まいの図書館出版局
榎本弘之=評
- 10●113 マスメディアとしての建築ビートリス・コ
ロミーナ=著
松畑 強=訳 鹿島出版会
富永 譲=評
- 11●142 際の都市論
植野紉+若松久男+森 徹=著 山海堂
真壁智治=評
- 11●143 篠原一男
篠原一男=著 TOTO出版
土居義岳=評
- 12●106 インドの建築
神谷武夫=著 東方出版
黒河内宏昌=評
- 12●107 記憶に残る場所
ドンリン・リンドン/チャールズ・ムー
ア=著 鹿島出版会
渡辺武信=評

◇CD-ROM紹介

- 8●144 ワールドデザインシリーズアントニオ・ガ
ウディVSotto・ワグナー

◇ニュース

- 1●168 ランドスケープ/人工と自然の風景
宇野 求
- 3●157 1995年度ブラウン賞発表
- 5●109 ドイツ表現主義舞踏の身体表現「ドイツタ
ンスの100年」 長谷川 章
- 6●158 ASA-JIAデザインワークショップ
葛西礼子
- 6●160 第4回KAJIMA彫刻コンクール入賞作品発表
- 6●163 アーティストが造った交番 ゆめおおおか
アートプロジェクト 谷 新
- 6●164 1996年デンマーク・デザインセンターID賞
決定
- 7●126 テンイヤーズアフター バルク・デ・ラ・ヴ
イレット 岡河 貢
- 7●136 陶土への新たな挑戦

「陶板・會田雄亮」展より 技術を生かす

椎名 純

- 8●125 水を生産する地下都市：ヘルシンキ市の浄
水・下水処理施設
- 11●129 岡山県「都市景観・建築文化の10年」オー
ブニング・シンポジウム 前田 敦
- 12●98 南仏のスペクタクル——ミヨー高架橋
- 12●103 検証——インターネットによるヴァーチャ
ル・デザインスタジオ

◇展覧会レポート

- 1●157 「抽象性/透明性・再考」考 ライト・コ
ンストラクション展 松畑 強
- 1●158 若き建築家6人香港に上陸
インビジブル・ランゲージ——香港展彫刻
家と建築家の共同制作の可能性 伊藤公文
- 1●160 イサム・ノグチとルイス・カーン——刻み
込まれたランドスケープ 垂井洋蔵
- 1●161 風景の生成 クリスト&ジャンス・ニクロ
ード展——梱包されたライヒスタークと進
行中のプロジェクト 渡邊高宏
- 4●109 環境デザインは隠れデザインなどではない
「環の会：80人の環境デザイナー/その仕
事と視点」展 曾根幸一
- 4●110 もうひとつの写真空間
石元泰博展「現在の記憶」 平木 収
- 4●112 キャンパスのデザイン
「リチャード・マイヤーとフランク・ステ
ラ：建築と絵画の接点」展 堀田典裕
- 5●110 時代の精神が生み出すもの
「トーネットとウィーンデザイン」展
河合俊和
- 5●112 デイツシュ・ウォッシャーの中の魯山人
「イサム・ノグチと北大路魯山人」展
川村純一
- 10●94 「終(つい)の棲みか」と「都市居住」のゆくえ
——同潤会代官山アパートのお別れ会を巡
って 松隈 洋
- 11●141 「オリジナリティ」への問い 「日本の建
築家による椅子展」より 河合俊和
- 12●102 移ろう水の「霊」と光の声——トボスの復
権展 高島直之

◇METROPOLITAN LIBRARY

- 1●162 橋爪紳也=評
- 2●106 高島直之=評
- 3●166 難波和彦=評
- 4●114 橋爪紳也=評
- 5●114 高島直之=評
- 6●166 難波和彦=評
- 7●134 橋爪紳也=評
- 8●142 高島直之=評
- 9●118 難波和彦=評
- 10●112 橋爪紳也=評
- 11●142 高島直之=評
- 12●106 難波和彦=評



内野コミュニティセンター屋根面CG

9701

特集

葉 祥栄—12 CALISTHENICS for architecture

「柔よく剛を制す」という言葉がある。あらゆる応力の変化への対応能力を備えることは建築にとって必要条件であって十分ではない。いつまでも美しく魅力的で、生き生きと息づく柔らかさを保持するためには、柔軟体操(カリストニクス)が効果的である。本特集では、葉祥栄のもつ最も重要なデザイン・キーワードのひとつである「柔軟体操」を12のカテゴリーに分け、そこから思考され、形成された全主要作品を紹介する。

[作品]

筑穂町福祉総合エリア、老人保健施設サンダイヤル、内野コミュニティセンター、小国町隣保館、内住コミュニティセンター、金田町ふれあい塾、U-ステーション、グラスステーション、大閘山ランド展望塔、ふるさとパレス、嵐山ゴルフクラブ、海と空の間のガラスの家、松下クリニック、海のピラミッド、西部ガスミュージアム、ひろしま海と島の博覧会、小国町体育館、アスペクタ、ミュージックアトリエ、光十字の家、日時計の家、風格子の家、ラフォーレミュージアム、光格子の家、木下クリニック、インゴット、他

[文]

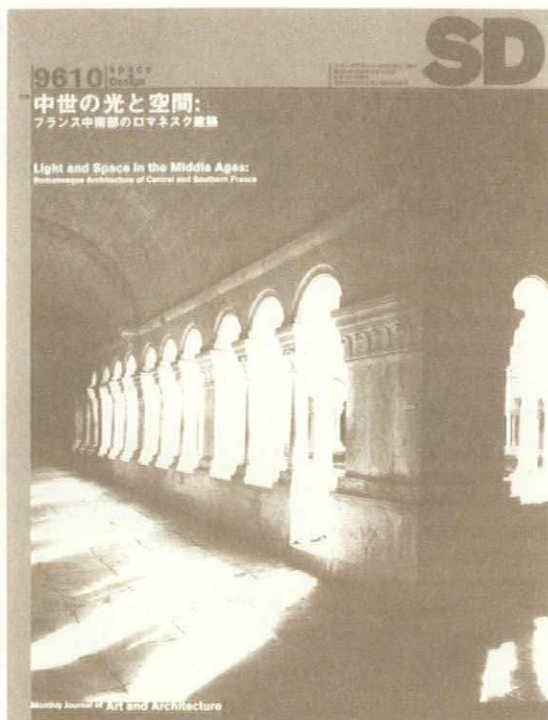
グレッグ・リン、飯島洋一、土居義岳、松畑 強、葉 祥栄

連載：トムの時空形象学16／戸村 浩

連載：照明探偵団・連続実践講座レポート11／LPA

SD

バックナンバー



9610

特集

中世の光と空間

フランス中南部のロマネスク建築

キリスト教精神に裏付けられたヨーロッパ中世文化のもとに発展した教会・修道院建築。高い精神性をもって築き上げられたこれらロマネスク建築のもつ、荘重で力強い石造り建築の空間は、今もなお人々を魅了する。本特集では、幾何学・回廊・彫刻・石積み・イスラム・ランドスケープ等々のキーワードをかけた、クリュニー派、シトー会派を含めたロマネスク建築のもつ空間の解析を試みる。

〔紹介予定建築〕

ル・トロネ修道院、シルヴァカンヌ修道院、セナンク修道院、サン・マルタン・ド・ロンドル教会、サン・タンデレ教会、サン・ミッシェル・ド・キュサ修道院、サン・マルタン・ド・カニグー修道院、他約30例

〔文〕

香山壽夫、羽生修二、馬杉宗夫、西田雅嗣、河辺哲雄、山田幸正、渡辺道治、饗庭孝男

〔写真〕

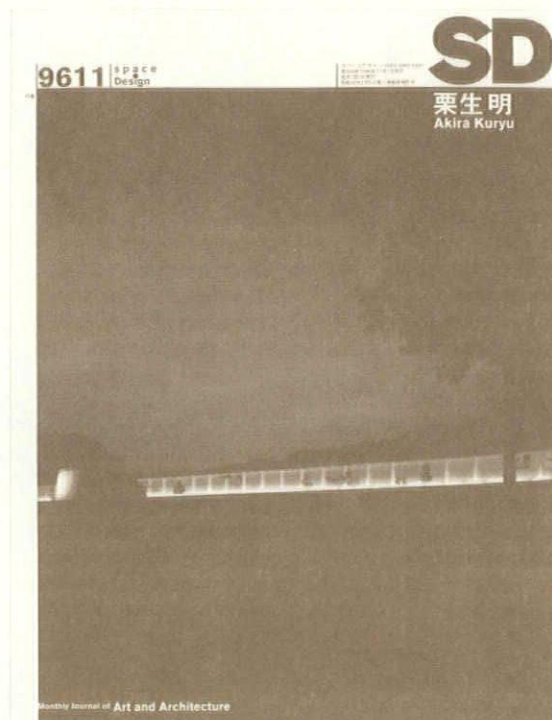
堀内広治

連載:

トムの時空形象学 13/戸村 浩

照明探偵団:連続実践講座レポート7

定価=1,950円/本体1,893円



9611

特集

栗生明

建築家自らがすべてをコントロールするのではなく、施主はもちろんのこと都市プランナー、ランドスケープ・アーキテクト、家具デザイナーなどとのコラボレーションを続けている栗生明。1995年度建築学会作品賞を受賞した「植村直己冒険館」もコラボレーションの結晶である。本特集では、栗生明の全主要作品を紹介する。

〔作品〕

岡崎市美術博物館、コア山国、チューリップ四季彩館、パトリ+清里フォトアートミュージアム、植村直己冒険館、新湊市営本江住宅、神慈秀明会黄島神殿、カーニバル・ショーケース、他全23作品。

〔文〕

飯島洋一、養原 敬、南條道昌、宮城俊作、藤江和子、栗生明

〔インタビュー〕

横 文彦

田窪恭治のサン・ヴィゴール・ド・ミュー 礼拝堂プロジェクト3

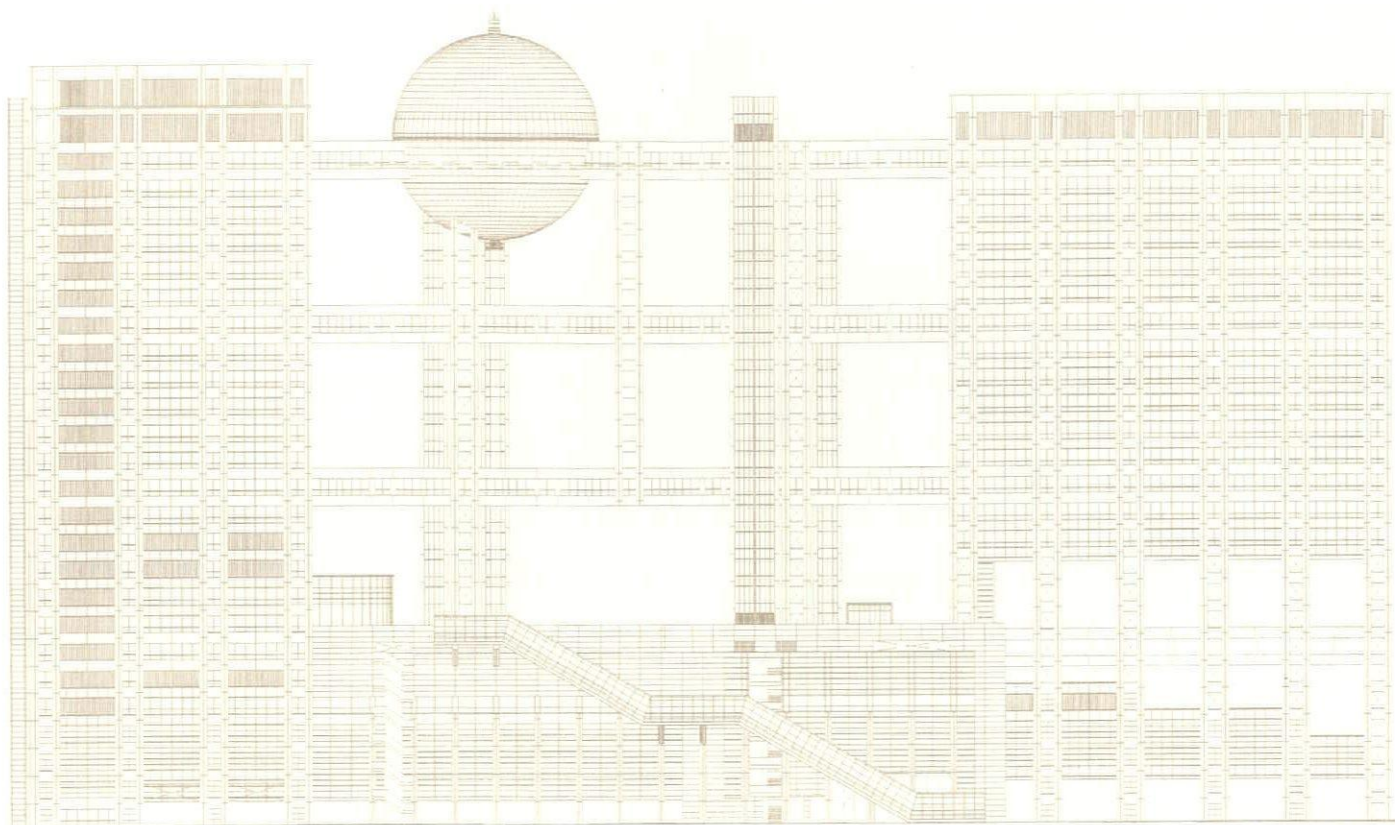
日仏文化交流のもと、フランス・ノルマンディの村落にある礼拝堂の修復再生作業が約10年の歳月をかけ、ようやく完成した。SD93年11月号、94年12月号でその経過を報告してきたが、今回はその3回目。アーティスト田窪恭治のプロジェクトを紹介する。

〔文〕 ジャン・マルク・ユイトレル

連載: トムの時空形象学 14/戸村 浩

連載: 照明探偵団・連続実践講座レポート8/LPA

特別定価=2,500円/本体2427円



SD別冊29

フジテレビ本社ビルの記録

「高度情報化社会の大規模複合建築の原点を求めて」

判型・体裁：A4判変形・並製

総頁：168頁

定価：3500円

好評発売中

臨海副都心台場地区に建設されたフジテレビ本社ビル（設計：丹下健三・都市・建築設計研究所）は、豊かな人間性と文化性を取り込んだ創造的な空間を、都心部地域では得られない恵まれた環境の中で実現している。それはまた次世代のオフィスビルとしての最新の機能と、躍動感溢れる美しさを備えている一方で、放送を中核としたさまざまなメディアの受信・発信基地として高度な安全性と最先端の通信技術を有する。

本別冊では、さまざまな角度からフジテレビ本社ビルを紹介するが、その中には、全体構成の詳細な検討過程、新しい構造システム、最新のスタジオの詳細、直径32mの球体のリフトアップ工法などが含まれる。

建築の設計、施工に携わる人はもちろん、新しい建築技術に興味を持つ人、都市の将来像、放送施設やオフィスビルの未来像に関心のある人などにとっても興味のある内容。

目次抜粋

〔プロセス編〕

臨海副都心事業とプロジェクトの始まり
基本設計から実施設計までのスタディ

〔コンセプト編〕

オフィス計画

スタジオ計画

構造計画

設備計画

防災計画

外構計画

〔デザイン編〕

基準階外装

球体外装

シースルーエスカレーター

1階シアター

展望室

大会議室

V4スタジオ

V9報道スタジオ・オフィス

DAVスタジオ

試写室

ラジオ・スタジオ

〔施工編〕

SD



数寄屋の美学

—待庵から金属の茶室へ—

出江 寛著

四六判 224頁 定価2,884円

和風建築で定評のある著者が語る建築文化論

和風建築で定評のある著者がその独自の美学をもとに、日本の古典建築と文化について語るエッセイ集。風土・建築・美術・文化など著者の関心は多岐にわたり、数々の実作を通してその思想の展開を具体的に紹介する。

[主要目次] 第1章 文明と文化 風土から生まれた美意識と風物/風土に根ざした色感/幽玄について/神の形[プライマリーな形]/不透明な光と聖/魅力とは鬼「ルネサンスとは女を裸にすることなり」/俗と聖/色気の抽象化/二元対比の美/間の美学と余白/真・行・草/創造とは/住居の本質/古美/文化の高さ/連歌の思想/ウェットとドライ/冷艶美/透明と不透明/「セメトコロガオモシロキ」/沈黙の美他 第2章 伝統建築の美について 茶室より学ぶ美学/金閣は宙に浮いた/龍安寺・銀閣寺の庭の真・行・草について/数寄屋とは 第3章 実作品より 丸亀の家(ペンキの数寄屋)/逆瀬台の家(日本の倉)/武生の家(沈黙の形)/朧月夜の家/瓦ミュージアム/竹葉亭/トタンの茶室(茫々庵)/三四郎の家/基督兄弟団西宮教会

ピーター・ライス自伝

—あるエンジニアの夢みたこと—

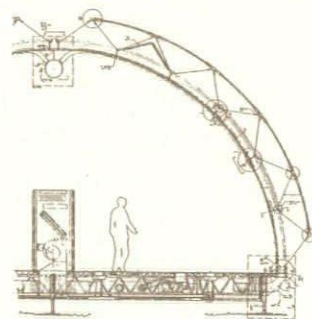
ピーター・ライス著 岡部憲明監訳

太田佳代子・瀧口範子共訳 A5判 240頁 定価3,914円

英国の世界的な構造デザイナーの生涯と仕事

世界最大のエンジニアリング組織オウ・アラップ・アンド・パートナーズの指導的存在として1970年以降、現代建築に大きな貢献と影響をもたらしたライスの自伝。個人的エピソードを交えながらダイナミックな現代建築史にもなっている。

[主要目次] ポプラー/若き頃/シドニー/オウ・アラップという人物/エンジニアの役割/ジャン・ブルーヴェ/メニル/布/ガラスとポリカーボネイト/ディテール——ポプラーのスチール、ロイズのコンクリート/石 セヴィリアの未来バウリオン/評論家の写真/産業界のこと/フィアット体験/カメレオンの要素/フルムーン・シアター/動きの中の建築/エピソード/追補1 追悼ピーター・ライス/追補2 RFR/あとがき/写真構成/作品リスト



SD選書 226

ウィリアム・モリス

—近代デザインの原点—

藤田治彦著 四六判 224頁 定価1,854円

今年で没後100年を迎える近代デザイナーの先駆者ウィリアム・モリスはデザイナー・工芸家のみならず、ヴィクトリア朝を代表する詩人であり、環境保護の思想家であった。本書は彼の生涯と多彩な活動を紹介する。

SD選書 227

エーロ・サーリネン

穂積信夫著 四六判 234頁 定価1,854円

常に天才的な発想で名作を発表し続けたエーロ・サーリネンは、若くして急逝したために寡作であり、その素顔も知られていない。本書は、サーリネンの事務所に在籍した経験のある著者が、彼の建築作品と生涯をつづる。

SD選書 228

都市デザインの系譜

相田武文・土屋和男共著 四六判 200頁 定価1,854円

アーバンデザインに重要な功績を残したペリクレス、カエサルからハワード、ガルニエ、ル・コルビュジエらを経て、現代のロウ、チュミに至る15人を取り上げ通史的にダイアグラムの現れ方を考察する。初学者の入門書。

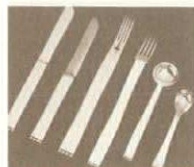
ホームオフィス

平明なことばと総合的な分析力とで理解していくデザインの教科書シリーズ第1巻目。複写機や電話機、タイプライターなどの創造によってデザインの一時代を築いた人々の歴史は、モダンデザインの歴史そのものである。



テーブルウェア

過去100年間に生まれたテーブルウェアの中でもっとも優れた、影響力の強かったデザインを語る。陶磁器、メタルウェア、ガラス、プラスチック等素材別に製品を紹介しつつ、20世紀の家庭の独自の、技術的、美的変化を探る。



キッチンウェア

電気調理用品の発達はキッチンワークに革新をもたらした。調理用マシンから小道具まで20世紀の代表的キッチンウェア・デザインの名作を70点以上紹介する。20世紀のキッチンを振り返り、あらゆる視点から総合的に検証。



光と照明器具

往年のティファニーやガレから今日のシェー・カイ・カンまで20世紀の代表的デザイン作品を紹介。序文では20世紀の照明デザインの発達を幅広い視点から語り、本文では卓上ランプ、壁、床、天井用ライト等70以上を網羅。



《インテリアデザイナーのための》シリーズ

本シリーズは、さまざまな角度からインテリアをとらえ、インテリアデザイナーを中心として、幅広くインテリア業界に携わる人々、それをめざす学生諸氏に向けて刊行する、小さくて強い味方である。

インテリア関連法規の知識 (改訂版)

芝木達著 四六・230頁 ¥2,678

建築における様々な法律・政令・条例等の規制の中で、特にインテリアの設計上知っておきたい分野を平易に解説。規制緩和の受け方も掲載。改正後の建築基準法、都市計画法に準拠した改訂版である。

インテリア関連法規の知識



内装仕上げのデザインと材料

内堀繁生著 四六・184頁 ¥2,266

本書は、インテリアの仕上げ材料と構法について、初心者向けに豊富な図・写真を交えてやさしく解説したもの。内容は、各材料の特徴と部位別の納まり、設計の考え方、さらにメンテナンスの留意点に及ぶ。

内装仕上げのデザインと材料

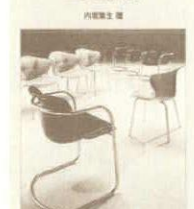


デザイナーのための インテリア家具のエッセンス

内堀繁生著 A5・120頁 ¥1,854

生活空間に欠かせない家具には、デザインされた演出道具としての側面と実用品としての側面がある。本書では、家具の歴史や人間工学との関係、構成やデザイン、さらにメンテナンス等を通してその両側面を解説する。

デザイナーのための インテリア家具の エッセンス



インテリアと家具の基礎知識

内堀繁生著 A5・222頁 ¥2,678

建築家として知っておくべき、内装の仕上げと納まり、壁装材、ファニッシングとしてのカーテン、カーペットの知識、造作家具(実例設計図24点付)。室内や家具備品類のメンテナンス、等を多数の図版を入れて平易に解説。

インテリアと家具の 基礎知識



品質管理とコストコントロール

坂本信義著 四六・194頁 ¥2,369

インテリアの製作上、顧客のニーズをどう捉え、それをどのようにして設計に反映させ、施工者に伝達していくのか。著者の長年にわたる豊富な経験をもとに、デザイナー向けに平易に解説。

品質管理とコストコントロール



住空間の収納の基礎

橋本周明著 四六・136頁 ¥1,854

住宅の収納計画は、ケース・バイ・ケースで考えなくてはならないが、本書ではその基本となる「モノ」のリストアップから、具体的な設計技法までを、部位別に解説。収納についてのアイデアとヒントを豊富に盛り込む。

住空間の収納の基礎



住宅設備設計の知識

石崎清士著 四六・192頁 ¥2,266

技術開発の著しい住宅設備の設計について、インテリアデザイナー向けに解説。コンセントやスイッチの配置、空調や照明、給排水設備の留意点、さらにマンション等に設置されるホームオートメーションなどにも言及。付録として設備図面例等を掲載。

住宅設備設計の知識



現代の家具と照明

デザイナーズブランドコレクションズ

大廣保行著 A5・264頁 ¥2,987

現代のインテリアを代表する世界の建築家・デザイナーの390点余の作品を写真で紹介。プレモダン&レトロ、モダンデザイン、ポストモダン&ニューウェーブを基調としたインターナショナルな作風感覚を実例で集大成。



続・現代の家具と照明

ニュー・ラテンヨーロピアン・トレンド

大廣保行著 A5・164頁 ¥2,575

ラテンヨーロッパを中心に、イタリア・スペインの国際的デザイナー、アーティストの紹介と作品カタログガイドブック。世紀末から21世紀へのデザイントレンドとその多様性を探求するため集録。「現代の家具と照明」姉妹編



SDライブラリー

21世紀を築くデザイン叢書

① アールデコの摩天楼

小林克弘著
A5・272頁 定価3,502円

1920～30年代のニューヨークの摩天楼を分析し、アール・デコの摩天楼のデザインとはどんなものか、またアール・デコの時代とはどんな時代であったのかを、今日の問題にひきつけて詳述。

② 屋外空間の生活とデザイン

J.ゲール著 北原理雄訳
A5・248頁 定価3,399円

本書は、住宅地域や市街地の公共空間一広場や街路などの屋外空間—のデザインを、そこで住む人びとの生活やそこで繰りひろげられる行為や行動を、分析・考察し提案をするもの。

③ 近代建築の系譜(上) 1900年以後

W.J.R.カーティス著
五島朋子、澤村明、末廣香織共訳
A5・400頁 定価4,738円

長い間待ち望まれていた本書は、近代建築史の全貌を通説に堪えるようパランスのとれたタッチで描き出している。著者は、実用面、美的面、そして社会性の諸次元を重ね合わせたアプロ

④ 近代建築の系譜(下) 1900年以後

W.J.R.カーティス著
五島朋子、澤村明、末廣香織共訳
A5・400頁 定価4,738円

チを採っている。感動的概論書/目次(上・下巻)第一部 近代建築形成の岸辺 第二部両大戦間における近代建築の結晶化 第三部1940年以降の普及と変容。

⑤ アーキテクト 建築家とは何か

R.ルイス著 六鹿正治訳
A5・306頁 定価3,914円

本書は建築学科の学生および卒業したての人たちにむけて、建築家とはどういう職業か、何を期待すべきかを説き指針を与えるとともに、自己を見詰め直し再認識するテキストである。

⑥ デザインの思考過程

P.ロウ著 奥山健二訳
A5・256頁 定価3,399円

本書はデザインの過程での思索や思考の普遍化を試みている。いわば、建築や都市を創造するために、個人的な次元に直接関係する考察の構造や探究の焦点を明らかにすることが目的。

⑦ ガウディの七つの主張

鳥居徳敏著
A5・224頁 定価2,987円

本書は、同著者による「アントニオ・ガウディ」「ガウディの建築」につづく3作目でありそれぞれ独立しているが3部作を構成する。今回は豊富な語録を頼りにガウディ建築の不可解さを解明。

⑧ イタリアルネッサンスの建築

P.マレー著 長尾重武訳
A5・280頁 定価3,811円

本書は、15・16世紀を中心にルネッサンス建築を時代と都市、そして建築家という三つの視点から論じている。各章共、建築家の主要作品が見易い図版・写真により解説された良き案内書。

⑨ 光と風と構造

R.マーク著 飯田喜四郎訳
A5・192頁 定価2,987円

本書は、複雑な構造物の応用解析などに用いる現代の工学的方法を平易に紹介し、それを古代から近代までの石造天井を架けた大建造物に適用した研究をまとめたもの。

⑩ パタンランゲージによる 住宅の建設

C.アレグザンダー他著 中楚 博監訳
A5・288頁 定価3,708円

著者は、現代の住宅生産システムの中でも、パタンランゲージの精神とその理論の枠の中で住宅建設が可能であることを証明した。また手作り住宅が格安にできることを説いている。

⑪ デ・アーキテクチュア 脱建築としての建築

J.ワインズ著 大島哲蔵、三好庸隆共訳
A5・322頁 定価4,326円

本書は、ミケランジェロからピカソまでの美術の成果を踏まえ、建築への新しい視点を探るものである。著者は本書によって、現代人の心を捉える建築表現を展望する。

⑫ コラージュ・シティ

C.ロウ、F.コッター著 渡辺真理訳
A5・288頁 定価3,914円

20世紀の都市デザインを支配してきた理想都市の2つの方向性—未来派的ファンタジーと伝統的な都市へのノスタルジアの概念が調和した都市が著者の追求する都市の理想である。

⑬ ミース再考 その今日の意味

K.フランプトン他著 澤村 明、EAT訳
A5・224頁 定価3,399円

K.フランプトン、P.アイゼンマンら、現在第一線で活躍中の建築家・史家によるヴァリエティに富んだ評論集。従来のモダニズム賛否という二元論的視点から解き放ち、親しみやすい一書。

⑭ ルイス・カーン建築論集

L.カーン著 前田忠直編訳
A5・258頁 定価3,708円

「沈黙と光」という言葉に象徴される近代建築の巨匠ルイス・カーンの美しいディテールと崇高な空間の織りなす建築。それを産み出すフィロソフィを伝える10編のオリジナル・アンソロジー。

⑮ メガロポリスを超えて

J.ゴットマン、R.A.ハーバー共編
宮川泰夫訳
A5・352頁 定価5,871円

今日、高度情報化社会・テレコミュニケーションの発達に伴う巨大都市の再編成について論述し、未来都市の軌道修正を提言。都市の地球規模での相互作用に留意しながら分析する。

⑯ 18世紀の建築 バロックと新古典主義

J.サマソン著 堀内正昭訳
A5・208頁 定価3,502円

ヨーロッパの18世紀は、バロックとロココによって幕を開けた。諸都市では多くの教会堂や宮殿が建てられ、黄金期を迎える。後半になると新古典主義への転向がみられた。

⑰ デザイン・ドリームス 映画に見る近代建築

D.アルブレヒト著 萩正勝訳
A5・272頁 定価4,017円

美しい映画の演出は、20世紀初頭より近代建築の表現、セット・デザインの効果を重視。160余点のスチールで、ミース、コルビュジエ他のもダニズムを検証。映画界の躍進を「建築」で展望。

⑱ アダムの家 建築の原型とその展開

ジョセフ・リクワート著 黒石いずみ訳
A5・296頁 定価4,120円

本書は、建築の原型という理念が建築史のなかでどのように変化し実現化されていったかを、ギリシャ、ローマの時代から現代に至るまでの主要な建築理論と建築作品を考察した建築論。

⑲ 圏外からの建築 映画・写真・鏡・身体

ダイアナ・アグレスト著 大島哲蔵訳
A5・240頁 定価3,708円

著者アグレストは、本書の9つの章を通じて、映画・写真・鏡・身体を参照しながら、機能主義に代表される硬直化したモダニズム都市イデオロギーを批判する。

⑳ 建築と非建築のはざまで

ロバート・ハービンソン著 浜田邦裕訳
A5・208頁 定価3,193円

本書は、建築を分析していくための新しいシンタクスを「建築の意味性」「虚構性」に見いだそうという視点から建築を語る建築論である。イマジナリーな建築に言及する。

㉑ 空間を生きる

リカルド・ボフィール著 太田泰人訳
A5・192頁 定価2,987円

バルセロナの現代建築家ボフィールが語る建築論。全体は三部構成で、バルセロナ、パリ、ニューヨーク、モスクワと駆け巡る建築家の活動スタイルとその過程での様々な条件について語る。



9508 Urban Public Spaces: Features small public facilities designed by architects. Architects: Atsushi Kitagawara, Naoko Hirakura, Shuichi Kitamura, Toyo Ito, Waro Kishi, Kazuko Fujie, Atelier Zo, Koichi Nagashima, Mitsuru Senda, etc. **Digital Urban Design: The New Language for Design Cities:** Introduces new methods by Yanagida Ishizuka & Associates. ¥1,950



9509 Kenzo Tange: Kenzo Tange Associates: Focus on UOB (United Overseas Bank) PlazaTange's last skyscraper, and on the Shinjuku Park Tower which transforms the Shinjuku skyline. Introduces Makuhari Prince Hotel, Bay Square Yokosuka, Hiroshima Peace Center Complex, FCG (Fuji-Sankei Communications) Building, Gran Ecran (Place d'Italie), etc. ¥3,800



9510 Architecture of Response: Recent Works of Cesar Pelli: Introduces recent works by Pelli built around the world, especially in Asia: NTT Shinjuku Headquarters Building, Sea Hawk Hotel & Resort, Kuala Lumpur City Center, etc. **Tower Art in Tsutenkaku:** Introduces an art and architecture exhibition held at the Tsutenkaku Tower in Osaka. ¥1,950



9511 Itsuko Hasegawa: 1985-1995: Introduces 30 works by Hasegawa for 10 years. Works: Museum of Fruit, Yamanashi, Sumida Culture Factory, Ohshima-Machi Picture Book Museum, Footwork Computer Center, House in Kumamoto, Leaf House, Niigata-City Performing Arts Center, etc. Text: Peter Cook, etc. Conversation: Koji Taki and Itsuko Hasegawa ¥3,000



9512 SD Review 1995: Publishing the result of SD Review contest with comments from the screening committee. Participants: Toru Yoshida and Miki Okamoto, Ti-Nan Chi, Tom Heneghan and The Architecture Factory **Villa Romana:** introduce the villa and the gardens in Rome. **Transportation Design by Elji Mito'oka:** Design of express train and ship ¥1,950



9601 The Architects' Record in the Pursuit of Urban Design: Introduces government's urban projects which are coordinated by architects in Japan: Kumamoto Artpolis by Arata Isozaki, Creative Town Okayama by Shin'ichi Ogawa, Nagasaki Urban Renaissance and Shiroishi Media Polis by Hideto Horiike. Text: Riichi Miyake, Naoyuki Kuniyoshi, etc. ¥2,800



9602 Italian Rationalism: The contemporary meaning of Italian Rationalism. Introduce six Italian architects: Franco Stella, Uberto Siola, Antonio Monestiroli, Arduino Cantafora, Marino Narpozzi, Nicola Di Battista. Works: House in Thiene, Hotel in Via S.Allende, Design for Spreeninsel, Polyptych of Ravenna, The New Cemetery in Fiesse D'Artico, etc.. ¥1,950



9603 Contemporary Asia Series 2: A Panorama of Architecture in Vietnam: Architecture and Vietnamese City: Hanoi, Hue, Hoi An, The Champa Ruins in South-Central Vietnam, Ho Chi Minh. Themes: Dwellings of Vietnam's Minority Peoples, Vietnam's Industrial Parks, Contemporary Architecture Today. Text: Y.Shigeeda, S.Nakazawa, S.Muramatsu, etc.. ¥2,500



9604 Transformation of Ground and Light: Australian Architecture 1788-: Shows how Australian architecture has changed since the arrival of first settlers in 1788. Texts and photos: Tokyo Metropolitan University, Kobayashi Lab. **Next Generation in New York: Smith-Miller + Howkinson and Joel Sanders:** Latest works by New York architects. ¥1,950



9605 Architecture of Diversity and Harmony: Recent Works of von Gerkan, Marg and Partner: They are known for the winning of competition many times. Introducing their '90's works including competition designs. Texts: Masahiko Yamashita, Klaus-Dieter Waiss **The Sea and Architecture: Suzuki Ryoji's Latest Work:** Sagishima Project 'Ring', House in Sagishima. ¥1,950



9606 111 Chairs Designed by Architects: Reintroducing 111 chairs designed by overseas architects from 19th century to now. Architects: Adolf Loos, Charles Rennie Mackintosh, Antonio Gaudi, Otto Wagner, Eliel Saarinen, Walter Gropius, El Lissitzky, Erik Gunnar Asplund, Le Corbusier, Mies van Der Rohe, Bruno Taut, Charles Eames, Carlo Scarpa, Aldo Rossi, etc. ¥3,000



9607 The Architecture of Kameki Tsuchiura: A Reappreciation: Reintroduce Kameki Tsuchiura's works before and after world war II. Works: Tsuchiura House I and II, Tokuda Building, Hosaka Clinic, etc. **Multi-unit Housing by the Kenchiku Design Studio:** Introduce the idea of housing which Kenchiku Design Studio have kept showing new FH HOYA-II project. ¥1,950



9508 Michael Hopkins and Partners: Introduce the important works by M. Hopkins and Partners. Hopkins House, The Inland Revenue Centre, Bracken House, Schlumberger Cambridge Research Centre, David Mellor Offices and Showroom, New Parliamentary Building, etc. **Visiting Dreams of Light and Space: Donald Judd's and Walter De Maria:** Text: Fumio Nanjo ¥2,400



9609 The Heyday of the Modern House in Denmark: Introduces Danish modern houses of the '50s and '60s: Summer Residence of Niels Bohr, Vilhelm Wohlert; Scholm I, Arne Jacobsen; Kingo Houses, Jorn Utzon; etc. text: L.B.Jorgensen, Riichi Miyake, etc. **Yemen: Mountaintop Villages and Tower Houses:** Photo+Text: Ashikawa Research Institute ¥1,950



9610 Light and Space in the Middle Ages: Romanesque Architecture of Central and Southern France: Introduces Romanesque church and monastery. Abbaye du Thoronet, Abbaye St-Martine de Canigou, etc. Photo: Koji Horiuchi, text: Shuji Hanyu, etc. **Studies of Two Cities:** text: Yoichi Iijima, Minoru Tanokura **Ninety-seven Chairs:** text and photo: The Poor Boys Enterprise ¥1,950



9611 Akira Kuryu: Introduces the works crystalizing the fine collaboration supported by his outstanding direction. Okazaki Art and Historical Museum, Core Yamakuni, Patrie+Kiyosato Museum of Photographic Art, Uemura Naomi Memorial Museum, Carnival Showcase, etc. text: Yoichi Iijima, etc. **Project pour La Chapelle de St. Vigor de Mieux Par Takubo-3** ¥2,500



Space Design
Hardcover Edition
and Order Form

Space Design published its first issue in 1965 as a monthly journal for a general readership introducing noteworthy achievements and leading works in the fields of architecture, urban problems, design, and the fine arts. The journal has established a solid reputation over the years in the fields of architecture and design. It enjoys the support of a broad readership in an age when up-to-date information on contemporary design, urban planning, and architecture is in heavy demand. SD endeavors to make its features and articles ever richer in content, focusing attention on the methodological, and aesthetic themes of modern architecture, the city, design, and the arts. The text of SD is mainly in Japanese, but in certain cases English translations or summaries are provided for feature articles.

Send your order for subscriptions to Space Design and/or for back issues or hardcover editions by:

Filling in the order card below and faxing it to:
Space Design: 81-3-5561-2560

Or mail the card to:
Subscriptions Department
Kajima Institute Publishing Co., Ltd.
6-5-13 Akasaka, Minato-ku,
Tokyo 107, Japan
tel: 81-3-5561-2550

An invoice will be sent immediately. Upon receipt of the invoice, you may pay by check or international money order or bank check.

Order Card

Name (in block letters please):

Address:

Fax number (if available):

Occupation:

Please check one of the options below:

☐ Please enter my SUBSCRIPTION to
Space Design,
starting in

	sea mail	air mail
12 issues	¥30,000	¥55,000
24 issues	¥50,000	¥80,000

Price includes postage and bank charges.

☐ Please process my order for the following BACK ISSUES and/or HARDCOVER EDITIONS of SD:

The invoice includes:

1. Price of the publication
2. Bank charges (¥1,500 per order)
3. Postage (determined upon receipt of order)

Alvar Aalto

A special comprehensive collection of celebrated architect Alvar Aalto's major works. Aalto's Design Vocabulary, by Akira Mutoh / Chronological Review of A. Aalto's Life : 1898-1976 / Worldwide Distribution of Alvar Aalto's Works ¥3,090

Tadao Ando 2

His 21 works since 1981 including Church with the Light are classified into five categories and introduced at once here. The 10-meter long drawing of Nakanoshima Project lets the readers feel his vigorous approach to architecture. ¥4,800

Arata Isozaki 2

Introduces whole of Isozaki's major works, 1976-1984, especially his shocking work : Tsukuba Center Building. Ministry of Foreign Affairs of Saudi Arabia, MOCA, Blick of Flats, Berlin, Okanoyama Graphic Art Museum, ¥4,944

Kiyonori Kikutake

Collection of Metabolist Kiyonori Kikutake's works from the early years to 1980 : Architecture of The Third Generation, On the Notion of Replaceability, Phase of Methodological Search, Data, Location of Works ¥3,090

Kisho Kurokawa 2

13 major works for these 10 years, including Hiroshima City Museum of Contemporary Art which won 1990 The Prize of the Architectural Institute of Japan, and 2 other Museums are introduced. ¥4,300

Seiichi Shirai

Introduces a collection of the gem-like works by Seiichi Shirai, an architect of proud loneliness. Kaisetsu-kan, Noa Building, Sei-Akira-kan, Sassestaken, Kohakuan, etc. Essays by Arata Isozaki, Ichiro Haryuu, Ikuma Shirai ¥ 3,605

Atelier Zo

Presents the first collection of the works by Atelier Zo who has continuously brought forth fresh works by their original formative ideas. Nago City Hall, Shinsyukan Community Center, etc. Essay by Hiroshi Aramata ¥4,000

Kenzo Tange 3

29 projects are introduced at a stroke so that his footwork in 1980's can be seen. Also, the noticeable new Tokyo City Hall is introduced through many drawings and photographs of new model. Full English text. ¥4,100

Fumihiko Maki 2

Presents the second collection of Maki's works which show his activities in 1980s. Spiral, Keio University Hiyoshi Library, Fujisawa Municipal Gymnasium, Hillside Plaza, Tokyo Metropolitan Gymnasium, etc. ¥4,326

Toyo Ito

9 projects of his semi-permeable architectures such as restaurant NOMAD and Silver Hut and 11 projects of Transformations by Light are introduced. The Shinorama Space by Kishin Shinoyama shows White U. ¥3,900

Shin Takamatsu

All of his major works including Kirin Plaza Osaka which won 1988 The Prize of the Architectural Institute of Japan are introduced. His working field in which he has continuously been creating his sharp works can be observed. ¥3,800

Kunihiko Hayakawa

His original pastel-colored works such as ATRIUM and STEPS give the architectures allegro rhythm and feast one's eyes. His works and projects for 10 years since 1978 show his world. ¥4,300

Kazuhiro Ishii

His Sukiya-village which won 1990 The Prize of the Architectural Institute of Japan and 51 other works introduce his method of composition. ¥4,300

The Expressionist Architecture of Germany

Meaning of the Expressionism which is the mother of the modern architectures and has influence on the contemporary ones is introduced by 12 architects' works. ¥3,300

Wooden Architecture Today 1989

Introduces works of Europe, mainly German, Swiss, and French, as well as of the United States, Australia, and Japan. Works in Japan include those by Shoji Yoh, TAKE-9, Hideaki Katsura and others. ¥3,708

Bruno Taut

Introduces his activities mostly while staying in Japan 1933-36. Features in memory of Taut in 40th year of his death. Architect's Own House Istanbul, Housing on Erich-Weinert Strasse, etc. Taut's Handicraft and Books ¥2,575

Ecole des Beaux-Arts and its Glorious Tradition

Updated: Essays: History and Credo, Thought Backbone/ On the Grand Prix : List of Recipients and their Presentations/ Genealogy of its Ateliers/ Collections : Notre-Dame at Lorette, Opera Theater, Paris, etc. ¥2,575

Details by Maki & Associates

Shows detail at Forum TEPIA, a showcase of high technology using a variety of new materials. The work features studies in surface, point, and line and develops numerous types of detail. ¥6,800

Kim, Swoo Geun

Introduces his 30 projects, mainly in Korea. Masan Cathedral, Korean Overseas Development Corporation Building, Art center of Korean Cultural and Arts Foundation, Seoul Sports Complex, Nam Dae Mun Market Redevelopment Plan, etc. ¥3,090

Architects Own Houses of the World

Introduces famous architects' own houses of the World. Architects: Richard Foster, Frank Gehry, Don Hisaka, Wilhelm Holzbauer, Michael Hopkins, Barton Myers, Christopher Owen, Arthur Erickson, Ulrick Franzen, Paul Gray, etc. ¥4,944

カーテン

東リ カーテン'96~'98

東リ株式会社



東リカーテンでは、新柄、新色269柄488アイテムを含む、451柄750アイテムを収録した総合サンプル帳「東リカーテン'96~'98」を発行している。機能面において、カーテンの3大機能であるウォッシュアップ・遮光・防炎はもちろんのこと、防汚(SG, SR)加工品を多数採用し、「やさしい暮らし」を提案している。また、ソフト面では、前回のシリーズで好評だった空間のファブリックによるコーディネート、ビューコレクションを拡充するとともに、プリントの充実や自然を感じさせるナチュラル、豊富なカラーが特徴のベーシックなど「気持ちいい暮らし」を提案している。また、トリム、タッセルなど、空間演出のグレードアップに欠かせない付属品の見直しや、東リ縫製の仕様一新などにより多様なニーズに対応した内容となっている。

シャッター雨戸サッシ

シェルムーンII

新日軽株式会社



新日軽では、室内収まりの仕上がり完成度を高める、テクトIIアングル付サッシに、雨仕舞と外装仕上げの向上を図ったシャッター雨戸サッシ、シェルムーンIIを新発売した。

特長

- ①シャッターボックスのでっぱりを押さえたスリムなデザインである。従来と比べ、建物との調和が一層図れる。
- ②室内から窓を閉めたままで、シャッターの開閉操作ができる電動タイプを用意している。
- ③使いやすく、充分な安全対策を図っている。
- ④シャッター雨戸とアングル付サッシ枠を一体にし、雨仕舞の向上、施工性の簡便化を図った。
- ⑤枠は半外付(アングル付)の他に、外付けタイプがある。
- ⑥高級感のあるセピアブラック、こはく色、ホワイトの3色の色揃えである。
- ⑦使用する障子は、単板ガラス仕様のEX障子・大型テラス戸の他に複層ガラス障子も用意。

価格

110,300円

塗料

DNTサイディングペイント

大日本塗料株式会社



大日本塗料では、高級上塗り塗料、DNTサイディングペイント4種を開発、販売を開始した。これにより、同社は、下地処理から一貫した塗替塗装システム、DNTサイディング塗替システムを完成させた。同製品は、旧塗膜との接着力が強く、多種多様なサイディング材への塗装に適し、しかも仕上がり後の塗膜は汚れにくい戸建住宅リフレッシュ専用塗料で、国内プレハブメーカー、窯業系サイディングメーカーに対する長年の実績と蓄積した技術ノウハウをもとに開発に成功、下塗りの、マイティシーラー、DNTサイディングフィラーとともにシステム化した。臭いが少なく環境や人に優しい弱溶剤形のDNTサイディングペイントアクリル、DNTサイディングペイントウレタン、DNTサイディングペイントふっ素、更には水系一液反応硬化形のDNTサイディングペイント水性ウレタンなどを品揃えし、素材の種類、塗膜の症状、塗料のグレード、耐用年数などに応じ最適な塗料の選択ができる。

東リ株式会社 営業企画部
兵庫県伊丹市東有岡5番125号
〒664 Tel 06-494-6605

新日軽株式会社 住宅建材事業本部
東京都江東区木場2丁目7番23号
〒135 Tel 03-3820-2159

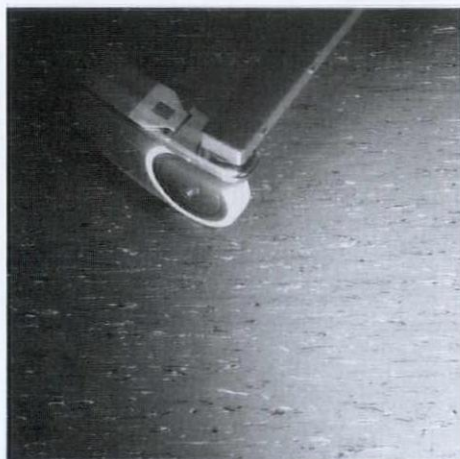
大日本塗料株式会社
大阪市此花区西九条6丁目1番124号
〒554 Tel 06-466-6661

●

床材

ライノ制電床

●
株式会社エービーシー商会



株式会社エービーシー商会では、アームストロング長尺床材、ライノ制電床を新発売した。同製品は、アームストロング社がマルチメディア時代に合わせ、静電気によるコンピューター電子機器などのトラブル対策のために開発した帯電防止床材で、独自の施工法により、その効果を発揮する。

特長

- ①専用の施工法による電気特性。表面抵抗値： $1 \times 10^9 \Omega$ 。体積抵抗値： $1 \times 10^9 \Omega$ 。
- ②耐摩耗性やキャスター走行などの動荷重性も重視して開発され、コンピュータールームや機器の移動の激しい研究室などの床に最適である。

規格

幅1.6m 厚さ2.0mm

価格

9,800円/㎡・15,700円/㎡（設計価格）

●
吸収冷温水機

エナジオスーパー エナジオ

●
ダイキン工業株式会社



ダイキン工業株式会社では、ガスや蒸気などをエネルギー源として利用し、高層ビルをはじめホテルや病院など、大型施設の空調熱源として、優れた省エネ性を発揮する吸収冷温水機、エナジオスーパー（13機種）を新開発するとともに、従来機8機種をモデルチェンジし、エナジオとして新発売し、計21機種のそれぞれガス焚きと蒸気の2タイプを設け、全42機種とした。同製品は、3,000㎡程度の中規模ビルから10,000㎡以上の大型ビルまで広範囲な建物を対象に、必要に応じて効率よく冷水と温水を供給するシステムである。

特長（エナジオスーパー）

- ①独自の二段吸収サイクル方式の採用により業界トップの高COP値1.2を確保し、5℃の低い冷水取出し温度や部分負荷運転時にも優れた省エネ性を発揮する。
- ②モジュール設計による省工事化を達成。
- ③二次側空調機器を含めたトータルな制御システムの構築による運転管理の省力化に対応。

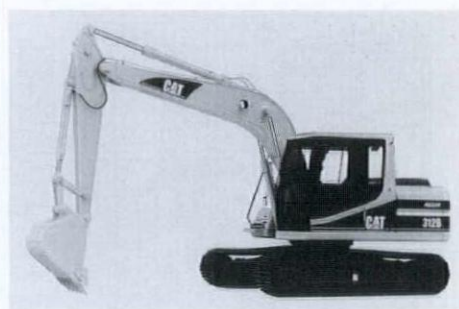
特長（エナジオ）

- ①機器の小型化、軽量化により据付面積および運転質量を大幅に低減（320USRTクラスで約20%低減）。
- ②構造、システムをシンプル化し、自動抽気装置の標準装備などにより信頼性を向上。

●
小型油圧ショベル

CAT 311B CAT 312B

●
新キャタピラー三菱株式会社



新キャタピラー三菱株式会社では、CAT®油圧ショベル300ファミリー「REGA」Bシリーズに、小型の油圧ショベルCAT311B（バケット容量：0.45㎡）とCAT312B（バケット容量：0.5㎡）を追加、新発売した。

特長

- ①作業内容に応じて、フロントの作業機の動きを最適化する6種類（ブーム優先・旋回優先・スロー・土羽打ち・ブレーカ・自由設定）の作業モードを用意。
- ②インスツルメントパネルにあるパワーアップスイッチのON/OFFにより、油圧システムへの投入馬力の変更を可能にしたパワーアップモードを採用。
- ③油圧システム高圧化により、シリンダ推力がアップし、掘削力が向上（約9%のアップ）。
- ④専用キャブのマウントに振動・騒音の低減効果の高い液体封入式のビスカスマウントを採用。
- ⑤オートエアコンを標準装備。キャブ内温度を感知して、設定温度を保つよう吹き出し風量を自動的に調節し、快適な室内空間を提供。
- ⑥シートとコンソールが、一体でスライド可能なレバーコンソール一体型シートを採用。オペレーターの体格に合わせた、シート/レバー位置の調整が容易。

株式会社エービーシー商会 アームストロング事業部
東京都千代田区永田町2丁目12番14号
〒100 Tel 03-3507-7221

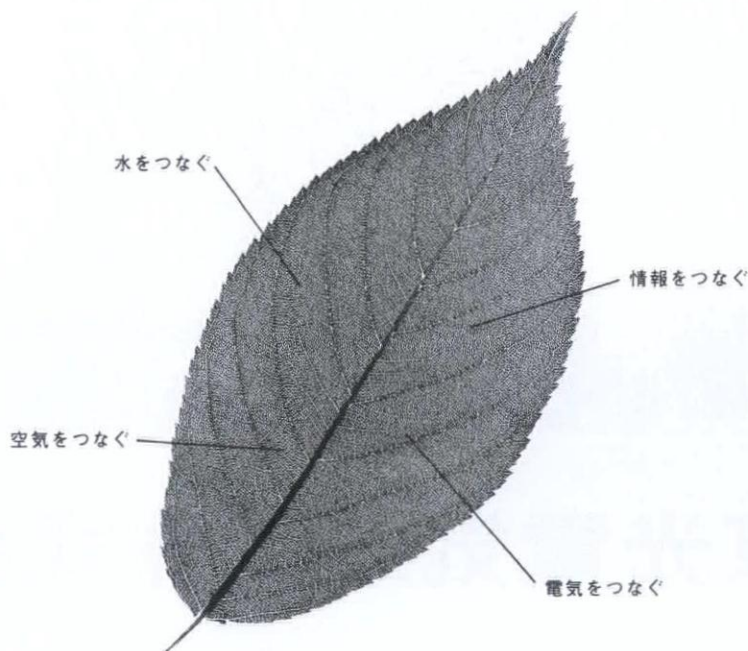
ダイキン工業株式会社 空調営業本部
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
〒163-02 Tel 03-3344-8397

新キャタピラー三菱株式会社 広報課
東京都世田谷区用賀4丁目10番1号
〒158 Tel 03-5717-1122

ビルの、工場の、街の、 すみずみに、つながろう。

私たちの仕事は、ビルに、工場に、
街に、生命を与える葉脈として、
そのすみずみにつながっています。
もっと、人が快適になる環境へ。
総合設備業の
リーディング・カンパニーとして、
先端の技術で、高度な未来を
提案し続けます。

あなたと快適をむすびます。



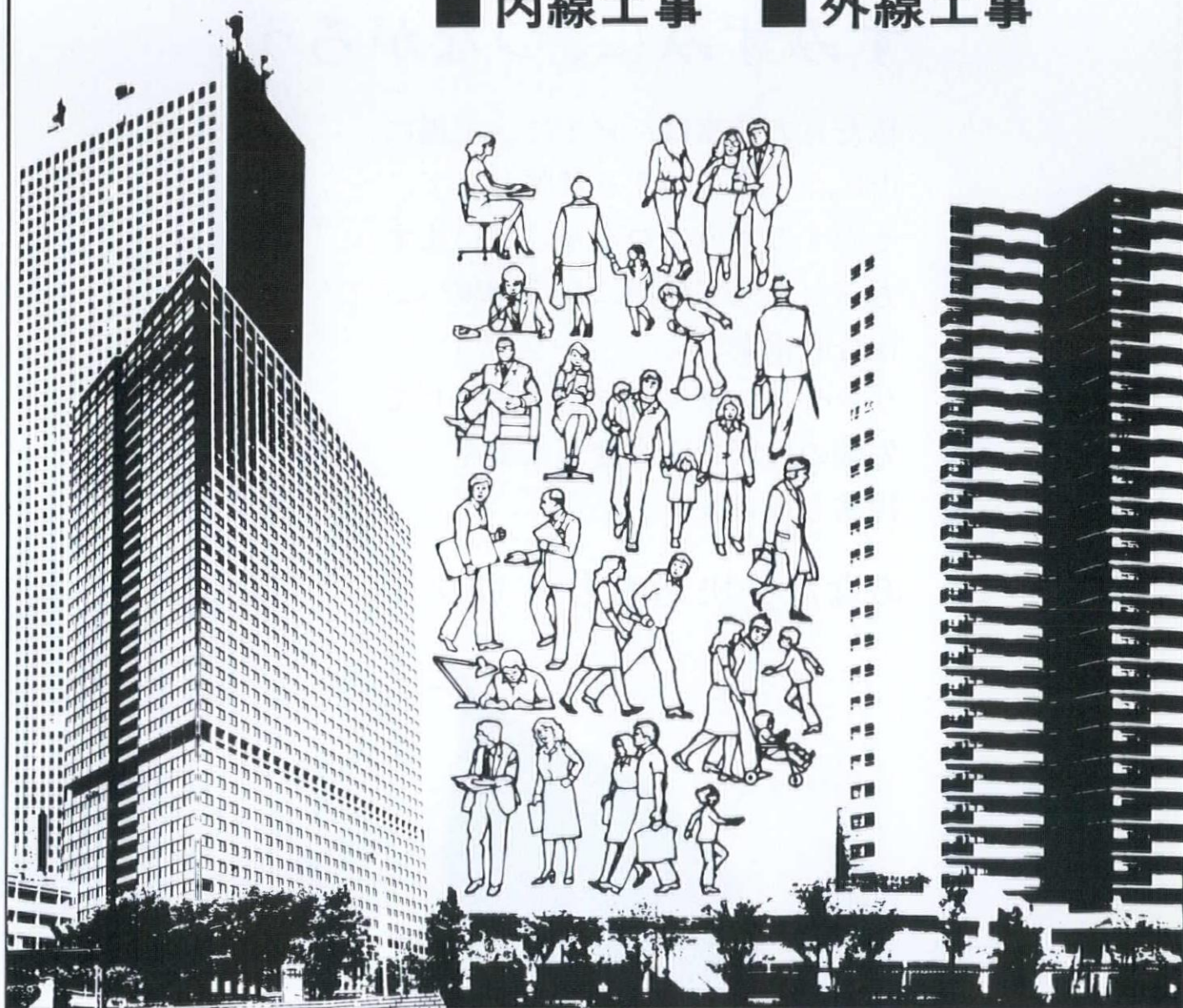
住友電設株式会社

大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 Tel 06 (537) 3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 Tel 03 (3454) 7311

営業種目：電気設備／空調・給排水・衛生設備／
プラント設備／情報通信設備／電力流通設備／その他

技術と伝統の…

■ 内線工事 ■ 外線工事



東光電気工事株式会社

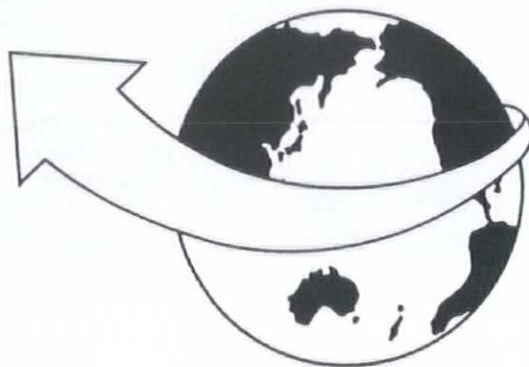
取締役社長 江 原 景

東京都千代田区西神田 1-4-5 〒101 電話／東京 3292-2111

支社所在地／札幌・仙台・大宮・千葉・丸の内(東京)・新宿(東京)・横浜・名古屋・大阪・福岡

未来に向って...

限りある資源
限りある空間の中で
より快適な環境づくりの
ために努力しています。



●営業品目

空気調和・冷暖房・給排水・衛生設備・設計施工



株式会社朝日工業社

本社・東京支社 〒105 東京都港区浜松町1-25-7 電話 03(3434)5711
大阪支社 〒532 大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2273
支店 北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州



奥山化学工業株式会社

本社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル TEL 03(3571)2703 代 FAX 03(3571)0264
大阪事務所 TEL 06(391)1081-2 FAX 06(395)2109 名古屋出張所 TEL 052(811)3660
横浜営業所 TEL 045(320)4832 FAX 045(320)4765 厚木出張所 TEL 0462(21)1761 FAX 0462(23)1341
埼玉営業所 TEL 048(774)2845-6 茨城出張所 TEL 0292(28)0878 FAX 0292(28)2614

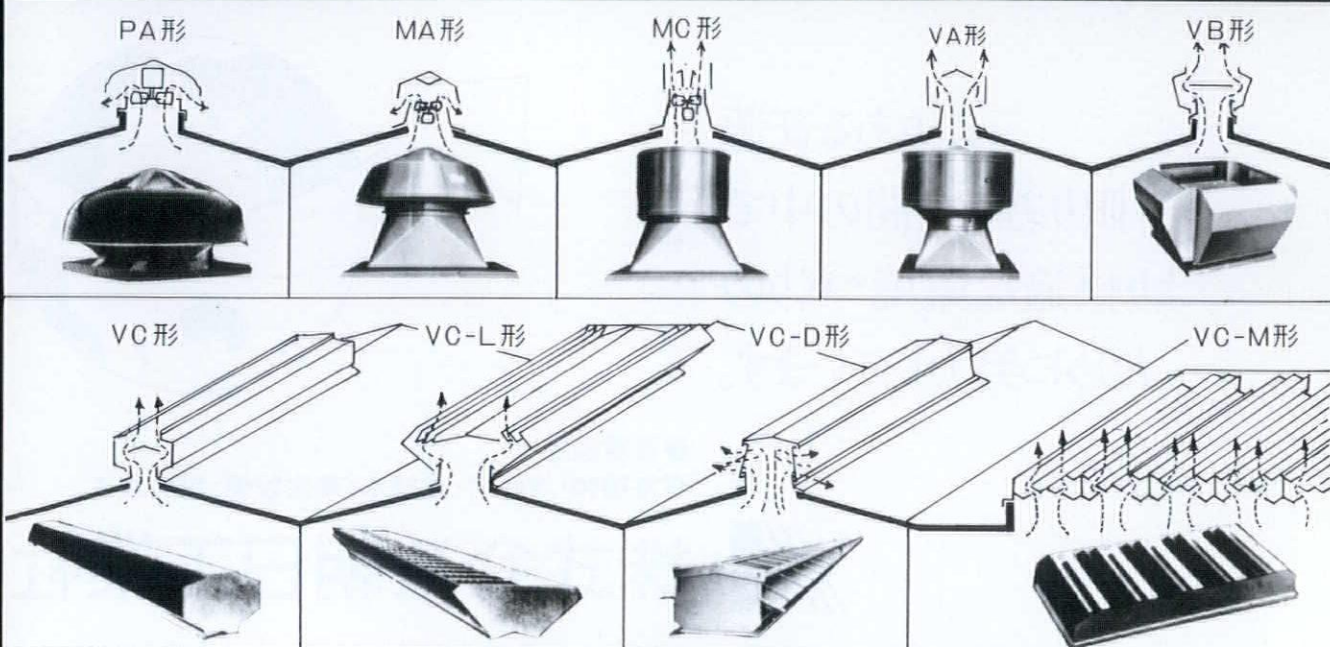
テトカッパー防水層

カッパー防水帯
コーパータイト・オクロン防水帯

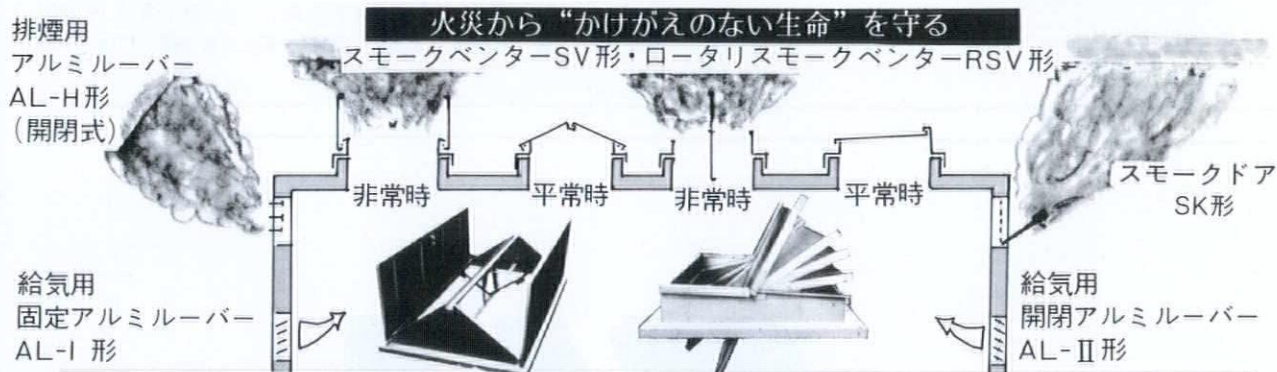
坂本商会は創業80年 換気・排煙・採光の専門メーカーです

“自然の風”を効率よく招く坂本式ルーフベンチレータ群

強制換気・自然換気装置

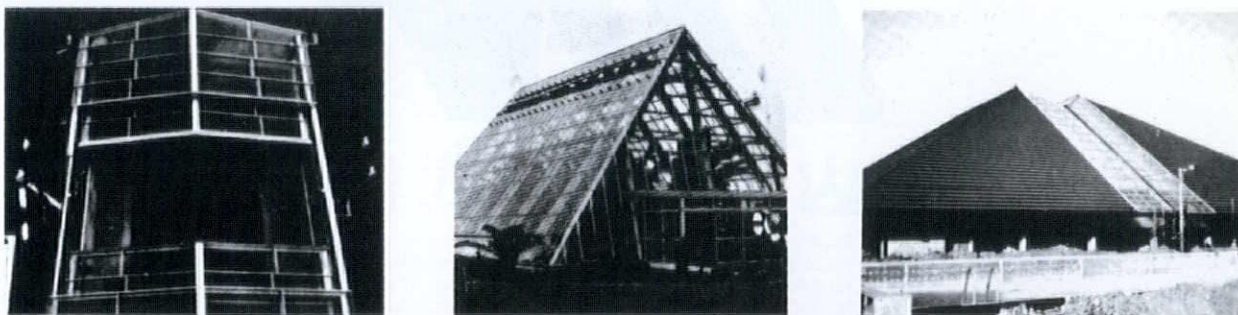


排煙・ルーバー装置



採光装置

“太陽の恩恵”を全身でウケとめる坂本式スカイライト



株式会社 坂 本 商 会

本 社 東京都中央区日本橋2-16-12(江戸ニビル) 〒103 電話 東京 (03)3271-5591(代)
 松戸工場 千葉県松戸市松飛台420番地 〒270 電話 松戸 (0473)87-6595(代)
 技術研究所 千葉県松戸市松飛台217番地 〒270 電話 松戸 (0473)87-3148
 施工部 東京都墨田区東向島2丁目15番11号 〒131 電話 東京 (03)3619-2221(代)

広告目次

S D誌に広告をお申込みの際は下記広告代理店にご用命ください (五十音順)

●共栄通信社

東京——東京都中央区銀座8-2-1

新田ビル (3572) 3381

FAX (3572) 3590

大阪——大阪市北区西天満3-6-8

笹屋ビル06 (362) 6515

FAX 06 (365) 6052

●建報社

東京——東京都文京区湯島2-30-8

(3818) 1961

FAX 03 (3818) 1968

大阪——大阪府中央区淡路町1-4-9

昭栄ビル06 (231) 4548

FAX 06 (227) 0268

●新建社

東京都中央区八丁堀2-1-10

ハヤシビル (3552) 8247(代)

FAX (3552) 8249

●中外

大阪——大阪市北区浪花町14-25

日本生命天六ビル06 (379) 1791

東京——東京都千代田区神田須田町2-5-2

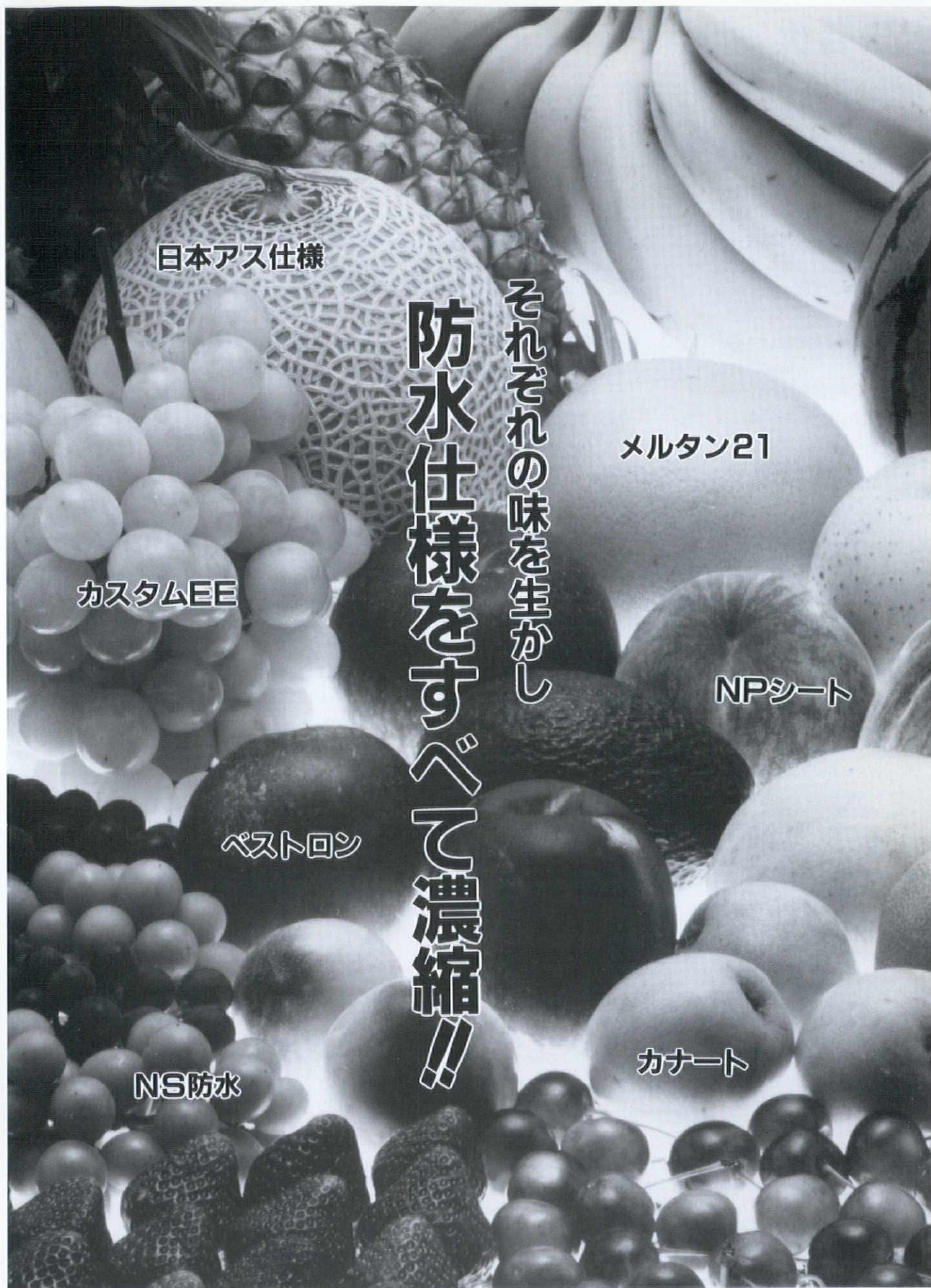
須田町佐志田ビル 3255-8411

FAX 3255-8412

名古屋——名古屋市中区錦2-2-13

名古屋センタービル052 (221) 7641(代)

ア	株朝日工業社	A17
オ	奥山化工業株	A17
カ	株関電工	A3
	鹿島	A4・A5
	軽井沢ホテル鹿島ノ森	A6
ク	栗原工業株	A11
サ	三機工業株	93
	株坂本商会	A18
シ	昭和銅機株	110
ス	住友電設株	A15
タ	高砂熱学工業株	表3
	大興物産株	A8
ト	東陶機器株	A1
	株トーエネック	A11
	東洋熱工業株	104
	東光電気工事株	A16
ナ	中立電気株	A10
ニ	株西原衛生工業所	A9
	日本電気株	A10
	日新工業株	A20
ヒ	株日立製作所	表4
ホ	ホテルイースト21東京	A7
	ボーズ株	表2
マ	松下電器産業株	A2
ミ	三菱電機株	57
	美和ロック株	58・59
ヤ	矢崎総業株	A12
	株ヤナセ設備工業	60
	山田照明株	109



総合防水メーカー

日新工業株式会社

営業本部 103/東京都中央区日本橋久松町9-2 ☎03(5644)7211(代表)

東京 ☎03(5644)7221 (代表)	福岡 ☎092(451)1095 (代表)
千葉 ☎043(245)0201 (代表)	札幌 ☎011(281)6328 (代表)
横浜 ☎045(316)7885 (代表)	仙台 ☎022(263)0315 (代表)
大阪 ☎048(642)5811 (代表)	新潟 ☎082(294)6006 (代表)
名古屋 ☎06 (533)3191 (代表)	広島 ☎0878(34)0336 (代表)
金沢 ☎052(933)4761 (代表)	松山 ☎0762(22)3321 (代表)